
なんで娘（あたし）が後始末w・・・orz 【異世界編】

M2-1015

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なんで娘があたし後始末w・・・orz 【異世界編】

【Nコード】

N7490W

【作者名】

M2-1015

【あらすじ】

偉い神様が壊れかけた2つの世界をまとめて救おうとその世界をくつつけちゃいました
が、失敗しちゃって はちゃめちゃ親子とアメリカ海兵隊員が神の手により異世界へ召喚！

あたしと親父は父子家庭 でもこのオヤジはハチャメチャで娘命！
そんな親子がマリンコさんとちとサバゲ（と言う名の実践訓練！？）
をしてたらいきなり別世界へトリップ！？この世界を救ってだつて！

異世界で巡り会った仲間も優秀ではあるが、ある意味残念な方たちで・・・

「魔物はいらっしやるは魔法はあるは、あげくのはてに恐竜まで？でもほんとにやっかいなのは親父さまなんです！」

苦勞に苦勞を重ねてる娘は幸せになれるのか！

薄幸の美少女に愛の手を！

作者の実体験？も脚色して書かれたアップテンポの親子掛け合い漫オギャグ小説です^^

1話 涙のオープニングw（前書き）

偉い神様が壊れかけた2つの世界をまとめて救おうとその世界をくつつけちゃいました

が、失敗しちゃって はちゃめちゃ親子とアメリカ海兵隊員が異世界へ召喚！

現地で知り合った仲間は優秀だけちょっと残念な人ばかり・・・
「魔物はいらっしやるは魔法はあるは、あげくのはてに恐竜まで？
でもほんとにやつかいなのは親父さまなんです！」

苦労に苦労を重ねてる娘は幸せになれるのか！

薄幸の美少女に愛の手を！

残酷な表現やチート、下品な表現が多々あります

苦手な方はスルーをお願いします

ギャグの表現等もみたことがあるような表現があると思いますが
オリジナルの小説です

こんな世の中なので皆様に笑いをお届けしたいと思い投稿しました

^^

明るい世の中になりたいですね！

1話 涙のオープニングw

「ううw・・・今のなんだったの？・・・」

あたしは親父さんとアメリカ海兵隊マリンのみなさんと一緒に
東京は福生にある横田基地の南端で 拠点強襲訓練サバイバルゲームをやってたんで
すが・・・

なんかいきなり視界が ぐにゃぐにゃってなったと思ったら目眩が・・・
あたしは周りを見回して・・・

「！・・・なに？この空・・・」

「・・・知らない天jy「あふおかー！（ぱからーん！）」ふげっ
」！

あたしはいつもの突っ込みで父親の後頭部をひっぱたく・・・ええ、
ひっぱたきますとも！

「よし！ワンモアね^^・・・どこなんだ？・・・真っ白な空k」
おい！（パシーン！）「うげっ！」

さらにWCと書かれた緑色のスリッパで頭頂部をおもいつきりジャストミート・・・

ええ、おもいつきりミートしますよ！

「んじゃ気を取り直してもう一度・・・神さま」つぎはないよ(ニコ^^)「すいませんでした！」

まったく！このオヤジは・・・なにがなんでもお約束テンプレしたいのかい！
親父こいっと一緒にいると いつも碌な目にあわんw・・・

それにしても・・・この空はいつたい如何した事か・・・
あたしは不安を隠さずゆっくりと周りの景色を見渡します・・・
ああw・・・いやな予感満載ですがなw(親父がいるので当社比200%UP！)

「なんで空が3色に分かれてるの〜！またあたしが苦勞するの〜」

あたしは(orz このかつこで)めっちゃさげびましたとさw・・・
・・・orz

「なんで四つん這いで挫けてるんだ？」

「兄貴〜wこの状況でよく落ち着いて・・・いられる人だったわ
wうん納得・・・」

親父がにっこりとした顔であたしに落ち着いた声を掛けてるんだが
(あたしや涙目だぞw)

あたしやそこまで親父みたいに人生を達観できません ええ！出来
ませんとも！

あ、ちなみに兄貴って呼んでるのは 物心ついた時から「兄貴って
呼べ」って

毎日のごとく催眠学習なみに繰り返された結果です・・・
もっとも反抗する意味で心の中では「親父さん」もしくは「オヤジ」
って呼んでますが^^

「ハイハイ！二人とも！親子漫才はそのくらいにして状況を確認し
ません？」

オヤジとあたしは声のする方に顔をむけt・・・

がばっ！

いきなり抱き付かれたんだが・・・

「お、お、お兄様？いきなりなにをされやがっていらっしやいます？（、、#）」

おやじが突拍子も無いのはわかってるんで

額にあおすじ（# こんなの）立てて睨み返してやたよあたしや！

「だって、涙目で不安そうな顔してるんだもん！（T T）ウルウル」

あたりまえだろ！いきなり目眩がして立ち眩んで 目を開けたら周りの景色が変になってるし

・・・あれ見て見る！空なんか3色に分かれてるんだぞ？

それにだ！もん！ってなんだ もん！ってw・・・あーw！40とつくに過ぎてるだろ！

「いや ハタチと670ヶ月と14日だぞ？（、） ケラケラ」

「心の中を覗くな！」

「んじゃ、ぱんつのなかをのぞく死にたいの？（ニコツ^^^#）」

「ごめんなさい！」

ズザーっとはなれてペコペコと土下座する親父さん……
っ、疲れるわ……このクソオヤジ!

「で、いつもの親子漫才は終わったのかな?」

はっ!忘れてましたよ

今の声の主は横田基地に來ているアメリカ合衆国海兵隊のモブA・
・ゲフン ゲフン……

えーと、ジョン・フレデリック中尉さん。

少しもどつて最初に声をかけてくださったのが同じく海兵隊の
んーと、レティシヨ?レティシヤ?あ!そうそう

レティシア・フォンダ少尉さんだ^^

少尉さんは良い人でレティ(いつもはこう呼んでるんでちつとど忘れ)とあたしは親友です!

んで、さっきまでサバゲと言う名の拠点制圧訓練?をやっとりました!
た!

でもレティwちつと言わせて……絶対お遊びゲームじゃないよね?これ!
!……

スモークグレネード投げてくるとか!ストーキングで後ろからナイ
フアタックとか!

海兵隊の皆様つてば めっちゃマジなんだもん!

まあ、実戦訓練だよ……これってw

そりゃーさ、親父さんと來た時点であきらめてはいましたよ?……

毎度の事だしw・・・

「うーw親子漫才じゃないですよw・・・見てないで兄貴から助けてくださいよw・・・」

「あら^^いつもあなた達ってこんな感じじゃない^^うらやまし
いわ クスツ^^」

うー、レティったらwいつもからかうんだよね あたしと親父を・・・
そんなに良いもんじゃないんだぞ?・・・疲れるだけだしw

お?ジョンさんがマジな顔をしてレティの所へ・・・まあ異常事態
だもんねw・・・
おー軍人っぽいぞジョンよ!

「よし!アテイション!とりあえず現状確認だ・・・少尉!基地内
の人員確認と安全確保を!」

「イエッサー!」

「その後は使えそうな物資を空いている格納庫にそろえてサバイバ
ルの準備!」

「イエッサー!」

だよーこっからみえるまわりの町がほぼ無くなってるんだもん
福生方面は国道16号近辺しか建物なくなってるしその後ろは熱帯
のジャングル?って感じだしw
武蔵村山方面は森?つか森林って感じ。
多分だけどほぼ南北で空が分かれてるの。
西側(福生方面)は緑?つばい青(ぶきみw)、東側(武蔵村山方
面)は、とーっても澄んだ青!(きれー^^)
そんで基地の真上だけは今まで通りの東京のくすんだ青空なんだ。

レイイはその場にいた隊員(6〜7人くらい?)に「ついて来い!」
って言って
三台のジープ?(後で兄貴に聞いたら『ハンビー』って教えてもら
った)に分乗して
基地内の確認に出かけていった。……女の子一人になってち
っとさみしいかな?

がばっ!

「んだから!おまいは!いきなり!抱きつくなくなって言ってるだろー
がー!!」

あたしはそばに立て掛けてあるM-60をぐいと掴み 腰だめに
かまえて(この間0.8秒)

B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B
A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A / / / ^^

(あー快感！)

「いて！痛い痛い！いたってば！……ごめんごめん……すいませんでしたー！」

「兄貴つてば！ほんつとにいきなりはやめてね！」

「わかった……今度からは許可をえーんー？(ギロツ！)」「もうしませんw」

「ハイハイ！こつちまでBB弾が飛んできたぞw……」

「あつジヨンさんごめんなさいwww……」

親父のせいであたしがジヨンさんにあやまるw……

ふーw……いーつつもこんな感じで親父の尻拭いや後始末ばっかりw……

ロサンゼルスに行ったときもスミソニアンにいったときもヨーロッパ、中国、ベトナム、その他もろもろ

日本に居たって(ry

あ、そうそうココだけの話なだけどさ みなさんには事実を教えちゃいます

親父とあたしの過去のエピソードは5割方ノンフィクションなのだよ^^

ええ、ええ、実話でんこ盛りですとも！

そのうち(たぶん)書くとは思っけどうちの父さんは……んー良く言えば行動力有り？積極的？

悪く言えば考え無しに本能のままトラブルに突っ込んでく？
いやいや、ありゃトラブルから寄って来るってほうが正しいかな？
思い出したら涙が・・・orz

ありゃ？あたしまだ名乗ってないよね？

そう言えばモブ（失礼だな）とフレンドの二人しか名前を出してな
かったなw・・・

ごめんなさいですw・・・（ちょっと反省wシユン・・・）

とりあえずわたしの自己紹介や現状を次回に？説明しよっか・・・

（そろり・・・そろり・・・）

がばっ！

「だーかーらー！いちいち抱きつくなく〜！！この × オヤジ〜
〜！！！！」

まったくw・・・

あたしが弄いぢられるのって毎回つづくんですか？・・・

ねえ 聞いてますか? . . . 作者さんw orz

1話 涙のオープニングw(後書き)

どーもです^^作者のM2-1015です

今回はさわりの部分を少しだけ書かせてもらいました

第2話からギャグてんこ盛りでテンションを上げていきます^^

次回は基地の状況と簡単なオープニングメンバーの紹介です

徐々にですが作者の実話も取り入れて臨場感を出したいと思います

初投稿で四苦八苦してますが生暖かい目でみてやってくださいね^^

応援を宜しくお願いいたします

では^^^ノ

2話 涙のアメリカ レティとの出会い 前編（前書き）

娘「どもー！今回でわたしの名前が出るんだよ〜^^」

レティ「私との初対面ですね〜^^（ふふふ^^ヒロインはもらった！）」

ジョン「ん？レティなんか笑いが黒いぞ？」

レティ「あらやだジョンったら^^そんなことないわよん」

父「兄貴と呼べー！」

娘「あれは無視の方向で^^」

レ、ジ「OK〜^^」

父「い、いいもん！今回は本編でおにいちゃんって呼ぶらしいから！」

娘「え！やだ！あの頃の話だすの？・・・そかーレティとあつた頃はそーだったつけw・・・えーレティ編はなくなりました！^^」

レティ「うそん！（私のヒロイン計画がw!）」

父「あー、ところで俺の名前も出るんだよね？」

娘「・・・」

父「でるんだよね？」

娘「あー暑っ苦しいんだからくつつくなつてばさー！」

ジョン「あーあ、また親子漫才はぢまったよw」

レティ「いーなーうらやましいわ・・・」

娘「いやいやwうつとおしいだけですからー！」

父「しょぼーんw」

娘「口でいってるし！・・・ってそろそろはぢまるみたい！」

娘「今回はわたしの実体験もまぢります！よろしくね〜^^」

全員「・・・では後書で会いましょう！」「」「」

2話 涙のアメリカ レティとの出会い 前編

「・・・知らない天jy」とうう！（ぱかーん！）「えばあ！」

「兄貴！それ前回やった！ほんとに兄貴はくどいしシッコイ！」

「おや？18年も一緒にいて俺のしつこさに気づかなかったとは・・・ちなみに俺のしつこさは中国本土の裏通り安物料理よりしつこいぞ？」

「www聞いているだけで油酔いしそう・・・(orz)」

まったく！親父の相手してるとほんつとーに話がすすみません（ちつと涙目w）・・・もう無視無視！

がばっ！

「うw！兄貴！はなせ！・・・たのむから は・な・せ・！」

「むかーし昔のおはなしじゃ・・・あるとk」「のー！（ばきっ！）

「へぶらっ！」

「はあはあ！その話すじゃねー！なぐるぞー！」

「べーでなぐってから なぐる って言われても・・・」

あーw・・・さっそくぐだぐだwでも泣かないもん！・・・グスツ
・・・orz

(ソロリ・ソロリ・・・)

は！兄貴！チカヨルナ！・・・あぶねー・・・またハグされるとこ
ろだった〜

「兄貴は罰として今回は脇役だかんね！」

んじゃ前回のつづきでわたしの自己紹介しますね〜^^

まず名前ね！かみや・まじこ神谷真琴です〜す^^

歳はぴちぴちの18歳！（まあ、もう直ぐ19歳なんですわ・・・
）

父親とわたしの父子家庭です（おかあさんはわたしが4歳のときに
死別してます）

あ、もうふっきてるから心配は無しね^^

（親父の世話で落ち込む暇が無かったのが正解かな？そこは兄
貴に感謝！）

趣味はお料理かな^^（親父の方が上手なのはこのさいおいとく！
イタリアンと煮物が得意です！

あーあーwこんなけなげな美少女に彼氏がいないなんてw・・・泣
くぞw

「俺に勝つたら付き合っても（手をにぎるだけね）良いぞ！ははは

「はははは！」

とかマジ言ってるからね〜w

（うん、親父のせいだね！あれに勝てる若者はそうそういないからね〜w）

身長は161cmまあふつう？

その他のデータはノーコメント！

太ってはいませ〜ん^^ピバ！ナイスバディ（本人談）で すれんだーで〜す^^

それで現在わけあつて高校二年生なのよ^^

中学入ってから親父にいろーんな国に・・・ええ、そりゃもうがんばってたくましく

命のかぎり乗り越えてきましたよ！・・・まさに命の海外留学って感じで！

まあ、海外に行くつてんで ちよくちよく休学してたのが原因ですな・・・

（その元凶は親父さまなんですわ・・・あーあつちでニヤニヤ見てやがる！・・・よし、後でおしおきだね・・・親父さま唯一の弱点、足裏くすぐりの刑にけつてー！^^）

今住んでる所は 東京都下の八王子つてところ^^一応市内は都会？つばいかな^^

いやーでもねー盆地なモンで夏はめっちゃ暑いしw、冬はめっちゃ寒いよw

親父さんは良い訓練つて言つてエアコン無しの部屋です！

わたし？もちろん当然です！エアコンあります！^^^^

あとねーうちって先祖代々の武家なのよ・・・
わたしのおじいちゃんって めっちゃ厳しいかったの！マジ泣きは
いったもん・・・
まあ4年ほど前にポツクリ逝っちゃったけどね・・・作法以外はや
さしい好々爺でしたけどね^^
で、親父さんはめっちゃ厳しくされてたんだって！
武家修行ってやつ？

そつだ！みなさん冠婚葬祭の「冠」ってなんの儀式か知ってます？
正解は武士の成人式？（でいいのかな？）なんだって^^
15歳でやるらしいよ（んーゲンブクの儀？だったっけかな？）
もちろんうちの親父さまも神社でやったらしいですよ？・・・
でも親父さんは武家の儀式が嫌だったらしくて

「俺の代で小難しいことは終わり！」

つてなもん・・・せいせいしてるらしいよ（この辺実話ね^^）

ただねー困ったモンで剣道だけはやらされたよ・・・
護身と鍛錬だつてさーw・・・まあ何年か前に初段は取ったけどね
初段とつてから昇段試験うけてないから今つてどのくらいの実力か
はわっかかりません^^
今でも親父さんには教えてもらってるけどねー

で、おやじさん 剣道は四段なんですよ！
本気でやられたらマジで痛いんです！

段が1コくらいの違いならわたしでもそこそこやれると思うんです！
これが初段と四段だとねw
ほんつと子供と大人、三輪車とダンプカーってなもんですw

だからマジで試合すると防具をつけててもね〜w
例えば面（頭ね）をきれいに入れられるとそりゃもう脳震盪もんで
すよ！

小手だつてそうですー発入ったら痛みでしびれて竹刀なんかもつて
られましえーん^^（実体験よ）

ん？みなさんも経験したい？んーそうですね〜

最寄の警察署で剣道場があれば体験できるかも^^たのも〜！つて
な感じですか^^

んで結構なあんばいで親父さまには今でもきたえられているってな
もんです^^

そして！運命のレティとの出会い！と言うほどのインパクトではな
かったかな？

その他のインパクトが大きすぎてw・・・

まあ、レティに対してもある意味インパクトはくらったんだけどね
）・・・

でもそのインパクトは正直言つて忘れたい思い出だしねw・・・あ、
ちよつと凹んできたぞw・・・

（レティごめん・・・レティの事あんまし書けないかもしんないw）

それは中学一年生の夏休前のことでありました！
親父さまがいきなり部屋に来て

「おーい真琴、夏休みの40日間アメリカ本土に行くぞー」

って言われましたがな！

え！え！マジですか！海外旅行？いきなりのアメリカ本土！

初心者向けのグアムやハワイじゃありませんよね！

はじめての海外がアメリカ本土！やった〜！

ってことは「デイ・・・ねずみの国」や「ユニバー・・・映画の遊園地」やハリウッドとか！

ワクワクってなもんです^^（この辺は実話ね^^）

（パスポートは中学に入るときに親父様と作りに立川へ行きました

おひるに食べたお寿司！と〜ってもデリシヤスでしたね^^あ
！回ってないおすし屋さんもはじめてでした！まる！）

この時 あたししゃーうかれてましたね〜・・・ええ、うかれてま
したとも！

んで大事なことを忘れてました・・・この旅行が親父さまと一緒にだ
とゆうことを・・・orz

出発前のショッピング！あ〜楽しい〜お父さんが天使にみえます

^^

もちろんお約束の水着も買いました！

（ちよつぴり背伸びして はじめての ビ・キ・ニ！しかも黒！は
ずかしー／／／）

いよいよ出発です！成田までは車で^^2時間くらいだったかな？

車を預けて空港口ビーへ^^

わ〜広〜い！

カウンターでチェックインしました

さてX線検査です^^わくわくしながら通りました・・・なにも鳴りませんでしたw・・・くすんw
出発ロビーで軽く昼ごはんを食べます

そして搭乗です！おおお！すっちー金髪だぞー！背も高いー！
座席についてお父さんからのフライトレクチャーです
へー救命胴着って最後はくちでふくらますんだー

成田から飛び立つこと1時間で飽きましたよw・・・ぶーぶー
滑走路から飛び立って上昇しているときはわくわくでしたがw・・・
あ！ちなみに上昇中は気圧で耳鳴りがするそうです
お父さんはガムを噛むとなりずらいよって教えてくれてたのでわたしはへーきでした！
お父さんが言うには後9時間くらいかかるぞーですw

もうご飯たべて寝ます！おやすみなさい^^

つきました！アメリカです！ロサンゼルスです！ターツチダウン！
^^ ^^ ^^

お父さんの古いお友達が車で宿泊施設まで送ってくれるらしいです
^^
アメリカの時間で今は朝の9時30分くらいですかね？

ロビーに行くとややマッチョ？なおぢさんがお父さんと握手しています
ます

ありゃ二人とも英語でしゃべってるw・・・なんかくやしー！

英語は学校でならいはじめたばかりなので

ほんとーに簡単な言葉しかわかりませんw・・・ほんとくやしーです！

「ハイ！ガール！おじさんハ ジョンいま〜ス！よろしくネ〜
^^」

ありゃ？このひと日本語できるがなw・・・よし！ここはまかせろ！

「ぐっどもうにんぐ みすたーじょん まいねーむいず まこと・
かみや ないすとつみいちゅう^^」

さあ通じるか？どきどきもんですよ！

「H A H A H A H A！カミヤより英語うまいですネ〜^^」

うw・・・これは・・・結構はずかしいぞw・・・／／／（真っ赤
になりました）

「オウ！シャイガールね！H A H A H A H A H A！」

「オイ！ジョンw・・・娘はやらんぞ！ほしかったら俺をたおせ！」

「無理ネ〜wカミヤ相手じゃ良くて相打ちネ〜」

そう言いながらお父さんはわたしをかばう様に抱きしめます・・・
／／／

（お父さん暖かいんだよね〜／／／）

「オウケイ カミヤ カモン レッツゴウ！^^」

ジョンさんが車まで案内してくれるみたいです

・・・@!・・・は！意識がとんでましたよ！・・・瞳孔も開いてたはずです・・・
だって、だって、ジョンさんが案内してくれた車ってw・・・

「ん？真琴は知らないのかな？この車は軍用トラックって言うんだよ^^」

くっ！やられたw・・・お父さんが企画した旅行だったんだよw・・・orz

よし！OKOK心構えはできたぞw

もう驚かないからな！お父さんそのドヤ顔はもう二度と無いと思いなさい！

客室（ま、荷台とも言っらしいが）に上ります

両脇に椅子（まー板切れとも言っらしい）があり 奥になにか荷物？があります

客室の・・・えーい荷台でけっこう！つでに椅子も板でじゅうぶん！荷台にはわたしとお父さんの他に4人の兵隊さんがいらっしやいます

みなさん早口の英語なのでわたしは ちんぷとんかんぷとんです^^
まーもつともトラックがうるさくてほとんど聞こえませんがw
防音？なにそれ？ってな感じなんですな荷台ってw・・・

さてトラックは山のほう（東の方？）にむけて快調に走ってるんですが・・・

お父さんが言うにはかなりりっぱな宿泊地らしいです^^楽しみ^^

(宿泊施設はサクラメントって町の近くらしいです)

宿泊施設までトラックで走るだけなので道中は省略〜！

W・・・親父がニヤケ顔でこつち見ながら催促してるW・・・わかつた！ちゃんと報告します！

(後で絶対にくすぐってやるW・・・乙女の恥をW・・・)

山に入ると回りは砂漠？って感じです・・・砂ぼこりがW・・・
山の上には人造湖があってトラックバスのフィッシングができるらしいですよ

それにつけても何ですかこのビニールを巻いただけの板ツ切れはW
！wwwwお尻が痛いですw

なんなんですかねこの拷問はw

(お父さんとジョンさんにはおしおきをしなくてはw！・・・うらみは忘れません！)

さてさてお腹がへってきましたね・・・お？奥の荷物を黒人の兵隊さんがあさってますね？

ん？わたしにプラスチックのBOXをわたそうとしていますがW・・・？

かろうじて「ランチ」と言うのがきこえました！

わたしは日本語でありがとつって言っしまいましたけど
通じたみたいですよ！ニコってわらってくれました！

別の兵隊さんがクーラーBOXから飲み物を出しているようです

おとうさんが教えてくれました
わたしたちを空港で待っている間にお昼ご飯を買出しにいつてくれ
てみたいですよ^^

・・・@@・・・は！またまた目がめっちゃ開いてしまいましたw・
・

（お父さんはまたまたドヤ顔です・・・wwwく、悔しい！）

だって、だって飲み物のサイズが！どう見ても形は日本のハンバー
ガー屋さんの同じです・・・がw

1.5リットルは入ってますよ！なになって？コーラがです！

wwwこんなに飲めませんよw・・・

さて食べ物は何でしょうね？・・・BOXを開けます・・・！！

・・・@!・・・は！またw・・・砂ぼこりで目が真っ赤になり
ますなw

だーってw・・・おおきいんです！なになって？ハンバーガーですよ
wわたしの顔にちかい大きさですw

（お父さん！わかりましたからニヤけたドヤ顔はやめてくださいw
！）

結論です！ハンバーガーは日本で食べましょう！これ実体験です！
（多少高めのレストランならまだそこそこたべられますが・・・）
パン？はぼそぼそ・・・ミートパテ？は味が無くてゴム？だったり
ラード？だったりw・・・
わたしは半分も食べられませんでした・・・

(半分でも日本のハンバーガー2〜3個分はありましたねw)

そして食後の地獄のトラック・・・うw！振動でw・・・リバースマウンテンがやばいです！

ええ、ええ、みなさまのご想像通りですよ

某マレーシアの某マスコット？あの石像みたいになりました・・・
真っ青になってw

横になったマールイオンですね・・・orz

まーその後は助手席におじゃまして多少はよかつたんですが
あいかかわらず椅子はだめだめです！お尻が痛いw・・・

いつのまにか眠ってました時差ぼけってやつですかね
寝ているうちに宿泊施設についたみたいですね

お父さんがお部屋のベットまでわたしを運んだらしいです・・・お
姫様だっここで！

夕方になりあたしは目が覚めました・・・がちょっとぼーっとして
います

しばらくぼーっとしていると寝室のドアが「コンコン」とノックさ
れています

お父さんなら「だ、だ〜れ〜・・・ここは警察じゃないよ〜w」と
か言ってるところです

ごほんっ！わたしはそんな事言いませんよ？ほんとですよ？

おぼえたての英語をつかいます

「か、かもん！・・・かむいん！・・・うえるかむ？」

これでよかったんでしたっけ？わたししてんぱってます！

がちゃ・・・ドアが開きました

・・・@!・・・は！女の子ですよ！金髪です！スタイルいいです！そして美人です！

あたしより10〜15cmは背が高そうです！

さすが肉食の国！・・・二十歳くらいかなあ・・・おもわず見とれてしまいます

「コンバンハ・・・ワタシはレティいます^^」

めっちゃ日本語やん！・・・このコテージの従業員さんなのかな？

「こんばんは わたしは 真琴、真琴・神谷です^^」

ニコツとほほえます

これがレティとはじめての出会いでした^^

お父さんが部屋に来ました

レティはお父さんを見てしばらく固まってましたが……？

顔を真っ赤にしてベットルームから出て行きます……なんで顔赤いんだ？

するとちよつと立ち止まって

「お嬢さん デイナー……夕ご飯できます……ダイニングへカモンです……カミヤモネノノ」

おー夕ご飯のお呼び出しですか……ん？お父さんの知り合い？……クウウウ……ありゃ……ノノノノ
お腹が鳴ってしまいましたwノノノ

「真琴もハラへったか？^^具合はどうだ？食べそうか？」

「うん！もう大丈夫^^おなか空っぽだもん！」

「だよね〜一人マールイオンだったもんね^^」

「う、うるさい……おにいちゃんってばうるさいよー」

あーしまったwこの回想ではおにいちゃんって呼ぶのは隠そうとし

てたんだw・・・やっちゃまったよw

うw・・・中学生までは親父の事 おにいちゃんって呼んでだんだよなw

・・・われながらみごとな黒歴史・・・あ、凹んできたw・・・o
r z

ううう・・・あっちで親父さんがこっち見ながらめっちゃドヤ顔してるw

よし、レティが基地の偵察からもどつたらM16A2・・・いやミニミで蜂の巣にしちゃう！

ふふふふ・・・たっぷり踊ってもらっぜ！親父さんよう！

さく嫌な事（マールライオン事件ね）はすっぱり忘れてごはんだw^^

お父さんとダイニングにいきます・・・なんかふつうの家みたいだなw・・・

ダイニングには怖そうなおじさんとさっきのレティさんがすわっています

あれ？レティさんって従業員じゃないのかな？

わたしは頭の上に？マークを5個は浮かべてたんじゃないでしょうか

おじさんが立ち上がって言いました

お父さんの肩をバンバンとたたいてます

「我が家へようこそ！カミヤ元気だったか？^^」

．．．@@；．．．え？え？え？．．．再起不能です．．．
．．．@@@．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．．
．．
？？？？？？？？？？？？

は！ここはお父さんに聞くところだ！お父さんに振り向きます

うw．．．お父さんはこつち見てめっちゃドヤーって顔してるぞ？
．．．またもやはめられた？

「おにいちゃん？怒らないから説明プリーズ！」

「えーと　ここはおにいちゃんの昔ながらのお友達のお家さ^^」

「え？え？コテージとか貸し別荘じゃないの？」

「うん^^お友達のお家^^」

やられた．．．もろにくらいましたよおにいさまw．．．orz

「こんばんは！カミヤの娘だね？はじめまして！私はレオナルド・
フォンダだ！よろしくな」

「あ．．．真琴です．．．真琴・神谷です．．．お世話になります」

「ん！これから1ヶ月自分の家だと思ってくつろいでくれ^^リトル
ガールさん^^」

「む！・・・これでも12歳です！小学生ではありませんのでリトルはやめてください！」

あああ・・・しまったですwお父さんにむつきていたので思わず反論してしまいましたw・・・

・
ごめんなさいフォンダさん・・・ん？・・・なんだ？・・・ん？・・・
フォンダさんとレイティさんが固まってるぞ？・・・ん？なにか変なこと言ったかな？

「マコト・・・12歳って・・・ほんとなの？」

「うむ・・・わしもビックリじゃわいw・・・」

「おう！真琴は俺のりっぱなマイレディだぞ！^^」

ふふんっつてふんぞりかえるおにいちゃん

まだ固まってるアメリカ人のお二人・・・

そーですかそーですか見えませんか中学生に・・・ぶんぶん！

「レオ そのくらいにして飯にしよぜ」

あれ？お父さん？怒ってる？・・・ぱつと見じゃわかんないけど・・・
・なんでだろ？

(この時はわたしも知らなかったんだよねーw親ばかりの娘第一主義をさー・・・orz)

次回はレティとの出会い後編です
その次はテンプレで神様かなw
冒険はもう少し後ですかね^^
みなさんに笑顔が訪れますように
では^^ノ

3話 涙のアメリカ レティとの出会い 後編(前書き)

真琴「やつほー！^^」

レティ「どーも^^」

ジョン「・・・つ、疲れたw・・・」

真琴「あれ？兄貴はどこいったのかな？」

レティ「ああ、あっちでいつもの娘自慢をダディとやってるよ」

真琴「うん！よし、ほつとこう」

ジョン「・・・そして俺はスルーですかw・・・」

真琴「ジョンサンハ ナンデツカレテルノカナ？」

レティ「あら・・・真琴？セリフが棒読みよ？」

真琴「いやー、なんか聞いてはいけない予感がしてね^^」

ジョン「前回の後書で 真琴つてばM2重機関銃ぶっぱなしてただ
る？」

レティ「・・・気持ちよく撃つてたわね・・・」

真琴「おほほほほ！私、記憶にございませんですよ^^」

ジョン「あれの後始末を俺1人でやってたんよw」

レティ「あー、それは確かにつかれるわ・・・」

真琴「おほほほほほ、なんのことやら？^^」

ジョン「ふーw・・・やつぱり親子だなw・・・」

レティ「そうね、ある意味にてるわね・・・」

真琴「へ？ないない！絶対無い！ありえない！」

ジョン「いやいや・・・無自覚だったのか・・・」

レティ「そうね、類友つてゆーか、朱に交わつて真つ赤かになつた
わね」

真琴「ガーン！」・・・orz

ジョン「ありゃ？こりゃしばらく固まったままだなw・・・」

レティ「(は！主役交代？)わ、わたしがんばる!!」

「ジョーンくん？レティなんか黒くないか？」（ここんとここ多いな黒レティが？）

「レティ」では みなさん！私が主役のレティ編、後半のはじまりです！^^」

3話 涙のアメリカ レティとの出会い 後編

はははは・・・（乾いた笑い）

もうね、目から光も無くなってねw・・・これって瞳孔がひらいちやってる？

そんでもって ここって普通のリビングだよね？（これってあたりはリビングゲデット？）

なぜに わたしは水着をつけてリビングでポーズをとっているのでしょうか？

「・・・なんで こーなった？・・・」

は！いやいやいや！こんなテンプレな出だしってお父さんと同じじゃない！

前書きでも似たもの同士って言われてるのに・・・あ、凹んできた・・・orz

うん、なんでこーなったか説明しないとね・・・あんまりしたくないけどねw・・・

前編でさ タご飯を食べ始めたところまでは平和だったんですよ・

・ええ、そこまではね・・・

ただねーほら、あたしって少しだけ胃をおかしくしちゃってたでしょ？・・・ん？知らないって？

あー！もう！トラックで酔ってマライオン状態！

って乙女に言わせるな！まったくw・・・思い出してくれました？

で、目の前のテーブルなんですけど・・・みごとに 肉！肉の山盛り！・・・肉のアートだったですw

まあ、お腹がすいていましたので食べましたよ？

うん、スペアリブはおいしかったね！

ただねースペアのリブちゃんなんですけど・・・子牛さんの片腹一枚分なんですよ・・・

わたしの胴体ぶんくらいありましたかね？（このへん実話ですよ？）

・ あたしならば あばらを1本食べればそりゃーまんぷくですわな・・・

でもお米かパンか野菜がたべたい・・・たぶん日本人ならそう思いませんか？

んで周りを見渡すと・・・フレンチフライ（日本で言うフライドポテトね^^）しかないしw・・・

パンすらないとは！おどろきです・・・

お父さんとフォンダさんは樽？でビールあびてるし・・・

レティさんは・・・はー？もりもり食つとるがな！しかもジュース

がぶ飲み！

うw・・・あのですねーこのジュースなんですが めっちゃ甘いんです！

ええ。ええ。砂糖水か！ってくらいにねw

まあ、とーっても健康？と消化？に良い？お食事はとっととすませました^^

うん 台所の主導権をつばわねば！

今はレティさんがやってるそうですね・・・早速レティさんにおねがいしましたよ？

なんでもレティさんのお母さんは海外出張で中東？のあたりでお船に乗船しているそうです！
すごいですねー

フォンダさん一家は細かいお料理をほとんどしないらしくて
あたしがいろいろとレティさんに教えながらお料理を作りたいことを伝えると

レティさんも日本食にあこがれがあったらしく二つ返事で了承してくれました^^まる！

食事が終わったと思ったらデザートなんですって^^らっきー！って思いましたよ

ええ、このときはねw

デザートはバニラのアイスクリーム！ってかなんで？小どんぶりサ

イズの器なんですか？
まあ食べますけどね・・・

でっかいスプーン（日本で言うカレースプーン）でアイスクリームをひよいとすくいます・・・
すくいま・・・すくい・・・ん？ん？ん？・・・なぜ？のびる？
ジェラート？・・・いやいやいや！・・・いやな予感びしばしきま
したよ？

ひとくち食べました・・・orz・・・みずあめです！まさに！
バニラ味のひゃっこいみずあめです！

アメリカ人が太る訳だ・・・うん、このアイスは無理！（この辺も
実話ね）

レティさんの腕をつかんで台所へぐいぐい進みます

・・・@!・・・は！固まってしまいました・・・
だって、でかいんです 巨大なんです！・・・なにがって？冷蔵庫
ですよ！

こんなの日本じゃそのへんの料理屋だっしておいてないです！
ホテルとか？たぶんそのくらいじゃないとおいてないと思われま

なかを開けると案の定・・・みなさんの想像通りです！

ええ、ほぼ肉ですねこれは・・・まあ、たまごとミルクはありま
したかね

後は野菜と穀物ですね……………ジャガイモしか無い…………

Orz

まあ、コーンフレークとシリアルがみつかった時は神に笑顔で祈りましたね…………マジで^^

とりあえず、明日の朝食の確保は万全ですね^^

レティさん食事当番わたしにまかせてくれてありがとうー！^^

リビングにもどると…………ありゃ？お父さんとフォンダさんが取っ組み合ってますね？なぜ？

あ！そう言えばお父さん夕食前に機嫌が悪そうでしたね…………

レティさんを見上げると…………あれ？なんで生暖かい目で微笑んでるんでしょう？

「ああ、マコト 心配しないでもOKですよ^^いつもの事ですか
らネ」

「お！真琴 戻ったか^^こっちこい！レオに真琴のすばらしさを見せてやるっ！」

「ふん！望む所さ！レティ、ダッドのところにおいで^^」

「マコト…………ああなったらダディはとまらないワ…………覚悟ヲきめてネ？」

え？え？え？・・・覚悟つてwなんですか！

お父さんに抱っこされてかいぐりかいぐりされながら放心状態のわたし・・・

お父さんはわたしの自慢話をしつづけています

フォンダさんもレティさんを横に抱きしめてしゃべりっぱなしw・・・

二人とも相手の話なんか聞いていませんね・・・

は！逃げなければ！このままではまずい！・・・

それに日本を出てからお風呂に入っていません・・・汗臭いかな？
・・・クンクン・・・

「おにいちゃん、あたしお風呂はいりたい・・・トラックでほこりだらけだし・・・」

「マコト、私とバスしましょうネ！・・・カモン^^」

OK！レティさんも逃げたかったのでしょう　あたしの手をとってリビングをでます^^

よし！エスケープミッションコンプリート！^^

お部屋にもどって着替えをださないと・・・おうw荷物もほどこいて
いませんでしたねw・・・

レティさんも手伝ってくれると言うので荷物を整理します

ん？レテイさん何ごそごそやってるんですか？

「わ〜お！ベリーキュート！・・・これってマコトの水着ですか？
^^」

「そうですねアメリカに来る前に日本で買いました^^」

「ぜひ！着てみてくだサーい！わたし、とっても見たいです！」

「いいですよ^^でもお風呂がさきですね^^」

「では、着替えはこの水着でース！わたしも水着にするでス！」

上に何か着ればいいか？なんて簡単に考えたこの時のあたしにめっちゃ説教したいです！

レテイさんのお話によると日本風のお風呂らしいんですよ！
これはとってもうれしかったですねー
しかもかなり広くてちよつとした温泉風呂みたいです^^

わたしはよろこんで スパーっと真っ裸になり お風呂へ突撃ー！

さーっと身体を洗って ざばーっと流します^^

ん〜ん〜ん〜！いきかえりますね〜^^

ザブーン！と湯船に飛び込んでふりむくと・・・ふりむく・・・ふり
m・・・

・・・@!!!@!!!・・・は！固まりました・・・ガ
ン見してしまいます！

言葉になりません・・・大きいんです！でっかいです！・・・何
がって？レテイさんですよ！

胸です！バストです！乳です！おっぱいです！・・・わたしが
完敗だとw・・・orz

（このおっぱいとの出会いがあたしに一生消えないキズを残したん
だよねw）

あれか？肉食が良いのか？カロリー過多が良いのか？

いやいやいや・・・それは太るだけだw・・・www人種差別反対

！日本人にもあの乳を！・・・

あたしは思いましたねアメリカ人に産まれたかったと！

ええ、マジで思いましたとも！

まあ、アメリカの食べ物とは別ですけどね・・・

と言うわけであたしは現在カルチャーショックにて脳内UPUが過
負荷状態w・・・

お風呂場で固まっています・・・orz この形のまますっぱんぽん
でw・・・

レテイさんがあたしのそばで何かさげんでいますね？なんなんですよ？

いやいや！それよりもあたしの育てる計画を考えねば！

アメリカにはまだ一ヶ月以上滞在するのですから アメリカの秘密は暴いてさしあげましょう^^

あれ？レティさんいきなりあたしをお姫様抱っこ・・・

うわー！おばーいがあたしのおなかに ででーん！ってのっかってますよ！

どうすればあのように育つのでしょうか？わたしはそのことばかり考えていました まる！

あたしの癖？になるんですが深く考え出すと周りがまったくみえなくなるんです・・・

直さなくては とは思っているんですがねw

ん？レティさん、あたしのからだを拭いてくれておまけに着替えまで！こりやらくだ^^

よし、このまま発育について熟考しましょう^^

またまたお姫様抱っこではこばれていきます

レティさん大きな声でだれかにさげんできますねー？

ありゃ？お父さん？わたしは今レティさんに降ろされてその場にたっています

お父さんがあたしの手足をまげたりのはしたり？・・・

ん？なんか光ってますね？ぴかっ！ぴかっ！と感じです・・・
あたしの横にはレテイさんがいますが・・・ん？ん？なんですかね？
ポーズとってますねレテイさん・・・わたしもポーズとってますね？
あれ？レテイさん水着ですね・・・マイクロビキニってやつですか
あれは・・・

お父さんがこっちむいて笑えっって言ってます

あたしは無意識にスマイル^^

ピカッ！！・・・うつまぶしい！！・・・ん？まぶしい？

は！現状を理解してしまいました・・・orz

レテイさんはお風呂で固まったあたしを心配して着替えの水着をこ
ていねいに着せて

お父さんたちのところにはこんでくれたんですね・・・

ここまででは良いのです！！・・・が、しかし！

あたしをまっていたのは酔っ払ったお父さんたち・・・

それで娘の水着撮影がはじまったと・・・くw・・・一生の不覚w！

まあ、しかたありません・・・もうかなりの枚数を撮られています
あとでフォトデータは完膚なきまでにはかいささせていただきますしよ
う・・・ふふふ！

はやく終わって欲しいです・・・でもこれって娘自慢の勝負になる
んですかね？

あたしやせいぜい高尾山・・・かたやレティさんは大ロツキー山脈
ですよ？・・・

・・・あ、・・・自分で言っつて凹んできましたw・・・
いやいや！まあみてなさい！10年後のあたしを！レティさんくら
いの歳になればあたしだつて！

ん？フォンダさんがなんか言っつてますね？

「レティ！1週間後の誕生日はなにかほしいものはあるのかな^^」

ありゃ？1週間後？あたしとおなじ日にちですね？

「そうだったな レティちゃんはずちの真琴とおなじ誕生日だもん
な！おれも買つてやるぞ？^^」

「うん！ハイスクール最初の16歳の誕生日だから記念になるよう
にマコトと同じ物が良い！^^」

・・・@!・・・え？え？え？・・・なんですとー！？

このビックなおぱーいであたしと3歳しか変わらないですと！・・・
もうだめです・・・

わたしのHPはもうゼロです・・・エンプティーです・・・orz
(この衝撃の事実であたしは水着のフォトデータを消すことを忘れ

ちゃってw・・・orz)

と言っわけで冒頭につながるようになるんですが・・・ちと長かったですかね？

んで1週間後のプレゼントなんですが・・・ふーw・・・なんだっ
たと思います？

レイさんにおまかせしたんですよ・・・あたしとおそろのプレゼント・・・

頂き物は・・・コルト社製のガバメント デルタエリート 9mm
パラ でしたw・・・

どこの世界に中学1年生の乙女に拳銃プレゼントしますかねw・・・
まあ、レイさんはお互いのネームが彫金されてるテッポを恍惚の
目で眺めていました・・・

ここはやっぱりアメリカでしたねw・・・orz

おう！そうでした！忘れていましたね

ここがどこだか説明していませんでしたね・・・レイさんのお家
？いやいや そうではなくて・・・

覚えてますか？みなさん！・・・この旅行のコーディネーターがだ

れだったかを？

なんと！ここはアメリカ合衆国 海兵隊の陸上訓練基地だったので
すw・・・

フォンダさん一家のレオナルドさんはこの副司令官さまでしたw
・

ついでにお母様は 強襲揚陸艦？ってゆう軍艦にお勤めだそーで・

・
しかもヘリコプターのガンナー？まあ射撃手って言えばいいのかな？
そのガンナーをやっているらしいとかで・・・orz

うん、アメリカってなんか違うっなて思いました！まる^^

えーと、思い出の（涙の？）アメリカ旅行のお話はまたの機会に
たしまして

だってwこの次に体験した海兵隊キャンプ生活のお話までしてたら
本編がまったく進みませんもん！

ふん！べ、別に 中学生時代の乙女のはづかしい秘密が世間にはら
撒かれるのがいや！ってわけじゃないんだからね！

は！取り乱しちゃったよw・・・それから あたしやツンデレじゃないからね！ほんとなんだからね！

あ、そうそう、軍隊でキャンプって言うとな軍事訓練の意味合いになるんだってさ^^

あたしや一般で言う楽しいキャンプのイメージがあったからあのとのお父さんから

「みんなでキャンプいくぞー！」

って聞いたときは思わず喜んじゃったけどねw(学習しろよ！あのころのあたしw)

でもこの旅行？(ほとんど軍事訓練だったような気がするなw)から帰ってきてからだね

「兄貴」って呼ぶようになったのは・・・言葉使いも今みたいになつたしね^^

もつとも親父さんは

「真琴が不良になったー！おにいちゃんって呼んでくれないー！」

って一ヶ月くらいさわいでいたっけ・・・

あ、ちなみに親父さんのハグを避けだしたのもこのころだったかな？

って・・・また脱線してるなwあたしや・・・

よし！では！現実の横田基地にズームイン！

「はい！こちら超常現象に襲われた現実世界の横田基地です・・・

実況はわたくし、かみや・よしはる神谷義春が命を掛けてお送りいたします！」

フルで名前を出したぞーってうれしそうにこっち見ながらドヤ顔してますな・・・

まったく！このオヤジは！目をはなすと直ぐこれだ！・・・

「ご覧下さい！まわりの景観を！えースタジオの真琴s「ばかものー！（ばしーん！）」「ふえぶらー！」

はあはあ！・・・こいつは！まったく！突っ込むのも疲れるんだぞ！

「おい！兄貴その手に持つてるマイクはどっからだした？あそこにある大型のTVカメラは？」

そっちの照明器具はどこからもつてきたんだ！？」

「ん？かつてに出てきたぞ？」

「んなわけあるかー！脳みそになんか寄生でもされたか！ばかもんが！」

「ほ、ほんとだもん！よつちゃん 嘘いわないもん！・・・」

「よつちゃん言うな！きもい！あーチキン肌になるw！」

そうだ！モb・・・もとい、ジョンさんが見てたはずだよね？

「マコト・・・今、俺のことで失礼なこと考えなかったか？」

「いえいえ！（アセツ！）それよりジョンさん・・・あのカメラと
か出てくるところを

見てましたか？どうせ兄貴がなんかやらかしたんだろうけどw・・・」

「いや、いきなり現れたね・・・うん、パツって感じで」

「は？ジョンさんはそんなの目の当たりにしてそのわりに落ち着いてますよね？」

「だって、カミヤだろ？」

・・・そうだったw・・・ジョンさんもオヤジの変態加減を知ってるひとだったよw・・・

いつのまにか後ろにいる二人の兵隊さんなんかは目を@@こんなに
して固まってるのに・・・

ああ、あの二人の兵隊さん、非常事態だから武器とか装備をもって
きてくれたんだね

さっきまではあたしと親父さんとジョンさんの3人だけだったもん
ね・・・

ジョンさんは早速装備を装着しだしてるね・・・ん？・・・あれ？
あたしたちの分もあるのかな？なんかいっぱい武器とかあまつてる
よね？

ま、それよりこっちが先だ！

「兄貴、ほんつとにあのカメラとか照明はどっからもってきたの？
ん？」

怒らないからあたしに教えてみそ？」

「うむ・・・実は、神谷義春って名前なんだ！だからおにいちゃん
って呼んでくれ！^^」

「もう一回はたくよ！」

「その前にだ、おれからも真琴に質問がある・・・真琴、そのハリ
センはどっから出した？」

え？え？え？・・・まてまてまて！・・・ハリセン？・・・ハリセン？右手をみると・・・

「え？・・・なんで？・・・なんでハリセンなんかもってるんだ？あたしや・・・」

「ちなみにだ・・・第一話でもスリッパでひっぱたいてたよな？」

え？え？え？・・・うん・・・ひっぱたいてたね・・・確かに・・・スリッパで・・・

そろーと足元をみると・・・うす緑色してて先端にWCとマジックで書かれたスリッパが・・・

「ありや？・・・なんで？・・・あたしって手品師？」

「そこは やっぱり親子って事じゃねーの？マコトとカミヤはさ^」

「ジョンさんがなんか余計なこと言ってるしw・・・うん、あとでいぢめよう^^」

「兄貴・・・その右手のマイクって、あこりや自前だ・・・うん・・・」

「カクッ・・・あーあwヒザをついちゃったよw・・・なんかねwもう疲れましたよ・・・」

「この人はいつもいつも・・・あ、また凹んできたw・・・orz」

「がば！」

またかい！今はめっちゃ疲れてるんですけどw・・・ちよつと涙目w・・・

「兄貴！落ち込んでるんだからほつといてよ！」

「やだね！真琴が落ち込んでるからこうしてるんだろが！」

「あ、兄貴・・・／／／」

へへへちよつとうれしいかも！^^／／／（あたしって単純？）

「それにだ！真琴の育ちそつで育たないつるぺたーんの記録だつてこうやって測ってるんだぞ！」

あ？なんだつて！

「それにだな レティと比べて当社比1／3？いや1／4のコンパクトタイプかな？」

だがしかし！小さくても育ってる？つて実感を俺は噛み締めたいんだよ^^」

「あ！ばか！カミヤ！・・・うん、おまえ死んだなw・・・」

「うw！ばか兄貴！確かにレティと比較すれば小さいけどB・くらはいはあるんだぞ！」

「それつてAつてことじゃね？レティはちよつときついけど今はEつて言つてたぞ？^^」

「あゝあw・・・カミヤ・・・アーメン（合掌）」

www！あたしの感動をかえせー！・・・wwwって とり合えず
！兄貴は！ぬつ殺す！！

あたしは立ち上がってジョンさんに近寄ってと・・・

「ジョンさん（ニコッ ^^）（その腰のM9）（ベレッタ92FS）ち
よっとかしてね ^^」

「ばか・・・マコト、実弾はやばいって！・・・やめなさいって！
・・・」

ジョンさんとあたしは追いかけてこー！

あたしはテッポを奪おうと手を出して それをよけるジョンさん・
・腰振りダンスだなこりゃ・・・

「マコト！やめなさい！・・・カミヤもマコトに謝るんだ！はやく
！」

かけっこしながらジョンさんの腰振りダンスを見てたらあたしも少
し落ち着いてきたかな・・・

うん、実弾はやめとこう・・・今日のところはね ^^

「ほら！二人とも シェイクハンド！握手して！」

ジョンさんに後ろから肩を押されて親父さんの前へ・・・

「兄貴！今回はゆるすけど・・・つ、次はないんだからね！」

そう言っつて親父さんと握手します・・・

ん？・・・おやじさん？・・・なぜにドヤ顔？・・・ん？

「ジョン！真琴が・・・真琴がツンデレになったぞ！（ドヤ）^^」

「

あらあら、まーはよいこと・・・ジョンさん あたしからさーつと離れて行ったよw・・・

「兄貴！あんたつて人h・・・」

その時です！

あたしと親父さんの足元から光が・・・うw・・・まぶしい・・・まぶしいので細めで親父さんを見ると・・・あれ？また？なんでドヤ顔？

「真琴！これつて・・・これつて神様んとこいけるんじゃない？んでき、真っ白く光るへやでさ！」

うー！おら、めっっちゃワクワクするぞ！」

あーw・・・だめだw・・・この人はこーゆー人だったw・・・

「バカ兄貴！いいか！ぜったい神様には変なことをするなよ！いいな！」

「それっておやくそく？だよな？やって下さいって言うっ>^>」

「あーwもう！違っつて！マジでやm・・・www・・・」

あれ？・・・力が入らな・・・意識がw・・・

「うん！俺、神様のまえでも自分らしくがんばる！」

なにを・・・言っつてw・・・いつも・・・後始末はあたしなんだぞ？・・・

だめだ・・・意識が・・・www・・・

・・・

・・・

・・・

あたしは沈み行く意識のなかでめっちゃドヤった顔の親父さんを見て・・・

よし！って覚悟を決めましたさw・・・うん、無理！だれかたす
けてー！・・・orz

3話 涙のアメリカ レティとの出会い 後編（後書き）

カミヤ「ふふふ！義春と呼びたまえ！」

真琴「無理やり自分で名のつてやがんの！」

レティ「作者に聞いたんだけど本当は神様の時に出す予定だったみたい……」

ジョン「カミヤ……おまいさんいつか痛い目に遭うぞ？」

カミヤ「ふーんだ！よつちゃんきにしないもんね」

真琴「兄貴wたのむから次回はおとなしくしてくれよな？」

カミヤ「無理！」

レティ「（あ……私、なんでこんな変態に惚れたんだろ……）」

ジョン「ん？レティ？なんか言ったか？」

レティ「へ？……いや、最近肩が凝るかな〜って^^」

カミヤ「じ〜じ〜っ」

真琴「いやいやw口で言ってるし！って！どこ見てる！」

ジョン「カミヤ！こつち来い！一杯飲みに行くぞ！」

カミヤ「お！いいね^^」

レティ「いいなーわたしも行きたいな〜」

ジョン「わりーwレティはお嬢ちゃんのフォローを頼む」

レティ「ま、いつか……ジョン後で奢りなさいよね」

ジョン「おう！んじゃいつてくる！」

カミヤ「いつてきまー！」

真琴「レティって……その……おつきいよね？」

レティ「へ？なにが？」

真琴「……なんでもない！……」

レティ「？変なマコト……」

真琴「もう直ぐ19歳だよなw・・・まだ育つのかなw・・・」

・・・あ、凹んできたぞ・・・今回は結構きついぞ?・・・orz

みなさん!どーもです!M2-1015です^^
えーご意見は多々あると思いますがこんな感じで
グダグダのギャグでいきます!

今回は神様編ですが

この親子はどう対処するんでしょうかね^^
あらずじはあるんですけど

キャラがかってに走り出してしまつてw・・・
私もこの親子には手をやいております!

それでは次回「神様編」でお会いしましょう
皆様に笑顔がもっと増えますように^^

では^^ノ

4話 涙の神様・・・ほんつとすいません！うちの兄貴が迷惑かけましてw(前

真琴「どーもでーす！」

ジョン「オース！」

カミヤ「そーいえばこれって義春じゃないよね？カミヤってなってるよね？」

レテイ「・・・出番がないw・・・これでは主役の座がw・・・」

真琴「ありゃ？兄貴はスルーとしてレテイ？どつたの？」

ジョン「なんか毎回主役がどーのつて言ってたな？」

レテイ「は！何言ってるのジョン！主役はマコトじゃない^^」

ジョン「ん？そーだったっけ？」

レテイ「ニコツ！^^」(チャツキ！ジョンの背中に銃を突きつけてます)

ジョン「うw！・・・いや！俺の勘違いだったかな？」

真琴「ん？レテイ？」

レテイ「なんでもないわ^^真琴(ニコツ^^)」

カミヤ「ここ直せー！」

真、レ、ジ「スルーで^^」

真琴「んじゃ神様編いってみよー！」

4話 涙の神様・・・ほんっとすいません！うちの兄貴が迷惑かけましてw

ん・・・

・・・ん？・・・ここは？・・・なんであたしってば床でころがつてるの？・・・

・・・www頭がはたらいてないわ・・・www

でも真つ白い部屋だなーここって・・・

実はあたし、寝起きはめちゃくちやわるいんです！テヘツ^^

なーんて考えてると・・・ん？ん？・・・親父さんがだれかとしやべってる？？

は！・・・真つ白い部屋？親父さん以外にもだれかいらっしゃる？・・・って事は！

そりゃあもうあたしや、ふらつく頭を片手で抑えながら ガバツ！
つて一気に起き上がったさ！

ええ、ええ、きつとテンプレですよねw これってさw・・・
もうね、いやな予感がばつきばつき！

声のする方に振り向くと・・・！・・・そこには予想の斜め上の展開がw・・・orz

「・・・兄貴・・・なにしてるの？・・・まさかとは思っけどその

お方はどちらさま？」

「おお！気が付いたか真琴！……どこにも異常はないか？」

「うん……あたしは大丈夫……なんだけd」（がばっ！）よかった！」あ！／／／

親父さんがめずらしく心配そうな顔で あたしに近づいてきて……お！いきなりハグですかい！……ん？お父さんってばちよつと震えてる？

よかつたつて言つたつて事は あたしつてば心配されてたんだよね？^^……ちよつと照れるね／／／

「ほんとに心配したんだぞ？……体感時間で10時間くらいおきなかつたからw……」

「え！あたし、そんなに寝てたの？」

ふと時間が気になつて腕時計を見ると……ありゃ止まつてやがるねw……

え？この止まつた時間つてここに飛ばされたくらいの時間だよね？……ありゃ？

は！いやいやいやいや！そんな事よりもだ！

さつき目が覚めた時の親父さんがやらかしてた事（一方的なタコなぐり）を聞かないと……

あーん！……本心は聞きたくないー！……orz

「ねえ兄貴、さっきあそこの人と何やってたの？あの人はこちら様？」

「ああ、あいつは俺たちをここに呼び込んだ自称神様だ・・・」

「え？神様って！？・・・だったらあの人なんでぼろぼろなの？なんで四つん這いで泣いてるの？」

「ああ、真琴がなかなか起きないもんで 『神ならなんとかしろー！』って言ったら

『無理』って言うんだもんw で、おもいつきしぼこせ「ばかもの！（ばきー）」「ぐはっ！」

あたしはずつと持ってたハリセンで親父の横っ面をひっぱたく！・・・ええ、ひっぱたきますとも！

「だってw・・・俺がせつかく『う！まぶしい！ここは？・・・真つ白な部屋だ』ってやろうとしても

マコりんが寝てたらつままないじゃん？だからぼこせ「大ばかもの！（スパーン！）げふえっ！」

「テンプレギャグの為かい！さっきのあたしの感動をかえせ！・・・それと！マコりん言うな！」

「www・・・真琴、スリッパもそうだったけど そのハリセンめちやくちや痛いぞ？」

まるで鉄パイプでぶん殴られてるみたいにw・・・」

「そんな事あるわけないでしょ！バカ兄貴！・・・ほら、さわって

もただの厚紙じゃん・・・」

「いや、ほんとにマジなんだがw・・・」

は！神様のこと忘れてた！

まったく！・・・神様にいたずらするくらいなら想像してたけど
タコ殴りでぼろ雑巾にしちゃうとは・・・親父様w・・・orz
あたしはぼろぼろで四つん這いで泣いている神様？のもとへ小走り
に近づいて・・・

「大丈夫ですか？・・・今おこしますからwよいしょっと・・・」

「・・・ありがとう・・・ひどい目にありましたw・・・」

「ケガはありませんか？・・・」

「はい・・・この空間ではどんなケガも直ぐになおりますから・・・」

「

神様？を助け起こすとみるみると治っていきます・・・あら、服も
直るのね・・・

後ろで親父がぶつぶつ言ってるな・・・まだいじけてるのか？

よし、ほっとこう・・・うん、あれが交じるとややこしくなるw・・・

・

「で、すいませんがあたしに説明をして頂いて良いですか？・・・
あ、兄貴はほつといていいです」

「カミヤ・マコトさんですよ？私はあなたを呼び出しましたこの
世界の神です」

「ほんとに神様なんですか！・・・ほうほう」

うん、テンプレ通りの美男で優男だね・・・ちよつとかっこいいか
も！^^^^／／

ありゃ・・・あたし今きつと顔が真っ赤だね／／／
いーじゃん！神様ってばいい男なんだからさw！

「あら？あまりおどろかれないんですね？普通は呆然となったり喚
いたりするんですが・・・」

は！いかんいかん・・・親父さんのおかげであたしや精神的な耐性
がきたえられてる？

「あら！びっくり！神様なんですか！」

「はーw・・・いいです・・・無理しなくても・・・先ほどから見
てましたが貴方たち親子は
良い意味でも悪い意味でも似てらっしゃいますよね・・・」

ありゃ・・・あきれられちゃってるよ神様にw・・・うん、でもこ
れだけは言っておかないと！

「神様！あんな歩く公害といっしょにしないでくださいね！」

「それで、貴方をここに呼び出した訳なんですけど……」

「スルーですか！」

「はいスルーです^^それではまず3つの空になった世界の現状からお話しします……」

んーとね、このスルースキルを持ったハンサムな神様の長〜い話を要約するとだね……

まず西側のジャングルは太古の世界なんだって 人は住んでないらしいよ？動物は居るみたいだけど

で、東側の森林地帯はね 地球で例えるなら中世ヨーロッパの時代みたい？……ただし！

モンスター？って言うか魔物！がいるらしいのよw……んで魔法もあるんだって！

王国？もいくつがあるらしんだけど…… 種族も何種類かいらしゃるって？……種族？

白人や黒人とかじゃなくて？ふむふむ？え？エルフとかドアーフ！あと亜人や獣人とかだって！？

めっちゃめっちゃファンタジーじゃんそれって！
うー見て見たい〜w！

ほう、時間の流れはおんなじで1日24時間なんだ……うん、時計はつかえるね^^

で、あたしたちがいるこの基地がその2つの世界をつなぎ止めてる

つと・・・って接着剤かい！

ん？ほうほう、神様のもつと上の方が終焉を迎えかけた2つの世界を救おうとしてくつつけたと・・・

で、くつつけたは良いが世界が安定しなくて我々を召喚してこの世界の定着をさせる事にしたと・・・

あら、ほんとに接着剤なのねんw・・・

で、あたしは何をすればいいのかな？

ふむ、二つの世界の触媒？東の国に行つて西のジャングルを開拓させるの？なんで？

西にも人が住みはじめれば異世界同士に絆ができると・・・ほう、そうなんだ・・・

おおむね神様のお願いはこんな感じかな？

個人的には、おもしろそうだし興味はあるね〜^^

だってリアルファンタジーじゃん！

ただ最大の懸念がねー・・・あたしの後ろで最大の懸念さん（親父様）が、まだいじけてるね・・・

ああ、そうだった、あとレティたちだね・・・どうなるんだろ？

「神様！質問があるんですが・・・」

「なんででしょう？^^」

「私たちは元の世界に帰れるんですか？」

「直ぐには無理です 最低でもこの世界が安定しないと・・・何年かかるかは・・・すいません」

そーかー帰れないのかーw・・・じゃやるしかないね！

うん、このお気楽さは絶対に親父様に鍛えられたせいだね・・・ま
ったくw

「この世界を救える心・・・純粋な魂の持ち主としてマコトさんを
召喚したのです

あ、あと、マコトさんは魔術をつかえますよ^^」

へ？神様、今なんつった？魔術？あたしが？

「本来はマコトさんだけ　ここに呼ぶはずだったのですが　なぜか
魔力が減っていて足りない魔力を

補うためにお父様にも来て頂いたのです^^」

「え？あたしつてば魔力もってるの？え？え？」

「はい^^この異世界では今でも多分1番ではないかと？・・・お
父様も多少はありますね魔力が・・・

マコトさんはここに召喚した時に魔力が無くなりかけていたので気
絶したのでしょう・・・」

「いやいや、あたし魔力つて言うか、そのw・・・魔法なんてつか
ってないよ？」

「それです！」

と言つて神様はあたしのハリセンをピシッと指差してますが？・・・
これが魔法？・・・ん？

「?・・・ハリセン?」

「そうです、それは具現の魔法です・・・イメージしたものを実際に投影し具現化する魔法です・・・」

「ただ、具現投影は魔力の消費がものすごく多いんです・・・あのTVカメラや照明などでも」

「マコトさんは大量に魔力を消費していますね・・・」

「それにそのハリセンは強化の魔法もかかっていますから・・・叩かれたらかなり痛いですよ?」

「へ?あれも?あたしがだしたの?なんで?TVカメラなんてイメージしてなかったよ?」

「あの場所の魔力の力場が不安定だったのでしょうか・・・ お父様がイメージしたものが」

「マコトさんの魔力を使って具現化されたみたいですね・・・」

「そうだったんだーwあれはw・・・やはり親父さんのせいだったのかw・・・」

「にしても ふむ、具現の魔法ねー・・・うん、他の魔法はつかえるのかな?」

「あのー神様、他の魔法も使えますか?」

「魔力があるなら魔法はつかえますよ?実際に物質ハリセンの強化もしてますし^^」

「そうか 使えるのか・・・うん、覚えても損はないな・・・よし覚えよう!」

「神様の話だと どうもイメージが大切らしいんだよね魔法って・・・」

魔法も楽しみだね！

でも使い方は 実地で試行錯誤しながら覚えてねっ
ていわれちゃっ
た^^

もう、このイケメンさんたら・・・結構めんどくさがり？

そうだ！何年も戻れないんだから 後はレティ達みんなの為の交渉
だね・・・

「それで神様にお願ひがあるんですけど・・・聞いて頂けますか？」

「私に出来る事ならいいですよ^^」

「まず、みんなの安全なんですけど・・・」

「はい^^わかりました・・・えいっ！・・・終わりましたね」

「へ？もう終わり！？」

今の えいっ！って掛け声で、神様はみんなに今のあたしと同等の
魔力をあげたらしい・・・

それと基地のフェンスに あたしたちは通れる永久的な絶対結界を
高さ20mで付属したんだって

しかも！あたしたちに悪意または危害を少しでも持つてる人や動物
は通れないんだってさ！

ついでにこの世界の言語（読み書きね）も解るようにしてくれたん
だってさ^^

はーさすがイケメン！神様ってすごいねーまさにコンビニエンス！

あと、もともとの地球世界はかなり上位の世界だったみたい・・・

だから下位世界のここなら あたし達は スパイダーマ！いやいや
w・・・

某超人的特撮ヒーローなみの体力なんだってさ・・・ジャンプで1
0mなんて楽勝だった！

そこから落つこちて受身がとれなくても せいぜいすり傷くらいっ
てどんな化け物だ？

よし、基地にもどつたら親父さんで試そう！・・・20mくらいか
らでいいかな^^

「マコトさんには感謝の気持ちで魔力を貴方の身体が受け入れられ
る最大まで増やしましょう^^」

「え！いいんですk「俺にもその魔力よこせ！」うわ！びくつり
したw」

あーおどろいたwってか、なんで真後ろ5cmにいるのさ！ちかい
ちかい！息かかるって！

あー！ちかいつて！はなれる！耳なめようとすんな！・・・バカ兄
貴の変態めw！

「俺だつてここに来てるんだから特典あったって良いだろ！？それ
に強いぞ？俺は」

あーそうそう・・・この親父さんは事サイバイバルに関しては結構ど
ころかめちやくちゃプロなんだよね

んー悪戯に使われるんだらうけど・・・それを差し引いても魔力は

あつたほうが良いよね！

うん、あたしからもお願いしよう・・・

「あの、神様・・・あたしからもお願いします 兄貴にも魔力を増やして下さい」

「え？お父様にですか？ほんとに良いんですか？後でキャンセルはききませんか？」

「やたー！真琴の許可がでたー！ルンルン！」

「wwwおどるな！バカ！・・・ええ良いです・・・あんなんでも兄貴は貴重な戦力になります！」

・・・まあ、アホでスケベで変態で人外ですがw・・・」

（へーきだよな？うん、ジョンさんにも後で協力してもーらおつと^^）

「わかりました^^西域の開拓方法はお任せしますので がんばって下さいね」

「はい！出来るだけの事はやってみます！」

「あ、ひとつ言い忘れてました・・・あなた方が使っていたエアガンですが

こちらの異世界では十分な武器となりますので なにぶん上位世界の道具ですから^^」

「え！そうなんですか？・・・気をつけて取り扱います」

「では、また会いましょうねマコトさん^^」

「はい！」

あたしが返事をする　またもや足元から強い光が！

あーまぶしい！・・・あや？親父さん不満そうな顔してるぞ？・・・
ん？なんでだ？

「おーい！神！ここは真つ黒な落とし穴で落っこちるとこだろーが
！」

つ、疲れるw・・・

・・・このバカ兄貴はw！・・・ほんつとテンプレが好きなのねw
・・・orz

さてさて、戻ってきましたよ横田基地へ^^
腕時計を見ると・・・おー動いてる・・・って神様の部屋って時間
止まってたのかな？

「えーこちら現場の 神谷義春です スタジオの真琴s」まだやるか！（ぱからーん！）「ふえぶらw！」

「バカ兄貴！くどい！しつこい！うざい！」

「だからw・・・そのハリセンは痛いつてw・・・」

「おはなしをすすめましようね お兄様！（ニコッ^^）」

「はい！すみませんでした！」

まったくw・・・さて、まずはジョンさんに説明しないとね・・・あんなんでも指揮官だもんねw・・・
どっから話すかな・・・うん、隠さず全部話そう！

「カミヤ！マコト！大丈夫なのか？・・・いきなり光に包まれてたが・・・」

「うん、へーき^^・・・でもちよつと深刻なお話があるんだけど・・・ジョンさん聞いてくれる？」

あたしは神様の部屋で起こったことを事細かくジョンさんに伝えました

ジョンさんはレティが戻ったら全員で話し合いをするそうです

事が事だけに命令ではなく協力として部下にお願いをするみたい・

・ジョンさんえらいねw

でも『オーマイゴツト』っていちいちはなしの腰を折るのはやめて

ね^^

親父さんの魔力の話してる時なんか『ジーザスクライスト!』だっ

てw・・・

あれ?ジョンさん?なんでorz こんなかつこしてんの?・・・ん?

「マコト・・・あー、言い難いんだが・・・あれだ、カミヤも魔力がめっちゃ高いんだな?」

「うん、そうだった」

「その魔力を与える許可はマコトがだしたんだよな?」

「そーだけど・・・いけなかったかな?」

「うん、よし、マコト カミヤのおもりはおまえにまかせた^^」

「え?なんでさー!」

「あれだろ?同等の魔力持ちはマコトだけなんだろ?」

「うん・・・そーだけどw・・・」

「んじゃ、あれがなんかやらかした時に止められるのはマコトだけだな？」

「うw・・・そ、そーなるのかなw?・・・」

「あれがおとなしくしてると思っているのか マコトは？」

「・・・無理です・・・」

「んじゃ、がんばれマコト!^^」

えええー! ジョンさんw・・・そこはさーみんなで協力しよーよw~~~~

あー! 親父さんってばあたしたち見ながらめっちゃドヤ~~~~って顔してる~~~~w

ありゃ絶対なんかやらかす時の顔だ~~~~w

うえ〜ん! あたし、はやまったのかなあ〜w・・・

イケメンの神様助けて! って言っても親父さんにぼろんぼろんにされてたしw・・・

レティー! お願い! はやく戻ってきて~~~~!

あ、・・・レティでも親父さん押さえるのって無理かもしれないw・・・

ってことは?・・・適任者はあたしだけ?・・・いやー! 考えたく

ないよ~~~~!

う、うえくん！だれでもいいから あたしを助けて~~~~！.....

・o r z

4話 涙の神様・・・ほんつとすいません！うちの兄貴が迷惑かけましてw(後

真琴「いきなりですが！それでは第一回質問コーナー！^^」

カミヤ「ん？質問が来るほど人気あるのか？」

M2「・・・orz」

カミヤ「おお！作者へこんでるがな^^」

真琴「もう！いぢめちゃだめでしょ？ナイーブな人なんだから」

カミヤ「あれがナイーブならゴキリはとっくに死滅してるはずだが？」

真琴「・・・えー」真琴さんのキャライメージってどんな感じですか？』ですって^^キヤツ！うれし^^」

カミヤ「スルーですかw」

真琴「んーとね、ブラックゲーンのレベツカさんをかわいくした感じかな？^^」

カミヤ「あんなに胸ないだろ？もつとつるペターンじゃんおまえは」真琴「・・・」

カミヤ「まあ、後は似てるかな？ポニーテールとかね・・・ま、ペたんこだが^^」

レティ「ジョン！巻き添え食らう前ににげるわよ！」

ジョン「おう！」

真琴「このばか兄貴！くらえ！必殺のソードカトラスだ！」

レ、ジ「あーあw・・・まあ死なないで(ね)(くれ)^^」

レティ「(次回こそはたっぷりと出番がありますよ-にw・・・)」

どーもー^^M2-1015です！

神様でした！また出てくる予定です（いじられ役で^^）

で 私、ブラッククローン大好きなんですよ！

レティですがいじわるして出番がないわけではありません・・・たぶん？

次回は基地内の様子と西のジャングルです

いよいよ（やっと？）戦闘シーンですかね？

それでは皆様の笑顔がもつと増えます様に^^
では^^ノ

5話 涙のジャングル あんなのいるって聞いてないよw(前書き)

真琴「どーもです！」

ジョン「ばわー^^」

レティ「うふん・・・あなたのレティよん(はーと)」

真琴「・・・出番少なくておかしくなってるのかな？」

ジョン「マコト・・・そつとしいてやれ・・・」

真琴「うん・・・」

カミヤ「ハンバーガー食べたいぞー!!」

真琴「うを！なにをいきなり・・・」

カミヤ「いやね？作者に今回の本編みせてもらったんよ」

ジョン「ふむ・・・」

カミヤ「そしたらね？ジョン達の部下の名前がね・・・」

ジョン「あーあいつらね・・・そりゃ食いたくなるわ・・・」

真琴「そーなの？」

カミヤ「まー読めばわかるわ・・・あー！バーガー食べてーw！」

レティ「カミヤは本編よんだのね？」

カミヤ「読んだよ？」

レティ「それで・・・あたしの出番は・・・あつた？(ドキドキ)」

カミヤ「おーいジョン、ハンバーガー食いに行くぞー！」

レティ「・・・スルーですか・・・」

真琴「んじゃ第5話のはじまりです！^^」

5話 涙のジャングル あんなのいるって聞いてないよw

「キヤー！兄貴のバカやるー！」

「マコト！早くこっちに逃げて！」

レティ！？……言われなくても逃げますよあたしゃ……うん

兄貴も何をつれてきてるんだか！限度があるでしょ限度つてもんが！
確かに神様はジャングルには動物がいるって言ってたけど……
確かに動物だけど！

「もう！ほんつとつにマジで！ 兄貴のバカやるうー！……キヤ
ー！！！！」

S i d e レ テ ィ

私はジョン中尉から基地内確認と安全な格納庫の確保を命じられた
ここは基地の南端だ 中央の倉庫までは3分くらいか？

部下5人をつれて3台のHMMWV（多機能高機動車・ハンヴィ）に2人ずつ乗り分けた・・・

落ち着け、私！将校は冷静にならないと・・・

そうだ！ロツテとリーアのメディカル班はここに残そう・・・

「ロツテ軍曹とリーア伍長はここで待機！」

「イエス マム」

「残りのおまえたち！まず武器の装備をする！車両格納庫へむかうぞ！」

「イエス マム！」「」「」

「USマリンコー！」（アメリカ合衆国海兵隊の掛け声です^^）

「マリンコー！」「」「」

私たち3台は車両格納庫へ周りを監視しながらゆっくりめに向かったが・・・

うん、予想通り他に人は見あたらないわね？・・・猫の子一匹歩いてないわ・・・

私たち以外に生物はいないのかしら・・・今いるのは全部で11人？・・・

トループスが7人、メディックが2人、シベリアンも2人・・・
もつともあの親子は超シンヒリアンがつくほど実戦経験豊富だけれどね・・・

車両格納庫へ着くとまずは個人携帯武器等を装備させる

「アテイション！全員強襲偵察用装備装着！拳銃も着ける！ライフ
ルにはM203もだ！」

わたしを含めみんなが武器庫から装備をだして着ける・・・その後
は・・・

「モース上等兵！HMMWVの前部ルーフにそれぞれM2、M24
0G、Mk19を設置！

ファスト上等兵は同じく後部ルーフにM240Gを設置しろ！

フレック上等兵は弾薬を運んだらモースを手伝え！Mk19はとり
あえず榴弾のみで良い！

ベッガー上等兵はロツテ軍曹の車両用にM240Gを2丁を持って
いく用意をしろ！

マック軍曹はM249ミニミを全車両へ1丁づつ車内へ運んどいて
くれ・・・

あ、ロツテたちの分もあるんで計4丁の用意！あと中尉とカミヤ親
子の分も装備をそろえて・・・

それから 狙撃用にM14とM82A1も2丁づつ頼みます・・・」

「……………イエス マム！……………」

「軍曹、すまんが私は個人装備を部屋からとってくる・・・30分
でもどる！頼んだわよ」

「少尉お気をつけて……………」

さて、自分の部屋へいきますか・・・マコトとカミヤにも預かってる物を渡さないと・・・
ドアを開く・・・ロッカーを開けて2丁のデルタエリート・・・私とマコト、お揃いの拳銃・・・
ふっとあの日・・・6年前の誕生日を思い出す・・・銃の彫金を指でなぜながら・・・

いけない！急がないと・・・マコトのライフルM655、それからマコトとカミヤのカタナ・・・
マコトはそれぞれに名前をつけてたわね・・・

後は・・・私のお爺様のかたみのM1897・・・そうそう デルタの予備マガジンもね・・・
ショットガンの弾はどうしよう・・・スラッグとダブルオーバックでいいかな？
忘れ物は無いかな？・・・うん、よし！戻ろう！

(兵器や武器等の説明は簡単にですが後書にて少しづつやる予定です。)

車両格納庫に戻るとほぼ準備は完了していた・・・

「マック 燃料は？」

「全車満タンです、予備燃料、弾薬も規定の2倍積んでます いつものレーションも積みました」

「うwwww・・・私あれきらいなのよねw・・・日本食になれちゃうとあれはねw・・・」

「まあ、わたしもですが・・・H A H A H A H A！」

ほんと、あの脂っこくて甘ったるいカロリーだけのレーション考えたやつの尻をけとばしたいわ！

以前なら平気だったのに・・・私の食生活を改善したマコトがいけないのよ・・・

あゝマコトとはじめて行った八王子のラーメン屋さん・・・おいしかったな・・・

は！いやいや！何考えてるんだ私は・・・さっさと急がなくては！

「フレックとベッガーはいったん戻って装備を中尉たち、あっちの5人にわたしてちょうだい
それからロッテの車両にも武装の搭載をお願い・・・直ぐに行つて！」

「イエス マム！」

「マックはモースと北端のヘリポートから東側を調ながら南下して中尉の所で合流ね・・・」

あ、途中のF-15D戦闘爆撃機の格納庫と弾薬庫のロックも忘れずをお願いね・・・

私はファストと西側に行くわ・・・まず管制塔と司令部を調べてか

ら南下するわね」

「イエス マム！」

「さあ！みんな！ロックンロールよ！！」

「マリニコ！GO！GO！GO！！」

・・・管制塔・・・うん、思った通り誰も居ないわね・・・司令部も空ね・・・

「よし！ファスト、西住宅地域を確認しながらもどるわよ・・・」

「・・・ねえ、レテイシア少尉・・・俺たちどーなるんすかね？・・・」

「大丈夫よ^^心配しない！中尉だっているし、もっとたよりになる人もいるのよ^^」

「へ？あのお嬢ちゃんたちがっすか？」

「そ！^^だから私はなんの心配もしてないわよ？マコトはあなたよりもはるかにストロングよ^^」

「ここだけの話、あの2人私よりずっと強いだよ^^」

「マ、マジっすか？@@！」

「マジマジ^^クッス　そのうちわかるわよ^^・・・さ、戻りま
しょう^^」

「はいっす!」

んー、やっぱり不安なのね・・・わたしだって不安なんだもの・・・
でも、カミヤがいるし^^/^^/
は!私なに赤くなってるの?ファストの前じゃない・・・もう!

訓練施設の建物が見えてきたわね・・・

あれ?マコト?・・・なんで四つん這いで凹んでるのかしら?・・・

90

「うえ〜ん・・・れてい〜・・・えぐっ、えぐっ・・・」

「ちょっと、マコト!落ち着いて!・・・何で泣いてるの?」

「ジョンさんが〜兄貴の・・・ぐすっ・・・めんどろみろっ〜

W・・・」

「????マコト?とりあえず涙を拭いて・・・あー鼻水も!ほら、
ティッシュあげるから・・・」

「え〜ん・・・ぐしゅ・・・れてい〜　あじがと〜・・・(ち〜ん
っ!)」

もどつて来たのはいいけど・・・いったい何があったの?・・・
カミヤは今にも高笑いしそうにぐいって胸張ってるし・・・
ジョンは おらしーらねって感じでそっぽむいてるしw・・・まっ
たくもう!なんなのよ!

は〜w、ここはジョンに聞くしかないわね・・・

「フレデリック中尉、いったい何があったんです?あんなに凹んで
いるマコトは初めて見ますが?」

「あー、その、なんだ・・・えーっと、うん、もしもだ カミヤが
今までの何倍ものパワーで

はちゃめちゃになにかやらかすとしたら レティはそれを押さえつ
ける事ができるか?

・・・ま、とーぜん俺にはまったく無理だがな・・・^^」

「そんなの、わざわざ聞かなくったって完全に無理だって決まっ
てるじゃないですか!」

「そうなんだよなーw・・・んで マコトにそれをまかせたら・・・
ああーなった」

「????おっしやる意味がよく解らないんですが?」

ジヨンは私が居なかった時に起こった事を正確に細かく話してくれただけど……

カミヤが？この世界で最大の？魔力？魔法？

そりゃそうね……うん、ジヨンに1票！

なので私はこれしか言えません……ゆるせマコト！

「うん、それは私にも無理ね……マコト、悪いんだけどがんばってね^^」

「う〜〜w……レティのw……うーらーぎーりーも〜〜！」

「そこは無理だけど 他の事は協力するから……ファイトね、マ

コト^^」

「うw〜〜〜」……orz

あら、また凹んじゃったわ……ま、マコトは切り替えが早いし平気かな？

まあ 正直、あの悪戯以外なら 私がカミヤの面倒を見ても良いんだけど……ポツ／／

きゃー！私ってば はずかし〜〜！……／／

レティたちが戻ってきたんだけど・・・あっさりと

「うん、それは私にも無理ね・・・マコト、悪いんだけどがんばってね^^」

「そこは無理だけど 他の事は協力するから・・・ファイトね、マコト^^」

って言われちったよーw・・・

うん、・・・いつまでも凹んでちゃだめだ・・・親父さんに主導権を取られてしまう・・・
それだけは絶対阻止しないと！

うん、よし！ファイッおー！・・・がんばれー・・・がんばるんだ！ あたし！

がばっ！

「おうw！いきなり！アホ兄貴！・・・だから！
いきなり抱きつくな！いいかげんにしろ！（バキッ！）ふえぶっ！」

「真琴さんw・・・ハリセンは痛いt「ギロツ！」すみませんです
！」

まったく！この親父は進歩がまったく無いな！

・・・あれ？レティ？顔が真っ赤だぞ？・・・ほほに手をあてて・・・
くねくねしてる？

いやんいやん？って言ってるなー？・・・なんぞや？

「ねージョンさん・・・レティが変だよ？」

「あーあれかw・・・マコトは知らなかったっけ？まあ、いつもの事だ気にすんな^^」

ん？そーなんだ？・・・でもちょっと気になるわね・・・顔赤いしw・・・

「フォンダ少尉！マック軍曹！よし、偵察で見た事を聞かせてくれ」

ジョンさんのそばにマリノコのみなさんが集まって来ますね・・・そりゃ状況を聞きたいよね・・・よし、あたしも聞こう！

内容を要約すると・・・見てきた限りではあたしたち以外にはだれも居なかったみたい

ん？でもさ 横田基地って東アジアを統括してるアメリカ空軍極東司令部じゃなかったっけか？

ふむ、おとなりの赤い国たちが勘違いしてせんそー起こしてなければいいけどね・・・

東西にわかれた空のラインの下は幅2〜3kmで砂漠っぽくなって
るそうです・・・

このわかれたライン、正確には南北じゃなくて北北東から南南西を
結んだ線で

2つの世界が分かれてるらしいんだって んでその中心がこの基地

なんだって・・・

お、ジョンさんも異世界トリップと神様のお話もしてますねー・・・
うんうん、みなさーん 嘘じゃないよー その話はほんとだよー・・・

ありゃ？みんな『オーマイゴット』とか『ジーザス！』とかw・・・
ジョンさんと同じだー

アメリカ人はみんなそうなのかな？

「・・・と言う事だ・・・アメリカ軍海兵隊としての行動はここま
でにしたいと思う・・・」

これからは、この世界に来た11人が仲間として、そしてこの基地
を1つの国としていきたいと

俺は思う！・・・困難もあるだろう 危険な目にも遭うはずだ・・・
だがそれが俺たちに与えられた

神からの試練なんだ！・・・どうだ？みんな・・・やってくれるか
？」

おお！ジョンさんかつこいいー！

みなさんも納得してるっばいみたいですなー

基地に結界があると分かったのでしたら早く休憩を取るようです・・・
おなかへったー^^

「ハイ！マコト、レーションあるぞ！マックからもらった^^」

「ゲッ！・・・まあ食べないよりはましかー・・・いただきますジ
ョンさん」

「ジョンでいい・・・みんなにも階級の事や敬語は控えるように行
ったしな^^」

「でもジョンさんがリーダーなんですよ？」

「まあな・・・本音はカミヤにやって貰いたいんだが・・・」

「へ？兄貴？あれにやらせたらジョンさんが苦労しますよ^^」

「まあな・・・これからもよろしくな！マコト^^」

「はい^^」

さて、方向は決まったね・・・あとは親父さんを抑えながらどーや
つてくか・・・だね・・・

ふー食った食った^^・・・まーあいかわらずまずかったけどねーw
ペンタゴンのレーション部門ってのがあったら蹴っ飛ばしてやりた
いと思うねーマジで・・・

お？レティが荷物持ってこっちに向かって来ますね・・・

「マコトこれ・・・さっき自分の部屋へ行って取ってきたの^^こ
れはカミヤの分ね」

「あーあたしのデルちゃん（レティとおそろの拳銃ね^^）とロコ

コちゃん（ライフルね^^）！
おー！みつちゃん（刀ね^^）も！・・・ありがとー横田に持って
きてたんだー^^」

この3点セットがあれば鬼に金棒だね！特にみつちゃんはうれしー！

あ、みつちゃんはね　うちに代々伝わってる平安時代の太刀でね
大典太光代って言う

とってもすごい国宝の刀の影打ちなんだって^^あたしが使うので
刃渡りは短か目の65cmくらい？

太刀と小太刀あいだくらいの長さなんだ^^よく切れるよーみつち
ゃんは^^

江戸時代に罪人の死体で試し切りしたら2人の胴体を真つ二つにし
て3人目の背骨で

止まったってくらいに良く切れるらしいよ・・・ま、親父様の刀は
もつとすごいらしいけどね・・・

んーなんだっけ？そうそう名は童子切って言ったかな？その影打ち
なんだってさ親父さんのも^^

なんでも平安の都で悪いことしてた酒吞童子って妖怪を切り裂いた
刀みたいだよ

刃渡りは少くし長めの80cmくらいだね^^

これも罪人の死体で試し切りしたらしいんだけど　なんと！重ねた
6人ぜんぶ真つ二つで

さらに！土台まで切っちゃったらしいんだよね・・・
ある意味、親父さまにはあってるのかなw・・・

親父さんもレティから太刀を受け取ってご満悦みたい^^

(影打ちとは 簡単に纏めちゃうと目的の名刀を作る段階での本試作品みたいな感じですよ)

「よしみんな！まずは我々の生存確保とライフラインの確認だ・
・今日のところは
2班に分けて行動する・・・宿泊場所は車両倉庫を中心としたエリアだ」

ジョンさんがみんなに説明してます・・・みんなは黙って聞いてますねー・・・ん？

親父さまだけなんかワクワクしてませんか？・・・いやな予感がw・
・

「レティ、すまんがマックとファスト、ロツテとカミヤ親子をつれて16号周辺の商店を確認、
使えそうな物資をリストアップしてほしい
それが済んだら南方面へ砂漠のジャングル側を進んで偵察を頼む」

「どのあたりまで行きますか？」

「そうだな・・・できれば八王子か相模原あたりまで頼みたいんだが・・・無理はするなよ」

「はい、期間は2〜3日くらいでいいですか？それと武器使用の制

限は？」

「オールハンドだ 危険があればかまわない・・・われわれの生存が全てにおいて優先だ^^」

「では M2とMk19が装備されたHMMWV2台で行きます」

「おう！テイクケア・・・気をつけてな^^」

あたしたちは2台にわかれて出発！

残りの人たちは電源の確保と基地内の各物資を集めたり 物品リストを作ったりするそうです

んで、1台目はレティの運転であたしと親父さん^^

2代目はファスト君運転でマックさんとロツテさん・・・

ロツテさんってお医者様なんだよー！免疫学をやってるんだってさ

ーすごいねー！

基地を出る前にロツテさんから錠剤をみんな飲まされたんだけど・・・

なんだっけ？がんまぐるばりん？って名前のお薬で、なんでも微生物とかなんかに対して

抵抗力を養う？って感じのお薬なんだってさー・・・めっちゃニガかったけどw・・・

で、16号沿いのお店をちえつく！マックさんと親父さんは車の屋根の上で見張りです！

リストを作りながら南へ向かいます・・・あ、このTシャツいいな
ー・・・よし、貰つとこう！

ほぼ商店街の 物資リスト作り（ウインドショッピング^^）は終
わり！

コンビニから飲食物もいただいて車に載せます（やたー！かつぱえ

せんだー^^）

ありゃ、マックさん達はお酒もはこんでるぞ？・・・いいのか？

さーで砂漠だぞ！あたしたちはジャングル沿い50m位のところを
平行に進んで行きます

運転手以外は屋根の上からテッポこまえてしつかり偵察^^

そろそろ多摩川くらいかな？・・・でも川なんかまつたく見えませ
んがw・・・

「レティ！止まれ！」

お？親父さん・・・なんか見つけたのかな？

「カミヤ！どうした？なにかあったのか？」

「レティ・・・あそこで何かが動いてたんだ」

親父さんが車から降りてジャングルの1点をピシッと指さしてま
すがw・・・なにかいるの？

おお！レティとマツクさんさすが軍人！すぐさまM2とMk19をジャングルに向けてますね
おくれてロツテさんとファスト君も車のボンネットからミニミをかまえてます

あたしがM655（ロココ）を構えながら親父さんに近づき・・・

「兄貴、何かいたの？」

「わからん・・・ジャングルが5m位『もぞつ』て感じて動いたんだ・・・

俺が中に入ってあそこを見てくる・・・みんなはここで待ってる・・・
・真琴は一緒に来い」

そろりそろりと親父さまはM16A2をかまえてジャングルに・・・
あたしもロココをかまえてその右斜め後ろ5mから親父さんをフォロ―しながらついてきます
あ、親父さん太刀持ってきてる！あたしも持ってくればよかったかな？

「真琴はここで待て・・・俺が確認してくる」

「うん・・・兄貴、絶対もどってね・・・」

「大丈夫だ 逝ってくる^^」

バカ兄貴！それ字が違うから！フラグ立つから！・・・でも無事でいて お願いだから・・・

親父さまが居なくなったら・・・あたし・・・一人ぼっちw・・・
ジャングルの入り口でそんなことを考えていたら・・・

B A B A B A ! B A B A B A !

！いきなり3点バーストの銃声！

あたしはゆっくりさがりながらココロちゃんのセレクターをフルオ
ートへ・・・

ジャングルの入り口あたりを警戒しながら見ていると・・・

・・・@!・・・は！な、なんじゃありゃ？

親父さんが走ってこつちに向かつて来ます！・・・後ろに・・・後
ろにでかいの引き連れて！

ずしーんずしーん！ってこれ足音ですか!？

「おー真琴のびっくり目を見るのは久しぶりだな〜^^」

何のんきな事 言ってるんですか!・・・そして あ、あれはなん
なんですか！

「おい真琴、固まってないで逃げたほうがいいぞ？あははは^^」

あー！なんで落ち着いてじゃべれるんですか！！・・・そして何んで笑ってるんですか！！
ええ、ええ、言われなくても逃げますよ！！・・・逃げますとも！
まったく！このひとは！

「キヤー！兄貴のバカやるー！」

「マコト！早くこっちに逃げて！」

レティ！？・・・言われなくても逃げますよあたしゃ・・・うん

兄貴も何をつれてきてるんだか！限度があるでしょ限度つてもんが！
確かに神様はジャングルには動物がいるって言ってたけど！！・・・
確かに動物だけど！

「もう！ほんつとつにマジで！ 兄貴のバカやるうー！！・・・キヤ
ー！！！！！」

つて冒頭につながるわけなんですが！！・・・でっかい・・・ティラ
ノサウルスみたいなのが・・・
追っかけてくるんです！！・・・めっちゃよだれ垂らしながら！

もう！親父様の無事を心配してたあたしの穢れ無き乙女心を返せー
ー！！！！！！

親父さんてばこんなんばつかし！

ジヨンさんレティー！もうあいつをなんとかして！

ほんとに！お願い！・・・

・・・あーw・・・あたしってば親父様の世話係りだったんだw・・・

・・・orz

5話 涙のジャングル あんなのいるって聞いてないよw(後書き)

真琴「おつかれさまです！」

レティ「ふふ・・・うふふふふふ！」

ジョン「とりあえずレティ・・・よかったな？」

まこと「だねー^^レティがはじめてだよね？サイドストーリーで
の出番^^」

レティ「うふふふふふふふふふふふふふふふふ ーだよ^^」

真琴「ほんつとにうれしそうだねレティは・・・」

ジョン「俺はまだ無いんだが・・・」

真琴「ジョンさんにもそのうち出番くるよ^^」

カミヤ「俺もまだ無いなw」

真、レ、ジ、「おまいには無い！」

真琴「えー作者が『ハンバーガーなのだー！』とか言いながら車で
出かけちゃったので

あたしが最後の後書やりますね^^」

みなさん！読んで下さってありがとうございます^^作者代理の真
琴です^^

あたしの武器の「ろっこ」ちゃんの説明しますねー

名称はM655ですけど この子はM16A1のカスタムなんです
^^

ですから本来はM16A1ショートバレルなんです

ハンドガード部分だけがXM177みたいに短いです

面倒なのでM655って書いてます^^

M16A2だとフルオートが無いのでM16A1のフレームを使っています

んで、6、5、5なので、ロ、コ、コって読んでます！

M16シリーズはアメリカ軍の正式ライフルなのです^^

ちなみに今現在海兵隊ではM16A4やM4A1はまだ少なくて

メインはまだM16A2らしいです^^

次回は砂漠でのお話です！第一村人発見？になるのかな？作者しだ
いかな？

それではみなさま！また会いましょう^^

バイバーイ！

テヘツ^^ノ

6話 涙の盗賊さん 親父さん！そのドヤ顔をなんとかしろw！（前書き）

真琴「おはこんばんちはー！どうもです！」

レテイ「どーもー^^」

ジヨン「おーっす！」

カミヤ「ここの義春への変更はあきらめんぞ！」

真琴「ないない^^」

レテイ「そーね^^ないわね^^」

ジヨン「んで、俺の出番はまだないのかな？」

真琴「んーどうなんでしょ？」

レテイ「とりあえず私はあるみたいよん^^」

カミヤ「だからここは義春だつてw！」

真、レ、ジ「っっしっこい！」「」「」

真琴「んじゃ第6話はじまるよーん！」

6話 涙の盗賊さん 親父さん！そのドヤ顔をなんとかしろW！

ズシーン！バキバキ！ズシーン！メキメキ！・・・
ジャングルをなぎ倒しながらめっちゃおっきいゴジラトカゲ？君が
こっちへ向かってくる〜！

親父さんと走って逃げてますが・・・逃げ・・・ん？・・・ありゃ？
親父さんとあたしってば 駆け足めっちゃ速いじゃん！・・・
これが神様が言ってたやつかー・・・助かるね〜^^

おう！親父さんライフルをあたしに放り投げて・・・って熱っ！
んだから！撃ったばかりは銃身とか熱いんだってば！

「真琴、みんなの所へ逃げ！・・・みんな！手はだすなよ！いいな
！」

「兄貴！大丈夫なの！？・・・」

親父さんは途中で振り返り 腰の太刀をすらりと抜き放つ・・・両
手でかまえて

あれが出てくるあたりのジャングルをしっかりと見据えて・・・

あたしはレティのところへ急いで戻り 車にライフルを放り込み

みつちゃんをつかんで腰にさす

親父さんの後ろ20m位まで近づいて援護の構えをとる

よし！落ち着けよあたし・・・絶対生みんなと生きて帰るんだ！うん！

「レティ！マックさん！援護おねがい！」

「OK！」

ん？後ろでみんながなんかしゃべってるな？・・・いや！今は前方に集中！

S i d eレティ

カミヤがマコトをつれてジャングルに向かってる・・・まあ あの2人なら大丈夫でしょ・・・

あれ以上のコンビは無いモンね・・・あら？ジャングルの入り口にマコトを残した？・・・

マコトを残す？・・・あれ？結構危険なの？・・・私はさらに気を引き締めた

「マック！もしかしたらNO.10かも！」

「ナンバーテンかよ・・・OK、了解！」（No.10とは最悪って意味のスラングです）

「レテイさん・・・あの親子ほんとにへーきなんスかね？」

「ファスト・・・基地でも言ったけど大丈夫よ　ま、見ててごらんなさい^^」

「ファスト！マコトは俺の剣道の先生だぞ！で、俺はまだマコトに1回も勝った事が無いんだぞ？」

・・・それにカミヤはマコトの剣や武術の師匠でもあるんだ^^」

「まじっスか@@！マツクさん！」

B A B A B A ! B A B A B A !

ライフルの銃声！

みんなに再度注意をうながさないと！

軍医のロツテは大丈夫かな？射撃経験はあるはずだけど・・・

「みんな！くるよ！ロツテ！セーフティは外れてるよね！・・・構えて！」

「これでも海兵隊員ですよ？レテイさん^^」

OK、よし、みんな落ち着いてるわね・・・
あら？カミヤが走ってくる・・・マコトも遅れて来るわね・・・

ズシーン！バキバキ！ズシーン！メキメキ！・・・

なに！いったい何が来るって言うの！

え！あ、あれって！・・・恐竜！？

「まだ撃つな！2人の安全が先！目標がジャングルから出て射界が
開けるまで待て！」

「キヤー！兄貴のバカやろー！」

マコトが叫んでる！

「マコト！早くこっちに逃げて！」

「もう！ほんつとうにマジで！ 兄貴のバカやろー！・・・キヤ
ー！・・・！」

うん、その気持ちは痛いほど解るわね・・・

え？カミヤ！？マコトにライフルを渡した？なんで？・・・立ち止
まって振り返ってる！

「真琴、みんなの所へ逃げ！．．．みんな！手はだすなよ！いいな
！」

「兄貴！大丈夫なの！？．．．」

カミヤは途中で振り返り 腰からカタナをすらりと抜き放ち．．．
両手でかまえて．．．

ジャングルをしっかりと見据えている！

カミヤ．．．1人でやる気なの？．．．無茶よ！危険だわ！

マコトも心配そうにしているわよ！

マコトは急いで戻り 車にライフルを放り込んで 自分のカタナを
つかんで腰にさす．．．
マコトもやる気なんだ！

「レティ！マックさん！援護おねがい！」

「OK！」

そう言って駆け出すマコトの背中を見ながら
私は返事をしてM2重機関銃の銃握をもう一度しっかりと握りしめ
た．．．

S i d e 真琴

さあ、そろそろ出てきますかねw・・・
ズシーン！バキバキ！ズシーン！メキメキ！・・・来た！
おうw！身長10m以上はあるんじゃないかい？

恐竜さんに親父さんがジャンプして・・・って！飛びすぎ！それじゃ飛び越えちゃうって！

あゝあゝ 案の定 頭を飛び越えて 尾っぽの方までいつちやったよw・・・

あらやつちまったって顔でニヤケるな！バカ親父！

wwww・・・緊張感がw・・・緊迫感がw・・・あ！

「兄貴！横！危ない！（ドカッ！）」

すっ飛んでく親父さま・・・横殴りの尻尾をもろにくらった！？・・・くっ！
こいつ！ゆるさん！

あたしは居合いの構えでジャンプ！そのまま恐竜の首の横を通りすがりに
スパッ！と一閃！

レテイの号令で静かなったけど・・・後ろを見ると・・・うげ！
5〜6匹？（ミンチになってるのでわからん^^）ほどの小さい恐
竜が・・・

小さいって言うても2m弱位はあるか？・・・これって・・・ラブ
トルっばい？

は！そうだよ・・・親父さんは！・・・倒れてる親父さんを抱き起
こそうとして・・・
ん？・・・ん？こいつ　もしかして笑いをこらえてる？

「あはは！真琴^^・・・あまりにも身体能力が上がってるんであ
の恐竜から1発くらってみて
身体が大丈夫なのか試したんだ^^ちつと痛いだけだも「ばかー！
（パカーン！）」「ぐへっ！」

「うw・・・そのハリセンの方が　い、痛いw・・・」

「し、心配したんだぞ！このバカ！・・・も、もう　おまいの心配
なんかしてやるもんか！」

「あなたたちってどこでも親子漫才ができるのね・・・うらやまし
いわ^^」

「うw・・・れていっってばw・・・」

レティが・・・あたし達を見て笑ってるw
でも・・・親父さんを心配したあたしってば偉いよね？・・・
ね？・・・orz

さて、気を取り直してこの恐竜さんたちの実況見分ですな・・・

おお？ファスト君では周りのミンチを見てびびりながらこっちにきますねー

かわいいのうー・・・んであたしのそばにきて・・・

「お、俺の師匠になってほしいっス！マコトさんの戦いを見てあなたの戦い方にほれましたっス！」

は？・・・なんですと？・・・師匠？だれが？・・・あたし！？

「うん、無理！」

「な、なんでですかw」

「親父様の面倒見ながら教えるのは無理！・・・（ん？さてよピコーン！^^）・・・

ファストくん「ファストでいいっス！」・・・んじゃファスト、あ

たしもねある人の弟子なの」

「だれっス！？もしかしてお父様っスか？」

「そうそう^^だから弟子入りなら親父さんに言っつてね^^」

「はいっス！ではマコトさんはアネさんっスね^^俺がマコトさんの次の弟子っスから！」

「姉さん・・・(orz)」

まあ、でも親父さんも若い弟子がそばにうるちよろしてたら悪戯もへるでしょ・・・

二ヒヒ・・・あたしっつてば賢い？^^

それからみんなで恐竜の死体の傍へ来て・・・親父さんが遭遇した状況を・・・

「ジャングルに入つて50m位か？そこでこのデカイのに逢つたんだ・・・こいつの周りに

あの小さいやつが7〜8匹いて喧嘩してて・・・んで小さいやつが俺に気がついたみたいで

2匹ほど飛び掛つてきたもんだからライフルで仕留めた・・・のはいいんだけど・・・

銃声であのでっかいのもこっちに気がついて・・・

後は走つてジャングルを飛び出したって所か？そっから先はみんな

も見ての通りだね・・・」

ふむ・・・あれ？親父さん6発しか撃ってないよね？・・・6発で2匹倒したの？

でもM16A2の5.56mmじゃ・・・威力無いよね？

やっぱりこの世界ではあたし達の武器は攻撃力が高いのかな？・・・どーなんだろ？

よし、みんなに聞いてみよう

「ねえ、レティ あつちでミンチになってるのってさ 機関銃とかの破壊力が大きすぎない？」

「そうね・・・私もそう思ったわ・・・マツクは？」

「うむ、俺の撃った榴弾は2m位はずれていたんだが・・・爆風で首がちぎれてたな・・・」

ロツテさんとファストも『うんうん』と頷いてますな

「やっぱり神様が言ってた通りなのね・・・マコトのカタナなんて光ってたしね！」

「へ？みつちゃん光ってたの!？」

「うん・・・マコトはたぶん 無意識に強化の魔法をかけてたんじゃないかな・・・」

「そうなのか・・・そりゃよく切れたはずだw」

魔法ってすごいね〜・・・はやくちゃんと覚えたいな〜

それからジョンに無線で恐竜との遭遇をレティが報告して出発！

ファストの願いで親父さんが後ろの車に行きました・・・んで口ツテさんがこっちへ^^

あたしの作戦はうまく行ってるね^^

さらに進んで距離的には八王子の市街地を越えたくらいかな・・・は！・・・あうっ・・・い、いかん！やばい！・・・もれる・・・

「ちょっと、レティ・・・止まってくれるかな？・・・お花摘みしたい！」

「OK^^ちよつどいいのでこの辺でキャンプしましょうか^^」

「ありがとー^^ちよつと丘陵の物陰まで行ってくる〜」

ひよいとロココをつかんで車を降りて丘陵の向こう側まで・・・しゃがんでつと・・・ふ〜すつきり！・・・テッシュはポツケだったね^^

・・・よし終了〜^^・・・ん？・・・お！・・・あれって！・・・たぶんへリコプターじゃね？

あたしはレティのところまでもどってハンビーのエンジンをかけて

出発準備！

「レティー！ちょっと来てー！」

「なに？どうしたの？エンジンなんかかけて」

「あつちにヘリが不時着してるみたいなの！見に行こう！」

「え？ほんとうなの？」

「うん！みんな行くよ！」

レティーをルーフの銃座に上げてロツテも一緒に乗ってもらいます
あ、あたし運転できるんですよ？去年免許は取ってます^^
後ろから親父さんたちの車もついてきます

4〜5Km走ってヘリの側へ車をつけて・・・おお！ロツテさん！
はや！さすがお医者さん^^
ピュ〜ッって走っていつちゃった^^

ヘリは無事みたいだねー・・・うん、どこも痛んでないや^^
コックピットに2人いるみたいけど・・・ロツテさん・・・気絶
してるだけ？よかった！

にしても・・・でっかいヘリだな・・・輸送機みたい・・・

お！パイロットさんたち気がついたみたい
ふむ・・・ロツテさんの話だと離陸して高度を取ったら直ぐに周り
の景観がガラッと変わって

意識が朦朧となつてきてとりあえず不時着したらしいんだけどそこまでしか覚えてないらしいよ

名前はパイロットがヒューイ少尉さんで コパイ件整備士がベル軍曹さんだつて^^

マックさんがジョンさんに連絡したら飛べるようなら横田基地まで来て欲しいつてさ

2人に詳しい状況を説明して協力してもらいんだつて^^

ベルさんに聞いたんだけどこのへりは『CH-53Kスーパースタリオン』つて言うんだつて^^

西側最大のヘリコプタなんだつて！すごいね

でもまだ試作機で試験飛行中のものらしいよ なんでも搭載能力がUPして今まで積みなかつた

ハンビーが積めるようになって さらに武装も機関銃が1丁から2丁に増えたらしいよ

元気になつたヒューイさんとベルさんは早速横田基地に戻るそうです よかつたね^^

砂漠でへりを駐車？駐機だね・・・させるのは機械に良くないそうです

バイバーイ！またあおうね^^

さてさて、あたしたちは夕食とお休みタイム！

あ、マックさんレーションじゃないよーそれいらなーい^^！コンビに弁当があるんだよ^^

カップスープもありますよ^^

ちなみにかっぱ びせんはあたしのじゃー！・・・ええ、あげませ

んとも！

簡易テントで4人はお休み・・・2人は見張りです・・・見張りは交代ですよ？もちろんね^^

最初はあたしと親父さん・・・あたしは東側担当で親父さんは西側です

ここは砂漠の真ん中へんなので森やジャングルまでそれぞれ1km位はなれてます

ルーフが上がって照明弾をとなりに置いて・・・コーヒを・・・うん、おいしい！

親父さんにかやらかすかって心配してたんだけどさすがに疲れてるみんなを考えて

おとなしく見張りをやっていますね・・・いつもこーなら良いのにね・・・

ん？親父さん？・・・みんなの期待をはずしてすいません？・・・なに言ってるんだかw・・・

星がきれいだな・・・あんな星しらないや・・・やっぱり違う世界なんだな・・・

それに魔法か・・・無意識じゃなくてちゃんと使えるように覚えたいなあ・・・

魔法の先生でもいればいいんだけどねw・・・な～んて考えてたら・・・

さて交代ですね^^3時間交代なのであたしは6時間は寝れますね
^^

お休みなさい！まる^^

「……お・な……」

「まじ……おき・さ……」

「まじとー起きなさい」

「ふえ〜？ ねてい？ ……おはよ〜 ……ふあ〜 W ……」

ぼー……ぼー……ぼー……

……あ〜〜 W まだ……ねむいぞ？ ……（あたしゃ朝がよわいんです W ……）

「ほんと^^マロトは寝起きが弱点ね^^」

「うん……ねおきはらめ〜 W ……」

「アネさんは寝ぼすつけっスね^^」

ハンカチを濡らして……顔をふいてっ……おー目が覚めたー^^

ファスト……うるさいよ！

コーンフレークをミルクでかきこんでっ……装備確認……よし！ OK だ^^

本日の予定は……お昼ごろまで南へ進んでまたこの辺にもどってキャンプするの

戻るときは東の森林側をもどるのね……よし、行きますか！

今日は順調に進みます・・・10時ころに大きな川にぶつかります。
・・・500mはありますかね？
場所的には相原か橋本あたりですかね？

「HMMWVじゃ無理ね・・・渡るならLAV-25かAAV7が
いるわね・・・」

「んじゃ戻る？レティ」

「そうね・・・もし先に進むんなら次回は車両の乗換えが必要ね。
・ジョンに報告するわ」

レティは無線でジョンとおしゃべり・・・あー暑いから泳ぎたいな
あ・・・

でも何がいるか分からないモンね・・・この川に・・・
あ！親父さん飛び込みやがった！・・・いいな・・・水着もって
くればよかったw

あーきもちよさそう・・・ファストのやろう！あいつも飛び込んだ
！マックさんもかい！
ふん！あたしやもう知らん！え せんのやけぐいだー！

それから早めのお昼ご飯を食べて・・・だから！マックさん！レ
ジョンはいらないうて！

帰り道は東の森の方によせてっと・・・うん、運転たのしいね^^

もう直ぐキャンプ予定地だね・・・帰りも平和だったねー・・・ん？なにか聞こえた？

「キヤー！たすけてー！」

親父さん・・・銃座の上からこっち見てテンプレ！ってw・・・そのドヤ顔やめれ！
バックミラーにうつって見えてるんだからね！

あたしは悲鳴の方向へハンドルをきります・・・よし、2号車もついてきてる！

「レティ！悲鳴の方へいくよ！射撃用意して！ロツテさんも後ろの銃座にあがって！」

「はい！マコトさん」

森へ少し入ると道がありました・・・お！見えたぞ！・・・馬車が襲われてる！？

2台のハンビーで近づいて・・・30m位手前で横向きに急停車！

ありゃ？襲撃現場のみなさんはこっちを見て驚いて固まっていますなやっぱ！この世界じゃ車は珍しいよね・・・

あたしが降りると親父さんもバツって感じで降りてきます・・・あ

ら？もうやる気満々なのね・・・

親父さん1人だけ恐竜倒せなかったせいでストレスあるのかな？
みんなはルーフの銃座で火器をかまえてます

女性ばつかり？商人みたいな人？と冒険者？達を襲ってるのは盗賊
？つばいヒゲ面の男達・・・

いやらしい顔をしてんな〜この盗賊たちw・・・
親父さんもテンプレ〜ってなドヤったいやらしい顔してるしw・・・
・まじめにやれ！

「んで真琴・・・どっちをやっつける？」

「そりゃ決まってるでしょ？男の方！女性を襲う男なんかけちよん
けちよんにしちやる！」

がばっ！

「をい！こんな所で抱きつくな！ばか兄貴！TPOを考えろ！TP
Oを！」

「だってw・・・男の方に行くなんてお父さんしんp」「違う！（パ
シーン！）」「グハッ！」

「んだから！男の方をやっつけにいくの！まったく！」

「だから、そのハリセンは痛いんだってb」「ギロツ！」「すんません
でした！」

親父さんはスライング土下座でぺこぺこしてます

ほんとに！この親父は！緊迫感の欠片も無いんだから！・・・ん？
・・・ありや？

あれ？・・・前も後ろも・・・味方も盗賊さんも・・・みくんなあ
きれてる？

だよーこれじゃ正義の味方じゃなくてただの漫才師じゃんw・・・

あゝまた凹んできましたよw・・・

えーと・・・この状況・・・どうしようかな？・・・この沈黙は結
構つらいぞ？

でも、なんで・・・いつもいつもーなるのー！・・・orz

6話 涙の盗賊さん 親父さん！そのドヤ顔をなんとかしろw！（後書き）

真琴「お疲れさまー^^」

レティ「おつかれー^^」

ジョン「出番が無い・・・こないだまでのレティの気持ちが変わったよw・・・」

レティ「でしょー^^ふふん！^^」

ジョン「取り合えず作者さま・・・出番ください・・・」

レティ「ファストくんが変わりにがんばるらしいわよ？」

ジョン「なんですと！」

カミヤ「ところで真琴・・・キャンプしてゆうべは着替えたのか？」

真琴「うw・・・着替え持ってきてないもん！」

カミヤ「そうか・・・まあ、下着は下だけだから・・・上はいらぬいモンな」

真琴「・・・どーゆー意味かな^^」

カミヤ「いや、ぺたんこのその大きさはいらんだろ？ぶら^^」

真琴「・・・ロココちゃん出番だよ^^」

ジョン「レティまだぞ？逃げようか？」

レティ「そうね！いそいで逃げるわよジョン！」

真琴「コキユートスで寝そべって来い！このバカ兄貴！」

どうも^^作者のM2-1015です^^

今回やと恐竜等が登場できました

第一村人？と盗賊もちよこつと出せました

あらすじに沿って書いているのですがこの主人公たちって

ほんとにかつてに動いてしまつて書くのが大変なんです^^
しばらくは1〜2日のペースで投稿できると思います

今回は 第一村人と冒険者のお話になりますかね・・・
ジョンさんはその次かな？^^

それでは皆さんの笑顔がもっと増えますように^^
では！^^ノ

7話 涙のキャンプ あたしだってある程度はあるよね？何って胸ですよw(前

真琴「まいどです^^」

レテイ「うふふふ・・・どうもです^^」

カミヤ「まだこのままなのか？」

ジョン「このままじゃね？・・・っつか出番くれ！」

真琴「次回はあるんじゃないかな・・・出番が」

ジョン「www・・・」

カミヤ「俺だつて少ないぜ？セリフとかさ」

ジョン「あるだけいいじゃん！」

レテイ「わたしは順調になつてきたわね^^」

ジョン「基地に残らなきゃよかったw・・・」

真琴「今回はどんなお話なんだろうね？^^」

カミヤ「まあ・・・今回、真琴は落ち着いていーかな？」

真琴「ん？なにかあるの？」

カ、レ、ジ「「「「「「「「「「」」」」」」」」」」」」

真琴「ん！？」

レテイ「さ、マロトはじめましようね^^」

真琴「んじゃ始めます・・・ん？このサブタイトルって？・・・」

レテイ「はーやばい！第7話のはじまりです！」

7話 涙のキャンプ あたしだってある程度はあるよね？何って胸ですよw

S i d e ? ? ?

私はヒーノ村の村長であるお父様より 今年の税を王都であるシャ
マールの町へお届けすると言っ

とても大事な命を言い遣いました

私はこの大役を誇りに思っつて昨日村を出たのです！

ああ、それが・・・なんと言う事でしょう！

2時間ほど前より盗賊に襲われ 命からがらここまで馬車で走りま
したが

とうとう馬が疲れ果てて倒れてしまったのです・・・

倒れた馬に馬車为载体上げ馬車の車軸も壊れてしまいました

これでは馬車はもう使えません！

幸いに馬が疲れていてスピードが無かったので馬車は横転せずに済
みましたが・・・

「キヤー！たすけてー！」

私は怖くなり叫んでしまいました

村でギルドから雇った2名の冒険者の方々が直ぐに馬車から飛び降

りて剣をすつと構えます
護衛の村人3人も剣を抜き 私を守るように壊れた馬車の前に立ち
ます

盗賊たちがやって来ました・・・5〜60人位はいるでしょう・・・
絶対絶命です！

！弓矢が飛んできました！私は御者台のかけに飛び込みますが・・・
頭をあげると・・・

冒険者の方々は剣で矢を払いのけていますが傷を受けている様です・・・
下を見ると・・・

ああ・・・護衛の3人が頭や胸に何本もの矢をうけて・・・血だら
けに・・・

あれでは助からないでしょう・・・私は絶望感で一杯になりました・・・
すると・・・

あら？土煙が・・・盗賊たちの後ろからすごいスピードで馬車？が
走ってきています

50m位手前で2台の馬車が急に止まります・・・え！馬車じゃな
い！・・・馬がいません！

あんな乗り物を見たことがありません！

私達は盗賊も含め見たことも無い乗り物に対して固まってしまっ
ています

それぞれの天蓋に人が1人づつ・・・あ、いつの間にか2人づつに
なっています！

それぞれが なにか鉄の棒？複雑な形の棒を盗賊達に向けています

すると扉が開いて腰にレイピア？をさした男の子？が降りてきまし

た14〜15歳位でしょうか？

私と同じ歳位の男の子は濃い茶色の髪に限りなく黒い茶色の目をしています！

初めて見るふしぎな色です・・・でも・・・かっこいい！

違う馬車？から騎士様？も出てきました

黒い髪！黒い目！私はそんな人間なんて見るのははじめてです！

騎士様もレイピアを持っています

スラリと抜き放ち・・・は！レイピアではない！？あの様な剣ははじめて見ます

助けて頂けるのかしら？・・・

あら？・・・じつと見ていると男の子と騎士様は何かの寸劇？をはじめています？・・・

貴方達は旅をしている芸人さんなのですか？・・・

まわりはみなあきれ返っています・・・

えー、あのー、私達を・・・助けて頂けるんですね？・・・？？？

このままではまずい・・・馬が限界を超してる・・・
後ろを振り返る・・・やつらはあきらめてはいない
たずなを引き締め・・・いかん！・・・馬が倒れた！・・・バキッ
！ガガガガガ・・・ボキッ！
・・・馬を巻き込んで車軸が折れた！？・・・ガッ！ズザザザザ
ザー！
馬車がスタックした！

「キヤー！たすけてー！」

村長の娘が悲鳴をあげる・・・クッ・・・戦うしかないか・・・

私は馬車から飛び降りる・・・相棒も私に降りてくる
私達は盗賊に剣を抜いて構えた
村から来た護衛も娘と馬車を守るようにして剣を抜く・・・

は！矢が！私と相棒は剣で矢を振り払って・・・うつ！1！2本掠
つたか？

護衛の3人は・・・ダメか・・・だが！ただでは死なんぞ！

きつ！つと気合を入れた目で20mほど先の盗賊達をにらむ・・・
む？

その後ろから土ぼこりをあげて高速で馬車がせまる・・・援軍か！？

馬車は盗賊から30mほどの所で止まり・・・なに！なんだあれは
！馬車なのか！？

う、馬を繋いでない！・・・それで走れるのか！？

それぞれの屋根に人が1人づつ・・・あ、いつの間にか2人づつに！

なんだ？あれは！なにか鉄の棒？の様な複雑な形の棒を盗賊達に向けてる？武器なのか？

すると扉が開いて腰にレイピア？をさした14〜15歳位男の子？が降りてきた

年下の少年は濃い茶色の髪に限りなく黒い茶色の目をしてる！

あんな色の目は初めてだぞ・・・

違う馬車？から騎士も出てきた・・・いや、剣士か？

黒い髪！黒い目！私はそんな人間なんて初めてみたぞ！

細めの腰の剣・・・この騎士もレイピア使いなのか？

スラリと剣を抜き放ち・・・は！レイピアではない！？あの様な剣は見たことが無い！

こちらに助勢してくれるのか？

え？・・・しばらく見ていると・・・コントなのか？少年と剣士が何かの寸劇？を始めたな？

旅の芸人一座なのか・・・彼らは？

まわりはみなあきれ返っているな・・・私も気が抜けたぞ？

えー、あー、われわれを・・・助けに来てくれたんだよな？・・・
???

S i d e 盗賊

やっと追い詰めてきたぞ！・・・俺は盗賊団のお頭として命令を出す

「おまえら！もうすぐやつらの馬がつぶれる！馬車が止まったら弓で矢を飛ばせ！

護衛は殺すんだ！女は捕まえろ！・・・いいな！」

よし！馬がこけた！いい具合に馬車とからまったな

お！馬車も壊れたぞ・・・

「今だ！矢を飛ばせー！」

馬車の側にいた3人は殺ったな・・・後はあの女冒険者か・・・くつくつくつ！

ぶををーん！

なんだ！あの音は！・・・ん？後ろか！・・・馬車が2台？・・・土ぼこりで良く見えん！

馬車は俺達から30mほどの所で止まり・・・ありゃいったい何なんだ！？馬車なのか！？

馬もいないで走ってきたのか！？

屋根に人が1人づつ・・・2人づつにふえたぞ！

なんだ？あれは？なにか鉄の様な複雑な形の棒をこちらに向けてるな・・・武器なのか？

すると扉が開いて腰にレイピア？をさしたガキが降りてきた

ガキは濃い茶色の髪に限りなく黒い茶色の目をしてる！

あんな色の目は初めてだぞ・・・

違う馬車？から男も出てきた・・・剣士か？

黒い髪！黒い目！俺はそんな人間なんて初めてみたぞ！

剣が細めだな・・・レイピア使いなのか？

男が剣を抜き・・・は！レイピアじゃない！？あんな剣は見たことが無いぞ！

お？・・・なんだなんだ？ガキと剣士が何かの寸劇？を始めたぞ？

・

流しの芸人一座なのか・・・あいつらは？

部下どもはあきれ返って固まってるな・・・あいつらは何がやりた
いんだ？

あー、んー、俺達は攻撃中だったよな？・・・もうやっていいのか
？・・・？？？

「え〜ん！親父さんのせいで白い目で見られてるよ〜w・・・」

「気のせいだ！」

「ぜ、絶対ちがうよ〜」

「まあ、それは置いといて・・・真琴！やるぞ！」

「置いとくな！・・・でも、うん・・・やりますか！」

あたしもみっちゃんを抜いてビシッと盗賊にむけて構える！
盗賊に向けて言い放つ！

「おっさん！強盗殺人の現行犯だぞ！神妙にすれば殺さないでおく！大人しく捕まれ！」

「なにをほざいてるガキが！この人数で俺達とやり合っつてか！片腹痛いわ！」

「あくまでも引かないつもりなんだね！」

「坊主！男のガキは家でおっぱいでも飲んでろ！」

「・・・ニッコツ^^」

(レティ：あちゃー・・・うん、盗賊・・・死んだわね・・・アーメン)

「うっう！真琴をバカにするとは！ゆるせん！」

あ、親父さん突っ込んで行っちゃった・・・ふう・・・しゃーないW行きますか^^

「レティ！弓矢持つてるのと魔術使いそうなのを撃っちゃって！」

「了解よ！さあ、みんな！ロックンロールよ！」

あたしは最短距離を切り開きながら冒険者さんたちの方へ助太刀に向かいます

親父さんは・・・うん、手当たりしだい？・・・好きにやってね^^

DODODO！BABABABAN！

おーレティ達もがんばってるね！・・・馬車に近づきながら

「マコト・カミヤ 助太刀します！」

「すまん！・・・あーそのなんだ、コンとあの気の引き方は・・・うまかったぞ？」

「なぜに疑問系なの！それに言い直したよね！？」

「いや！すまん！助かったのは事実だ！」

盗賊に斬り付けながら冒険者さんとはなします

はーはー・・・ほぼ かたずいたかな？

は！親父さんまった！そのボスつぱいのはあたしがやるから！

「兄貴！そいつはあたしがやる！」

「・・・真琴をコケにしたんだから俺がやりたいんだが・・・まあ
いつか？ほれいいぞ？」

親父さんに代わってボスつぱいのの相手をします

「坊主！俺に勝つつもりかい！・・・返り討ちにしてくれるわ！」

左右にみつちゃんを振り血を飛ばして鞘に収めます・・・軽く深呼吸
吸をして・・・

右手で柄を握って・・・左手の親指でコイクチを・・・そして相手
に向かって走って

「はっ！」

左胸に一閃！

あたし得意の居合い抜きでフィニッシュ！^^

盗賊さんもあたしを男の子扱いしなければねー・・・お、女の子な
んだぞ！ふんっだ！

全員が馬車のそばに集まります
これから自己紹介ですかね^^

「助けて頂いて有難う御座います 私はヒーノ村の村長の娘でメアリ・エンジェスと申します」

「わたしは冒険者で剣士のリリス・ヒューイットだ よろしく・・・
こいつは相棒の・・・」

「ケイト・ウォーレンスです・・・魔法剣士やってます」

おお！生魔法使い！・・・魔法教えてくれるかな？後で聞いてみようつと^^

「あたしはマコト・カミヤでこっちが親父様のヨシハル・カミヤね^^」

「私は小隊指揮官のレティ・フォンダよ よろしく^^」

「俺はマックだ^^」

「ファストです どうも^^」

「ロツテです・・・軍医で医者をしています・・・お仲間の方は・・・お悔やみを申し上げます

それと・・・メアリさんとケイトさんは怪我をしている様なので私が診ますね？^^」

そっかー・・・戦闘が終わって姿が見えないと思ってたら ロツテさんってば

矢でやられた人たちを診てたんだねw

ロツテさんが2人の応急処置をしています・・・リリースさんが言いました

「ありがとう助かったロツテ殿・・・取り合えずここから離れたほうが良い・・・」

この匂いで・・・血の匂いで魔物が寄ってくる・・・いそいだほうが良いぞ」

ありゃ？魔物ですか！・・・そーゆー事なら急ぎましょう！

まず護衛さん3人のお墓を掘って・・・埋めました・・・なむ！

臨時の措置として2台のハンビーに積めるだけ馬車の荷物を移して・・・全部は無理かな？

メアリさん達3人にあたしの車に乗ってもらって・・・狭いけどがまんね^^

レティがジョンさんに無線で状況報告！

「マコト、ジョンからだけどメアリさん達を基地につれて来て欲しいらしいんだけど・・・」

「そかー・・・うん、今晚のキャンプで話してみようよ」

「そーね・・・ジョンにはそう言うておくわ^^」

さて、夕べのキャンプ地へ向かいますかね・・・もちろんあたしの
運転で^^^

異世界のみなさんは目が・・・@@!!・・・になってます！

曰く速い！とか揺れが少なく乗り心地が良い！とか鉄で出来ている
！とかねー^^^

驚きっぱなしみたいですよー・・・

食べ物のお話で お菓子とかどんなの？って聞いたら

くだものくらいで甘いものってほとんど無いんだって・・・あつて
もほぼ貴族用らしいよ・・・

キャラメルあげたらめっちゃおいしい！って喜んでました

ありゃ・・・メアリさん？顔が真っ赤ですよ？ん？あたしと目が合
つとそらす？

盗賊に襲われてまだ落ち着かないのかな？・・・ん？

キャンプ地に到着！さあご飯だー^^^・・・

あー、そうだったw・・・コンビ二弁当も無いんだったw・・・
ありゃりゃw・・・

でもかつぱえび んはまだあるよー^^^

マックさん！だから！うれしそうにレーション持ってこないでっ
ば！・・・

ニコニコしながらみんなに配ってるw・・・異世界組は なんじゃ
こりゃ？って顔してるねー

・・・まあ、それしかないから食べますけど・・・はい、食べます
です・・・

いただきます！

このレーションなんだけどなーメインディッシュとパンクラッパ
ーが付いててね

ココアとお茶かコーヒー、あとガムとチョコレートとデザートと・

・
塩コショウ、タバスコ、ナプキンとお手拭とスプーンとマッチが入
ってるんだよ

そうそう、温たため用の水ヒーターも入ってます^^（めっちゃ熱
くなるんだよこれ！）

スプーンは自然分解するらしいよ・・・ちよつとだけエコ？

メインの味が24種あるんだけど・・・え？おいしいやつ？・・・
んー

まあ、おすすめ？は（なんとか食える？つてのは）パスタ系かな？

（レーションファンの方 すいませんね^^）

異世界組みに食べ方を教えてあげて・・・

ありゃ？異世界組の方々はびっくりしながらおいしい！つて食べて
ますねー・・・うまいかそれ？

・・・つてことは・・・こっちの世界のご飯は期待できないのか？

・・・それはやだなーw

はい、カップスープもどうぞ^^・・・おースープがそんなにうれ
しいのか？

インスタントだからお湯をそそぐだけだぞ？・・・魔法か！とか言
ってるし・・・

へ？そうなんだー・・・あのねこの世界は基本的に旅の最中は保存
食がメインなんだつてさ・・・

旅で温かい食事はほとんどないんだつて（レーションも保存食なん
だけどねー）

あ、そうそう　おいしい？からってレーシヨンの毎日レンチャンはだめよ？

アメリカ軍でも最大連続2週間までしか食べちゃいけないらしいからね〜^^

ちなみにノルウェー軍だっけか？なんと1食7500カロリーのレーションがあるらしいです^^
レーションは太ります！まる^^

食事が終わってミーティングです

お！親父さんはファストと訓練か？・・・良い傾向だねー　いつてらっしゃーい^^

ファスト　がんばるのだよ？^^

んで異世界組みさんたちとお話です

なんでもメアリさんたちは今年の税を納めに王都まで行く途中だったんだって

護衛も3人いなくなっちゃたし馬車も無し・・・しかも持ってこれた荷物は半分くらい？

あたしとしては良いチャンスなんで王都まで護衛かねて行きたいんだけどねー

でもメアリの税の半分はどーするかね・・・お！ひらめいたぞ！

「ねえ、レティ・・・あたしたちもこの国の王様に用があるでしょ？だから一緒に行くのが

ベストじゃないかな？・・・んでメアリの足りなくなった税の分とあたたちも王様へのおみやげってか献上品をもって行くの^^」

「マコト・・・おみやげってなにもってくの？」

「16号沿いの基地の人相手のおみやげもの屋さんからとりあえず持つてくんだよ^^」

「この世界ではめずらしいものばかりでしょ？・・・でも武器はまだだめ！わたさないよ^^」

「どうしても武器がほしいってんならエアガン渡せばいいじゃん^^」

「ふむ・・・それはいいアイデアね！・・・LAV-25も一緒になら多分だけど安全ね^^」

「早速ジョンに連絡するわね^^」

「レティは連絡するために車にむかっていきます」

「ジョンさんは賛成したみたいですよ^^」

「あたしは異世界組みにこの提案をします」

「・・・って事なんだけど・・・メアリはどうかな？」

「はい！とてもうれしいですけど・・・宝物まで頂いていいんですか？／／／」

「うんいいよー^^安物だしねー・・・あと、リリースとケイトはどう？？」

「私はメアリが良いならそれでかまわんよ？ケイトは？」

「うんいいよ」

「んじゃ、けつてー^^あとケイトに個人的にお願いがあるんだけどいいかな？」

「何でしょうか？」

「うん、魔法を教えてくださいんだ^^魔力はいっぱいあるらしいからねあたし」

「まった！マコト殿・・・私もお願いがある・・・マコト殿に剣を教えてください」

「へ？あたし？」

「そうだ、交換条件だケイトがマコト殿に教えて　マコト殿が私に教える・・・どうだ？」

「んーカタナがいるなー・・・古物商でも探してみるかな？・・・うん、良いよ^^」

「すまん、ありがたい^^」

みんなあたしにしゃべりかたが硬いんだよねー特にリリースね・・・肩こっちゃうw・・・

うん、女の子どーしなんだからざっくばらんに行きたいよねー・・・よしー！

「あたしからお願いなんだけど・・・歳もあまり変わらなさそうだ

し敬語無しでさ

もつとざつくばらんに話しません?・・・女の子どーしなんだしさ
!^^^」

お?、お?・・・どーした?・・・みんな?なに固まってるんだ?
・・・ん?

「「「えーっ@@!」「」

なんだなんだ?

「「「マコト」「」

あたしが?

「「「女の子だったんですかー!」「」

・・・orz

「・・・女ですよ?・・・」

「「「「「じー・・・」

あーん!男の子に見られてた〜!・・・てかメアリはなんで残念そ
うな顔してるの?・・・

グスツ・・・あたし、泣くぞ?・・・こんなに美人でかわいいのに
・・・

た、確かにみんなより・・・む、胸ないけど!・・・あ、凹みそう
・・・

がばっ！

「おう！また！いきなり抱きつくな！ばかあにk」うっちゃり！
どしーん！」「うげっ！」

うっちゃりってw・・・相撲かい！・・・くらっちまったいw・・・
そして投げ飛ばすな！

ああw・・・腰がw・・・いててw・・・

「おまいは！抱きついたあげく、うっちゃりかい！投げ飛ばすな！
バカ兄貴！」

「だって・・・真琴がみんなより小さいおp」死んでしまえー！
バッキーン！」「グハツ！」

はーはー！こいつは！いつもいつも！いーかげんに・・・
は！異世界組みが・・・あたし達を白い目で・・・
そ、そんな目であたしをみないで！！

あー・・・親父さんがからむと ほんつとに疲れる・・・

w w w もう勘弁して・・・ファストはなにやってんっだ？おさえと
けよwこいつを・・・

ファスト作戦はしっぱいなのかなあ〜・・・
良いアイデアだと思ったんだけどな〜w・・・orz

作中に出てきました『LAV-25』についての簡単な解説で
す^^

LAV-25装甲兵員輸送車といいまして8輪式歩兵戦闘車で水陸
両用の高速偵察車両なんです

車体上部に砲塔がありましてブラッドレーM2、M3と同じ対空に
も使える口径25mmの

M242ブッシュマスター機関砲を主武装として搭載しています

M240機関銃も2丁装備しています

乗員は3+6名で、ディーゼルエンジンで最高時速は100km/
hです

航続距離は満タンで約650km走れます

ちなみにHMMWVは最高時速125km/hで満タンで約400

k
m
走
れ
ま
す

7話 涙のキャンプ あたしだってある程度はあるよね？何って胸ですよw(後

真琴「・・・お疲れ・・・です」

レティ「まあ、おちついて、ね^^」

ジョン「よし、おじちゃんがあびせ 買ってやるぞ^^」

真琴「ほんと？^^」

ジョン「ああ、買ってやるさ^^だから元気出せ！な？」

真琴「うん！^^」

レティ「ある意味おこちゃまねw・・・」

カミヤ「ファスト！本編ちゃんと読んだか？」

ファスト「はい師匠！読んだっス！」

カミヤ「あーやって真琴をいじるんだぞ？わかったか！？」

ファスト「はい師匠！わかりましたっス！」

真琴「・・・(ニコッ！^^)」

ジョン「レティずらかるぞ！」

レティ「OKジョン！いそぎましょう！」

(みつちゃんを抜きながら・・・)

真琴「おまいら！ゆるさへんで！」

どーもです^^作者のM2-1015です^^

昨日は台風で大変でしたね・・・みなさんはお怪我とか無かったですか？

うちは庭が大変なことになってましたw・・・

さて、次回ですが基地に戻って王都へ出発ですかね？

出発までいければいいんですが・・・

それでは皆様にもっと笑顔が訪れますように^^
では！^^^ノ

7・5話 涙のキャンプ 閑話です ねえ！私にだって・・・胸あるよね！？

メアリ「はじめまして！^^」

リリス「どーもです！」

ケイト「どうも^^」

メアリ「マコトさん！かっこいいわ〜！（はーと）」

リリス「うむ、剣の腕もなかなかのもの！」

ケイト「・・・ごはん、おいしかった・・・」

メアリ「マコトさんって彼女いるのかしら・・・」

リリス「剣をぜひ教わりたい！」

ケイト「・・・お菓子もおいしかった・・・」

M2「えー、みなさんばらばらなんですけど・・・では7・5話いつてみよー！」

今回は 書ききれなかった異世界の3人に焦点をあてています

まあ、ケイト中心なんですけど^^

閑話と言っこと^^

7・5話 涙のキャンプ 閑話です ねえ！私にだって・・・胸あるよね！？

S i d e メ ア リ

かつこいいい！私はそれしか考えられませんでした
長い髪の毛を後ろで束ねてまるで凜々しい騎士様のようです・・・
盗賊の間を剣を振るい舞いを踊っているようにまっすぐこちらへ進
んできます！

「マコト・カミヤ 助太刀します！」

ああ！やや高めなりりしいお声！・・・マコト様とおっしゃるんで
すね・・・(ポッ！)
もう私はマコト様しか目に入らず周りの出来事をまったく気にして
いませんでした
マコト様はあつと言う間に馬車の周りの盗賊をなぎ払ってしまいま
した・・・かつこいいい・・・

最後は盗賊のお頭らしき人と一騎打ちです・・・がんばってください
い！

それはまさに一瞬でした・・・マコト様が剣を鞘に収めたと思った

ら・・・

颯爽と走り出し剣を抜き盗賊を切り裂いて・・・すごい！

光り輝き舞うようなうつくしい剣筋・・・

まるで小さい頃に寝物語で聞いた英雄叙事詩そのものです！

マコト様を見ているとほほが熱く・・・もう顔全体が耳まで真っ赤です・・・／＼／

ああ！神様！これって一目惚れって事なんでしょうか！・・・ああ、どうしましょう？／＼／

Sideケイト

私は基本的に動揺はあまりしないんですが・・・今回は別です・・・盗賊相手の戦闘も忘れて・・・あせんとしちゃいました・・・あれはなんの漫才でしょう？

男の子が盗賊に降伏勧告してますが・・・まあ、この人数差ではま
ず無理でしょう

思った通り盗賊は向かってきたのですが・・・すごいです！

最初に動いた剣士の男の人は強かったです！アツと言う間に5人を切り捨てちゃいました！

D O D O D O ! B A B A B A B A N !

な、なんの音です！？・・・馬車？からも攻撃してます？・・・あれは魔法なんですか？

馬車から音と炎が上がるたびに盗賊の身体が弾け飛びばらばらになってます！

男の子もこちらに真っ直ぐ向かって来ながら道々の盗賊をあっさりと排除しています！

剣で切り裂いています！・・・すごいです！
は！さらに剣が光で輝いてます！・・・あれは剣に強化の魔法をかけているんですか？

「マコト・カミヤ 助太刀します！」

マコトさんと名乗った男の子は見る間に馬車周辺の盗賊を切り捨てちゃいましたね・・・
しかも一太刀でお頭らしき盗賊まで・・・なんとすごい男の子でしょうか！？

S i d e リリス

私は基本的にあまり動揺はしないのだが・・・今回は別だ・・・盗賊相手の戦闘も忘れて・・・あぜんとしてしまった・・・なんの漫才だあれは？

まあ、盗賊の気を引いてもらって助かるが・・・

少年が盗賊に降伏勧告するが・・・まあ、この人数差ではまず無理だろう

予想通り盗賊は向かってきたが剣士の男は強かったアツと言う間に5人を切り捨てていた

D O D O D O ! B A B A B A B A N !

は！なんの音だ！？・・・馬車？からなのか？・・・盗賊に攻撃している？・・・

あ、あれは魔法なのか？

馬車から音と炎が上がるたびに盗賊の身体が弾け飛びばらばらになっている！

少年もこちらに真っ直ぐ向かって来ながら道々の盗賊を排除している！

剣で切り裂いているのか？・・・すごい！

それにあのような剣筋は見たことが無い！

は！剣が光で輝いている！・・・あれは剣に強化の魔法をかけているのか？

「マコト・カミヤ 助太刀します！」

マコト殿と名乗った少年は見る間に馬車周辺の盗賊を切り捨ててしまった・・・

しかも一太刀でお頭らしき盗賊まで・・・なんてすごい少年なんだ！？

私はあの少年が使う剣を必ずマスターしたいと心から思った・・・

(本来は依頼主のメアリがやるべきなんですが・・・あの様子(マコトに一目惚れ?)
では無理そうなのでリリスは・・・まあ、思い込んだら一直線のイノシシ女ですしね・・・
ここは私、ケイトが話を纏めるとしましょうか・・・)

それぞれの簡単な挨拶もすんだところでロツテと名乗るお医者さんがリリスを診ます
治療が済み リリスが血の匂いで魔物が集まる事を教えると村から来た護衛従者3人の墓を道の脇へ作っています
普通は遺品を回収して終わりなのですが・・・

穴を掘り、土を被せ大き目の石をのせて最後に祈っていますね・・・マコトと父親が祈っています・・・それは変わった祈りでした・・・手を合わせてつつむいて・・・マコトの達の国のしきたりですかね？他の人たちは敬礼でしょうか？
二の腕を真横にして手を目の横、ちょうど三角を腕と手で顔の横に作る感じですね・・・

私達は出来る限りの荷物をこの車と言う乗り物に移しました
メアリさんは荷物が残ることに心配顔ですが・・・
・・・ハンヴィーといってましたね確か・・・鉄で出来た乗り物なんですごいです

しかもものすごく透明な板が窓についています！

馬が要らない代わりになんでも燃料と言つ油で走るそうです
燃料があるかぎり休まず走り続けられるそうです……

車が走り出すとみな口々に言い出します

「速いです!」

「ゆれが少ない!」

「椅子の座り心地がとても良いわ!」

「これは!全部鉄なのか!」

「窓の板が透明です!」

私達3人は目が……@ @ こんな感じでカルチャーショックです

隊長であるレティさんとお医者様のロツテさんは屋根の穴から周りを
みはっています

マコトさんは御者席(運転席と言つらしい)でこの車を操っています

冷静になつて考えると……この車……鉄で、それも複雑で丹念

に作られていますね・・・

マコトさん達が着ている服やレティさんたちの装備などもかなり丁重で丹念なものです

もしかしたらこの方達は貴族などの高貴な産まれなのかもしれませ
んね・・・

森をそれて走るとそこはなんと砂漠です！昨日の空の異変といいな
んなんでしょう・・・

このまま砂漠を進み昨日マコトさん達が野営した場所で今晚もキャ
ンプするそうです

マコトさんが食べ物のお話をふってきます

「この国のお菓子ってどんなのがあるのかな？」

「菓子ですか？われわれはほとんど食べませんね・・・菓子はほぼ
貴族用ですからね・・・

甘いものはくだものを食べるくらいですよ」

マコトさんはとても残念そうな顔をしていますね・・・

ん？メアリさん、残念そうな顔もまた素敵！って目で見て・・・真
っ赤ですよ？お顔がね・・・

真琴さんが『きやらめる?』と言う菓子をくれました・・・

とても丁寧に包装されています・・・包装をはがすのが勿体無いくらいです・・・

口に入れると・・・

あ!あまい!こんなおいしい菓子は初めて食べますね!

メアリさんが『おいしい!』を連発しています・・・マコトさんが笑顔で振り向くと

真っ赤な顔でうつむいちゃいました・・・分かりやすすぎです、メアリさん・・・

きやらめるを食べてさっきの疑問が確信に近づいていきます・・・こんなおいしいものを食べるなんて贅沢は平民ではできませんよやはり貴族なのですかね・・・

キャンプ地に着いたようです車から降りて私とリリアはカマドを作ろうと・・・

周囲をみまわしてもカマドを作る石どころか燃やす木も無いんですが・・・

どうしようか困っているとマックさんが茶色い袋をくれました・・・ビーフシチューだよって言ってますが・・・

え?これが食事なんですか!・・・びっくりしましたねさすがに・・・

マコトさんが食べ方を教えてくれました・・・書いてある文字は読めませんが・・・

袋をやぶると中からたくさん袋がでてきました・・・
なんと！砂糖に塩にコシヨウまで入っています！超贅沢！

主食の温め方？え！この袋に水をいれるだけ？・・・私の知らない
魔術ですか！？

熱々のシチューはとてもおいしい！パンもかちかちの保存用ではな
くやわらかです

ジャムと言う甘い物をかける？はちみつみたいな感じですかね・・・
ジャムをつけると甘くておいしい！

チヨコレートと言うデザートにコーヒーまで！

マコトさんが人数分のカップを持ってきて何かの粉を入れています
そこにお湯をそそぐと・・・なんと！スープです！魔法ですか！

マコトさんはただのインスタントと言いましたが・・・『いんすた
んと』ってなんですかね？

料理魔法の事ですかね？

さらに驚いたことにマコトさんはこの食事が好きではないと・・・
こんなに美味しいのに！

もつと美味しいものがあるんですか！・・・やっぱり貴族の方なん
ですかね？

我々の旅では保存食がメインなのですが・・・

しかしこれはキャンプの食事の域をはずしていますね・・・調理器
具すら無くてこの内容・・・

うくんまさに豪華な宮廷料理・・・ま、食べたことは無いですけどね

最後にマコトさんが一言ぼそつと言いました この携帯食は太るよ

と・・・

先に言ってお下さい！全部食べちゃったじゃないですか！・・・orz

食事が終わって今後の為の話し合いです

マコトさんとレティさんは何か確認しています・・・私達の事なん
でしょうね

マコトさんのお父さんはファストと剣の訓練に行くそうです
リリースがうらやましそうに見えますね・・・

メアリさんが説明しています・・・今年の税を納めに王都まで行く
途中だった事、
護衛も3人いなくなり馬車も無くなった事・・・しかも持ってこれ
た荷物は半分だけ・・・

マコトさんがなにやら考え込んでいますね・・・
するとひらめいた！って顔でレティさんを見ます

「ねえ、レティ・・・あたしたちもこの国の王様に用があるでしょ
？だから一緒に行くのが

ベストじゃないかな？・・・んでメアリの足りなくなった税の分と
あたしたちも王様への

おみやげってか献上品をもって行くの^^」

「マコト・・・おみやげってなにもってくの？」

「16号沿いの基地の人相手のおみやげもの屋さんからとりあえず持ってくんだよ^^

この世界ではめずらしいものばかりでしょ?・・・でも武器はまだだめ!わたさないよ^^

どうしても武器がほしいってんならエアガン渡せばいいじゃん^^

「ふむ・・・それはいいアイデアね!・・・LAV-25も一緒になら多分だけ安全ね^^

早速ジョンに連絡するわね^^」

レテイさんは連絡?・・・どうやってするんだろ?・・・するため
に車にむかっていきます

私達にマコトさんが提案をします

シヤマルの王都までわれわれの護衛で一緒に来てくれるらしいです
しかも王様にも会いたいって・・・簡単に言ってますけど・・・

「・・・って事なんだけど・・・メアリはどうかな?」

「はい!とてもうれしいですけど・・・宝物まで頂いていいんです
か?ノノノ」

「うんいいよ^^安物だしね・・・あと、リリースとケイトはど
う?」

「私はメアリが良いならそれでかまわんよ？ケイトは？」

「うんいいよ」

「んじゃ、けつてー^^あとケイトに個人的にお願いがあるんだけどいいかな？」

「何でしょうか？」

「うん、魔法を教えてほしいんだ^^魔力はいっぱいあるらしいからねあたし」

「まった！マコト殿・・・私もお願いがある・・・マコト殿に剣を教えてほしい」

「へ？あたし？」

「そうだ、交換条件だケイトがマコト殿に教えて マコト殿が私に教える・・・どうだ？」

「んーカタナがいるな・・・古物商でも探してみるかな？・・・うん、良いよ^^」

「すまん、ありがたい^^」

私の意見がはいつてないですよ？リリース・・・まあ、知的好奇心がありますので

マコトさん達と行動できるのはうれしいですけどね・・・それに退屈しなさそうですし^^

そのあと別口でマコトさんからお願いされたんですが・・・

「あたしからお願いなんだけど・・・歳もあまり変わらなさそうだし敬語無しでさ

もつとぞつくばらんに話しませんか？・・・女の子どーしなんだしさ
！^^^」

なんですと！・・・フランクに喋るのは賛成ですが・・・いやいや
！その前に！

「「「えーっ@！」「」「」

お、男の子だと思っていましたよ！？

「「「マコト・・・」「」「」

みんな声をそろえて叫びます・・・せーの！

「「「女の子だったんですかー！」「」「」

・・・・・・・・・・・・・・・・orz

マコトさんは四つん這いになって涙声で

「・・・女ですよ?・・・」

「「「「「「「「「「「「「「」

私達は呆然とマコトさんを見ている・・・特に胸とか、あと胸とか・・・
マコトさんは貧にYゲフンゲフン・・・胸が小さかったので男の子だと思っていましたよ

おう!

マコトさんのお父さんがいきなり現れてマコトさんの胸を題材にしてコントを始めちゃいましたね・・・あ、マコトさんが凹んでいます・・・

今後は胸の話はタブーですかね?

それにしてもこっちでも凹んでる人が1人いますね?・・・メアリさん・・・

とつても残念そうな顔して・・・メアリ・・・儂い恋だったね・・・ご愁傷さまです・・・

元気だしましょ?明日はきっと良い事がありますって^^

S i d eレテイ

さっきのジョンとの無線だけど・・・カミヤとマコトにはまだ内緒にしとけて・・・
いいのかしら？

基地のみんなは賛成なんだよね

んー、ジョンも私も大役ね・・・

まあ私を含めこっちの海兵隊員はみんな賛成だったけどね^^

うん、きっとカミヤはおもしろがるでしょうね・・・

でもマコトは基地に戻ったらどんな顔をするのかしら？

それはそれで楽しみでもあるわね^^

マコト^^多数決の民主主義って事であきらめてね^^

7・5話 涙のキャンプ 閑話です ねえ！私にだって・・・胸あるよね！？

メアリ「あーん！・・・ふられたー！あーんあーん！」

リリス「メアリ・・・泣くんじゃない・・・」

ケイト「ってか、ふられる以前じゃ・・・」

メアリ「び、びえーん！！」

リリス「あ、こらケイト！余計な言を・・・な、泣くなメアリ・・・

」

ケイト「だって、告つてもいなかったしw・・・」

メアリ「び！え！-！ん！！！！」

リ、ケ「ほつとくか・・・」

どうもです！^^M2-1015です

人物を変えながら書くのって難しいですね

試行錯誤で書いてます

今回は基地へ帰るまでになりそうです

ジョンの出番は次回も無いかな？

それでは皆様の笑顔がもっと増えますように^^

では^^ノ

8話 涙のお風呂 個人的に胸の格差社会はきらいです！（前書き）

真琴「おひさでーす^^」

レテイ「どーもです^^」

ジョン「おーす！^^」

ファスト「どもっす！」

真琴「あれ？親父さんは？ファスト」

ファスト「師匠はなんか撮影しなきゃってどっか行っただっす」

レテイ「・・・なんかやりそうねカミヤは・・・」

ジョン「だなー・・・ま、俺は知らんが」

真琴「もう！ファストは兄貴の見張りでもあるんだからね！しっかりしてよ！」

ファスト「俺、師匠の見張りっすか！？」

真、レ、ジ「・・・がんばって！^^」

ファスト「なんか・・・理不尽っす・・・」

真琴「でも、あやつは何をやらかそーとしてんだろ？」

レテイ「いやな予感しかないわね・・・」

ジョン「ま、カミヤだしw・・・」

真琴「んじゃ、はじめまs・・・ん？・・・」

レテイ「やばっ！だ、第8話はじまりです！」

8話 涙のお風呂 個人的に胸の格差社会はきらいです！

あ、あたしつてばみんなに男の子に間違えられてたんだw・・・o

r z

めげるなあたし！凹んだら負けだ！・・・うん、へーきだよ？・・・
たぶんねw・・・

うん、このことは忘れよう・・・忘れるに限るね！

さてと・・・

あれ？メアリ？落ち込んでない？・・・どーしたんだろ？聞いてみるかな・・・

「ねえ、メアリなんだけど なんで落ち込んでるのかな？リリースはわかる？」

「ん？・・・うむ？なるほど落ち込んでるな・・・ケイトはわかるか？」

「・・・2人とも・・・にぶちん？・・・ま、そつとしいた方が
良いかもね^^」

ん？ほつといても良いのかな？・・・ありゃ？メアリなんかニヤッ

と笑い顔になつたよ？

小声で『そうよ！女の子でもいいじゃない・・・性別なんて関係ないわ！』とか言ってるよ？

ゾクツ！おう、なんか寒気がしてきましたよ？

「ね、ねえ、ケイト・・・メアリはほんとに大丈夫なの？なんか変だよ？」

「・・・大丈夫・・・がんばれマコト^^」

「?・・・なにをがんばるの!？」

その後ケイトはニヤニヤとあたしを見てるだけだし・・・
メアリはあたしの近くに來てだまって顔を赤くしてるだけだし・・・
リリスは頭に？マーク出してるし・・・ま、いいか・・・たぶん・・・

見張りの順番は昨夜と同じだそうです

異世界組みも見張りをやるって言ってたけどそこは遠慮してもらって寝てもらいました

あ、寝る前にあたしが18歳だっけ教えてたら みんなまたびっくりしてたんだ・・・

14～15歳位だと思ってたんだってさw・・・くすん・・・凹んでたまるか！

さて、見張りやって眠りますかね・・・

親父さんも銃座にのぼって・・・カタナの手入れしてるのか・・・
静かで良いけど・・・

見張りの時だけは親父さんってばマジで大人しいから助かるけどね。
・
・

こーゆー時の親父さんって背中がすごーくおつきく見えるんだよね
！・・・

4年前のあの時もそーだったなあ・・・ベトナムの国境付近で追わ
れててさー・・・

あたしゃへとへとだったしねー・・・なさけないぞw帰ったら特訓
だーとか言ってたけどさ

親父さん怪我してたのに一晩中見張りやってくれて・・・あたしに
寝て良いぞって・・・

横になつて見た背中、大きかったなー・・・

まーなんとかラオスからタイへ抜けられたんだけどねー

たった2人の家族・・・親父さんありがとねー・・・好きだよー^

^//^^

は、！いかんいかん・・・この話は長くなる！見張りをせねば！

さて、あたしもみっちゃんの手入れしますかね・・・ん？・・・あ
れ？

おお！汚れてない！なんでだ？・・・これも魔法なのかな？・・・
ま、いつか^^

さてさて、こちらは3人娘のテントの中ですが・・・

メアリ「はあ〜・・・マコトさん 素敵だったわ〜／＼／」

リリス「うむ、あの華麗な剣さばき!」

ケイト「・・・」

メアリ「やっぱりマコトさんで・・・かっこいいわよね〜／＼／
^」

リリス「うむ、あの若さで・・・いやもう18歳だったんだが・・・
あの剣技はすごいな!」

ケイト「・・・」

メアリ「うふ!王都まで一緒・・・あんな事や、こんな事まで!・・・
きゃっ (ポツ^^)」

リリス「うむ、あんな技や、こんな技をぜひ教えてもらおう!」

ケイト「・・・」

メアリ「そ、それから二人は・・・いや〜ん!／＼／ (くね

くね) / / / 「

リリス「うむ、マコトと私は二人で魔獣の討伐などで名声を皆から受けるんだな！^^」

ケイト「……うるさいよ！もう寝なさい！（でも2人とも会話が
かみ合っていないよね？）」

真琴「へっくちゅん！……ん？」

そんなこんなで夜は深めます……ケイトは寝不足でしたとさ！
チヤンチヤン^^

S i d e 真琴

「……」

「……」

「マコト！・・・起きるー！」

「・・・んんん？・・・あーさーでーすーか？・・・」

「うむ、今は太陽が昇るところだ^^起きてくれ」

「・・・はい・・・リリース？・・・んじゃおやすみ・・・」

「いやいやいや！寝るのではない！起きてくれ！」

「・・・んにゅ？・・・あと1時間・・・ん・・・」

「あゝ！マコト様のお寝ぼけ姿！・・・あは〜ん！いいですわ〜
(抱きしめっ！^^)／／／」

「いやいや・・・メアリ！そうではなく起こすのだ！」

「ほへ？・・・おっぱいが〜WWWおつきいぞ〜？・・・んん、や
わこい・・・んにゅ？」

「あ！マコトさん！・・・いきなり・・・そんな・・・あは〜んっ
！／／／」

「いやいやいやいやメアリW・・・起きてくれ！マコト！」

んー・・・まだ眠いのにW・・・あれー？なんでメアリと寝てるん
だ？・・・ん？

およ？リリース？・・・んにゃ・・・まだ頭が働かないにゃ〜W・・・

「ぼーーーーーーーーーーーーーーーー」

「とりあえず起きたか・・・って、口で『ぼーーーーーーーー』って言うてる?」

「あん!もう起きちゃうんですかマコトさん? 私なら・・・いいですよ?(ポツ!ノノノ)」

は!いかん・・・なんかあたしの貞操が危険な予感?・・・
よし、起きよう!
ほんとあたしってば朝だけは弱いよね・・・

「んんん!おはようリリス、メアリ・・・ってなんでほおずり!??」

「おはよう御座います^^マコトさん!(すりすり^^)ノノノ」

「おはようマコト^^さあ朝飯前に剣の訓練だ!」

「w・・・はいな」

リリスは元気だねー

あたしは腰にはりついてるメアリをはがしながら濡らしたタオルで顔を拭いて・・・

んーさつぱり!^^

てか、まだ起きるの早すぎない?・・・はあwリリスはこーゆー

とこ真面目だね〜

あたしが起きたんで見張りの2人に声をかけます

「レティー、ロツテさん！あたし起きたんで降りて休憩してー^^」

「あら！マコトが起きてる！？・・・ほんもののマコトよね？」

「もう・・・レティったらw・・・あつちでリリースと剣の訓練しますね^^」

「りょうか〜い！コーヒーでも入れとくわね^^」

「うん、ありがとーロツテさん^^」

あれ？そー言えば・・・ケイトがいない？・・・まだ寝てるのかな？

「ね、ケイトは？・・・まだ寝てるの？」

「うむ、昨夜はなかなか寝付けなかった様で朝飯になったら起こして欲しいそうだ・・・
なぜか・・・機嫌がわるかったな・・・なにかあったのかな？」

まだ寝てる人がいるからちよつと移動して・・・ここなら良いかな？

メアリはおずおずとついてくるね・・・見学かな？

さて、リリースにはなにから教えようかね・・・まずはリリースの型を見ますかね・・・

うん、思った通りだね・・・ぶったたきつける様な剣筋ね・・・型を直すの大変かな？

あたしはリリースにいくつかカタナでの剣筋を素振りで見せてあげて真似してもらいました

リリースはめっちゃ真剣に素振りしてるな・・・こりゃマジだね・・・

でもスジは良いよね・・・うん、カタナは絶対に探してあげよう^^

「おーい！マコト！朝飯だぞー！」

おー、マックさんが呼んでますね・・・もうそんな時間か・・・

「はい！・・・リリース朝ごはんだって^^・・・ほらメアリも・・・行くよ！^^」

ごはんだごはんだー^^・・・おーケイトは起きてきたのか・・・
コーヒー飲んどるね^^

さてさて・・・うっ！マックさんw朝からレーションはいりませんよ？・・・

あら、すねた顔がかわいいじゃないですか！・・・マックさんたら

もっつ^^

ありやりや、3人はレーション食べるの？うれしそうにもらってるね・・・

マックさんも受け取ってもらってうれしそうだよ・・・よかったね
^^

あたしはドライフルーツ入りのシリアルとミルク、そんでカップス
ープです ん、おいしー！^^

みんなにぼそつと「太るぞ」ってまた言ったらケイトがピクツって
なつて考こんでたけど・・・

(でも結局食べてたね^^) うん、ちょっとおもしろかったです！
まる^^

さて、出発前に今日の行程をみんなで確認^^

このまま何も無ければお昼前には戻れる・・・んだけど・・・

一昨日の恐竜も見てもらってさ、リリース達に確認してもらおうよ・・・

今までも居たのかどうかね・・・ってなわけで寄り道して帰ります

「みんな聞いてくれる？このままあたし達の基地？町？って言うか
国？に向かうんだけど

1つ聞いていいかな？・・・あのさドラゴンとか竜ってそっちには
いるの？」

「いますね・・・私は見たことはないですけど・・・」

「私も無いな・・・聞いた話だが小さいので2m、大きいのだと20mを越すらしいぞ」

「んじゃこれから行く所でさ、一昨日あたしが倒したやつなんけど・・・見てくれる?」

「えーマコトはドラゴンを倒したのか!」

「いや・・・たぶんドラゴンでは無いと思うんだけどね・・・」

「リリース、取り合えず見てからね・・・キバか爪でも持って王都のギルドに報告しましょ」

「うむ、分かったケイト・・・そうしよう」

「ああ・・・マコトさん・・・ドラゴンを倒すなんて・・・キヤ
ー! / / ^ ^ / / /」

よし、方針は決まったね・・・なんか最後の一言がみょうな感じだ
けど・・・
では、しゅっぱーっ!

おーここだここだー・・・ジャングルの木がへし折れてるから遠く

からでも分かるね」

「んであそこに倒れてるやつが例の竜なんだけど・・・」

「ありゃー異世界3人娘は目が『@@!』 こんなんなっちゃってますな」

「まあ、あたしも恐竜りゆうに会ったときはなっただけだねー」

「どづつ?こんなの見たことあるかな?」

「いやいやいや!これをマコトが仕留めた?」

「うん、首をスパーっとね^^」

「マコトさん・・・すごいですw・・・//」

「で、こんなのそっちの国にいるのかな?」

「・・・ドラゴンとは違うみたいですね・・・初めて見ます」

「んじゃ、あっちの小さめなのは?」

「ぼろぼろで良く解りませんが・・・いないと思いますね」

「そーか・・・」

「これもマコトがやったんですか?」

「いや、レティ達だよー」

「マコト達って・・・いつたい・・・」

「うん、それは町に着いたら教えるねー^^」

やっぱりこっちのジャングルはリアルジエ シックパークなんだね
w・・・
うくん・・・これも報告してみんなで考えるか・・・移住しなきゃ
いけないんだしね

「で、マコト この竜の一部を証拠として持って行きたいのだけど・・・いいかな？」

「いいよー、でもケイト 持って行くってどこへ？」

「我々がこれから向かう王都にある冒険者ギルドだよ」

お？お？・・・親父さんがすつとんでこっちくる！

「ほ、冒険者ギルドだって！！（ドヤ）^^」

「ふ〜w・・・はいはい・・・テンプレ乙です・・・」

まったく、このおっさんはw・・・でもそうだよね・・・
この砂漠ってさ幅が2〜3km位しかないから恐竜があっちへ行く
事だっただあるよね

確かにしかるべき所へ連絡しないとね・・・もっとすごいのがい

るかもだしw・・・
取り合えずデジカメで写真とつとくかね・・・

リリースがテイラノぽい方のキバと爪、ケイトがラプトルぽいやつの
キバと爪を採取して・・・
ん？メアリは・・・あたしの後ろにくつついてる？

「本当はこいつ自体を運べればよいのだが・・・」

「ん？リリース^^写真取つといたよー」

「じゃ、写真とは？」

「あ、分かんないよねー^^こっちきてー」

あたしは車に戻りノートPCにデジカメのデータを入れてみんなに
見せたんだけど・・・

「な、な、なんだ！これは！・・・絵なのか？」

「いつの間に絵なんか描いてたの？マコト」

「私がいるわ！ほら、ここにリリースとケイトも！」

「んーとね、これは写真って言ってね、このカメラで見たものを記
憶する機械なんだよ？」

「「「「「「「「「「「「「」」」」」」」」」」」

「まあ、そんなに驚かなくても・・・それじゃあ、あたしの国、てゆーか町に着いたらさ

もっと驚いちゃうぞ？楽にいこーね楽に^^」

んー基地に着いたらもっと驚いちゃうよねー・・・どうしようかね・・・

うん、レティと相談したほうが良いよね

3人を車に乗せてからレティと話すか・・・

「ねえ、レティちよっくらいいいかな^^」

「なに？マコト」

「あのねー基地へ着いてからの事なんだけどさー・・・」

結局3人娘以外の全員と打ち合わせしてジョンに無線で報告、16号沿いの町に入ったら

ノンストップで管制塔ゲート経由で車両格納庫へ行くことになりました

歓迎会用に美味しい昼ご飯をたっぷり用意して待ってるそーです！まる^^

砂漠をしばらく走っていると・・・見えてきましたねー基地が^^
まーここが第二の国であり町になるんだよねー・・・新しい居場所
か・・・

家に残してきたモモちゃん（メスの猫でアメリカンショートヘアな
んだ）元気がな〜・・・

またイケメンの神様に会えたら保護を頼んでみよーっと

お、もう直ぐ舗装路だねー・・・やっと車が揺れなくなるよ

「おい！マコト！なんなんだこの道は！石畳じゃないぞ！」

「まったくゆれません！」

「道だけではなく この町の建物もすごい！」

「まーまー、落ち着いてね^^戻ったらみんなの歓迎パーティーもあるしね^^」

「む、パーティーとな！私達はその様な場所を着るドレスの持ち合わせは無いが・・・」

「へーきへーき^^そのかつこでOKだよー」

「そうなんですか？・・・」

「うん、あたし達だつてこのかつこだよ？気にしない気にしない^^」

国道16号を北上し 福生病院の先のゲートを右折つと・・・滑走路側に出て南下して・・・

車両格納庫前にとうちゃーく!

お! ジョンさんやみんなが格納庫前でお出迎えです^^

「おー^^ おかえり!・・・ごころうさん^^・・・みんな怪我はなかったか?」

「ジョン^^ レティ以下5名只今帰還しました・・・直ぐ報告をしますか?」

「硬くなるなよレティ・・・なんならタメ口でもいーぞ?^^ それとうれしい発見があった」

「はい、楽しみにしますね^^・・・で、うれしい発見って?」

「ここの参謀長の屋敷に露天風呂があるんだ^^ もつともヒューイから聞いたんだが・・・

すでに湯は沸かしてあるから女性だけで入ってくると良い^^

旅館みたいに湯船は大きいからみんなでゆったりと入れるぞ^^」

「やったー! お風呂だー! 3日ぶり〜〜・・・ふふふ!」

「こら、マコトはしゃがないの!・・・でもジャパニーズバスは最高よね!」

「うん! さあ、行くう!^^」

戸惑っている3人娘を車に乗せて・・・あ、べつのハンビーだよ^^
さっきまで乗ってたやつは荷物とか降ろさなきゃだしねー

さすがジョンさん着替えも用意してくれてました・・・

サイズはレティさんが大体の大きさを無線で知らせてたんだって・・・
さすがです！

下着は軍の支給品だけど服は福生の町で適当に持ってきたらしいよ
^^

明日は下着とかも町で探さないかねー・・・

脱衣所ではーっと服を脱いで・・・ありや？3人娘は戸惑ってるの
かな？

あらそうなの？・・・あのねーお風呂に入るのって初めてなんだっ
てー

貴族や王族くらいなんだってさーお風呂に入る人って^^

で、石鹸で体をこすりやって・・・わかった？それからこのシャンプー
ーで髪の毛を・・・

そうそう わかったね^^・・・

実際にあたしが身体を洗ってやり方を教えました・・・さあ！入る
ぞー！^^

「ふえ〜^^いい気持ち〜・・・」

「マコトったらオヤジくさいわよ・・・ふえ〜って^^」

「いいじゃん、それが醍醐味！」

「さ、みなさんも湯船に入って^^」

「……おじゃまします……」

「うむ……」

「はい……」

「「「おお〜気持ち良い^^」」」

「でしょ〜^^」

3人娘はめっちゃ喜んでます……レティはもともと慣れてるし
ロツテさんは休暇の度に
温泉旅行してたんだってー……ってロツテさん……縁に両手で
枕作って頭のせて
ふへ〜って感じでぐてーっとのびてますな〜……浮いてる
な……ちちがw……

「えい！（もにゅー！）」

「おう！メアリ！……あん！……な、なんで後ろからちちを揉
むですか！」

「うふふふふふ／＼／」

「いやいや！メアリさん！うふふ、じゃなくてですね・・・」

「うむ、良いではないかマコト・・・減るもんじゃないぞ？」

「いやいやリリス！・・・これ以上減ったら困るから！」

「ふむ・・・確かに少しばかりちいさげフンゲフン・・・」

「あー！今、小さいって言いかけたー！・・・もう！剣、教えてあげないよ！」

「いや、すまん！これ、この通りだ！」

とリリスは頭を下げるんですけど・・・

リリスはCくらいあるなー・・・メアリとケイトはDくらい？・・・レティとロツテはEとFはありそうだし・・・あ・・・目から汗がでてきた・・・

がんばれ！あたし・・・大きけりゃ良いってもんじゃない！・・・と思う・・・

あ・・・お湯でみなさんのがぶか〜んと揺れてたゆたってる・・・

う、うらやましくなんか無いんだからね！

だめだ・・・凹んできたw・・・

ううw・・・神様！あたしにも！ギブミーおぱーい！・・・

こーゆー格差社会には断固反対です！・・・orz

8話 涙のお風呂 個人的に胸の格差社会はきらいです！（後書き）

真琴「おつかれー・・・ってか最近 このネタ（胸）おおくない？」

レテイ「とゆーか、こればっかりね・・・」

ジョン「まー作者が貧乳ヒロイン好きだからなー」

真琴「ひ、貧乳ぢやないもん！」

レテイ「そうよジョン！マコトだって多少はあるのよ！」

真琴「た、たしよう・・・orz」

レテイ「あ、そんな意味じゃなくて・・・もう！ジョン！どーするのこれ！」

ジョン「すまんすまん・・・」

マック「レーション食べれば元気になるぞ？」

真、レ、ジ「・・・なるかー！！」「」

カミヤ「おーいファスト・・・約束のしっかり撮れたぞ^^」

ファスト「師匠！今はやばいっス！」

カミヤ「ん？見たがつてじゃん女子6人の入浴シーン^^」

真、レ、口、3人娘「・・・のぞきかー！！」「」

ファスト「師匠！にげるっス！」

カミヤ「ん？女の子達 いなくなっちゃったね？」

キュラキュラキュラキュラキュラ・・・

ファスト「M1A2っス！エイブラムスっス！師匠！にげるっス！」

真、レ、口、3人娘「・・・おまいら轢殺！！」「」

どーもです^^作者のM2-1015です^^

涼しくなってきましたねー皆様はお風邪など大丈夫でしょうか？

この小説は手探りで書いていますが表現とかむづかしいですねー
あらすじの通りに書いていくと

予定の文字数が2〜3倍になります

このままゆつくりと書いていこうと思います

なので皆様にも気長なお付き合いを宜しく願います^^

今回は歓迎パーティと町での物品調達ですかね？

それでは皆様の笑顔がさらに増えますように^^

では^^^ノ

9話 涙の王族 え〜！だ、だれがお姫様なの〜w！（前書き）

真琴「どうも〜^^」

レテイ「ハイ！^^」

ジョン「やったー！やっとなセリフじゃ〜！^^」

カミヤ「ふっかつ！」

真琴「前回戦車でふみつぶしたのに・・・」

レテイ「カミヤの生命力ってw・・・」

ジョン「ファストは瀕死だったな・・・」

真琴「のぞきは死刑！あたりまえ！」

レテイ「そこは賛成ね」

ジョン「まー俺は男だからある程度の気持ちは分かるんだが・・・」

レテイ「ん？」

ジョン「ジョークだよ？ジョーク・・・」

真琴「では！第9話はじまるよ〜^^」

9話 涙の王族 え〜！だ、だれがお姫様なの〜w！

「さあみんな！マコトを弄るのはそのくらいでね^^」

レティw・・・やっぱり弄いぢられてたんだーw・・・あたしってばw・・・orz

「さ、ここはレティにまかせて・・・もう上がりましょ！湯あたりしちゃうわよ^^」

レティとロツテさん・・・ニヤツとアイコンタクトとってる？

ロツテさんに連れられて3人娘は脱衣所へ・・・

レティがあたしに微笑んで声をかけてきます

「マコト、ジョン達と企画してたんだけど・・・3人娘の歓迎会であの子達を驚かすためにね
みんなで仮装してみようって事になったのよ^^」

「へ？仮装？・・・うん、それはいいかもね」

「でしょ？仕返しにびっくりさせてあげなさいな^^」

「うんー！」

ん？レティ何でそんなにニヤツとした顔してるんだ？・・・ん？
お風呂から上がってレティと2人で車で移動・・・おーさすが仕官

！個室なんですねー

んで、レティの部屋で着替えます・・・が、えーと・・・これ着るの！？

だって、ふりふりですよ？これってw・・・

「え！？ねえ、レティ・・・マジでこれ着るの？」

「うん^^リアが選んだんだって」

「リアさんが選んだんだ・・・でもこれって・・・」

「もんく言わない！・・・さあ、着替えて・・・お化粧とアクセサリもね！」

「・・・はい・・・」

うわ！・・・何？このピンクのドレス・・・まるでお姫様じゃん！
ティアラまで冠って・・・

うわーレティ！・・・化粧が濃いつてば！・・・真つ白な長い手袋・・・
真珠のイヤリング・・・

おう！ネックレスとブレスレットもかい！・・・ヒールも高いぞ？
髪の毛もセットアップですか・・・あー、もう好きにして！

レティは軍のフォーマルユニフォームですな・・・その帽子かっこいいね・・・

あら、サーベルまで装備するんですか・・・

着替え終わって外に・・・おう、ヒールが・・・よろけてしまう・・・

・
よろけながら苦勞して外に出ると・・・

・・・@!・・・は！びっくりです！こんなまで用意して・・・
でかいんです！長いんです！黒いんです・・・なにがって、
車ですよ！・・・（あれと勘違いした人はエッチだぞー・・・キャ
ツ^^）

キャ、キャデラックのリムジンです！フルスモークです！

窓が開いて・・・親父さん・・・そのドヤった笑顔　いいかげん止
めませんか？

おお！親父さんめっちゃフォーマルスーツですね

ファストも軍のフォーマルユニフォームで　さらに運転手ですか・・・

・
後部座席にレティと乗り込んで・・・広いですね・・・まるで動
く応接室ですね

おー冷蔵庫もあるー

「真琴、今後の打ち合わせだが　この国、ヨコタ国と呼ぶが、俺が
王様で真琴が姫様な^^」

「まあ、こんなを着せられた段階で予想はついたけど・・・」

「んでジョンが宰相でレテイが將軍だぞ？良いか？・・・それでだ
真琴は姫なんだから
言葉使いに気をつけるんだぞ？」

「うん・・・後のみんなは？」

「うちの連中はみんな貴族で軍と政治の要職つて事にした^^」

「3人娘はどうするの？」

「ロツテとリアに着替えを頼んであるからへーきだろ？^^」

「ふん・・・ま、がんばるか！^^」

と、のーてんきにも この時のあたしは3人娘にとつきりを仕掛け
る方だと思っていました

えー！油断してましたとも！

リムジンが車両格納庫側のパーティ会場に着きました

ファストが運転席からサツと降りて後部座席のドアを優雅に開きます
ありゃーレッドカーペットまで用意したんですね・・・

まず、親父さん次にあたしとレテイが降ります
レテイがあたしの横に立ち手を取ってくれます

3人で優雅にしずしずゆっくり歩いて進んで行くと親父様が立ち止
まります

ジョンさんが大きな声で・・・

「ヨコタ国 国王陛下ヨシハル・カミヤ様、同じくプリンセス マ
コト・カミヤ様・・・御入場！」

チャキーン！

おお、みんなフォーマルユニフォームで一斉にサーベルを抜いて顔
の正面に構えてる！

背筋伸ばして・・・さすが軍人ですね

さーて3人娘はどこにいるのか・・・いたいた^^

おーシツクでかわいいドレスですな・・・3人とも似合ってるね^^
でもさ、ふふふ^^3人娘 口をあーんぐり開けてめっちゃおどろ
いてるぞ^^・・・ぷぷ！

ファストつたら今にも噴出しそうね^^あれ？リアも笑いをこらえ
てる？

さて、からかうとしますかね^^・・・さーて すまし顔して・・・

「本日は ご無理を言っ て我が国に来て頂き真に有難う御座います・
・・・歓迎の宴ですが

粗末では御座いますが御食事をご用意致しましたので ごゆるりと
ご歓談くださいね^^」

と言って優雅にニコツと微笑んだあたし・・・ぷぷ・・・あー面白
い！固まっちゃってるよ！

これってば病み付きになりそう！^^

Side 3 人娘 & ロツテ + リア

「さあみんな！マコトを弄るのはそのくらいでね^^」

「さ、ここはレティにまかせて・・・もう上がりましょ！湯あたりしちゃうわよ^^」

とレティさんとロツテさんに言われてお風呂を後にします
脱衣所に入るとたくさん服がありました

ロツテ「好きなの着ていいからね^^ほしかったら好きなの持ってつてもいいわよ？」

メアリ「え！こんな高そうな服をもらっても良いのですか！」

リリス「うむ、ほんとによいのか？ロツテ殿・・・」

ケイト「うれしいですけど・・・」

ロツテ「遠慮しないで^^まだあるし・・・それに直ぐパーティードレス着てもらおうから」

リリス「む？マコトは普段着で良いと言っていたが・・・だめなのか？」

ロツテ「えーと、ね この国のお偉いさんがお目通ししたいんだっ

てさ^^」

ケイト「それでは仕方ないですね・・・」

リリス「うむ」

ロツテ「じゃ、着替えたら行くわよ^^」

ドレスや靴、アクセサリー等が置いてある部屋へ連れて行かれます
部屋には1人の女性の軍人さんが待っていました

リア「私はリアです 軍医助手ですが簡単な外科手術は出来ますよ。
・・・よろしく^^」

早速ドレスアップです

みなさんはこんな高級なドレスや靴は着た事がないそうです
お化粧品も初めてです

アクセサリーの精密さに驚いていました

ロツテ「これもまた着ることがあるだろうし 今日の記念に貴方達
にあげるわね^^」

え？このドレスやアクセサリーで平民なら一財産ですよ！？
みんなが躊躇ってます

リア「いいのいいの、その辺に有ったやつだから・・・気軽にもら
ってね^^」

みんな感謝しています・・・やっぱり女の子ですね

メアリは黄色いドレスでリリスは濃いブルーのドレス、ケイトはエメラルド色のドレスです

準備が出来たのでパーティー会場へ向かいます

会場は車両格納庫側の芝生です

車から降りるとたくましい男性がエスコートをしてくれます

ジョン「私はジョンと言います 皆さんの歓迎パーティーを企画しました・・・」

あ、自己紹介は後で^^もう直ぐ国王陛下がいらっしゃる
のでその後には^^」

メアリ「じ、じ、じ、じじじくくく・・・」

ケイト「メアリしっかりして！ここに国王陛下がいらっしゃるんですね？」

リリス「うむ、それでドレスか・・・」

ジョン「まあ、陛下といっても気さくな方なので心配は無用だよ^^」

ジョンさんは心配は無用と言ってくれてますが みんな緊張してしまします

黒塗りの長い車がきました

ドアが開きます

降りてきたのは・・・なんと！めかしこんだカミヤさんです！
つづいて降りてきたのは・・・レティさんに手を引かれたお姫様な
のですが・・・

ピンクのドレスにティアラがキラキラと光っていますけど・・・

は？・・・マコト？・・・???

え？え？え？・・・みんな頭の中がパニックになっています
完全に固まってしまいました

レッドカーペットの上を優雅に歩いてこちらに來ます

3人で優雅にしずしずゆつくり歩いて進んで行くと親父様が立ち止
まります

そしてジョンさんが大きな声で・・・

「ヨコタ国 国王陛下ヨシハル・カミヤ様、同じくプリンセス マ
コト・カミヤ様・・・御入場！」

チャキーン！

みなさんが背筋を伸ばし 一斉にサーベルを抜いて顔の正面に構
えています！

プリンセスが近寄ってきます

もう一度お顔を拝見しますが・・・やっぱりマコトさんです！

「本日は ご無理を言って我が國に來て頂き真に有難う御座います・
・・・歓迎の宴ですが

粗末では御座いますが御食事ををご用意致しましたので ごゆるりと

「ご歓談くださいね^^」

と言って優雅にニコツと微笑んでくれました

でもみんなはパニックです

(メアリ：うわあああ〜ど、ど、どーしよー！私ってばおっぱい揉んじゃってるし〜w！)

(リリス：ど、どうしよう！今朝マコトをたたき起こしてしまってるぞ！？)

(ケイト：高貴な生まれかもとは思っていましたが・・・王族のお姫様だったとは！)

((3人娘：これは、不敬罪で打ち首ですか！？))

そんな3人をよそに マコト姫は天使のような微笑をみんなにむけていました^^

おほほほ^^

S i d e 真琴

固まってる固まってる^^うん、たのしいね^^
親父さんがえらそーにしゃべります

「苦しゅうないぞ・・・我が姫と友好を築いてもらい あいすまぬ・・・これからも良しなに^^

そこに居るのはジョン・フレデリック、わが国の宰相をしておる・・・
レティシア・フォンダは知っておるな・・・彼女は国防の將軍を務めておる・・・
他の者もわが国の重鎮だ・・・主に政治や軍、近衛などを任しておるぞ

ま、もつとも我ら全員が戦士だがね^^」

それぞれ親父さんから紹介される度にきれいな礼をしてるよ！

みんな魂の抜けた様な顔しちゃって・・・ぷぷぷ^^

あー・・・だめだ、笑っちゃいそうだよ・・・

あははははは！・・・あー喉が渴いたー・・・お茶でも飲もうかな・・・

「ではみなさま 私はあちらで所用がありますので・・・ごゆっくり(ニコツ^^)」

あたしは席をはずしてお茶を飲んで・・・お？親父さんが近寄ってくるぞ？

お茶でも飲むのかな？

「真琴！うまく演じてたな^^」

「^^^^おもしろかったー」

「これからもうまく演じてくれよ？」

「へ？これからも？・・・なんでさ」

「この設定はずっと続けるんだぞ？ヨコタ国とか真琴や俺が王族とかね^^」

「ぶー！・・・お茶吹いちゃったじゃん！」

「聞いてないよ！」

「車のなかで俺が言ったろ？」

「・・・言ってたね・・・確かに」

「だろ！だから真琴はお姫様^^」

「・・・」

あたしが・・・姫・・・プリンセス？・・・お姫様なの？・・・これからずつと？・・・

いやー！あたしも騙されてたのw・・・orz

いやいや！まてまて・・・落ち着けあたし！

あたしはレティの所へ小走りで駆け寄って・・・

「レティ・・・どーゆー事なの！？」

「ん？なにが？」

「3人娘をびつくりさせるんじゃないの!？」

「うん、びつくりしてたじゃない^^どつきり成功ね!・・・あら、まだ固まってるのね？」

「・・・そーだけどw・・・あたしがお姫様って・・・」

「あら?カミヤから聞いてないの?」

「・・・聞いた・・・」

「で、マロトは拒否したの?」

「・・・してない・・・」

「じゃ問題ないじゃない^^」

あれー?あたしってばはめられた?・・・よし、ジョンさんにも聞いてみよう!-

「ねージョンさん・・・」

「なんで御座いましょう、姫様^^」

「もう!・・・この設定ってさ いつまでやるの?」

「デフォですが?・・・なにか?」

「いやいや！マジでなの？」

んでジョンさんが事のあらましを説明してくれたんだけど・・・
今後の他国との交渉や移民の世話をするにあたってヨコタ国には王族が必要なんだって・・・

で、われわれ親子が適任らしいんだけど・・・これは全員が賛成したんだってさw

んー・・・そう言われると断れないなあ・・・

確かに親父さんってば交渉事も口八丁だし？あたしも王族を前にして物怖じしないしw・・・

「んじゃ、正規の場だけで良いんなら堅苦しいこと引き受けるってのはダメ？」

「んー・・・まあ、それで良いかな・・・マコトも王様カミヤの面倒で大変だろうしな^^」

「OK^^んじゃあたしや固まってる3人娘を起こしてくるね^^」

「おう！うまくやれよ^^・・・あそつだ！マコトちよつといいか？」

「なに？」

「あの3人うちの国に取り込んだらどうだろう？・・・ちよつど幹部が不足してるしな・・・

レティの報告だと結構やり手みたいだし？・・・それに基地の結界

をすんなり入れたって事は

俺達に害が無いって事だろ？・・・マコトが良いならまかせろぞ

「

「んー・・・わかった^^でも無理強いはしないよ？」

「OK、それでいいさ」

まあ、完全に納得はしてないけどなんとかなるでしょ？・・・多分？
さて、お姫様に石にメテューサされて固まった3人を元に戻すかね？^^

「おーい！生きてるかー？」

「はーマコトさん・・・お姫様だったんですね？」

「うむ・・・今朝は大変失礼をいたしました！（ペコッ！）」

「まさか王族とは・・・失礼をいたしまして・・・」

「あはははははははは！・・・もう、みんなつたら^^タメ口でい
いんだよー」

「」「」「？」

「昨日言ったでしょ？歳も近いし敬語は無しだつて^^」

「うむ・・・しかしですん」うん、王族命令！^^」・・・うむ・・・
「」

「うん^^あたしとみんなの仲でしょ？友達じゃん^^」

「うむ、王宮などの正式な場所以外は普通にしよう・・・約束する！みんなも良いかな？」

「いいですけど・・・マコトさん・・・そのドレス姿とっても素敵です！^^^^」

「マコトがそれで良ければ私も良いですよ」

「ありがと^^みんなのドレス姿も似合ってるよ^^」

「リア殿が私達にプレゼントだって言ってたがもらってもいいのか？マコト」

「うん、リアさんが言ってたんなら良いんじゃないかな？」

「こんなすてきなアクセサリーにドレス・・・家宝にします！マコトさん^^^^」

「売れば一財産・・・売らないけど」

それから多少の脚色？をしてあたし達がここに来た理由を話したんだけど・・・

もうね、神様から直接頼まれたとか話したら・・・みんなってばさマコトはなんなの！って・・・ふつうの？人間ですが？なにか？^^

さてさてお腹も減ったしみんなで食べ物たべよう^^

自己紹介をしながらお食事です・・・3人娘にこの国は現在13人
だつて教えたたらたら

驚いてたけど・・・この13人でどんな怪物でも倒せるし、たとえ
国だつて向つてくるなら

全部やつつけられるよつて言つたらさ めっちゃ驚いてただけど
ね^^

同年代と食事しながらのおしゃべりは楽しいです！まる^^

さてさて・・・王都へ持つてくメアリの税と私達の王様への献上分、
小遣い稼ぎの商品と

あと、リリースのカタナを探しに行かないとねー

軍用トラックにみんなで乗ります・・・相変わらずシートはダメダ
メですなw

よし、まずはカタナ探して骨董品屋さんかな？

「リリースここにカタナがあるんだけど・・・ちょっと見てくれる
？」

「うむ、・・・ほう！いろいろあるな^^」

「好きなので表で素振りしてみたら？予備も入れて2〜3本選
んでねー」

「うむー！」

リリスはこれで良いとして・・・ケイトとメアリも何か選んだらどうかな？^^」

「私もいいのですか？」

「いいよー」

「私は護身用の小さめのものが良いんですが・・・マコトさん、選んでください^^／／」

「んー短刀か脇差しかなー？・・・メアリ！この辺にあるよー」

「マコトさん・・・この赤い鞘のはどうでしょうか？」

「脇差しねー・・・良いんじゃないかな？・・・予備はどうする？」

「こっちのナイフみたいなのにします^^」

「うん短刀だね^^・・・ケイトは？良いのあった？」

「これってなんです？マコト・・・この十字みたいなのは？」

「ああ、これはね、手裏剣って言ってね投げて使うの・・・「じやってね！」」

あたしは壁に向かって手裏剣を投げます！・・・シユカツ！・・・うん、ナイス！

「ほう・・・面白い武器ですね・・・でも扱いがむづかしそうです・・・」

「だねー……ケイトはこのタイプのカタナが良いんじゃないかな？」

「刃渡り70cmくらいですね……うん、良いですね　これを基準に2〜3本選んでみます」

それぞれカタナも決まったし……てきとーにここにある刀は車に積んどくかな^^

さて次は……貴金属店だね

ありゃー……みんな驚いてるねー

「マ、マ、マ、マコトさん……ここは宝物庫ですか！すごい！宝石がいっぱい！」

「そんなところかな？メアリの税の足りない分を選んじやって^^」

「え！……多分その小さい物1個で十分だと……だってこれ金剛石ですよね？」

「金剛石？……ああダイヤモンドね^^そーだよ……でも1個で良いの？」

「十分です！」

「そうだ！みんな欲しいのあったら持ってっていいよ^^」

「「「え!」」」

「その代わりにお願いがあるんだけど・・・いいかな?」

「なんででしょう?」

「うん、うちの国で働いてみない?」

「「「えー!」」」

あたしは今の現状を教えて将来の移住計画にみんなが必要だと話したんだ^^

メアリは村に兄がいるので村長の許可も多分大丈夫らしいです
冒険者の2人は未開拓地の冒険が出来る事と我々をもっと知りたいこと、

あと、^{カタナ}剣をもっと教えて欲しいそうなのである程度の期間なら良い
そうです

勧誘成功!^^^^良い仲間ができました!まる^^

王様へのおみやげも宝石とか時計を持ったし・・・

後は・・・100円ショップで工具とかソーラー電卓と・・・ノートとペンもだね

テンプレでビー玉とビーズをたっぷりといただいて・・・
この世界でのお小遣い稼がなきゃね^^

お!そうだった・・・たしかここの軍装品屋さんで売ってたよね・・・

・あつたあつた！

そうですエアガンです！拳銃とライフルを20丁づつと・・・弾とガスとかもね^^

これでいいかな？・・・うん、足りなかつたらまた来ればいいかね
^^

基地にもつどつてと・・・次は宿泊場所を決めないとねー

おう、もうジョンさんたちが車両格納庫から近い所の住宅を接收してましたか！

さすがですねー^^

「んじゃ、3人はこの家を使ってね^^使い方が解んないと思うんで
今晚はあたしも泊まってあげるからね^^」

「マコトさんありがとう！・・・おとまり・・・キャツ！^^／
／」

「うむ、・・・マコト 晩飯前にカタナの稽古をしないか？」

「いいよー^^1度 格納庫にもどつてからね・・・マックさんも
久しぶりに鍛えてやるか！」

トラックで格納庫前に戻ります・・・ん？・・・どーしたんだろ？
親父さんがこつちを見て怪訝そうで悩んだ顔をしていますなあ・・・

「兄貴、どつたの？」

「・・・真琴・・・俺達はものすごく大事な事を忘れていたんだ！
これはやばいぞ！」

え？・・・親父さんがヤバイって言う事は本当にまずいぞ！？

「真琴がトラックで帰ってくるのを見て思い出した・・・マジでま
ずい事だw・・・」

「な、なに！まずい事って！？」

「こつちの世界に来るときにトラックに轢かれてn「大ばかもの！
(パカーン!)」「グヘッ！」

「はーはー！何かと思えば・・・テンプレかい！」

「だ、大事なことだぞ？・・・あと、そのハリセンは痛いんだ」「ギ
ロツ！」「さーせん！」

はーw・・・こいつが王様だぞ？・・・いいのか？

もう、夕ご飯食べてお風呂入ってぐっすり眠りたい・・・
3人娘も「あ、また始まった」みたいな顔して・・・なれたもんだ
ねw

あたしの平穩っていつ来るんでしょう・・・

神様でもなんでもいいから助けて！・・・・・・・・orz

9話 涙の王族 え〜！だ、だれがお姫様なの〜w！（後書き）

真琴「おつかれさまです・・・」

レテイ「ごめんねー騙すつもりではなかったのよ・・・」

ジョン「そうなんだよ・・・いや、すまんね」

ロツテ「あら、でもとっても似合ってたわよ？ドレス^^」

リア「あたしが選んだんですよ！^^」

ファスト「でも姉さんに黙っとけって言ったのは師匠ッス」

真琴「・・・なんだって？」

カミヤ「ぷぷ・・・真琴のドレス・・・ピンクの・・・ぷぷぷ！」

真琴「やつぱりおまいかー！」

カミヤ「あはははは！真琴が・・・ピンク！あはははは！」

カチャカチャ・・・

ジョン「いや！TOWはやばいって！」

ファスト「姉さん！対戦車ミサイルっスか！？」

レテイ「さあ、逃げましょ^^」

ロツテ「全力でカミヤから離れましょ！」

真琴「おまいの血は何色だー！！！」

まいどです^^作者のM2-1015です^^

こここの所 涼しかったので鼻風邪っぽい症状ができました
皆さんは大丈夫でしょうか？

まあ、寝不足もいけないんでしょうけどね^^

さて今回は魔法の訓練といよいよ王都へ出発ですかね？

それでは皆様にもっと笑顔が増えますように^^
では^^ノ

10話 涙の魔力 おおすぎる魔力は危険がいっぱいです!?(前書き)

真琴「どうもです!^^」

レテイ「ハイ!^^」

ジョン「オース!」

カミヤ「・・・出番へってないか?」

真琴「静かでもいいじゃん^^」

メアリ「その分私がんばりますマコトさん!」

真琴「いやいや・・・メアリのがんばるって・・・」

リリス「最初の登場では私はさっそうとした剣士だったよな・・・」

ケイト「それはないな・・・」

レテイ「なんか3人娘に出番を奪われだした?」

3人娘「・・・気のせいです!」

真琴「それでは10話のはじまりです!^^」

10話 涙の魔力 おおすぎる魔力は危険がいつぱいです!?

親父さんが王様って・・・ほんとにへーきなのかな？

まあ、なんとかなるで・・・なつてほしいなーw・・・orz

さて、気を取り直してリリスと訓練しましょーかね・・・
そっだ！その前に・・・せっかく持つてきたんだし・・・

「マックさーん、ファストー^^カタナ持つて来たから好きな選
んでー^^」

お？・・・みんな興味あるのかな？全員来ちゃったよ・・・

「マコトこのカタナはどうしたんだい？」

「あ、マックさん^^古物商のお店で見つけたんだよ^^」

「俺達ももらって良いのか？」

「私もほしいわ!」

「いいよー みんなもどっぞー!^^」

おお！マツクさんとファストは真っ先に選んでるね・・・やっぱり太刀ですか・・・

およ？ヒューイさんとベルさんのヘリコンビは小太刀ですか・・・渋いの選んでるね・・・

モースさんとフレックさん、ベツカーさんは刀ですね^^
ロツテさんとリアさんは脇差ですか？はい、どーぞ^^

「ジョンさんとレティはどーする？」

「私もほしいわね・・・何がいいのかしら？」

「俺はあまりもんでいいぞー^^一番後には福が有るってカミヤが昔言ってたし^^」

「そっか^^んじゃレティこれ持って・・・どう？バランスは？」

「んー・・・うん、丁度良いわね・・・これにするわね^^」

「んじゃ俺はこいつで・・・おお、こりゃ良いカタナだな」

「あ、ジョンさん　あともう1軒カタナを売ってる所があったと思
うんですけど

明日にでもこっちに持って来ませんか？あと宝石屋さんとかだつてあるしね^^」

「・・・そうだな・・・雑貨は別としても・・・貴金属や食料等は
手分けして運んじまうか？」

「あ、そうだ！みんな魔力があるんだからケイトに魔法も教えてもらおうよ！^^」

「うん！そうだな・・・んー明日は取り合えずマコトたち女性が教わってくれないか？・・・」

俺達は物資を町から回収してくるから」

「おっけー^^・・・あ！お願い！・・・か　ばえびせんも持ってきてね？」

「H A H A H A H A H A！相変わらず好きだなー^^OK持つてくるさー！」

明日の方針も決まりましたね・・・

なんて事をやってたらもう直ぐ夕ご飯ですね・・・リリースごめん！教えるのは明日ね？

さて、ごはん^^今晚はハッシュドビーフとアンチョビのピザ！シーザーサラダですね^^

お、みんなお酒も飲んでるね・・・いいな^^・・・

よし！あたしもーらおっと^^

ベッカーさんに言ったらシュタインベルガーを数本くれました！

これよ！これ^^ドイツの白ワイン！うん、冷えてておいしい！甘口で飲みやすいしね^^

およ？3人娘も飲みたそうだねー

（皆さん！飲酒は20歳を過ぎてからですよ？ここは異世界なのでOKですが^^）

「メアリ達も飲む？おいしいよ？これは葡萄のワインだよ^^」

「え？ワインが透明なのですか？マコトさん・・・普通はくすんだ濃い赤色なんですけど・・・」

「うん、これは白ワインって言ってねー・・・ま、とりあえずどうぞ^^」

「・・・！・・・おいしいですー！」

「うむ・・・甘みがあってうまいなー！」

「おいしいですね・・・これは・・・さすが王族が飲むお酒ですね」

「いやいやいやいや！これあたし達の世界ではちょっと高いけど普通の酒だから！」

と、楽しくみんなで飲み食いしてました^^・・・はずなんですけど・・・

30分後・・・

「ああーマコトさん！（すりすり／＼／＼）」

「うむーマコトー酒がうまいなーあははははー！」

「ふむ……おいしいです……もっとマコトも飲むです」

「あは、ははは……」

1時間後……

「うふん……マコトさん（すりすりすりすり）／／／」

「うむ！マコト！飲んどるか！酒がうまいな！がっはっはっは……！」

「ふむむ……おいしいです……マコト！飲むです……！」

「あ、は、は、は……」

2時間後……

「いやん……マコトさん……わたしにもすりすりしてくだ
さい！／／／」

「うむ……うむ？……マコト！酒がないぞ？もっと持って来
い！だっはっはっは……！」

「な……んですと……マコト！わたしの酒が飲めないと……
もっと飲むです……！」

「……だめだこりゃw……orz」

その後、酔っ払って寝てしまった3人娘をみんなで部屋へまで運んでベッドに放り投げました
あたしもベッドに入って……

「zzzzz……いゃん……マコトさんったらw……エッチw……zzzzz」

「ぐーぐーぐー……うむ！……マコト！……酒だ！……ぐーぐー」

「……むにゃむにゃ……もっとのむです！……むにゃむにゃ……」

「……みんな寝言もつるさいよ！」

真琴はなかなか眠れませんでした……
もう二度と3人娘に酒を勧めるのは止めようと真琴は本気で神様に誓いましたとさ^^

「マコト・・・起きてください」

「うーまぶしいw・・・」

「こんばんは、マコト^^」

「あ！貴方は！（イケメンの神様だ！）」

「そうですよ 以前お会いした神です」

「どうも・・・あれ？ふつーに喋れるぞ？寝起きなのにあたしへー
きだ！？」

「それは魂だけここに来てもらっているからです^^身体はベッド
の上ですよ^^」

「そーなんだ・・・魂だけ・・・で、何の御用ですか？」

「ええ^^移転した町の分の結界を少し広げました・・・ジャング
ルとの境界までです」

「おお！それは有りがたいです！危険が減ります！」

「いえいえ^^この世界を救って頂くんですからお安い御用です
・・・」

あ、そうだ まだ名乗っていませんでしたね 私はアイテール・・・
アルでいいですよ^^」

「アルさんですね・・・（ギリシャ神話の原初天空神様ですか！？）
分かりました」

「では、また^^」

「あ！待ってください！・・・アルさんにお願ひがあるんですが・・・」

「はい、何でしょうか？」

「えーと、あたし、猫を飼ってたんです　モモって名前なんですけど・・・」

「元気ですかね？・・・できれば会いたいです・・・」

「はい、分かりました^^然るべき時にこちらへ連れて来ます・・・直ぐは無理ですが・・・」

「そうですね・・・それまでは私がこちらで面倒を見ておきましょう^^」

「はや！でもアルさん！ありがとう！^^」

「さて、そろそろ戻らないと上司がうるさいんですよ・・・」

「上司ってこの世界を作る時に失敗しちゃった方ですか？」

「そーなんですw・・・ああ、上司はワカントンカって名前なんですかね・・・」

「ワカントンカ！？・・・（インディアげんげん・・・ネイティブアメリカン！？の・・・」

それもスー族の大精霊神様！？)・・・また、マイナーな方が上司なんだねー」

「そーなんですよw!・・・もうね、せこいし、大雑把だし、うるさいし、肩は揉ませるし・・・」

「は？そうなんですかw・・・うちの兄貴とどっこい？」

「いえいえ！こっちの方が酷い・・・」

「いやいや！うちの兄貴の方が・・・」

なーんて朝まで愚痴の言い合いっこをしてましたとさ・・・
この件でアルさんが上司に怒られたのは また別の話です^^まる！

さて、朝ですなー・・・あたしゃ寝不足気味なんですけど・・・
・・・でも、モモに会えるんだー・・・

「ぼーーーーーーーーーーーーーーーー・・・」

ぼーっとそんなことを考えながら周囲をゆっくり見渡します・・・

リリースはまだ寝てますね・・・あらあらwベッドから落ちかけて・・・寝相が悪い？

ケイトも・・・うん、寝てるね・・・ピーン！と気を付けの姿勢で・・・疲れないのか？

でも、まあ2人の事は良いとして・・・うん、問題はこつちだw・・・

「えーと・・・メアリさん？」

なぜに貴方はあたしに引っ付いてる？・・・しかも全裸で・・・すつぽんぽんだよ！・・・

は！あたしも全裸？・・・なぜに！・・・いつ脱いだ？・・・んん？

「メアリ！ちよつと起きて！・・・起きてっつてばー！」

「・・・は〜い・・・マコトさん・・・おはようです^^／／／」

「おはよう・・・っつて、なぜあたしのベッドにいるの？・・・で、なんであたし達全裸なの？」

「え！はだか・・・キヤーツ！！！！／／／」

「な、なにになにー！」

「キヤー！キヤー！（飛び込み！抱き！すりすり）キヤー！・・・やわらかいですw／／／」

「な！胸に顔・・・すりすり・・・あん！・・・しないで・・・んんw・・・」

「キヤー！（すりすりすりすりぺろっ）／／／」

「あうw・・・メアリ！・・・だめ〜w！」

「2人共うるさいです！」

「「ごめんなさい・・・」」

「ぐ〜ぐ〜ぐ〜・・・」

ケイトが止めてくれて助かったー・・・リリスは・・・『ぐ〜』
ってw女の子のようにw
さて、メアリの言い訳を聞かないとね！

「メアリ！何でこんな事すんの！」

「え、えーとですね　夕べご飯を食べてお酒を飲んだ所までは覚えてるんですが・・・

寝苦しくなっって起きてみたらベッドの中に居て・・・服を見たら昼間着ていた服だったんで

着替えようと全部脱いだら・・・隣のベットにマコトさんが寝てて・・・マコトさんも

寝苦しそうだったんで服を脱がしたんですが・・・ですがまったく起きなくて・・・

つい、あまりにもマコトさんがかわいかったので潜り込んで抱きつ

いて・・・」

「それだけ？」

「その後は・・・寝たんですが、あまりにも良い匂いだったのでいろいろと堪能して・・・」

ああ、ささやかながらやわらかい双丘！その中心のつぼみがだんだん固く大きくなって・・・

フトモモの付け根もだんだんと湿り気をおびて・・・あまそうな蜜がしとどに流れ・・・

だんだんと花弁のつぼみもほぐれて開いて・・・ああ！私は蜜だらけの花弁に顔を近づけて

そのまま開いた花弁に舌をからm「ストープ！」はい？・・・」

「あーもう！ここは『ノクターンノベルズ』じゃなくて『小説を読むもう！』なんだからねw

だからそれ以上はR18倫理に引つかかる！」

「あ、あーるじゅうはち？」

「そこは突っ込まないで！・・・それより！メアリはそんな事したの？あたしに！」

「いえ、全部夢ですよ？・・・マコトさんの布団に入った後はねちやいました（テヘッ^^）」

「・・・・・・・・」

メアリw・・・」このw・・・orz

さて、メアりに正座で説教も（約1時間）したし、みんなも起きたし・・・
シャワーと洗面所（歯磨きとか）の使い方を教えて・・・朝ごはん
にしましょ！

カリカリベーコンとスクランブルエッグ、コンソメスープとコー
スロー^^

りんごのジュースも用意してっど・・・あとはクロワッサンとコー
ヒーか？

あたしが作り始めたらリリースとケイトがマコトって料理できるんだ
ーと驚いてました・・・

あたしは ふふん！と胸をそらせます

メアリは お料理できるマコトさんも素敵！とか言っていましたか・・・
・無視！^^

「さあ！食べましょ」

みなさんおいしいって完食です！・・・へへんっだ！^^

今いるここは滑走路の北の端です

これからみんなで魔術の練習ですね^^

メアリはリリスに剣術を教わります

ケイト先生曰く、イメージが大事なんだそうです
まず、体内の魔力を感じる事から始めます
魔力の放出ができてから それぞれの属性にあつた魔法を覚えるの
だそーです

訓練をはじめて5分で地球組はギブアップ・・・なぜって？
身体のどこに魔力があるのか、何が魔力なのか解らないんです・・・

それではとケイトさんが1人づつ手を取って重ねます
魔力をケイトさんから流し入れて その後魔力を吸い出すそうです
その出たり入ったりしている流れているものが魔力なんだそうです

あたしもケイトさんと手をつなぎ・・・お、お、お！・・・これか？
なんか身体の中にうごめくと言うか 『もじよもじよ』するものが
あると言うか・・・
言いづらいですがなんかあります！

みんなも何かあるのは解つたみたいですね^^

ん？太陽が真上つて事はそろそろお昼ですかね・・・お腹がへりま
した・・・

お？ハンビーが来ますね？・・・あ、マックさんだ！・・・おーい
^^

マックさんがお昼ご飯を持ってきてくれました・・・でも！
おっさんおっさん、そのレーションは却下ですよ！・・・
ん？ちゃんと別に持ってきてるじゃないですが！・・・マックさん

てばおちやめさん^^

基地内には元々アメリカチエーン店のハンバーガー屋さんとかコス屋さんがありますが

そこで作ってくれたんですって^^

(ほんとにあります・・・ただしアメリカ味ですがw)

あたしゃアメリカ製のハンバーガーはあまり好きではないのでタコスを食べます

うん、おいしい！ウーロン茶もよく冷えています^^

お腹も膨れて練習開始ですかね

夕方近くになってみんな魔力の放出が出来るようになりました
ケイトが手本で北の砂漠に向かって魔法を使います

「燃やし尽くせ！ファイヤーボール！」

のばした右手の手のひらから直径20cm位の炎の塊が飛んでいきます！・・・すごいですね！

レイもやります 直径40cm位の炎の塊が飛んでいきます！

ロツテとリアは30cm位の炎でした

ケイト達もみなさんすごい！って言ってます

いよいよあたしの番です！

そー言えば神様があたしの魔力量はすごいって言ってましたね・・・
手を抜きますかね・・・

んじゃいきますか・・・えいっとな！

ヒュー・・・ドカーン!!

・・・@@・・・えーと?・・・どうしますかね・・・この
空気・・・

直径2m位の炎の塊が飛んでいきまして・・・えーと・・・
1kmほど先の砂漠に100mほどのクレーターが出来ちゃいまし
た!

最弱のつもりだったのにw・・・

みーんな固まっちゃってますね・・・どーしましょ?

あ、レティにロツテさん、リアさんも・・・そんな目で見ないで!
ケイト! やれやれって感じでこめかみを押さえながら頭を左右に振
らないで!

リリスはさすが王族だっとうなずいてるし・・・違うから!

メアリは・・・うん、きらきら目してるね・・・

あれ?・・・でも、これって親父さんも出来るって事ですよね?
最弱の魔力であんな事を!?

ああー、そうだ! 神様に今から親父さんの魔力を元に・・・って出
来ないんだっ!

うw・・・はやまったのかなw・・・あたしのばかー!

モモちゃん！早く会いに来てもふもふであたしを慰めて！・・・

・O R Z

10話 涙の魔力 おおすぎる魔力は危険がいつぱいです!?(後書き)

真琴「お疲れです¥(><)ノ」

レティ「ほんとお疲れ様ね・・・マコト」

ジョン「だねー」

カミヤ「俺が居なくても代理がいつぱいだな」

マコト「そんな代理はいらん!」

メアリ「そうですよ!マコトさんに失礼ですよ!??」

リリス「うむ?そーなのか?」

ケイト「・・・こいつらわかってない・・・」

ジョン「さて、俺はマコト達が持ち出したM1タンクをかたずけるかな」

カミヤ「そうだ!マコトのピンクのドレス姿の写真を等身大に引き伸ばさなくては!」

真琴「え!写真なんて撮ってたの!??」

メアリ「私にも下さい!」

カミヤ「ははははは!では、サラバじゃ!」

メアリ「待つて下さい!私にも等身大の写真を!・・・」

真琴「ジョンさんまつた!・・・その戦車かして!」

ジョン「やれやれw・・・」

真琴「高速徹甲弾ってどれ?」

ジョン「それがそうだが・・・劣化ウラン弾だぞ?1発70万円するんだが・・・」

真琴「くたばれ!兄貴!」

どうもです^^作者のM2-1015です^^

いやー登場人物が勝手にあばれてしまいました作者を困らせています

とくにメアリ達3人娘なんですが・・・

もっと地球組みに活躍させたいですね^^

でも王都まで行くとさらに変な人が・・・ネタバレはやめますね^^

次回はやつと序章の最後です？たぶんですが・・・

それでは皆様の笑顔がたくさん増えますように^^

では^^ノ

11話 涙の魔法 あたしだって彼氏が欲しいんだもんw(前書き)

真琴「皆さーん！お元気でしたかー？^^」

レテイ「どーもー！レテイちゃんです！^^」

カミヤ「よっちゃんです！」

ジョン「みんなテンション高けーなw・・・」

真琴「うん^^・・・それと兄貴！よっちゃん言っな！」

カミヤ「いいじゃんか まこりん^^」

真琴「だめ！あとまこりんも言っな！」

メアリ「・・・まこりん・・・良いです！／／／(うっとり)」

真琴「ほらー・・・こうなっちゃうんだからw・・・」

リリス「うむ、プリンセスまこりん・・・魔女っ娘みたいで良いで

はないか^^」

ケイト「・・・火に油を注ぐって知ってる？リリス」

レテイ「さ、さー今回のお話をはじめましょ^^」

ジョン「だな・・・さ、マコトたのんだぞ？」

真琴「うw・・・じゃあ始めまs・・・ん？またか？」

3人娘「・・・みんなー11話はぢまるよー^^」

11話 涙の魔法 あたしだって彼氏が欲しいんだもんw

「あは・あはは・はは・・・」

乾いた笑いでごまかし（みんなが注目してるね）・・・やっぱり無理でしたw・・・

ケイトが難しい顔してこっちに来るしw・・・やれやれw・・・

「マコト・・・皆さんのファイヤーボールの威力もすごかったです
が・・・私はあそこまでの
範囲攻撃が出来るファイヤーボールを見たことが無いです・・・
だいたいファイヤーボールは単体攻撃魔法ですよ？
しかも、みなさん全員が詠唱無しとは・・・あなた達はいつたい
何者なのですか？」

あたしはロツテさんとリアさん それにレティに対して肯いてアイ
コンタクトをします

メアリとリリスは心配そうにこっちを見えていますね・・・

「ごめんねケイト・・・あたし達も良く解ってないんだ・・・昨日
も簡単に話したけど

この魔力は神様がこの世界を守るためにくれた物だしね」

「でも魔法を使うのは皆さん初めてですよね？」

「うーん、そーなんだけど・・・魔法の概念って言うか、おおまか

には知ってたんだよね・・・
書物やRPGゲームとかでただけだね」

「書物は解りますが『あーるピージーゲーむ』ってなんですか？」

「んー・・・簡単に言つと 物語があつて その登場人物になりきる遊び？ごっこ遊びかな？」

その遊びの中で魔法使いになって魔法を使う事ができたの まあシミュレーションなんだけどね

でも、あたし達の世界は 実際に魔法は使えない世界だったよ？」

「ごっこ遊び・・・そうなんですか・・・でも皆さんの魔力量もすごいですよね？・・・」

「あ、それは神様が魔力を増やしてくれたんだ^^んーとね神様曰く、この世界の

最大魔力保持者くらいにみんなしてもらつてるんだよ・・・

ただ、あたしと兄貴だけは身体が耐えられる上限の魔力を貰つちやつて・・・

それでさっきのファイヤーボールの大きさになつたみたい・・・てへっ^^^」

「マコトは・・・どの位の魔力で火炎魔法を放つたんですか？」

「んー・・・気持ち的には持つてる魔力全体の・・・1万分の1くらい？」

「軽く言ってますがw・・・もう、マコトはなんでもありませんね・・・はあw・・・」

ん？・・・なんか、呆れられてますが・・・でも、しょーがないよね？

この世界の基準を知らないし、それに神様がくれた魔力だしね？

「それとマコト、カタナを見せてもらっていいですか？」

「良いけど？」

鞘からみつちゃんを抜いてケイトに渡します

「・・・やっぱり・・・強化固定の魔法がかかってますね・・・
(ん？他にも魔法がかかってる？見たことが無い魔法ですね)
・・・これは全部マコトがかけた魔法ですか？」

「んーとね・・・それって無意識にかかったみたいなんだけど？」

「はい？これを無意識ですか・・・」

「あつそうだ！無意識って言えば・・・これもそーだね」

あたしは強化ハリセンをケイトにさし出します

「これは？」

「ハリセンって言うんだよ^^主に兄貴をひっぱたく時に使ってる
んだけど・・・
なんかねー神様が言うにはあたしが無意識に創造の魔法？で具現化
させたんだって^^」

「@@!創造の魔法!具現化!」

「ありゃ?変なこと言った?あたし」

「でマコトは無からこれを作ったんですか!」

「うん」

「ふう〜w・・・そんな事が出来る魔法使いはこの世界にいませんよ・・・

そのマコトが使った魔法はロストマジック・・・失われた古代魔法なんです・・・はあ〜w」

「あら」

なんかケイト、私はもう知りません!てな感じで呆れてますがな・・・

あつちでリリースも口をあーんぐりさせてるし・・・(@ @:)
こんな感じ?

メアリは・・・メアリはほつとこう・・・(>v<)/きゃー!
まあ一応こんな感じ?

「はっはっはっは!・・・話は全て聞かせてもらった!」

あちゃーwこの声は親父さんですね・・・どこに居るんだ?・・・
お!いたいた・・・照明の鉄塔のてっぺんですかw・・・バカと煙
は何とやらですね・・・

ブラック グーンのロツ ンじゃあるまいしw・・・
あ、アホの親玉ってのは一緒だね^^
あたしは車からバレットM82A1を担ぎ出して・・・車のボンネ
ットから構えてっと・・・
約200m・・・親父さんの足元をよーく狙って・・・

BAWOON!

薬莢がライフルから飛び出して・・・車のボディに当たって・・・
ん？ ころころとこちらへ・・・
ひじにくっついて・・・熱うちー！・・・ふうふう・・・熱かったw・
・

(撃って直ぐの空薬莢はとっても熱いのよ・・・)
さて、親父さんはどーなった？

お！ よろめいてるよろめいてる！ ^^

「あわあわ・・・うを！ 落ちる！・・・あーれー！ (ドスン！)」

よし！ 落っこちた^^

「うむ・・・えー マコト、良いのか？ カミヤは一応 国王陛下で
はないのか？」

「良いの^^ あーゆー普通に登場しないやつはこーやって賤けない
と癖になるから^^」

「うむ・・・お主ら親子は変わってるのうw・・・」

「いやいやいや！変わってるのは兄貴だけだよ！」

「「「「「「「「「「」」」」」」」」」」」」

な、なに！みんなして『マコトは解ってないな』みたいな目であ
たしを見てんの！

あたしってば変な人なの！？

がばっ！

そして！あなたは！2000m先で地面とくっ付いてたのでは！あー
もう！

「うー！なんで抱きつくの！バカ兄貴！」

「だってーまこりん、ここ何話が抱きついて無いの」ばーたれ！
ばからーん！」「グヘッ！」

「だから！抱きつくなくなって言うておろーに！このスカポンたん！あ
と、まこりん言うな！」

「だつて」だつてじゃない！はたくよ！」「さーせんしたw！」

「いいから！そこに正座！あーもう てきはきする！」

もう！このポケ親父が！……ん？……あれ？……
なんだ？……地球組がみんなて異世界3人娘に何か教えてるぞ？

・・なにになに？

レテイ「いい？みんな あれがヨコタ国名物の王族漫才なの！^^」

リリス「ほう！そうだったのか！うむ、良い見世物だな！」

ロツテ「いつでもどんな場所でも いきなり始まるんですよ^^」

ケイト「初めて会った時もやってみましたよね・・・あのハリセンは
ああして使うんですね」

リア「いつ見ても とっても面白いんです！^^」

メアリ「ああ、マコトさんの突っ込み姿が！・・・凛々しい！^^
／／／」

真琴「・・・」

うw・・・また親父さんのせいでw・・・誤解がw・・・
そこの親父！ニヤニヤするな！・・・胸はるな！ピースサインもせ
んでいい！

もう・・・デフォって事であきらめるか？・・・いやーだ
ーっ！・・・orz

突然の爆発騒ぎでジョンさんたち全員が滑走路の北端に集まっちゃいました・・・
事情をみんなに説明します・・・親父さん！クレーターみてニヤツつとしないで！

試しにレティがみんなの前で威力を込めたフアーヤーボールを放ちます・・・

1.5 mほどの炎球が飛んで行つて 70 m位のクレーターが出来ました

レティ曰く、この威力で放てるのは5〜6発らしくて あとは魔力切れだそうです・・・
やっぱりあたしつてば規格外？

親父さんが1歩前に出て・・・

「よし！俺もやってみよう！」

すかさずジョンさんが

「ハイ！カミヤ 威力は抑えろよ！」

「解つてるつて^^ふふふふふふ・・・」

いやいや！絶対解つてないよね？こいつはw・・・

「んじゃいくよー!・・・メラゾーム」大ばかやる!(パカライン!)
「へブw!」

「なに炎の大魔法やるうとしてんの!アホかおのれは!」

「だつて」言い訳するな!」「はい・・・」

「兄貴!もつと小さいのにしないで!わかったの?」

「はい・・・んじゃ行くよー・・・ペギマ!」

は!あちゃw止められんかったw・・・あれ?・・・ん?・・・
なにも起こらない?

「・・・そうか、俺、魔法の使い方教わって無いじゃん・・・そりや出来ないわけだ・・・」

がくっ!・・・ずっこけた・・・みんなもずっこけてる・・・
マックさんなんて滑走路に顔うずめてるぞ?・・・

うん、とりあえずハリセンで殴るところ・・・ピュー・・・
あ、逃げたw・・・

ん?なに?・・・うむ、また王族漫才が見れたぞって・・・違うからねりリス!

その後、みんなまで話した結果、今後は防御や治療等の魔法を優先で覚える事になりました

まあ、攻撃に関しては地球産の武器がありますからね・・・
親父さん！シヨボーンとしない！・・・あんたのせいでしょうがw！
てか、いつのまに帰ってきたの？あんたはw・・・

会議の結果 3日後に王都へ向けて出発の予定です

ケイトさんの指示で全員の魔力と属性の検査はギルド登録をした時に測る事になりました

出発までは基本の魔法訓練と剣術訓練、町からの物資の搬入をします

あ、リリース達がつっぱ撃つてみたいらしくてライフルとシヨットガン、あと拳銃などを

撃ってもらいましたが、反動でグロッキーです・・・現地の人にはキツイみたい・・・

やっぱり威力があがってるのか？

んで代わりにガスのエアーハンドガン（SIG P-220）を撃つてもらったんですが・・・

なんと！実銃なみの破壊力です！・・・なので3人に護身用にプレゼントしました^^

うん、これなら小型だし ドレスなんかを着てても隠せるしね！

その後、王都までの道と偵察をかねて（半分は観光のため？）にヒューイさんとベルさんは

あたしとレティ、3人娘を乗せてヘリで王都の近くまで飛ぶことになりました・・・

地図作りと実際に車が走れるかの先行確認の為です^^
3人娘は空が飛べる！って喜んでますねー

「あれ？ヒューイさん、このへりってこないだのでつかいやつじゃないんだね・・・」

「ああ、あれって試作のテスト機だからね・・・こいつは空軍のH60Gだよ^^」

「H60G?・・・UH60Mブラックホークじゃないんだ」

「まあ基本は同じ様なもんだね 空軍はベイブホークって呼んでるが^^」

3人娘の話だとヒーノ村から王都までおおむね馬車で1週間くらいらしいです

馬車のスピードが休息を含めた平均で約6km/h強くらいか？1日8時間で約50km・・・

って事はヒーノ村からここまでが1日かかるとして・・・おおむねこっからだと・・・

王都までだいたい300km前後かな？

ブラックホークの巡航速度は確か・・・270〜280km/hだったと思ったから・・・

うん、調査ふくめて3時間もあれば往復できるね^^

「準備はOKか？マコト^^」

「うん、いいよー・・・おやつは持ったし飲み物もOK〜^^ピュ
ーイさんにもあげるね〜」

「マコトそいつはとても嬉しいんだが・・・武器は？」

「おう！忘れてた・・・持ってくるから待ってて^^」

武器弾薬を持ってきて・・・さあ出発！

3人娘はさつきまでのほしやぎ様からちよつとだけ不安な顔してま
すなー

はい、みんな これ耳に付けてねーこれがあれば喋れるからねー
あたしはインカム付きのヘッドホンを渡します

ヒューンヒューンヒューンパリパリパリ！

へりははじかれたように大空へ！・・・んー！気持ち良い〜^^

みんなも うむ、飛んでる！とか木が小さく見える！とかマコトさ
ん素敵！とか・・・ん？

・・・ま、いいーか？

あれ？巡航にしてはスピード速くない？レティも不思議がつてるし
ね・・・

「ねー、ヒューイさん スピード速くない？」

「ああ、速いね・・・効率の良いコンピューターまかせの自動操縦
なんだが・・・

どつやら航空機もこの世界に来て性能が上がってるみたいだな・・・

「

「あら・・・」

「この分だと こいつは増槽いれて満タンで2000kmは飛べるんだが・・・これなら

3000〜3500kmは飛べそうだな^^ H A H A H A ! 神様に感謝つてどこかい?」

あたし達は順調に王都の側まで行きました

途中の村や町は多少迂回して目立たないように飛んでいます

目に付いたモンスターはそのモンスターが大きな害を周りに与えるかどうかを

リリース達に聞いて 害が有りそうなモンスターは狙撃等で倒します

狼のでつかいのは ワイルドウルフ、イノシシのでつかいのは ビツクボアって言うらしいよ?

あとねファンタジーで定番のオークとゴブリンもいましたよ!

往復で20匹くらいは駆逐できたかな?

この街道の安全も上がったことでしょうね^^

王都までの道もほぼ問題なさそうだしね・・・地図も作れるね^^

基地から街道までの道も 昨日ジョンさん達が 戦車つかって何度も往復して

そのあとでブルトナー使って整地したから大丈夫かな?

基地の東門から700〜800mで街道に出られます^^

さて、基地に帰ったら夕ご飯だー^^お腹減ったしねー

ちなみに機内で食べたおやつは あたし 真琴特性のフルーツパイでした^^
おいしかったよー^^

基地に到着ー！さあ、報告してお風呂入ってご飯だねー^^

S i d e ジョ ン

255

「おう！おかえり レテイ^^・・・どーだった？」

「とりあえず王都までは北東に直線距離で約300kmですね・・・
途中に村が2箇所、町が1箇所ですが・・・
順番にすると ヨコタ基地>村>町>村>王都 ですね」

「町が中間地点だな？」

「ええ、ここから約170kmの地点ですね・・・」

「俺達の装備なら王都まで1日で行けるだろうが・・・後学の為に
町で1泊するか？」

「そうね・・・良いアイデアね^^この町で何か売ってお金もつくりましょ^^」

「何を売るかだが・・・小物類なんかと・・・塩と砂糖とコシヨウでいいかな？」

「そうね 確か3人娘達も調味料は高級品って言ってたわね・・・」

「マツクには悪いがレーションも多少売ろう・・・地下倉庫に何十万食もあるしな・・・」

「明日の車両は何にするの？全員行くんでしょ？」

「ああ、全員で行くが、トラックにはもう荷物を載せてるからこれは決定で・・・うーん・・・」

「やっぱりハンビィだけじゃ迫力無いよな・・・よし、LAV-25が2台で俺達が乗って」

「ハンビィは2台出そうか・・・ 1台目にカミヤとレティ、ロツテとリアの4人・・・」

「で、2台目にマコトと3人娘でどうだ？」

「いいわね^^・・・カミヤと一緒に・・・(ポツ^^/^^)」

「あー、レティ・・・喜んでるところまんが カミヤとマコトには言ったのか？」

「・・・へ？・・・」

「あー、えー、あれだ、カミヤの事が好きだって言ったのか？(」

「やにや^^」

「!ま、ま、ま、ま、まだ・・・言っていないわ／／」

「ま、がんばれ^^あの親子はかなり恋愛には鈍いからな^^」

「もう!ジョーンったら!」

「H A H A H A H A H A H A H A ! ^^」

まあ、あつちの世界じゃある意味勧められなかったが こっちなら
応援してやるかな?

がんばれよ・・・レティ・・・

Side 真琴

真琴「ん〜!やっぱりお風呂は良いね〜!・・・疲れが抜けるよ
ね〜・・・ふや〜・・・」

メアリ「マコトさんと一緒だとさらに気持ち良いです^^／／」

リリス「うむ!これは癖になる気持ち良さだな」

ケイト「お風呂に食事・・・元の生活に戻れなくなりそう」

リア「あら？じゃあこの国のお手伝いではなくて国民になっちゃえば？^^」

真琴「おー！それいーねー^^なっちゃえ」

なーんてみんなで話していると扉が開いて・・・

ガラガラ

どたぶ〜んってみうらさんですか あなたは！・・・あたしゃちひやーってか？

(アイ スファンの方 すいませんです！)

ロツテ「やっと来たわねレティ^^」

レティ「うん、疲れたわー・・・で、何を話してたの？」

こんな感じでお風呂でのガールズトーク^^たのしいねー・・・
だったんですが・・・ガールズトークと言えば恋愛話・・・あたし
や苦手なのよね・・・

学校でもこの手の話題はちんぷとんかんぷとんだったしw・・・

3人娘には取り合えず今は好きな彼氏は居ないそーです・・・過去
には居たみたい^^

ロツテさんはマックさんが少ーしだけ気になってるみたいで

リアさんはフレックさんとベッガーさんがコナをかけてるらしいです

いいな〜・・・あたしも彼氏ほしいかもw・・・ま、親父さんが居たら無理かね？

ロツテ「レテイは愛しの彼に片思い中だもんねー^^確か片思いが8年間もだっけ？^^」

レテイ「あ！それ内緒だつて言ったじゃない！もう、ロツテたらw・・・」

リア「私もジョンさんに聞きましたよ？その話^^」

3人娘「「その話聞きたい！」」

レテイ「・・・かんべんしてw・・・」

うん、やっぱりついて行けないね・・・この手の話題には・・・にしてもレテイってば好きな人いたんだー・・・知らなかったねw

メアリ「ところでマコトさんは？・・・彼氏の話まだですよね？」

真琴「え？・・・あたし？」

ありや？レテイ以外の全員が聞いたそうな顔してこっち見てるね・・・
レテイは色々知ってるから関心無しなのは解るんだけど・・・みんなを止めてほしいよー

真琴「えー、あー、うー、・・・」

あれ？思いだしてみれば親父さんが障害ってだけじゃなく

あたしつては男に言い寄られたことつて無くね？・・・あれ？無い？・・・無いな・・・

お、凹んできたぞ？・・・

レティ「みんな！そのくらいで止めてあげてね？マコトのHPはもうゼロよー！」

真琴「・・・HP・・・ゼロってw・・・」

レティ「察してあげてー！マコトの気持ちをー！」

真琴「・・・レティ・・・とどめささないでw・・・」

レティ「はー！マコト「じゅめんなさいね」・・・」

どーせあたしや恋愛経験なんてありませんよ！・・・ありませ・・・
ありま・・・グスツ・・・

えーん！これつてあたしのせいなのかなw・・・

親父さんに変に鍛えられてたからだよねー？

そう思わないと立ち直れなくなりそーだぞ・・・クスン

神様！普通の平和も欲しいですけど・・・彼氏もほしー！

でも・・・その前に親父さんをどーにかしないと・・・彼氏作れな
いよねーw・・・

え〜ん！だれかあたしに愛の手を！・・・無理なのか？・・・
orz

11話 涙の魔法 あたしだって彼氏が欲しいんだもんw（後書き）

3人娘「お疲れ様です^^」

レティ「おつかれさま^^」

ファスト「あれ？．．．アネさんはどこっすか？」

ロツテ「ちよつとある事で凹んでるわね．．．」

リア「レティがトドメさしてたよね^^」

マツク「落ち込んでもレーション食えば元気に．．．」

全員「．．．．．ないないw」

カミヤ「真琴がいないと後書って平和なんだな」

ファスト「そーっすね^^」

ジョン「それじゃまた次回でなー！バイ^^」

どーもです^^作者のM2-1015です

序章も今回で終了です

第一章の前にこれまで出てきた登場人物の紹介を入れます

序章のお付き合い有難う御座いました

引き続き本編第一章でお会いしましょう^^

それでは皆様にもっと笑顔が増えますように^^

では^^ノ

登場人物及び簡易設定 (序章登場人物のみ 随時更新でネタバレは含みません)

作者のM2-1015です

今回は 序章での登場人物等を簡単に紹介します

多少のネタバレも含みますがご了承下さい^^

登場人物及び簡易設定 (序章登場人物のみ 随時更新でネタバレを含みます)

神谷 真琴：カミヤ マコト

通称：マコト 親父さんは真琴と呼ぶ(稀に まこりん)

年齢：18歳

性別：女(稀に おとこ?)

血液型：A型

身長：161cm

体重：秘密だそーです

スリーサイズ：もつと秘密だそーですw

職業：地球では高校2年生(ダブリ有り) 異世界ではヨコタ国のお姫様一(笑い^^)

趣味：料理、ドライブ(主に峠の暴走)、バイクツーリング(主に峠の暴走)

好きなもの：かつぱえび ん、麺類、甘いもの、猫、ある意味親父さん

嫌いなもの：手抜き料理、レーション、虫、ある意味親父さん

本作の主人公 不幸体質と言うか弄られ体質で 本人は普通人と思
い込んでいる

一応高校年生で 学校は八王子の南浅川沿いにある普通科都立高校
に通っている

学校では表面上では大人しくしているが裏で学校を仕切っているそ
の手の人達からは

一目置かれている(憧れられてもいる)

また 学校ではその『おつとこまえ!』な性格が災いし女子のファンクラブもある
実は男子達からもそこそこモテてはいるがファンクラブの女子達に
より

真琴の知らないところで闇に葬られている(かわいそうね〜^^)

親父さんに小さい頃から色々と仕込まれているので戦闘技能は折り紙つき

実家の道場では師範代もこなしている

実戦経験も豊富で 最初の海外旅行にてマフィアアメリカとの銃撃戦を経験している

その後は親父さんとコンビを組んで世界各地で色々な実戦経験を積んでいる

なので男運が無く 彼氏居ない暦イコール年齢である

本人は知らないが『フラッティ鮮血のハーブ豎琴』の二つ名で

その筋からは恐れられている

真琴の母親とは4歳の時に死別している 転移前までは親子2人の父子家庭

(+猫のモモちゃん)

レティとは真琴が中学1年生からの友達で胸のコンプレックス対象でもある

本人は中学時代から見ればA B-まで育っていると言っている

料理の腕はなかなかのもので特にお菓子作りが上手

刀の腕もすごく親父さんには勝てないが実家の道場では師範代をしている

射撃の腕もあるが肌が荒れるのであまり好んではない

神谷 義春：カミヤ ヨシハル

通称：カミヤ 真琴は兄貴と呼ぶ（自称 よっちゃん）

年齢：42歳

性別：男（稀に おんな？）

血液型：O型

身長：178cm

体重：68kg

スリーサイズ：いやん！えっち！だそーですw

職業：地球では日本やアメリカから何かを請け負っている 異世界ではヨコタ国の王様

趣味：料理、自分からトラブルを作る、真琴を弄る^{いじ}

好きなもの：真琴、猫

嫌いなもの：オクラ（本人曰く、あれは食べ物ではない！生物兵器だ！）

本作の主人公の父親 はちやめちやで破天荒だが重要な事では真面目になる

主に日本やアメリカからの依頼で裏の仕事をしている

実家の道場も経営していて師範も兼ねている

最初は3人でこの仕事をしていたが 約15年前の仕事で相棒だった他の2人が襲われている

その関係で真琴の母親を殺害されてしまい それ以降、真琴を鍛えている

現在の相方は真琴となる（ただし、真琴は仕事の内容までは知らされていない）

レオとコンビだった頃の二つ名は『^{ブラック}黒髪の殲滅者^{デストロイヤー}』

真琴とのコンビの現在は『^{ブラッディ}鮮血の親父^{ダディ}』

カミヤの話では真琴の胸は中学時代からAのままらしい（抱きついで確認しているらしい）

レティシア・フォンダ

女性 21歳

元アメリカ海兵隊員 階級は少尉 現ヨコタ国侯爵

Eカップだが実際はFカップなみであり 真琴のコンプレックスの基でもある

真琴とはレティが高校1年生からの友達である

超が付くほどのガンマニア

祖父のウインチェスターM1897ショットガンと真琴とお揃いのネーム入りコルトガバメントを

特に大事にしている

お風呂が大好き

ラーメンも好きである

意外とちゃっかりとしている所もある

レティがカミヤと知り合った13歳の時にカミヤに一目惚れをしている

その為 真琴とカミヤのスキンシップがとても羨ましく思っている

ジョン・フレデリック

男性 37歳

元アメリカ海兵隊員 階級は中尉 現ヨコタ国公爵

カミヤの裏家業のアドバイザー兼 協力者で依頼の中継者エージェントでもある

カミヤと真琴の実力を良く知る理解者で 実際に一緒に仕事をした事もある

真琴と一緒にした仕事で真琴の不評をかった事が何度かあり たまに真琴からジョンへの

扱いが軽くなることも
武器は艦船と航空機を除いて概ね操作はできる

メアリ・エンジエス

女性 17歳

ヒーノ村出身で村長の娘 兄がいる

納税の為に王都へ向かう途中で盗賊に襲われるが 真琴達に助けられる

真琴に一目惚れで周りが見えなくなることもしばしばある

基本はしっかりしているが予想外の事が起こるとあわあわする事もある

王都編あたりから真琴との関係について まわりは生暖かく見守っている

リリス・ヒューイット

女性 19歳

剣士

ギルドランクはA

元はケイトとある王国の騎士団に入団していたが

上司とそりが合わず退団し冒険者となる

二つ名は『爆発ボムの剣士セイバー』

気風が良くて思い込んだら直情一直線で豪快なイノシシの様な女性でもある

今でも騎士団等に顔が利く

ケイト・ウォーレンス

女性 19歳

魔法剣士

ギルドランクはA

元はリリスとある王国の騎士団に入団していたが

上司とそりが合わず退団し冒険者となる

二つ名は『フリザード ウイツチ氷風の魔女』

冷静で緻密な計算ができる女性でもある

リリス同様に 騎士団等に顔が利く（怒らせると怖いらしい）

ロツテ・リーブテーキ

女性 26歳

元アメリカ海兵隊員 階級は少尉 現ヨコタ国伯爵

免疫学を習った軍医

怪我人や病人をほってお事ができず 自分を犠牲にして助けるともしばしばある

柔道と合気道は有段者

日本の温泉が好きで休暇のたびに温泉宿めぐりをしている

好物は会席料理や寿司等の和食

やや おっとりな所もある

マツクに多少恋愛感情がある

リア・バーグス

女性 24歳

元アメリカ海兵隊員 階級は軍曹 現ヨコタ国子爵

外科手術が得意でロツテのアシスタント兼、メディックでもある

太平洋地区女性海兵隊員のマーシャルアーツでNO.1チャンピオン！

酢昆布が好き

やや天然でフレックとベッカーに言い寄られているが・・・どうな

る事やらw・・・

ファッション通でセンスも良い

男に頼るのをよしとしない部分がある

負けず嫌い？やや黒い部分がある？

マック・シエイキング

男性 32歳

元アメリカ海兵隊員 階級は軍曹 現ヨコタ国子爵

格闘技が得意で剣術もそこそこ出来る

真琴がマックの剣道の先生でもある

レーシヨンはあまり好きではないが なぜかみんなに食べさせようとする

梅干が好き

やさしく頼りになるおじさん^^

ファスト・ベークエッグ

男性 19歳

元アメリカ海兵隊員 階級は上等兵 現ヨコタ国男爵

車の運転がうまい

鍵開け（ピッキング）の名手

カミヤをカタナの師匠と仰いでいるが 余計な知識も植えつけられ始めている

みんなからの弄られ役としても活躍している？

モース・テリヤ

男性 20歳

元アメリカ海兵隊員 階級は上等兵 現ヨコタ国男爵

狙撃の腕はなかなかである

愛銃はM14を使用している（陸軍仕様のM21とは若干異なりフルオート機能は外していない）

彼はこのライフルに『アイリーン』と名前を付けて愛でている……（ちよつときしよい？）

トラップを作るのも解除するのも一級の腕をもつ

フレック・ネス

男性 22歳

元アメリカ海兵隊員 階級は上等兵 現ヨコタ国男爵

ブービートラップの名人

アメリカ南部出身なので とにかくなんにでもケチャップをかけて食べる

（筆者親子がアメリカ旅行中に目撃したので事実と思われる……ラーメンや寿司、そば、

うどん等にケチャップをかけている人に聞くと100%南部出身だった……）

リアにアプローチ中

ベッカー・サランド

男性 21歳

元アメリカ海兵隊員 階級は上等兵 現ヨコタ国男爵

車両等、機械のメンテナンスが得意

車やバイクの改造などが好きなので真琴と良く話している
結構な酒好き

リアにアプローチ中

ヒューイ・イリコイ

男性 27歳

元アメリカ海兵隊員 階級は少尉 現ヨコタ国伯爵

ヘリパイロット 新型ヘリのテスト中 ベルと一緒にこの移転に巻き込まれた

甘いものが好きでマコトが作るお菓子を楽しみにしている
結構陽気でノリも良い

ベル・スコレスキー

男性 26歳

元アメリカ海兵隊員 階級は軍曹 現ヨコタ国子爵
ヘリパイロットでヒューイの副官 整備士でもある

あまり喋らないが気の良い人

アイテール

男性？ 年齢不詳

真琴達を異世界に召喚したイケメンの神様

ギリシャ神話の原初天空神様でもある

上司のワカタンカに こき使われているらしい……(がんばってください！)

真琴とはうまが合うらしいがカミヤに対しては苦手っぽい

影で真琴達を支援してくれる有り難い存在

真琴の飼い猫のモモちゃんを預かってくれてもいる

ワカタンカ

性別不詳 年齢不詳

アメリカインディゲふんげふん……ネイティブアメリカンのスー

族の大精霊神

この異世界を作った張本人

部下のアイテールをこき使っているらしい

真琴のクラスメイトにフルボッコにされたらしい・・・

その為、のちに真琴のクラスメイトにとんでもない魔法を教えてしまふ

レオナルド・フォンダ

男性 47歳

レティのお父さん アメリカ海兵隊大佐で現在は沖縄で海兵隊基地司令官

親父さんと最初にコンビを組んだ人 2年でコンビ解消している

現在は腐れ縁の友達で仲は良いがよく喧嘩もする

特に娘の事となると我を忘れがちになる

カミヤとのコンビ時代の二つ名は『ゴールド金髪デストロイヤーの殺戮者』

バクラ・ベアドーン

男性 30歳

6話で出てきた盗賊のお頭 本編では名前すら出てこず 真琴にあつさりと

やられてしまったある意味かわいそうな人

この界限では最も大きな盗賊団 高額な賞金首でもある

盗賊団名は『バンシング・グリズリー消滅の大熊』

ヨコタ国

地球から神様により横田基地ごと転移してきた場所を国と定めた神様のアイテールにより特殊な結界で守られている

現在は人口13人

ヒーノ村

メアリの出身地で農業（主に穀物）が主産業

村の人口は約700人

ヨコタ国からは南東に馬車で1日の場所にある

シャマール国：首都名もシャマール

首都の人口は約8万人

ヨコタ国からは北東に馬車で6日の場所にある

国王は温和な統治をしていて国民からの支持もある

これからみんなで向かう国（どんな人が出てくるやらw・・・or
z）

主役級の名前は実際の本人や友人から少しだけ変えてつかってます
海兵隊の一般隊員はファーストフード店、航空隊の2人はヘリコプ
ターから名前を付けました
現地人は3人娘を除いて車や銃器等から付けるつもりです^^

登場人物や設定などは不定期にて追加更新します

（大幅に追加したときなどは筆者の活動報告にてご連絡します^^
^^）

登場人物及び簡易設定 (序章登場人物のみ 随時更新でネタバレ含みます)

新たな設定等が出るようでしたら また追加で書き込みます
基本がギャグ小説なので出鱈目な部分も多々ありますが
ご感想等がありましたら宜しくお願いいたしますね^^

次回は 第一部王都編になります

それでは皆様の笑顔がさらに増えます様に^^
では^^ノ

12話 涙の出発 お姫様からコメディアンにジョブチェンジしました!?(前

真琴「・・・ぶつぶつ・・・」

レテイ「みなさーん!よろしく・・・って マコト?」

ジョン「前回レテイがトドメさしてからそのまんまなんだよw」

リア「あれはきつかったですねー・・・」

ロツテ「うんうん」

レテイ「・・・何の事かしら?おほほほ^^ (は!これって主演のチャンス?)」

ジョン「レテイ?」

レテイ「い、いや、なんでもないわよ?・・・おほほほほ」

メアリ「四つん這いのマコトさんも素敵!ノノ^^」

リリス「うむ、ああやって腕や足を鍛えてるのだな!」

ケイト「いやいや・・・2人とも変だからその考え」

ジョン「んじゃたまには俺が・・・」

レテイ「第12話はじまります^^ (やった!^^)」

ジョン「・・・グスンw・・・」

12話 涙の出発 お姫様からコメディアンにジョブチェンジしました!?

「小僧！オヌシの様な小童がリリス殿の剣の師匠とは片腹痛いわ！」

「小僧？小童？・・・（ニコツ^^#）」

「うむ、マコト！落ち着け！本気を出すな！冷静にやるんだぞ」

やべー 怒りでみっちゃんをマジで抜くところだった・・・こいつなら素手で十分かな？

でも真剣まこと試合は けってーなのねw・・・

「・・・オツケー ありがとう^^リリス」

殺る気まんまんて槍を構えた身の丈2m近いおっさんと向き合ってるんですが・・・

でも なんていつも トラブル（こーなる）のかね？・・・あたしのせーじゃ無いよね？

あたしは ぼそつと疑問を口にします

「なんでこーなった？」

タベのお風呂から一夜明けて朝なんですが……orz

うう……どーせ あたしゃ……負け組みなのね……え
くんw

元の世界に帰るんだって 何年かかるか分かんないしw……
は！10年この世界に居たら あたしってば三十路に近いじゃん・
・
て事は……帰れるとしたって おばさんになってるよね……

いやいやいや……この世界でイケメン捕まえて……ほん
とに捕まるか？

だって、親父さんもいるんだぞ？

あたしは 昔からの悪い癖、『思考のループ』になっているのに気
がつきません

ジョン「レティ……マロトの凹み具合……今回は長い……
タベからずつとだぞ？」

レティ「そつね……これはちよつと長いわね……」

ジョン「どーする？」

レティ「そうね・・・月並みだけどみんなで慰めるしか無いわね・・・」

ジョン「それしかないか・・・おい！みんなちょっと来てくれ」

あっちでジョンさんが何か言ってるけど・・・

Side 真琴以外

ジョン（みんな悪いな集まってくれて・・・でだ マコトの事なんだが・・・話は小声で頼む）

レティ（カミヤは別として マコトは意外と繊細なのよ・・・ただし単純でもあるけど・・・）

リア（その繊細なマコトに タベはトドメをさしてましたよね？レティ）

レティ（うw・・・それは置いて）

ロツテ（どうすればマコトは復活するんです？）

ヒューイ（嬢ちゃんは料理や菓子作りがうまいから それを誉めるか？）

リリス（うむ、剣の腕を誉めるか？）

ケイト（あの強大な魔法を誉めますか？）

ファスト（それ、逆にクレーターの件で落ち込まないっすか？）

ベル（まあ、マコトはさ そのままでもかわいいよな？）

モース（ああ、かわいいと思うぞ？）

フレック（リアよりはちょっと下だけど・・・マコトも かわいいぞ？）

ベッカー（あ、こいつ抜け駆け・・・リア好きだ！（*^ ^*）
ノデレッ・・・）

フレック（ベッカー・・・しまらない顔しやがってw・・・）

メアリ（マコトさんは誰よりもかわいくて素敵です！キヤー q）
（）（）p キヤー（）

マック（だから、レーション食べれば元気になるって）

全員（（ないない！）（）

カミヤ（俺のほうがかわいいけどな）

全員（（絶対にない！）（）

ジョン（オーケー・・・んじゃ、かわいいってのでマコトを誉めるぞ？いいな？）

Side 真琴

うー・・・でも こっちで彼氏作ったら元の世界に帰る時ってどうなるの？・・・ううー

ん？・・・みんなしてこっち来るけど？・・・なんだ？・・・

レティ「マコト・・・タベはごめんね・・・大丈夫よ マコトはかわいいから^^」

ジョン「そーだぞ？マコトは かわいいんだから 気にすることないって^^」

レティ・・・ジョンさん・・・慰めてくれるんだ・・・

リリス「うむ、マコトは剣の腕もすばらしいし それにかわいいぞ
?」

ケイト「マコトはかわいい」

メアリ「マコトさん！かわいいです！／＼／＼。 。 。 ）＝ 3 八
アハア・・・」

「かわいいぞ！」「また菓子作ってくれよな！」「素敵よマコトは
^^」

み、みんな！ありがとう！^^

あたしの事 気にしてくれてるんだね^^

真琴「みんな・・・ありがとう^^・・・うん、がんばるよ」がば
っ！「おおっ！」

カミヤ「真琴・・・ごめんな・・・ある意味で さみしい思いさせ
て・・・」

お父さん・・・心配してくれてたんだね・・・ちょっと嬉しいかも
^^／／／

真琴「あ、こら・・・兄貴ったら・・・抱きつかないですよ・・・も
う／／／（*・・・*）テレッ」

親父さん・・・温かいな・・・ぬくもりが・・・／／／

カミヤ「ほんと すまん！おまえは貧乳さみしいつての気にしてたんだな・・・」

あ？・・・読みは『さみしい』だけど？

カミヤ「でも貧乳さみしくても良いじゃん！微乳たごらだつていいじゃん！・・・
だつて真琴は無乳かわいんだから！^^^」

真琴「兄貴？・・・漢字とルビがちがくない？・・・あ？凸（、
＼＃（）」

カミヤ「へ？真琴のかわいってのは 貧かに＼「死ねやこらー！
ガキンツ！（）」あぶ！」

神速の居合いでみつちゃんを抜きましたが・・・親父さんも太刀を
抜いてますな・・・
避けられちまつたいw・・・

真琴「ちっ！・・・受け止めんなよ・・・」

カミヤ「いやいやいや！今のはマジやばかったw・・・それに『ち

っ！』って言ったよね!？」

はあはあ……まあ、あれだ……真剣はまずいか?……………あれ?…………ん?

リリス「うむ！流石だ！剣を放ったマコトもすごいが 受け止めたカミヤもすごい！」

ケイト「私じゃ受け止められない」

メアリ「すごいです！マコトさん!…………かつこいいです!／／／／^^」

3人娘「『『ビバ！王族漫才!^^』』」

ま、まあ……元気はでたかな……あは、あはは……………orz

さてさて、シャマールの王都へ出発の朝がきました！

この間に男性達も魔力制御を覚えましたよー
回復魔法や防御の魔法 後は強化とかだね・・・
攻撃魔法は教えませんでしたけどねー^^

あたしはこの2日間 銃火器や刀剣類 装備品や車両等に強化魔法
をかけたままです
特にテツポなんか汚れないわ破壊力上がるわ・・・たぶん錆も出な
くなっただんじゃないかな？

リリースは自分の太刀にも魔法がかかった！って 大喜び^^

服なんかもねー鎧みたいになっちゃって・・・車なんかも性能UP
しちゃったよw・・・

そうそう エアガンも威力上がったね〜

魔力？あんまし減らなかつたね このくらいじゃ・・・あたしって
ばどんなチートだ？

まあ、ケイトは『私の立場が』ってふてくされてたけどね^^

今は朝の9時！では そろそろ出発といきますか！

先頭は あたしと3人娘のハンビーで 次がジョンさんとロツテさ
んでモースさんのLAV-25

3台目がヒューイさんとベルさんのトラック 4台目がフレックと
ベッカーとリアさんの

LAV-25 最後がレティとマックさんとファストそして親父さ
んのハンビーです^^

基地の東口を出て街道まで来た所で一旦ストップ^^

あたしの魔力を媒体にしてケイトが基地への入り口を幻影魔術でカモフラージュします

よし、基地への入り口はこれで解らなくなったぞ 完璧だね^^
そのまま左に曲がって北東へ進みます

前に砂漠沿いに偵察したときは5〜10km/h位の低速で確認しながらだったけど

今回は普通に30〜40km/hで走ってます

2時間ほど走って最初の休息場所 ノーダ村に到着！

取り合えず村の入り口手前で止まります

途中で追い越したり すれ違った馬車や旅人達も あたし達にめっちゃ驚いてましたが

ノーダ村でも人ばかりですね〜・・・村の門の所に人がいっぱいです

うん、これじゃ中にはいれないよね？

ありゃ？なんかゴツイかつこのおっさんが槍を構えて何人かきますね・・・さて、どーする？

「うむ、私にまかせてくれ」

「へ？リリース・・・大丈夫なの？」

「ああ、あやつは・・・真ん中の背の高いやつだが、私とケイトの知り合いだ」

「あら・・・んじゃまかせた^^・・・あ、リリス ちょっと待ってて」

そー言えば 身分を明かしてもいいのかね？・・・ジョンさんに無線で聞いてみるか・・・

「ジョンさん 聞こえる？」

「おう、なんだ？」

「村の入り口から来るゴツイおっさん達んだけど リリスとケイトの知り合いなんだって
んで話をつけるらしいけど あたし達の身分とか王族とかばらしちゃって良いのかな？」

「んー・・・取り合えずメアリの護衛の冒険者って事にしておくか？」

「オツケー」

無線の内容をリリスとケイトに話して・・・

あたし達がこの村で簡単な商いと休憩をしたいと伝えてもらいます

リリスとケイトが背の高いおっさんと話をしますが・・・ん？
ありゃ？おっさんってばリリスとケイトにぺこぺこしてるぞ？
おっさんと一緒に来た騎士っぽい人達もぺこぺこしてるね・・・

お？村人たちも『この方が』とか『ボムの！』『ブリザードの！』
とか言つて驚いてるし？

あの2人つて有名なのか？・・・ふむ 後で聞いてみるかな？

お、リリスがおいでーって手をふってるよ・・・話は済んだみたい
だね^^

あたし達は車両を村の入り口から中に入れます

村に入るとすぐに広場？つて言うか多分馬車用の停車場になつてま
すね・・・

空いている隅っこに車両を停車させて車から降りてつと・・・

「リリスー！交渉ありがとねー^^」

「うむ、問題ない・・・こいつも居たしな」

「だれだれ？・・・しょーかいして^^」

あたしは背の高いおっさんと向き合います

おー、でかいなー2m近いんじゃない？筋肉もすご！

腕なんてあたしのモモより太いよ！

「うむ、元私達の部下で シャマール王国第一騎士団下士官の『ブ
ール・カンタツク』だ・・・

でこちらが 現雇用主で友人でも有り 私の剣術師範の『マコト・
カミヤ』だ^^」

リリス？元私達の部下で シャマール王国第一騎士団？・・・つて
事はリリス達つて

元騎士団にいたの？・・・聞いてないよ・・・ありや？この人あたしを睨んでる？・・・
いや、それよりもまず挨拶だね^^

「こんにちは ブールさん^^」

「・・・なんだと！・・・このお子様が師範だと！本当かリリース殿
！」

あたしの挨拶は無視ですかい・・・

「うむ、私は今現在マコトに剣を習っているが？」

「・・・(ぶるぶる)・・・」

ありや？雲行きが怪しくなっていないか？・・・おっさんってばなんかぶるぶるしてるし？

お、ジョン達 みんなして遠巻きでニヤニヤと・・・って見物体制ですかい！

「うむ、ブール！落ち着け・・・」

「そう、落ち着くといい」

「リリース殿！ケイト殿！あなた方がこんな子供に雇われるとは・・・
私はくやしい！」

「うむ、だがマコトはめっちゃ強いぞ？」

「そうそう・・・めっちゃえらいし」

「!・・・ならば 私が試すまで!・・・いいですな!」

「うむ、かまわんが・・・」

「怪我しても私はしらない」

あらー・・・止めないの2人とも・・・まあ、いいけどねw・・・
軽くやっちゃうか？

「小僧！オヌシの様な小童がリリース殿の剣の師匠とは片腹痛いわ！」

「小僧？小童？・・・(ニコツ^^#)凸」

あたしは一瞬で大量の殺気を撒き散らしたみたいで・・・

「うむ、マコト！落ち着け！本気を出すな！冷静にやるんだぞ」

やべー 怒りでみっちゃんをマジで抜くところだった・・・でもこいつなら素手で十分じゃね？

まわりも見えてないしw・・・それに相手の実力も見れない様じゃねw・・・

でもこのおっさんと真剣まけん試合は けってーなのねw・・・

「・・・オツケー　ありがと^^リリース」

殺る気まんまんて槍を構えた身の丈2m近いおっさんと向き合ってるんですが・・・

でも　なんでいつも　トラブル（こーなる）のかね？・・・あたしのせーじゃ無いよね？

あたしは　ぼそつと疑問を口にします

「なんでこーなった？」

と言う感じで冒頭につながるわけなんですけど・・・
あたしの短気は直さないかねー・・・

ん？あらあら村人達まで遠巻きに見物ですか・・・どっちが勝つか
賭けまでしてるしw・・・

ほとんどみんなプールに賭けてるみたいですが・・・
メアリ達3人娘は有り金全部あたしですか！

「がんばるのよ　マコト^^」

レティってば・・・お気軽に言っつてw・・・

「うむ、私が審判を引き受けよう^^」

リリス・・・楽しんでやがるな？

「マコトが勝てばお小遣い10倍・・・ぜったい勝て」

お小遣いってw・・・ケイト、後でおごれよ？

「キヤー q) *) *) p キヤー」

メアリは・・・うん、あれは ほっとこう・・・

あたしは武装を全部はずして・・・ハリセンは持つところかね？

ん？なにげにジョンさんとマックさんは ^{ハレット}拳銃ホルスターの止め具
外してるね・・・

大丈夫だよん^^・・・あたしは2人に軽くウインク^^

さて・・・

「小僧！武器は持たんのか？」

「これ（ハリセン）でじゅーぶん^^」

「うぬぬ・・・なめておるのか！」

「おっさんなんか舐めたら腹壊す！」

「うぬぬ！ゆるさん！」

おっさんは槍を低く構えて突進してきますが・・・

あたしは槍の先をふんずけて 先端を地面にめり込む様に突き刺し

おっさんの突進を止めて

体勢が崩れたところで 槍の根元に蹴りを1発入れます

バキッン！

(あら？手から離すつもりが・・・へへ ごめんね？・・・折れち
った・・・てへっ^^)

ブルルさん驚いて@@； こんな目をして固まっちゃってます
相手を舐めるからそーなるんだよーだ！

あたしは そのままおっさんの顔面にむかってハリセンを・・・

パシーン！

おっさんは後ろに倒れて・・・ありゃ？・・・白目むいてる？
1発で？・・・そんなに強いのか？このハリセンって？

「うむ！マコト殿の勝利！」

リリースさんが勝利の宣言してます

ケイトさんは・・・しゃがんでおっさんを指で『つつん』と突い
てますが・・・

ところでメアリさん？腰にしがみついて『すりすり』しないでね？

3人娘は掛け金もらってうれしそうですなー・・・少しよこせ^^
それにしても周りの歓声がうるさいですね・・・あたしゃ疲れた
よw・・・
腹減ったな・・・そろそろ昼か？

がばっ！

「あー！もう！暑っ 苦しいからはなせ！バカ兄貴！」

「ね？ね？今ので分かったでしょ？あのおっさんも一撃だったその
ハリセンって痛いんだよ？」

「それは 兄貴がいたずらするのが悪いんですよ！」

「・・・ううw・・・(T T)ウルウル・・・」

「かわいい娘ぶつてもだめ！」

あたしがハリセンを振りかぶると・・・ズサーッと離れて土下座し
まくり！

まったく！この親父は・・・ん？・・・は！ケイト！なにや
つてんの！リリースも！

「ヨコタ名物 カミヤ親子のド突き漫才だよ・・・みなさん見て」

「うむ、みんな楽しめたならこの帽子におひねりをいれるんだぞ？」

「あら？マコトさん もう終わりですか？素敵なのに・・・／／／
^^」

・・・あ、・・・3人娘は・・・レティが基地で言った事・・・本
気にしてるのか？

レティ・・・王族漫才って言った事 うらむぞー

あれ？でも・・・これって一般大衆にも広まった？・・・

あーん！あたしはコメディアンぢやないんだよー？・・・（たぶん
w・・・）

イケメンの神様！なんとかしてー・・・・・・・・orz

12話 涙の出発 お姫様からコメディアンにジョブチェンジしました!?(後

真琴「おつかれさまー」

レテイ「おつかれさまでした」

ジョン「おつかれさん!」

レテイ「マコト・・・ごめんねー」

真琴「いいよ^^もう気にしてないから^^」

ジョン「その切り替えの早さはうらやましいな」

真琴「へへ^^・・・ん?」

カミヤ「でだ、レテイ>ロツテ>リア||メアリ||ケイト>リリース>
>>>越えられない壁>>>真琴って順番になるわけだ^^わか
った?」

ファスト「わかったっス師匠!」

真琴「ねえ ファスト何の順番なの?^^」

ファスト「ああこれっスね^^胸の順番っス^^・・・って!ヤバ
!」

真琴「・・・ふーん・・・」

ファスト「師匠!逃げるっス!・・・ってもう居ないっス!」

ヒューンヒューンヒューンパリパリ・・・

ジョン「あちゃーW真琴ってばAH-1W スーパーコブラ乗って
っっちゃったよ・・・」

真琴「くらえ!ハイドラ70ロケット弾!」

どーもです^^作者のM2-1015です

やっと第一章に入りました

かなりの部分を省略と縮小して書いてもこんなに長くなるんですね
(作者の腕がわるいのかな?・・・orz)

さて、今回は『真琴はじめてのお使い』『村の中では?』『おら1
番!』の3本です^^ (ウン)

できれば結構ですのでお気に入りの登録や評価、感想なども
宜しくお願いいたします m() m ペコリ

それでは次回をお楽しみに^^

皆さんの笑顔がもっと増えますように^^
では^^ノ

13話 涙の旅路 あたしは男の娘じゃなくて女の娘ですってばw！（前書き）

真琴「どーもー^^」

レテイ「どもです^^」

ジョン「オース！」

カミヤ「・・・出番がへった・・・」

真琴「まー兄貴はほつといて・・・なんかねー作者がキーボード壊したらしいよ？」

レテイ「よそ様の小説がおもしろかったらしくて食べてたラーメンを・・・」

ジョン「うむ、ぶはーって 吹いちゃったらしいな・・・」

カミヤ「あいつは・・・まったくアホだな・・・」

M2「・・・出番もつとへらしてやるw・・・」

真、レ、ジ「・・・私達は言っていないですよ？」

カミヤ「なにがおもしろかったん？」

M2「いや、その小説の落ちがめっちゃおもしろかったんだけど」

真琴「で？」

M2「読者からの感想で結局修正されちゃって・・・最初のやつの方が絶対に」

おもしろかったんだけどね・・・」

ジョン「ふむ・・・読んでみたかったな・・・」

レテイ「まー作者がそうしたんなら良いんじゃない？」

M2「そーなんだけどね」

真琴「それでは第13話はじめまーす！^^」

13話 涙の旅路 あたしは男の娘じゃなくて女の娘ですってばW!

S i d e レ テ イ

おー！ハリセンの一撃で倒しちゃったよ！

マコト！ナイスファイト！^^

でも、せつかくこんな人が集まったんだから少し商品のアピール
しましょうかしら？

凹んでるマコトにはわるいんだけどチャンスよね^^

レティ「ジョン！昼食後に販売はするとして せつかく人がこんな
に集まっているんだから

売り物の説明でもしない？^^」

ジョン「おおー、そりゃ良いね〜・・・おーい！みんな商品説明や
るぞー！

車からサンプル出して来てくれー・・・モースとファスト
は簡易テーブルを頼む」

さて、凹んでるマコトにも手伝わせて気分転換させないかね・・・

レティ「マコトー！メアリもこっち来て手伝ってー！」

真琴「うあ〜い・・・今いく〜・・・」

メアリ「さ、マコトさん元気出して！レティさんを手伝いますよ）
*。。（＝3ハアハア」

マコトとメアリは面白いことになってるわね・・・うん、楽しいからほっときましょ^^

さて、商品のセッティングもできたしねと・・・さあやるか！

レティ「みなさん！今日は珍しい品物を持参しています！私達の昼食後に販売を始めますが

とりあえず商品説明をご覧ください！本日限りの限定販売です！・・・よろしく〜！」

私達が今回 商品として並べたのは・・・

食品関係では『レーシヨン』『ツナの缶詰』『焼き鳥の缶詰』『スパム缶』『コンビーフ』

『チルチョコ』『チュツ チャプス』『塩』『砂糖』などで

雑貨関係は100円シヨップ物の『カッターナイフ』『包丁』『はさみ』『ツメ切り』

『草刈カマ』『園芸シャベル』『マグカップ』など（陶器は複数出品でガラス製品は無し）

さて、まずはデモンストレーションね

うわー すごい人だかり！・・・マコトの決闘と・・・さらに親子漫才が効いたのかしら？

これから販売のときは親子漫才やらせようかな^^

マックつたら真つ先に『レーション』の試食会をはじめちゃったわ・
・彼も好きだわねw

地球組みはこちらの物価が良く分からないので商品の説明をメインとして・・・

3人娘にはこのデモの間にアンケートをとって貰おう・・・幾ら位なら買いたいかをね・・・

うん、その結果で午後からの販売価格を決めれば良いよね^^

「ねえちゃん このカマは幾らなんだー？」

「この陶器のコップは幾らかしら？」

「おーい！幾らだ？この袋の携帯食料は？」

「こちらは商品説明ですので あちらの3人の娘に幾らなら買いたいかを知らせて下さい

それを多少考慮して昼食後の午後から販売しますので^^」

(ちなみにこの世界の通貨は 最小単位が『劣貨』劣貨が10枚で『銅貨』銅貨が10枚

『小銀貨』小銀貨が10枚で『銀貨』銀貨が10枚で『小金貨』小金貨が10枚で『金貨』で

貨幣の呼称は 『エル』と呼ぶ(1エル=1劣貨)

ただし、一般的には100エルや 100000エルなどとは呼ばず小銀貨1枚とか金貨1枚などと呼ばれている

物価としては りんご1個が銅貨0.5〜1枚ほど、食堂での昼食

が銅貨3枚位で

冒険者などが普通に泊まる安全で良い宿屋は

(場所やサービスにもよるが)小銀貨3〜5枚ほどである)

S i d e マ ロ ト

さーで、お昼だお昼だ^^・・・

ふー・・・でも忙しかったw・・・試合したり説明したりで のど
カラツカラ・・・

お腹もへったし・・・さー どのお店がおいしいのかな？

メアリ「マコトさーん！こっちですよー(ノ^^)(ノ」

リリス「うむ、この食堂で食べるぞ」

ケイト「ここ、そこそこ美味しい」

真琴「うん、今行くよー^^」

ノード村はねー 南北に約3km東西には約1.5kmの楕円形を
して

ど真ん中に街道がそのまま真っ直ぐ通ってるんだよ

街道沿いにはお店や露店がでています・・・おー、ありや魔物の肉か？

リリスの案内でこの村で一番大きい宿屋を兼ねた食堂へみんなで行きます

おー結構広いね・・・

あ！そうだ！この世界のお金持ってないよね？

真琴「ねえ、あたし達 まだこの世界のお金持ってないよ？どーするの？」

ケイト「私達3人でだしますよ・・・さっきマコトのおかげで儲かったし」

リリス「うむ、みなも遠慮はいらんぞ？」

メアリ「マコトさん・・・私も・・・食べて・・・（キヤー！言っちゃった！／＼／＼）」

真琴「あ、ありがと・・・」

まー「ここは『ごち』になるー^^
どんな
昼食のが出てくるのかなー？・・・楽しみ・・・わくわく^^

リリス「うむ、・・・店主！昼飯をおまかせで16人分頼む！」

店主「あいよー！おまかせで16人分ねー！」

で、お昼の内容なんですけど・・・

『焼いて塩をふっただけの何かの肉』 『茹でて塩ふっただけのジャガイモっぽいモノ』

『野菜とハーブを煮込んで塩ふっただけのスープ』 『かつちかちのパンっぽいモノ』

『水で薄めた洗いだけのワイン（しかも生ぬるい）』 エトセトラ・・・

わくわくが・・・あたしのわくわく・・・

真琴「・・・・・・・・orz」

ロツテ「あ・・・あら、マコトが・・・」

レテイ「解るわ・・・マコトの気持ち・・・」

ジョン「おい！だれか車から調味料を何種類かとってこい！」

ケイト「・・・この食事 前はおいしいと思ってた・・・」

リリス「うむ、ヨコタ国の味になれすぎてしまったな・・・」

ファスト「俺、取って来るっス！」

モース「あ、バターもたのむわ」

フレック「ケチャップもね！」

リア「飲み物もほしいから私も一緒に行くわ^^」

フレック、ベッカー「俺も手伝う!」

ファスト「フレック結局来るんじゃないツスカ・・・まったくリアさん絡むとこれっスかw」

ジョン「じゃ全員分の飲み物も持ってきてくれ」

「ㅋㅋㅋりよーかい^^」

・・・うん、取り合えず美味しいものが少ないことは分かったよ・・・orz

とりあえずほんの少しの調味料で お料理は見違えるほど(大袈裟か?)になりました^^まる!

どすっどすっどすっ!

お?誰か入ってきた?・・・ありや?さっきのプールっておっさんだー・・・

あたしん所にズンズンと一直線ですなー・・・

おー、なんだなんだって感じで 野次馬も集まってきたるねー

側まで来てこつちを見つめてるけど・・・殺気は無いね・・・
ただどあたしを坊主小童扱おつかのこいしたんだよねこのおっさんは・・・
ふんっ！あなたなんかツーンだ！

真琴「・・・・・・・・」

ブル「・・・・・・・・」

リリス「うむ、ブル まず言うべき事があるであろう」

ケイト「そうそう、自分の面子優先は貴方のいけない所」

ブル「解っております・・・マコト殿と申したか？先ほどの礼を
欠いた態度申し訳ない・・・

自らはまだ名乗っていなかったな・・・ブル・カンタツ
クと申す・・・

騎士団での二つ名は『マッスル筋肉の城壁ウォール』と呼ばれておる・・・
以後 良しなに」

真琴「喧嘩を吹っかけられた事については怒ってないよ・・・」

ブル「では何に対してまだ腹を立てているのだ？」

真琴「あたしを坊主小童扱おつかのこいした事に怒ってるの！」

ブル「へ？」

真琴「あたしは女だ！」

ブル「……は？……」

周りの野次馬「……は？……」

リリス「うむ、マコトは女だぞ？」

ケイト「マコトは女で間違いない」

ブル「ええええええー！！」

周りの野次馬「（！？）（。）（@）（@）ええええ！！！！
なんですとー！！！！」

……なんで！いつもいつもいつも！……

メアリ「だって……マコトさんはかっこいいから……」（＼／）
— モジモジ」

リリス「うむ、私も最初は間違えたな」

ケイト「デフォだからあきらめたほーが良い」

ブル「……そ、それは、大変失礼した……この通りだ（ペコ
ッ）」

あら、話せばこのおっさん 良い人そーじゃん……潔いしね
まあ、リリスの部下だったから直情一直線な所があるのかもね？

真琴「解ってくればいいよ^^・・・それより槍を折っちゃて」
めんなさい・・・」

ブル「いやいや・・・折られたのは私の未熟な所でもあるので・・・」

真琴「でも・・・」

ジヨン「マコト、トラックに積んできたなぎなた雑刀でも渡したらいいんじゃない？」

真琴「おー！ナイスアイデア！^^・・・ブルさん一緒に来て^^」

あたしはブルさんの手をつかんでトラックまで引っ張っていきます
おーおっさん照れてるのか？きよどつてるぞ^^

トラックから雑刀を出してっ・・・

「コレなんだけど使えそう？」

「おお！これは！・・・なんと！突くだけでなく斬る事もできるのか！」

「うん^^・・・ちょっと待っててね」

ブルさんに待ってもらって あたしは薙刀に強化等の魔法をかけます・・・
ほいっ！とな・・・ありゃりゃ・・・ブルさん驚いちゃってるね
！・・・

「はい！これあげるー^^それ、ナギナタって言っただよ」

「・・・よ、よいのか？・・・魔法までかけて・・・かなり高価なモノではないのか？」

「いいよー^^お詫びと仲直りだよ・・・持ってってね」

「あいすまぬ・・・ナギナタか・・・うむ！これは本当に良い業物だ！^^」

「うん、気に入ってくれて良かったー^^」

「マコト殿 薙刀これで修行を積んだら・・・また私と試合をしてほしい・・・」

「うん^^でも あたしは負けないよ」

「うむ、俺が勝てないのは解っておる・・・友情の証じゃ！あはははははは！^^」

うん、ブルさんとも和解できたね^^

リリスさんの話だと『筋肉の城壁』マッスルウォールことブルさんはなんでもリリスさんと

ケイトさんの剣技なんか惚れ込んで、どこの馬の骨ともわからん子供から教わっているのに、絶えられなかつたらしいんだけど、あたしと試合をしてみても納得したみたい

リリスもケイトも言っただけど、ひと蹴りで槍をへし折ってハリセン1発でノックアウトとは

思わなかつたらしいよ・・・ブルさんは打たれ強さでは騎士団で1番だつたんだつてさ

まーあたしもハリセン1発でお終いとは思わなかつただけどね・・・

で、昼食後の商品販売なんですけど・・・なんと！結論から言うと20分で完売でした・・・

今回はお一人様各1個のみ販売で、商品は各100個づつ用意したんだけど

レーションは小銀貨2枚、各種缶詰は小銀貨1枚とか、ちよつと高めの値段だつただけだね・・・

1番早く完売したのは意外にもツメ切りでした^^ちなみに値段は小銀貨1枚です

でもねー・・・その後で冒険者さん達からコレが欲しいって大騒ぎがあつてさー・・・

それって売り物じゃ無かつただけだねー

モノは何かつて？元の世界ではゴミだつた『ペットボトル』なんですよ・・・

水筒に使うとかポーションを入れるのに都合が良いらしいんだって
フタがしっかりしてるのも冒険者みんなにうけたみたい

んで、取り合えず『ミネラルウォーター』を50本出したらなんと
驚く無かれ

1本で小銀貨3枚もの値段が付いちゃって・・・これなんか2分で
完売ですよ^^

そーいえばケイトとリリスも基地でペットボトルを漁ってたっけな
あ・・・

後で聞いたら水筒は金属と皮製があって 金属製の水筒は錆びるし
ぶつけると穴があくらしくて

皮製のは匂いが臭くってさらにカビが生えるらしいよ

確かに 誰だって臭かったり錆が浮いてる水は飲みたくないモンね
！・・・

さーてと 王都に着くのが夜になっちゃうんでそろそろ出発です！
走り出した車の中でケイトが話し出します

ケイト「マコト 王都に着いたら厄介事があるかも」

真琴「へ？厄介事ってなにさ？」

ケイト「王都に居るはずのブルがノード村に居た」

リリス「うむ、マコトは先日倒した盗賊を覚えているか？」

真琴「メアリ達が襲われてた時の？」

ケイト「そう・・・あれはかなりの賞金首」

真琴「ありや？そーなの？あんなので？」

リリス「あんなのって・・・マコトは・・・」

ケイト「で、ブルが言っていた 王都でだれが倒したのか噂にな
ってるって・・・」

その真意を確かめるために騎士団としてノーダ村に来たら
しい」

真琴「ありやー・・・」

リリス「うむ、実際に私とケイトは王都でもかなり勇名なんだが・
・それでも2人で

あの盗賊の討伐は無理だ それに特にあの頭は強い」

ケイト「そう、その無理な討伐を お父上と2人で盗賊の2/3は
倒してた」

リリス「うむ、さらにマコトは その強い盗賊の頭も一撃で倒した
しな・・・」

ケイト「それから ジャングルで調べたドラゴンモドキもそう」

リリス「うむ、恐竜もマコトが一撃で倒したんだろ？」

真琴「うん・・・まーね」

ケイト「だから 多少の厄介事はあると思ったほうがいい」

真琴「うw・・・りょうーかーいw」

あーまたフラグが立っちゃったのか？・・・
とりあえずこの事を無線でみんなに連絡しときました

さて運転 運転つと・・・

まだかなーまだかなーが けんのおばちゃんまだかなー

なーんて歌ってるよ（真琴はほんとに18歳か？）見えてきました！
立派な城壁に囲まれた町が！北側は切り立った山でその手前にお城
が見えます
そこから南に向かって扇状に町が広がってますねー

ケイトの話だと南側に正門があるみたいです・・・取り合えず正門
に行きますねー

おー、門番や通行人が @@！ こんなんなってます^^

リリス「私が通行許可を取ってこよう」

リリスが車を降りて入国の手続きに門へ向かいますが・・・

おー！門番さん敬礼してるよ・・・奥からも何人か出て来てペコ
ペコ・・・

やっぱりリリースってば偉い人だったのか？

戻ってきたリリースの案内で停車場付きの宿屋さんへ^^

王都内の道をゆっくり走りますが みーんな立ち止まってこっちに注目してます

お？無線が入ったね・・・

『真琴！あそこの屋台でお約束の串焼き肉が売ってたぞ！』

「・・・兄貴は少し黙ってなさい」

あー、親父さんのニヤけたドヤ顔が頭にうかんでくるw^^・・・
ほんつとーにテンプレ親父だね^^・・・無線まで使ってるしw・・・
でも串焼き肉っておいしいのかな？ちよつと期待しますねー

で、宿の横の停車場に車を止めて・・・ここでも注目されてますねー
まあ、馬無しの車はめずらしいもんね・・・

でっかい宿だなー・・・1階は酒場兼食堂かな？ここも大きそうね

^^

うん、賑わってますな^^

「マコトー！メアリ達と先に行って部屋を取つといてー^^私達は
荷物を降ろして

車にカギと結界をかけてから行くから^^」

「うん、レテイ解つたー・・・手続き終わったら何か飲みながら1
階で待つてるから^^」

あたしと3人娘で宿屋に入ります

ドア（西部劇みたいな）を開けて中へ・・・うん、注目浴びてるねー

おー、冒険者か？悪そうなのも居るねー・・・こっち見て品定めっ
てか？

じろじろ見たりにやけてたり・・・

「うむ、部屋は私とケイトで取ってこよう マコトはカウンターで
待っていてくれ」

「いいの？ありがとー^^」

私はメアリとカウンターへ行きます

カウンターにはバーテンの女の人がいきました・・・が・・・

しっかしでけー乳だなく谷間がすごい！・・・てか、破裂してしま
え！ふんっ・・・

「おねーさん、なんか軽い飲み物ってある？できればアルコールの
入っていないやつ^^」

「あら、かわいい子ね^^お酒じゃないのならジュースかミルクね
^^」

「んじゃミルクで！・・・メアリは？」

「わたしもミルクでおねがいます^^」

その時・・・

「がははは！おい！聞いたか？ミルクだってよ！がははははは！」

「ここはガキの来るとこじゃねーぞー！はははは！」

はいはいw・・・何年前の西部劇だ？テンプレにもほどっちゅーも
んがあるぞ？

リリースとケイトはこっち見てニヤツっとしてるしw・・・

「マ、マコトさん・・・(びくびく)」

「大丈夫だよ^^あんなバカは気にしないで無視すれば^^」

「なんだと！このガキが！」

「うっさい！だまつれおっさん！」

ガタガタツと4〜5人の冒険者が席を立てあたしを睨みつけます

「こ、小僧！つけ上がりやがって！」

「礼儀を教えてやるぜ！坊主！」

「いいよ^^取り合えずお店にめーわくだから 表に出るよ」

バーテンのおねーさんも心配そうな顔をしています・・・へーきだ
よん^^

てか、むだにその乳がゆれてますが・・・もげる！

それにしてもまた人が集まって来ましたねー・・・野次馬さんですかい・・・

みんな他に娯楽はないのか？

「売られたケンカだから買ってやるけど・・・コレだけは先に言っとく！」

「ああ？なんだ坊主」

「あたしは女だ！」

「・・・@!・・・」

まー解ってましたけどね・・・グスン・・・

周りで飲んでた人達も なんて驚いてるの！野次馬さん達もかよ！
つて、バーテンのおねいさんまで @@； こんな目しちゃってw
・
・

ケイトは肩震わせて笑いをこらえてる？リリースは腹抱えてわらつと
るしw・・・

メアリは・・・キャッツ） *（//ゞ）* （//キャッツ
・うん、ほっとこう・・・

デフォなのか・・・デフォなんですね・・・

胸だって中学からみたら育ってると・・・育ってる・・・育って・・・

・たぶん育つ・・・
育つてたら良かったのにー！

(- - 。) イイモンイイモン・・・ー() シュン・・・

あれか？あたしは何か悪いことでもしたのか？・・・おせーて！神様w・・・

あたしは・・・これでも・・・

女の子なんだー！！

。・・・() あゝん・・・orz

13話 涙の旅路 あたしは男の娘じゃなくて女の娘ですってばw！（後書き）

真琴「おつですw・・・」

レテイ「マ、マコトはかわいいわよ？」

ジョン「おう！かわいいぞ！」

真琴「でも、今回は2回も男の子扱いあったしw・・・」

ジョン「ありゃー作者がわざとやってる事だから心配すんな^^」

レテイ「そうよ^^」

真琴「ほんと？」

レ、ジ「うんうん^^」

ファスト「師匠・・・頼まれた詰襟の学生服もってきたっス^^」

カミヤ「おー！これぞテンプレ！」

ファスト「学生服それだれが着るっスか？」

カミヤ「ふふふ^^とーぜん王様に謁見する時に真琴に着させるのさ^^」

真琴「・・・（ブチッ）・・・」

ファスト「あ、俺、急用が出来たっス・・・じゃまた！」

ジョン「マコト・・・今日は何を持ってく？」

真琴「これ！」

ジョン「AV-8B ハリアー EEね・・・はいはい・・・」

真琴「燃え尽きてしまえー！食らえMk77ナパーム弾！」

まいどー^^まだまだ初心者のM2-1015です

秋も深まってまいりましたね・・・学生さんたちはテストの時期ですか？

風邪などひかないように温かくして寝てくださいね^^

さて次回ですが 多分？冒険者ギルドに行くことになります
がんばれ真琴！って感じですか？

それから 本当にできればで結構ですのでお気に入りの登録や評価、
感想なども

なにとぞ宜しくお願い致します m) (m ペコリ

それでは皆様にさらなる笑顔があります様に^^
では^^ノ

14話 涙の宿屋 あたし以外のorz たまには良いよね^^ノ(前書き)

真琴「どーもです！^^」

レテイ「よろしく^^」

ジョン「オース！^^」

カミヤ「ねえ、そろそろ俺のあばれるシーンがあってもいけない？」

全員「それは無しの方向で！」

ファスト「って言うか 師匠がめっちゃ暴れてる所って見たこと無いっすけど？」

ロツテ「私も見たこと無いわね・・・」

レテイ「・・・あれはトラウマものよ？・・・」

ジョン「うむ・・・できれば二度と見たくない()()」

。()()ガクガクブルブル」

真琴「うん、あたしも死にたくは無いしw・・・」

ファスト「どんだけっすか！」

ポーラ「なに！馬の要らない馬車じゃと！・・・よし、わらわは見に行くぞ！」

カリフ「お待ち下さい姫様！」

ギブリ「まーた姫のわがママがはぢまつちつたいw・・・」

真琴「ん？・・・あれ？今 知らない人がでてなかった？」

ジョン「うん？気のせいだろ？」

レテイ「そろそろはじめましょ^^」

真琴「第14話始めます^^ いつもこーゆータイトルだと気分良いよね^^」

14話 涙の宿屋 あたし以外のorz たまには良いよね^^ノ

Sideケイト

「ぶぶぶ……リリス……笑ったらマコトに悪い……ぶぶ」

「う、うむ、あははは……そう言うケイトだって……あははは」

「あー、マコトさんが男の子だったらどんなに良いか……」*、
エ、*（ウツトリ）」

まあ、メアリは面白いのでこのままで良いとして……
さて、そろそろマコトを引っ掻き回す……もとい、ちゃちゃを入
れますかね……
どーなるか今後が楽しみですな

「そのの いかにも悪役 私達が誰だかわかりますか」

「あ！なんだっ……」

あら、私とリリスを見て固まっちゃいましたよ
周りからも『ボムとブリザードだ！』って聞こえていますね……

「うむ、そこで凹んでいる女性なんだが、私の剣の師匠だぞ？」

「そう、私も魔術では敵わない」

「「「「（シーン）」」」」

「うむ、その抜き身の剣を鞘に収めるがよいぞ？」

「あなた達なら一瞬でみじめに倒される」

「この・・・小僧が？・・・」

悪役のおじさん 顔が真っ青になって冷や汗でてますよ？

でも小僧って言っちゃいましたね・・・私はしりませんよ？どうなってもね・・・

あら、マコトがゆっくりと起きましたね・・・うわーものすごい殺気ですよ

「今、なんて言った？・・・小僧ってまた言った？」

「うw・・・お前みたいなガキが『ボム』の師匠のはずがねー！・・・
・食らえー！」

あーあ・・・やっちゃたですw・・・

大きく振りかぶったロングソードがマコトの頭を直撃・・・するわけないですね・・・

マコトはすばやく横にずれて回し蹴りを1発・・・悪役は吹っ飛んでますよ

剣も折られちゃって・・・だから忠告したのに・・・は！手下が！

バン！バン！バン！バン！

ほう、蹴りから着地する態勢で拳銃を抜いてましたか・・・速く見えなかったですね・・・

悪役の後ろに控えていた手下の足元にむかって牽制ですか
あらあら・・・びびっちゃって・・・漏らしてなければ良いですけど

「だから忠告したのに」

「うむ、私ら2人でかかっても多分マコトは倒せないぞ？」

「素敵です！マコトさん！・・・（ノハ〇ハ）ノキヤーキヤー」

やはり脳筋はダメですね・・・相手の実力くらい察知しなさい 仮にもCクラスならね・・・

マコトに対してのメアリは かなり面白くなって来てますね
どうせリリスは気づいてないでしょうから リリスにも話しても
っと煽る様にしますかね？

うん、どうせなら魔法も使って楽しみたいですね・・・（w）

ニヤッ！

ふー、何とかなったね・・・まー汗1つ掻いてないんだけどね^^
後ろで控えてたやつら ナイフを投げようとしてたんで デルちゃ
ん撃っちゃったんだけど
足元に40〜50cmの穴ぼこ作っちゃたよ・・・
9パラでこれじゃ45ACPだったらどんくらい大きくなっちゃう
のかな？

穴は こいつらに埋めさせればいーよね？ 道の真ん中に穴ぼこあ
つたら危ないモンね^^
さて、こいつらの処遇なんだけど・・・

「ねー、ケイトー こいつらってここの法律じゃどーなるの？」

「王都騎士団の巡回警邏に引き渡せば向こうで処罰してくれる」

「うむ、我らが証人となろう 冒険者なら1年は資格剥奪だな」

「あら、資格剥奪なんだ・・・」

「1年後に再度申請しても最低のGランクからのスタート Gだと
稼ぎはすずめの涙」

「ふうん・・・ちょっとかわいそうかな？」

「うむ、しかし街中で か弱い婦女子にいきなりの暴力行為だぞ？
しかも多勢に無勢で」

「マコトが か弱い婦女子なのは無理があると思う」

「ケイト、一言余計だよ？・・・でも、うーん・・・そうだ！ねえ、
その手下？さん・・・」

あそこで延びてるやつのがルドランクは？」

「はあ・・・Cランクですw・・・」

「Cランクになるのって普通どんくらい掛かるの？」

「大体10～15年は掛かりますw・・・」

「じゃあさ、警邏に引き渡されたくないよね？」

「そりゃーもちろんですw・・・」

「んじゃ今後はあたし達に手を出さないでくれるかな？で、あたし
達にはアンタッチャブルって

うわさも広めてくれるなら 無かったことにするけど・・・どう？」

「それをお願いしやすー！」

「オツケー^^・・・リリース 手間取らせて悪いんだけどこいつら
の名前とか控えてくれる？」

ああそつだ、道路の穴ばこも埋めさせちゃつてね^^」

「うむ、承知！・・・おい、おまえらギルドカードを出せ」

おーギルドカードつてやつぱ有るんだー・・・つて地球組み みんなそろつて見物してたんかい！

何人かはMP-5（サブマシンガン）を構えてバックアップしてくれてたんだねー

レティは心配そうな顔しちゃつて・・・大丈夫だよん^^

ケイトは悪役さんの側にしゃがみ込んでつんつんと指で突付いてるし・・・趣味か？

親父さんはキラキラ目だねw・・・たぶんギルドカードに食いついたんだよねw・・・

レティ「さつきは いきなり銃声が聞こえたからびっくりしたわよ」

マック「で、ベルと2人で すつ飛んで来てみたらこれだろ？」

真琴「ごめんねー・・・なんか絡まれちゃつて（テヘツ^^）」

ベル「まあ、宿屋から出てくるあたりから見てたんで 俺とマックでバックアップは

してたんだが・・・俺達に出番はなかったな」

ジョン「まあ、なんにしても うまく片付いて良かったな」

レティ「あら？カミヤ なにを考え込んでるの？」

カミヤ「俺つてば 最近あばれてないよね？・・・ストレス溜まってきてるんだが・・・」

全員「「「やばい!?!?!」」」

真琴「チェックインしたら町で遊んできたら？ただし！ケンカと女遊びは無しでね!」

カミヤ「うーん・・・女無しかw・・・そりゃつまらんw」

真琴「このエロおやじー!ふんっだ! (#、´) = 3」

レティ「カ、カミヤ(モジモジ)・・・じ、じゃあ 私との、飲みに行かない? / / /」

ジヨン「おい、レティ そいつは後でな^^とりあえず宿が先だぞ?・・・みんな入るぞー」

およ?レティが親父さんを飲みに誘うのって珍しいよね?・・・ん? まあー 夕飯の時 だれかに聞いてみよーっと

3階の部屋へ荷物を置いて1階へ戻ります・・・あ、部屋は3人娘と一緒にした^^

夕食まで1時間以上あるので取り合えず会議を兼ねた飲み会?をする事になりました

エール酒(ビールっぽい飲み物)と簡単なおつまみ(チーズとナッツ)です・・・

おつまみがちつと物足りない?・・・うん、そつだよあれ取つてこよーつと!

「ねえ、あたし えびせん取ってくるけど他に何かおつまみ持ってくる?」

「ポップコーン!」

「ポテトチップス!」

「ポ キー!」

「さきイカ!」

「甘納豆!」

「カリカリ梅!」

「すこんぶ!」

「オツケー^^んじゃ持つてくる」

「あ、ケチャップも頼むね」

「あいよー^^でもフレックは装備としてケチャップ持つてたほうがいいんでない?」

全員「「あはははは! 違う!」」

あたしは宿を出て車両置き場へてくてくと歩きます

やめられないとまらない〜かつ えびせん

自然と歌が口から出てますなあ〜・・・ん？

車に近づくと・・・誰がいる？2〜3人の気配がするんですけど・・・

・

「そこでなにやってるの？車^{それ}あたしらのなんだけど？」

あたしは軽く殺気をはなつて様子をうかがいます

良く見ると女の子が1人に護衛つばいのが2人いますねー・・・お
？やるのか？

護衛つばいのがあたしの殺気に釣られて剣を抜きます

あたしはみっちゃんの柄に手をかけて・・・

「カリフ！ギブリ！やめるのじゃ！」

「し、しかし姫様・・・」

「よい、カリフ 人様の馬車？に無礼をしていたのは事実じゃ・・・
こちらが悪い」

へ？・・・姫？・・・今、姫様って言ったよね？

「あいすまぬ、世にも珍しい馬の要らない馬車が来たと言うので城を抜け出してきたのじゃ」

「へ？んじゃあ あなたはこの国のお姫様って事でいいの？」

「きさま！その口調は姫様に対して無礼であろう！」

「ギブリも！控えろと言っておるうに」

えーと？あたしってば またフラグった？・・・えー取り合えず・・・どーしよーかな？

「お忍びで城から出てきたので 大きい声では申せぬが・・・私は このシャマル国第一王姫で『ポーラ・トライデント・シヤマル』じゃ・・・」

ほんとにお姫様なんだー・・・あたしも設定上の自己紹介しとこーかね・・・

お転婆そうだけど楽しそうな感じだね・・・お友達になれるかな？

「こちらこそ失礼を致しました・・・私はヨコタ国第一王姫の『マコト・カミヤ』です^^

私達も訳あつておしのびでこの国に来ました・・・」

「そ、そなたも一国の王族なのか？・・・しかし、ヨコタ国とは・・・

・初めて聞く国名じゃな」

あらあら、お付きの2人『他国の王姫に剣向けちゃったよー!どうすんべ!』

つてな顔しちゃって・・・あはは^^

うん、彼女達をさそって話をしよう^^

「ポーラ殿下^^よろしかったら私達と飲み物でも如何ですか?お付きのお2人も一緒に^^」

「マコト殿下・・・よいのか?わらわはこの様な店には入った事がないので興味はあるのじゃが」

「かまいませんよ^^私の父上も居ますし 他は楽しい友人ばかりですので^^」

「は?そなたの父上・・・って、この様な店に国王陛下もいらつしやるのか!?」

「はい^^ヨコタ国はある意味で平等ですので 平民も貴族も王族も一緒に楽しめます」

「うゝむ・・・興味深い話じゃ・・・カリフ、ギブリ、わらわは歓談していくぞ 付いて参れ」

「ははっ」「」

で、車からおつまみ出して・・・ポーク達用においしいワインもね
^^

あ、これもポークと友達になった記念にあげちゃおうと・・・
あら？ポークさん達？・・・不思議そうにこっちを見てますけど？
・・・なんだろう？

「王族であるマコト殿下自らその様な雑用をされるのか・・・ふむ・・・」

「あはは^^父上からの教えでね『みんな平等！自分でやれる事は何でもやれ！』って^^」

「ほう、そうなのか・・・良い考え方じゃのう・・・」

「ねえ、1つお願いがあるんだけど良いかな」

「願いとは何んじゃ？」

「うん、お互いに王姫同士なんだから 公式の場以外では敬語はやめない？」

「！あいわか・・・いや解ったわ^^ポークって呼んでくださる？」

「うん^^あたしもマコトって呼び捨てで良いよ^^」

なーんて話しながら宿の酒場へもどっていきます

マック「遅かったじゃないか マコト」

ロツテ「心配したわよ」

真琴「遅くなってごめんねー・・・お友達が出来たんで連れて来ちゃった^^」

あたしの連れをケイトとリリスがちらつと見て・・・

リリス、ケイト「(*´。°。) ……* …… ; ぶーっ！」

真琴「リリス！ケイト！つてば汚い！飲み物吹くな！」

リリス「いやいやいやいやいやいや！」

ケイト「な、なんでマコトとポーラ殿下が・・・」

真琴「ん？停車場で知り合って友達になっただけけど？」

メアリ「へ？・・・ポ、ポポポポ、ポーラ殿下！？()。()
ポカーン」

リリス、ケイト「……………orz」

ポーラ「リリス、ケイト うふふ、お久しぶりね^^」

やったね^^今回のラストはあたしじゃなくてリリースとケイトが
orz』だね！

メアリも固まってるしね^^

たまにはこんなのも良いよね！^^ (*^。^)(VIEI

14話 涙の宿屋 あたし以外のorz たまには良いよね^^ノ(後書き)

真琴「よっしゃー!」

レテイ「お疲れ様でーす^^」

ジョン「マコト うれしそーだな^^」

真琴「あたりまえだのくらかー!」

レテイ「マコトってほんとーの年齢はいくつなの?」

カミヤ「喜んでるとこすまんが 今回は特別らしいぞ?」

真琴「へ?」

カミヤ「ある事情(活動報告参照)で あらすじから書き直したんだってさ」

レテイ「あらあら・・・」

カミヤ「今回含めて1〜2話で元の路線に戻すみたいだぞ?」

ジョン「って事は・・・またマコト弄りで終わるスタイルなのか?」

カミヤ「そーなるね」

真琴「・・・orz」

ポーラ「今ですわ!チャンスですわ!主役はいただきですわ!」

カリフ「ひ、姫様w・・・」

ギブリ「相変わらずせこい姫様で・・・」

どーもです!作者のM2-1015です^^

いやー、物語の途中変更ってきついつすね〜

今回はTSってギルドへって話だったんですが・・・

ある事情(活動報告参照)であらすじから変更しましたw

で、急遽ポーラ姫に出ていただきました(実際は3〜4話後くらいだったんですが)

今回は「王都で1泊」「ギルドは危険」「王姫と2人」の3本です

(うそぴよん)

それでは皆様にもっと笑顔が増えますように^^
では^^ノ

15話 涙の姫様 なんか主役を取られそうなんですけどw(前書き)

真琴「皆さーん 元気ですかー^^」

レテイ「どーもです^^」

ジョン「オース^^」

ポーラ「ごきげんようですわ^^」

カミヤ「真琴・・・主役を食われたしたな・・・」

真琴「ポーラとは友達だから そんなことないもん！」

レテイ「・・・・・・・・」

ジョン「・・・・・・・・」

ポーラ「・・・・・・・・」

真琴「あるえ〜?・・・ポーラさん？」

ポーラ「は！そ、そそんなことはありませんですわよ?」

ジョン「取り合えずはじめるか?」

真琴「では！第15話はじまります^^」

15話 涙の姫様 なんか主役を取られそうなんですけどw

S i d e
ポーラ

あーあ・・・何か面白いことでもないかしら・・・
いつもいつも城の中・・・つまらないですわ・・・
またカリフにいたずらでもしようかしらね？

もうそろそろ夕方になるわね・・・あら？

城内が少しざわついていきますわね？・・・何かしら？

お付きの侍女に声を掛けてみる

「メラ 城内が騒々しいですわね・・・何かあったのかしら？」

「ポーラ様 なにやら城下に『馬が無くても走る馬車』がやって来た
と噂になっております」

「！馬車単体で走るですって！？」

そんなことはありえない！軽いものなら魔術で少しの時間は動かす
ことは出来るとしても

馬車なんて絶対無理ですわ・・・興味を惹かれますわね その噂はどこからなのでしょう？

「正門の騎士からの申し伝えみたいです・・・なんでもリリス殿とケイト殿も一緒だったとか」

「なるほど・・・あの2人も一緒ですか・・・（わくわくの予感ですわ！）」

正門からの報告ですか・・・リリスとケイトが一緒？あの2人は向上心と正義感の塊の様な方達でもおちやめですわよね・・・これは絶対に見に行くべきですわ！

「・・・姫様？なにをお考えですか？」

「メラ！カリフとギブリを大至急呼んで頂戴 急いでね！」

「は、はい 承知いたしました」

ふふふ^^馬が要らない馬車 しかもリリスとケイトが一緒・・・
楽しい予感がしますわ！

ポーラ「ふふふふふふふふふふ！」

カリフ「ひ、姫様？」

ギブリ「ついに壊れたか？」

ポーラ「違いますわ！城下に行きますわよ！2人とも護衛としてお供しなさい」

カリフ「じよ、城下ですか？何故になにゆえ……」

ポーラ「なんでも『馬の要らない馬車』が城下に来ているそうよ？それを見に行きますわ！」

カリフ「馬車見学ですか……」

ポーラ「聞く所によるとリリスとケイトもその馬車と一緒にですわ」

ギブリ「げ！『ボム』と『ブリザード』が居るんですかいw」

ポーラ「この事は みなには内緒ですわ……さあ、急いで行きま
すわよ！」

カリフ「姫様！お待ちを！城下の何処どこにその馬車はあるのですか？」

ポーラ「……さあ？……どこでしょう？……」

ギブリ「はあ……王都って広いんだぞ？脳みそあんのか？この
姫様はw……」

ポーラ「うw……メラ！あなたはどこに居るのか知っていますの

「？」

「メラ「はあ、南大通りの『幌馬車亭』と言う宿屋だそうですが……」

「ポーラ「さあ！行きますわよ！」

カリフ「姫様！おしのびですのでお着替えを！」

「ギブリ「やれやれ……」

「ギブリ「っいたら子供のころからですわ……口の悪さは直らないものなのですかね？」

カリフの心配性も昔からでしたわね……

私達は おしのびで城から出て『幌馬車亭』へ向かったのですわ

城下など歩き回った事が無いので色々と物珍しいですわね……

あれはなんでしょう？食べ物？なのですかしらね？……

これは？飲み物？ですかしら？……

あっちからはとても良い匂いがしますわ！

向こうの露店は人がたくさん集まっていますわ！

あ、あら？動けないですわ……

ん？……グエツ！く、首がしまるw……首根っこをギブリに押さえられていますわ！

「ギブリ「ったく、ちょこまかと……」

カリフ「『うるうる』や『きよるきよる』をしないで頂くと助かるのですが……」

ポーラ「ふ、ふんっ！……そのくらい解っていますわ！」

ギブリ「どーだか……」

ポーラ「ギブリ！あなたは いつもいつも！少しは黙ったらどうですの！？」

ギブリ「はいはい……」

ポーラ「返事は1回でよいですよ！」

ギブリ「は〜い^^」

ポーラ「……もう、よいですわ……」

カリフ「見えてきました！あそこが『幌馬車亭』です」

私達は宿の前を通り過ぎて横の停車場へ向かったのですわ
そこには見たことも無い様な 鉄で出来た大きな馬車？が何台もありましたの

ポーラ「……これほどとは……」

カリフ「すごいですな……」

ギブリ「こんなの持ってやるやつて・・・どんな金持ちだ？」

ポーラ「！これは！窓に透明な板がはまってますわ！」

カリフ「この車輪はなんだ？木でもなければ鉄でもないぞ？」

ギブリ「小さいのは乗車用で 中くらいのが荷物用ってのは解るんだが・・・しかし

このでつかいのはなんだ？天蓋のやぐらから延びている鉄の棒は武器なのか？」

みんなで馬車？を見ていると変な歌が聞こえてきましたの・・・

やめられないとまらない〜かつ えびせん

変な歌に気を取られていましたらいきなり声をかけられましたわ・・・

「そこでなにやってるの？車それあたしらのなんだけど？」

どつやらの馬車？の持ち主の様ですわ

こちらが何者なのか様子を伺っていますわね

！・・・こゝこれって殺気ですの？すごいですわ・・・ちびりそう
ですわ・・・

この殺気でカリフとギブリが条件反射的に抜剣してしまいましたわ二人とも相手に剣をむけてしまつて・・・この馬車はあの方の物なんですよ？かつてに見学しているのは私達なのですわよ？それを解っているのですか？

「カリフ！ギブリ！やめるのじゃ！」

「し、しかし姫様・・・」

「よい、カリフ 人様の馬車？に無礼をしていたのは事実じゃ・・・こちらが悪い」

ギブリとカリフが冷や汗を掻いている？・・・この変な歌を唄っていた者は強いのですか？
ですが まずは誤解を解いて謝らねば・・・

「あいすまぬ、世にも珍しい馬の要らない馬車が来たと言つので城を抜け出してきたのじゃ」

「へ？んじゃあ あなたはこの国のお姫様つて事でいいの？」

「きさま！その口調は姫様に対して無礼であるうっ！」

「ギブリも！控えろと言つておるうっ！」

ギブリ！偉そうに！あなたも私に対しての物言いは 少し直してほしいものがあるのですわ！
でも 物取りの類ではないことを説明しないと・・・身分を明かさないとですわ・・・

「お忍びで城から出てきたので 大きい声では申せぬが・・・
わらわは このシャマルル国の第一王姫で『ポーラ・トライデント・シャマルル』じゃ・・・」

「こちらこそ失礼を致しました・・・私はヨコタ国第一王姫の『マコト・カミヤ』です^^
私達も訳あっておしのびでこの国に来ました・・・」

「なんと？他国の姫君なのですか！？
なぜこのような平民が泊まる宿などに？・・・しかも1人でうろついて・・・」

「そ、そなたも一国の王族なのか？・・・しかし、ヨコタ国とは・・・
初めて聞く国名じゃな」

カリフとギブリも焦ってますわね『他国の王姫に剣向けちゃったよー！どうすんべー！』
って顔をしていますわ・・・ふんっ！ギブリには良い薬ですわ！

「ポーラ殿下^^よろしかったら私達と飲み物でも如何ですか？お付きのお2人も一緒に^^」

へ？・・・私をさそってくださってる？・・・うれしいですけど
こんな場末の酒場など

入ったことはありませんの・・・興味はあるので入ってみたいんですけど・・・

「マコト殿下・・・よいのか？わらわはこの様な店には入った事がないので興味はあるのじゃが」

「かまいませんよ^^私の父上も居ますし 他は楽しい友人ばかり
ですので^^」

「はあ？父上って国王陛下ですわよね？この様な所にいらっしやるとは・・・」

「は？そなたの父上・・・って、この様な店に国王陛下もいらっしやるのか！？」

「はい^^ヨコタ国はある意味で平等ですので 平民も貴族も王族も一緒に楽しめます」

それは 民と一緒に居てこそ民を知ると言う事なのですかね？・・・
私も学びたいですわ

「うむむ・・・興味深い話じゃ・・・カリフ、ギブリ、わらわは歓談していくぞ 付いて参れ」

「ははっ」「」

それにしてもマコト殿下は馬車こしで何をしていますの？・・・
へ？・・・マコト殿下自ら荷を取りに来ているのですか！・・・
王妃が1人で？・・・お付きの護衛も無しですの？・・・信じられ
ませんわ！

「王族であるマコト殿下自らその様な雑用をされるのですか？・・・
ふむ・・・」

「あはは^^父上からの教えでね『みんな平等！自分でやれる事は
何でもやれ！』って^^」

「ほう、そうなのか・・・良い考え方じゃのう・・・」

私も1人で色々とやってみたいものですわね・・・
マコト殿下とも もっと気楽に会話がしてみたいですわね・・・

「ねえ、1つお願いがあるんだけど良いかな」

「願いととはなんじゃ？」

「うん、お互いに王姫同士なんだから 公式の場以外では敬語はやめない?」

「!あいわかて・・・いや解ったわ^^ポラって呼んでくださる?」

「うん^^あたしもマコトって呼び捨てで良いよ^^」

私にも対等な友人ができましたわ!これはとてもうれしいですの^^マコトと宿へ入っていきましたら マコトの仲間の方達がいらっしやいまして・・・

マック「遅かったじゃないか マコト」

ロツテ「心配したわよ」

真琴「遅くなってごめんね・・・お友達が出来たんで連れて来ちゃった^^」

ほう!^{なが}これが平民の酒場ですか・・・なんとも賑やかですわね・・・酒場を見渡しましたら・・・私と目が合いましたね リリスにケイト^^

リリス、ケイト「」(*´。´) : : * : : ; ; ぶーっ!」

真琴「リリース！ケイト！つてば汚い！飲み物吹くな！」

リリース「いやいやいやいやいやいや！」

ケイト「な、なんでマコトとポーラ殿下が……」

真琴「ん？停車場で知り合って友達になっただけど？」

メアリ「ポ、ポポポポ、ポーラ殿下！？（。。。）ポカーン」

リリース、ケイト「…………orz」

ポーラ「リリース、ケイト うふふ、お久しぶりね^^」

ふふふ^^喜んでくれてうれしいですわ ね？ケイトにリリース^^

Side 真琴

真琴「とりあえずあっちの席に座ろつよ^^」

あたしはポーラ達とメアリ達を呼んで奥のテーブルを指差します
あーそうだ おつまみもみんなに配らないと・・・頼まれてたんだ
よね

カウンターのよねいさんからお皿でも借りてくるかね？

真琴「ちょっと待っててね みんなにおつまみ配ってきちゃうから
・・・

あ、リリース このワイン開けて先にみんな飲んでて^^」

ワインボトルを2本とグラスを一緒にテーブルにおいてカウンター
へ行きます

てか、よねいさんw・・・やっぱその乳は反則ですよw・・・

真琴「よねいさん、おつまみ持ってきたんだけど お皿貸してくれ
る？」

よねいさん「いいわよ^^・・・あら、珍しい食べ物ね・・・どこ
の食べ物なの？」

真琴「うん、あたしの国の食べ物なんだよ よかったらよねいさん
にも少しあげるね^^」

あたしは 何枚かのお皿におつまみを分けてみんなの所に持って行
きます

だがしかし えびせんはあたしんだぞ！

レティ「あ、おつまみありがとねー^^」

ジヨン「んで、さっきの連れは誰なんだい？」

真琴「んーとね、この国のお姫様とお付きの人だつて^^」

みんな「「「ぶーっ！」「」」

カミヤ「ふむ、マジで姫様なのか？挨拶したほうが良いか？」

真琴「うん、後で呼ぶね^^ジヨンとレティもだからね」

さて、おつまみ持ってポーラ達の所へ戻りますか・・・

あるえ〜？なんか緊迫感があるんですけど？

メアリが緊張でカチカチなのは解るとして　ポーラのお付きの人達
つて何で緊張してるんだ？

リリースとケイトも苦笑いっぽい？

ワインも飲んでない様だし・・・

真琴「おまたせー・・・はい、これおつまみね^^」

ポーラ「まってましたわ^^マコト　紹介しますわ　この2人はカ
リフとギブリですわ」

カリフさんとギブリさんが会釈をそれぞれしてくれます

ポーラ「では乾杯しますわ^^」

全員「^^かんぱーい!」

さあどうぞだ!こいつは美味いんだぞ
なんつったて秘蔵のワイン
だぞ?

全員「^^!美味しい!」

真琴「でしょ^^」

リリス「うむ、このあいだ飲んだのより遥かに美味いな!」

ケイト「色も透明じゃなく少し琥珀色?」

ポーラ「私もこのような甘みと香りのあるワインは飲んだことがありませんわ!」

カリフ「はい・・・これは感動しました」

ギブリ「確かに旨い・・・」

メアリ「・・・おいしーですw・・・」

真琴「このあいだケイト達が飲んだのはシュタインベルガーのカビ
ネット種で 今回のは

アウシュレーゼ種のビンテージなんだよ^^」

ポーラ「マコトの国のワインなのですね・・・」

真琴「そう^^^これはポーラの家で献上品で持ってきたやつなんだ^^^」

全員「コッブツ」
（ブツ）

真琴、ポーラ「きたない（ですわ）！」

メアリ「け、け、け、けけけんん・・・」

ケイト「メアリ、落ち着く！」

カリフ「け、献上品・・・」

ギブリ「おい、飲んじまったぞ？」

リリス「うむ、王家への献上品を・・・」

真琴「ん？なんか拙かったのかな？」

ポーラ「普通なら 不敬罪で極刑ですわね」

真琴「あら？・・・まー良いじゃん 気にしない気にしない^^^」

ポーラ「ですわね^^^」

真琴「まー、場も和んだことだしね^^^」

全員「まったく和んでない!」

あ!そうだった ポーラ達にプレゼント持ってきてたんだっけ・・・
ポーラにはダイヤとルビーが入っている大きめのデザインネックレスで

お付きの2人にはソーラー腕時計^^

真琴「ねえ、ポーラ これ友達になった記念にプレゼントするね^^

お二人にはこの時計ね」

ポーラ「こ、これは!」

カリフ「!!!う、腕に付けられる時計ですか!」

ギブリ「・・・よいのですか?しかしこれは頂くには高価過ぎる様な・・・」

真琴「いいよ^^・・・あ、お城への献上品は別にちゃんとあるから気にしないでね^^」

ポーラ「ありがとう・・・マコト!とってもうれしい!」

ポーラ「ってば ほんとに嬉しそうだね^^

うん、これでほんとに和やかになった・・・ん?・・・あれ?

メアリ?なんでポーラにガン付けてるのかな?・・・まあ、メアリは良いとしても

リリースとケイトってばまだ何かあるのかな?・・・そわそわしてる
と言っか・・・

微妙にいつもと違うよね？

カリフさんとギブリさんもなんか居心地が悪そうだよね？

ん？なんでだ？・・・

って事で 次回につづきます・・・(* ^ . -) (V I E I

15話 涙の姫様 なんか主役を取られそうなんですけどw(後書き)

真琴「お疲れ様です^^」

レテイ「お疲れー^^」

ジヨン「今回は中途半端な終わり方だったな・・・」

カミヤ「まあ、作者が作者だし？しかたなかるう」

真琴「なんかねーほんとに親子で話を作ってるらしーよ？」

レテイ「それで文体がやや変わるときがあるのね？」

真琴「うん^^」

どーもです^^作者のM2-1015です

なかなか話が進んでいませんが物語りに必要なもので・・・

大幅な書き直しで四苦八苦してますw

ぐだぐだ感丸出しですがご勘弁くださいませ^^

それでは皆様にもっと笑顔が増えますように^^

では^^ノ

16話 涙の部下 上司や仲間にも恵まれていないんですw(前書き)

真琴「どーもでーす^^」

ポーラ「頭が高いですわ!」

カリフ「・・・姫様・・・」

ギブリ「まったく・・・」

真琴「ポーラって・・・こんなキャラなの?」

リリス「うむ」

ケイト「そう」

ポーラ「・・・」

メアリ「あたしの出番が少ないです!(o口o)」

真琴「カリカリ(えびせん食ってる)」

カミヤ「なあ、俺って最近イタズラしてないよな?」

真琴「カリカリポリポリ(えびせん食ってる)」

レティ「あー、真琴はえびせん食べたしたら周りは見なくなるわよ?」

真琴「ポリポリカリカリポリポリ(えびせん食ってる)」

ジョン「んじゃ、はじめつか?」

レティ「それでh・・・」

真琴「第16話はじまりまーす!^^(やったね!)」

16話 涙の部下 上司や仲間に恵まれていないんですw

うーん・・・やっぱりなんか雰囲気を変だよな？

ポーラだけは『ニター』（*、）（）『って顔してるんだけど・・・

あ そーだ！リリスとケイトの二つ名の由来を聞きちゃあーかな・・・

聞いてもへーきだよな？

真琴「ねえねえ、リリスとケイトに疑問って言うかちょっと聞きたいことがあるんだけど良いかな？」

リリス「うむ？良いぞ 私とマコトの間で隠し事はないからな」

ケイト「良いですよ」

真琴「2人の二つ名の事なんだけど・・・」

カリフ、ギブリ「びくっ！」

ポーラ「（；）（） 3 ぷっ！」

ん？なんでこっちの2人がビビッてんのかな？
で、ポーラはなぜに吹いてる？

リリス「うむ、二つ名か・・・私は『爆発^{ボム}の剣士^{セイバー}』と呼ばれているが・・・」

ケイト「私は『氷風^{ブリザード}の魔女^{ウィッチ}』」

リリス「名を付けたのは その二人だ・・・」

ケイト「そう、カリフとギブリ」

カリフ、ギブリ「びくっ！（）（）（）；。 （）（）ガクガクブルブル・・・」

なんで？そんなに震えてるん？

リリス「うむ、名前の由来なんだが・・・かなり上の上司と揉めた事があったな・・・」

ケイト「そう、その事件が原因で二つ名が憑いた」

憑いたってw・・・ケイト・・・でも、気になるよね？
気になるけど・・・聞いちゃって良いものなのかな？

ポーラ「おほほほ^^言い辛いんですわ 私から説明いたしますわ！」

カリフ「ひ、姫様！その話は止めたほうが・・・」

ギブリ「この姫様はあほW・・・また余計なことを・・・」

ポーラ「あら、良いじゃありませんの^^あなた達は あの事に直接は関係ないとしても

リリースとケイトの名付け親ですわよね？」

カリフ「確かに二つ名を付けたのは私達ですがW・・・」

リリース「うむ、私は王宮の訓練所にちょっとクレーターを作っただけで・・・(#) けっ！」

ケイト「そう、私も挑んで来た騎士団員を少し凍らせただけ・・・凸(°。° #) いつかブツ殺す」

カリフ「いやいやいや！あれは姫さま」なにかしら？(ニコッ^^)「いえ、何でも無いです」

ポーラ
姫様説明中

真琴「ってことは 騎士団長と魔術騎士団長の嫉妬でリリースとケイトが騎士団巻き込んで

大ケン力をおっぱじめちゃったと言う事なの？・・・リリースは剣撃でお城をクレーター

だらけにして さらにケイトは魔法でまわりを氷付けにしち

「やったってかw?」

リリス「うむ、あの団長はかも共は隊長だった我々の才能に嫉妬していたからな」

ケイト「そう、職場の上司に恵まれなかった・・・」

真琴「まさに オー人事 オー人事って感じだね・・・」

ポーラ「おーじんじ?って何ですか?」

真琴「え?あ、えーと・・・上司に恵まれない時にする お呪いまじなかな?^^;」

カリフ、ギブリ「(おーじんじおーじんじ!)」

ポーラ「ん?カリフ、ギブリ・・・あなた達 今 何かおっしゃいました?」

カリフ、ギブリ「(ギクツ!) いえ!何も!」

ポーラ「・・・まあ良いですわ・・・」

真琴「で、ケンカした後はどーなったの?」

リリス「うむ、それでケイトと2人で騎士団を辞めて冒険者になっただんだが・・・」

ケイト「そう うわさで聞いた 私とリリスを面白そうだからって騎士団長達にけしかけた人物が」

いるらしいと・・・もう気にしてないですけど(ジト目で
ジッとポーラを見る)

ポーラ「(びくっ!-)」

カリフ「姫様・・・藪を突付いて蛇を出す・・・だから 止めたの
に・・・」

ギブリ「ノーミソ無いなw・・・この姫様は^{おてんば}」

おう、やっぱりポーラが裏で糸引いてたのね・・・いたずらが好き
なんだね

カリフさん達も苦労してるんだね・・・
でも、なんか更に気まづくなっちゃった感じがする・・・
話を変えるかね?

真琴「まあまあ・・・その話はそのくらいにして・・・食べて飲ん
でね^^」

ポーラ「あ、これ おいしいですわ」

真琴「それは『さきいか』だね^^」

ポーラ「さきいか?とは・・・なんでしょう?」

真琴「えーと、海に居る軟体動物を味付けして干したもの?かな・・・
」

ポーラ「あら、海の物なんですのね・・・」

カミヤ「で、そろそろ良いかな？ 挨拶しても^^」

真琴「おう！びっくりしたーw・・・って兄貴？」

ポーラ「兄貴？マコトのお兄様ですか？」

真琴「いやいや・・・兄貴って呼んでるけど これはあたしの親父さん」

ポーラ「えーと、お父様？ってことは・・・国王陛下!？」

カミヤ「私がマコトの父で ヨコタ国 国王のヨシハル・カミヤです^^」

カリフ、ギブリ「(ビシッ!)(」

あら、固まっちゃったね・・・うん、固まりついでに・・・

真琴「ジョーン！レティ！紹介するからこっちに来てー！」

ジョン、レティ「オツケー^^」

真琴「ポーラ 紹介するね こっちのおっさんが『宰相のジョン・フレデリック公爵』」

ジョン「おっさんは無いだろ？お初にお目にかかります ジョンと

申します 姫様^^」

真琴「で、こつちの美人さんが『国防相 将軍のレティシア・フオンダ公爵』ね^^」

レティ「はじめまして レティシア・・・レティと呼んで下さいね^^」

ポーラ「私は この国の第一王姫のポーラ・トライデント・シャマルです^^」

カリフ「近衛騎士団ポーラ姫付きのカリフ・ビトウルボです」

ギブリ「同じく近衛騎士団めめのおせつやくのギブリ・エッセエスです」

ポーラ「ギブリ！だれがお守り役ですの！」

ギブリ「ふーw・・・たまには尻おしり拭い役の身にもなってほしいもんですな・・・」

真琴「お！あたしギブリさんとはめっっちゃ気が合うかもしんない！」

がばっ！

真琴「うわっ！めっっちゃ油断した！・・・兄貴ってば！はなれる！」

カミヤ「ほかの男と付き合うなんておとーさんはゆるさ」ばかたれ！（バキッ！）「ふえぶっ！」

カミヤ「だから ハリセンは痛いって……」

真琴「痛くしてんの！で、誰が付き合うだ！あたしは気が合うつて
言っただけ！」

がばっ！

真琴「うをつ！あーもう、しつこい……ってメアリ？」

メアリ「マコトさんが男の人と付き合うなんて絶対許しません！」

真琴「えーと……メアリさん？あたしは誰とも付き合いませんよ
？」

メアリ「はーい、ごめんなさいw……私ったら 慌ててしま
つて……」

メアリさん……言い訳になってない様な気がするんですけど……
ん？……
みんなそつちで何を話しているのかな？

レティ「ポーラさんあれがヨコタ国名物の王族漫才です^^」

ポーラ「ほう！とてもおもしろいですわ！」

カリフ「王姫が国王陛下をひっぱたくんですか！」

ギブリ「俺もどっかの王姫お「お姫様」をめっちゃ叩きたい・・・(ぼそっ)「

リリス「うむ、メアリも漫才あれにすんなりと混じる様になったか^^」

ケイト「でもメアリはもう少しマコトに張り付いていた方が良かった」

メアリ「解りました！もっと張り付きます！もっとすりすりします！ペるペるもやります！」

真琴「・・・」

・・・いいですけどね・・・いいですk・・・いいd・・・泣きたい！・・・orz

チャ〜チャララチャ〜チャ〜

仲間に恵まれなかったら・・・スタ　フサービスへ^^

022-022(オー人事オー人事)

ピポパピポパ・・・がちゃ・・・

オー人事「はい、スタッフサ ビスです^^」

真琴「えーと、仲間に恵まれないんですが・・・」

オー人事「はい、あの仲間では無理です^^」

真琴「……………」 ; () なんですか?」

ぐすんっ……………もつかいいいかなw……………orz

と、まあ 飲み会はつづくのですw……

16話 涙の部下 上司や仲間にも恵まれていないんですw(後書き)

真琴「宿屋の飲み会つづいてるねー」

レテイ「ですよねー」

ジョン「まー、ほぼ終わってるから次回は話変わるんじゃない？」

ポーラ「おーほほほほほほ！まだわたくしのターンですわ！」

カリフ「いやいやw」

ギブリ「もう おわつとるがなw」

リリス「うむ、そろそろ私のターンか？」

ケイト「リリスは寝相が悪いから無いんじゃない？」

リリス「ケイトの寝相だつて変だぞ？」

ケイト「じゃあ次回の主役はだれがするの？」

メアリ「わ、わ、わわわ私がりりたいです！（マコトさん相手で

^）

カミヤ「うん、女の子なら良いかな？」

マコト「やだ！（、（」

どーもです^^作者のM2-1015です！

更新が少し遅くなりまして・・・さらに中身も少なめで
すいませんです

急な出張でして・・・いや、言い訳はしません
申し訳ありませんです

さて 次回は宿屋での1泊と次の日にギルド訪問の予定です

それでは皆様にたくさん笑顔が訪れますように^^
では^^^ノ

17話 涙の再開 要らないおまけってほんとに要らないですよねw！ そち

真琴「ういゝ・・・」

レテイ「あら？元氣ないわね？」

ジョン「ん？マコトどした？」

真琴「ん・・・飲みすぎたw・・・」

ロツテ「お薬あげましょうか？」

真琴「・・・いらない・・・それよりも・・・」

ジョン「それよりも？」

真琴「今回はあたし、出演しないほうが良い予感がする・・・」

ポーラ「おーほっほっほっほっほ！代わりにあたくしが出てさしあげますわ！」

カリフ「ひ、姫様・・・少しはひかえてくださいよw」

ギブリ「まわりの空気読め！この姫様おはは！」

ずるずる・・・（2人に引きずられて退場するポーラ）

レテイ「んじゃ、とっても嫌なだけで私が主役やってあげるね

嫌なだけだね」

ジョン「・・・」

カミヤ「・・・」

ユキ「それでは皆さん！17話のはじまりです^^」

キヤーq）（*）（*）（pキヤー

全員「・・・だれ？」

ん』つてだれっスか!?)」

カミヤ「やるよ^^. . .ほれ、ファスト 強制開錠しろ^^)」

レティ「大丈夫よ タベあれだけ飲んでたし. . .簡単には起きないわよ^^)」

ファスト「(うw. . . ビッキング強制開錠っスかw. . .)」

師匠. . .なんでそんなに楽しそうなんっスかw. . .
レティさんもなんでそんなにキラキラ目してるんスか?
解ったっスよ. . .開けるっス. . .やるっス!. . .ここをこー
して. . .

かちやかちや. . .がちや!

ファスト「(開いたっスよ. . .)」

あゝあw. . .これで俺も共犯っスねw. . .) ; ; ; (シヨ
ボン

カミヤ「(1、2、3、で開けるぞ?)」

ファスト「(いち!)」

レティ「(にい!)」

カミヤ「(さん!)」

かちやり……………カプツ!

レティ、ファスト「カプツ?」

Side 真琴

えーと、今の状況は飲み会と言う名の夕飯後に部屋にもどって寝る
所なんだけどw……
こいつらときたらw……

リリス「うむ! 城の將軍共しゅいつか全員撲殺!」

ケイト「ふふふ……………いつかぶっ殺す……………ふふふ」

メアリ「あー、マコトさん 今晩こそ抱いてください！^^//」
真琴「・・・だれだw・・・こいつらにここまで飲ましたの・・・
orz」

あーw！この酔っ払いどもが！

ポーラ達と仲良く？おしゃべりした後で夕飯になったんだけどね・・・
夕飯の後でまた飲み会になっちゃったんだよねw

ケイトとリリスはなんかグチってるし・・・メアリはくつついてくるし・・・

（まー学校でもくつついてきてた娘が居たっけ・・・ユキちゃん元
気かなあ・・・）
だがしかし！部屋まではこぶのだったって大変だったんだからね！
あーもう！きみたちはもう早く寝なさい！

あ、そうそう ポーラ達はお忍びで来てたから夕飯はお城で食べないと怒られるらしいので
あたし達がここに来た理由は 後日お城で伺いますって事で帰りました^^

リリス「ぐが〜・・・ぐが〜・・・」

ケイト「・・・（ピーン！）・・・」

メアリ「すすすすすす・・・」

真琴「ふうw・・・やっと寝たかw・・・さて、あたしも寝るかな・・・」

リリースつてば『ぐが』つて・・・相変わらずですわw・・・それにしてもケイトつてあんな寝方で肩凝らないのかな？

そだ！取り合えずメリの手足は縛つて置こうね^^

また こないだみたいにくろつてB地区を舐められたらたまんないモンね・・・

んじゃおやすみなさい！^^

「ムムムム」

「んにゅ？」

「ムムムム・・・起きて下さい」

「ありや・・・アルさん？」

「じんばんわ^^」

「どーも^^（あー、やっぱりアルさんはイケメンだねえ） 癒され
るっ〜（」

「・・・照れます・・・」(//) — モジモジ

「心の中読まれた! (てか、照れてるイケメンもそそるなあ) / /
/」

「いちおー神なので・・・」

おう、今までも読まれてたのネン・・・恥ずかしい〜・・・ / / /

「それですね ももちゃんなんですが・・・あのですね・・・」

「え! 会えるんですか!」

「・・・えーと、それはOKなんですが・・・なんと言うか・・・」

「アルさん? 歯切れが悪いですよ?・・・なんかありました?」

「ごめんなさい! m (—) m」

へ? アルさんが土下座で謝ってる?・・・ふむふむ・・・ほーう・・・なるほど・・・

えーとね アルさんが言うには ももちゃんが神界でたくさん神様に可愛がられたらしくて

いろんな能力を貰^{ちと}っちゃったみたいなんだよね・・・ただの猫ではなくなつて

神獣? 以上になつちやつたらしいんだけど・・・言わば『超神獣』

って感じ？

「アルさん ももちゃんは元気なんですよ？ だったら別に気にしないよ？ ^^」

「ありがとうございます！・・・ついでもうひとつあるんですが？」

「へ？まだあんの？」

「はい・・・ももちゃんをここへ連れてくる時にももちゃんと一緒に居た方を間違って連れて来てしまったんですが・・・送り返そうとした所 いやがってしまっ・・・」

「どうもマコトさんのお知りあいらしくて・・・逢わせるー！ っで暴れてしまっ・・・かなりの被害が・・・」

「ん？だれなんだろ？」

「霧矢ユキさんって方なんですけど・・・ご存知ですか？」

「えー！クラスメイトで拳法部のユキちゃん！？」

「やっぱり知り合いだったんですね・・・」

「ももちゃんは嬉しいけど・・・ユキちゃんか・・・ややこしいのが来ちゃったなあ・・・」

「まあ基本的にやさしい娘なんだけどね・・・あたし絡みで怒ると」

笑顔で相手を

ぶん投げるからなく・・・親父さんの弟子であたしの家や道場にも良く来てたし・・・

さらに学校じゃ『真琴親衛隊』の隊長で裏番だったしw・・・んん、メアリ達とけん制しあってくればいいけど・・・共闘されたら絶対やばいよね・・・

何がって？主にあたしの貞操がですw・・・だって、ユキちゃんってば百合っけがあるんだもんw・・・

「えーと、アルさん・・・ユキちゃんには何か能力ちとを与えちゃったのかな？」

「私はレティさんと同じ位の能力だけはあげましたけど・・・」

「そか・・・」

うん、あたしや親父さんと同等だと絶対にまずいもんね・・・あの娘の性格だと

魔力があたし並にあったらどっかの国を1人で滅ぼしそつだもんね・・・

まあ、ユキちゃんの事は後で考えるとして・・・

「で、アルさん ももちゃんとは今すぐ会えるの？」

「会えますよ^^呼んでみてください」

「もも〜！あたしだよ〜！おいで〜！」

「もも！ももちゃん！タンマ！ちよつと待って！なめんの痛いから！」

「すみません……神々のせいであと、人型にも変身できます……」

「へ？人間に変身できるの？」

「はい……人型なら会話もできますよ」

うわー、なんかめっちゃテンプレなんですけど……親父さんの喜ぶ姿が目には浮かぶぞ……

（|| ^ ^ ||）どやー　こんな感じでw……

「人外の生き物と話す『念話』の魔法をマコトさんに施しておきますね……それならこの状態のももちゃんとも会話できますし、その方がこれからも色々と便利でしょう」

「あ、それは便利かも^^」

「では、えい！……できましたよ^^」

はや！……相変わらず早いですねー……どっかの牛丼屋みたい……

「では、ももちゃんとユキちゃんをマコトさんの部屋へ送りますね。
・・・えいつ!」

「はや!」

ん?・・・あれ?何か大事な事を忘れているような・・・ん?・・・

「えーと アルさん、あたしは今回も魂だけがここに来てるんですよ?」

「はい^^」

「で、身体は部屋のベッドの上ですよ?」

「はい^^」

「あたしの魂が戻らないとまったく動けないんですよ?」

「はい^^」

「って事は身体を好き放題さわられても何も出来ないんですよ?」

「はい^^」

「で、アルさんは ユキちゃんをあたしの部屋へ送っちゃた?」

「はい^^」

つて事は あたしの身体はあっちにあつて動けなくつて・・・そこにユキちゃんが居る!?

やば!メアリよりもやばい!ペるペるだけじゃ済まないかも!

「ア、ア、アルさん!あたしを直ぐに帰してください!」

「はい?もう帰るんですか?ゆっくり上司のグチでも聞いてほしかったのに・・・」

「いやいやいや!あたしの身体が危ないんです!デンジャーなんです!」

「でも もう少し話したいことが・・・」

「いやいや!それはまた後で!早く帰らせて!」

「?・・・なんだか解りませんが・・・分かりました・・・ではまた^^ノ」

「またね〜!・・・あ、ももちゃんの件、ありがとでした〜^^ノ」

急がないと!・・・ああ〜w・・・でもあたしって低血圧なんだよねw・・・起きれるかな?

S i d eレティ

ファストの強制開錠ヒッキングの腕はさすがね・・・部隊で1番だけの事はあ
るわね

さあ、みんなの寝起きはどんなかしらね・・・わくわく^^^

カミヤ「(1、2、3、で開けるぞ?)」

ファスト「(いち!)」

レティ「(にい!)」

カミヤ「(さん!)」

かちゃり「・・・・・・・・・・・・・・・・カプツ!

レティ、ファスト「カプツ?」

・・・@!・・・カミヤの背後に・・・何か押し掛
かって・・・

って！なに！何ナノ！あの生き物は・・・カミヤが頭からかじられ
てる！

拳銃を・・・あ、私たち丸腰だったんだわ・・・

カミヤ「あー、レティにファスト・・・甘噛みだから心配は要らな
いと思う・・・たぶん」

レティ「え？だって・・・頭から血がしたたってるんだけど・・・」

カミヤ「あー その なんだ、こいつは・・・多分もちやんだと
思う・・・」

レティ「もちやんってペットの？・・・こんなに大きかったっけ
？」

カミヤ「真琴から聞いてたんだが神様が預かってくれていたらしい」

レティ「orz・・・規格外は飼い主に似たのね・・・はあ・・・」

ファスト「師匠のかっこ見ると銀 の銀さんがさだはるに噛み付
かれている様にしか

見えないっス！むしろそのままっス！」

カミヤ「俺が坂田 時なら ファストは志 新八だぞ？・・・いや、
マダオか山崎か？」

ファスト「あたしや弄られ役っスか！」

カミヤ、レテイ、もも「うん、そうだね^^（がうっ！）」「」

ファスト「・・・もういっス・・・」

「ごごごもぞもぞもみもみ

マコトの布団が動いてる？・・・あの低血圧が動いてるなんて・・・

レテイ「マコト？・・・起きたの？」

S i d e
コキ

あーん！お姉さまお姉さまお姉さまお姉さまお姉さまお姉さまお姉さまお姉さま
さま~~~~~！

ユキ感激です！やっと会えました~~~~！

キヤーQ（*）（*）（*）pキヤー！……！

あ、ユキはレ ぢゃないですよ？ただお姉さまに憧れてるだけですよ？勘違いしないでね？

ユキは ズぢゃないんですよ？・・・大事なことだから2回言いましたよ？

それにしたってお姉さまに直ぐ合わせないなんて あの神様達って けちんぼなんですもん！

でもアルって神様は色々と説明してくれて 魔力までくれたけど・・・

他の神様達かみさまつたら知らん振りして！

まあ、半殺はんころしてあげたら なんか色々と能力くれたから・・・ま、良いのかな？

いやいや！それよりもおねいさまです！

うん、熟睡してますね〜^^・・・ごくり・・・くんくん・・・良い匂いです^^

では、服を脱がせて・・・あ〜ん！下着は薄いピンクで上下お揃い
ですか！

キヤーq (*) (*) pキヤー

「ハアハア・・・じゅるっ・・・では、いただきます！」

両手を合わせて拝みます^^

で、ブラをずらしてっど・・・くんくん・・・ハアハア・・・ペロ
ペロ・・・ハアハア・・・

いやん！B地区が硬くなってきましたよ！・・・感じてるんですね

！・・・ハアハア・・・

もみもみ・・・あゝ小さいながらもやわこい・・・ハアハア・・・

かちや・・・かぶつ！

あら？だれか来ました？ちっ！良い所でじゃまですか！・・・でも
『かぶつ』てなんですか？

ん？話し声も聞こえますね・・・

レティ「マコト？・・・起きたの？」

やば！こっちに誰か来る！

もぞ・・・もぞもぞ・・・「ん、んん・・・」

げ！真琴お姉さまが起きそうです！

ユキってばもしかしてピンチ？

神様！ユキのお願いです！このピンチを救ってください・・・

って、あのボケた神様達ひしぎじゃ無理なんじゃね？

あーw！もっとボコつとけばよかった！

そっだ！ワントンメン？いや・・・ワントンスープ？・・・ワントン
餡かけ？・・・

えーと、なんだっけ？・・・あ！そうそう ワカントンカって神様
からもらった性転換魔法を

真琴お姉さまに・・・えいっ！・・・あーん！男のお姉さまも素敵
です！

キヤーq) * (* (pキヤー

で、ユキにはこの変身魔法で・・・えいっ！

これで完璧なのです！・・・たぶん？

キヤーq) * (* (pキヤー・・・・・・・・

って、つづきは次回ですって？

17話 涙の再開 要らないおまけってほんとに要らないですよねw！ そち

真琴「・・・やっぱり嫌な予感が当たったw・・・」

レティ「次回はどうなっちやうのかしら？・・・心配だわ」

メアリ「ユキさん！ゆるしません！」

ユキ「ん〜、でも男の真琴お姉さまも素敵で良いですよ？」

メアリ「・・・ユキさんとはうまくやっていけそうな気がします・・・」

「

レティ「あーあ・・・やっぱりそうだったかw」

ジョン「結託したな・・・」

カミヤ「でも真琴は男になってもあんまし変わりそうにないんじゃないかね？」

真琴「・・・(ピシッ！^^#)・・・」

ジョン「あーマコト、一応聞くが・・・今回は何持ってく？」

真琴「これ」

ジョン「M109A6 パラディン・・・155mm自走榴弾砲ね・

・・・」

レティ「みんなー！危ないから離れるわよー！」

真琴「食らえ親父！30発は覚悟しろよー！」

どーもです^^作者のM2-1015です

まずご報告です

プライベートがちつとばかり忙しくなってきました

更新が少し遅くなりそうです まあ出来るだけ早く更新はするつもりですが^^

で、今回も新キャラでました！

ちよつとユキちゃんのキャラを濃くしすぎましたかね？

次回は『男の娘は真琴』『ももちゃんとヤキモチ娘』『義春が女？』の3本です

(うそぴょん^^)

是非『お気に入り』に登録して評価をお願いします
皆様の感想などもお待ちしております^^

それでは皆様にたくさん笑顔が訪れます様に^^
では^^ノ

18話 涙のもっこり あぶのーまるな同級生と王都でコメディアン！えーw

真琴「。。。 (ノ、) えゝん !。。。股間に変なものがゝ
w。。。」

メアリ「そ、それも運命です。。。マコトさん。。。」

ユキ「ハアハア。。。」

リリス「ぐがゝ。。。ぐがゝ。。。」

ケイト「。。。はあゝw。。。」

真琴「。。。 (ノ、) ひゝえゝん !」

レティ「とんだ災難ね。。。マコト。。。」

ジョン「どーなるんだ？いたい。。。」

カミヤ「まあ、ユキちゃんは前からいたずらっ娘だったしなw。。。」

ファスト「とばっちりはいやっス！」

真琴「。。。 (ノ、) ひゝぎゃゝん !」

レティ「どーする？マコト泣きやまないわよ？」

マック「レーション食ったら直るって^^」

全員「。。。直らんわ！」「」

ポーラ「それでは第18話はじめますわ！」

(おゝほほほほ！あたくしがタイトルコールを言って差し上げましたわ！)

Side 真琴

ん・・・んんん・・・なんか身体が重い様なw・・・ん？でも部屋にもどれたのかな？

「ん・・・んんん・・・」

もぞもぞーぞーぞー

ん・・・あう？・・・だれか身体に引っ付いてるのかな？
あー・・・寝起きはだめだw・・・頭が働かないw・・・

あれ？違和感じりせ？・・・

ん？・・・あり？・・・んん？・・・なんだ？・・・身体が・・・
なんか変だぞ？

ん・・・なんか大事なことがあったような・・・

でも 眠いから・・・ま、いーか？・・・

いやいや！・・・この股間にある感触って・・・これってまさか！

ばさっ！

毛布を一気に剥いで 上体を起こし・・・ん？・・・あれ？・・・
えーと・・・

隣で横になつてゐる人って・・・

真琴「へ？あたし@@!？・・・あたしがいる？なんで？」

偽真琴「あん・・・夕べは す・て・き だったわん・・・（*/
＼*）ポツ」

真琴「へ？」

夕べ？素敵だった？・・・それって情事後のセリフだよな？
あたしとあたしでやっちゃった!？

真琴「うん、夢だね・・・んじゃおやすみ^^」

偽真琴「いやん・・・また寝るの？」

真琴「うん 寝ます・・・」

やだ、声まで一緒だよ^^w・・・でも 聞こえない聞こえない、
なぐんにも聞こえませんか！

よし、奥儀『現実逃避』だ!だって これは全部夢なのですから・・・

カミヤ「よし！おまえら2人とも動くなよ？動いたらめるからな！
・・ファスト！レティ！」

武装して来い！で俺の武器も持ってきてくれ！」

レティ「解ったわ！」

ファスト「了解っス！師匠のも持って来るっス！」

親父さんってばマジの殺気ですよ・・・マジで怒ってるの久しぶり
ですねw・・・

でもどうしよう・・・あたしが男の子になるなんて・・・
それにこのもう一人のあたしって・・・どーゆー事なの？
うw・・・まだ寝起きだから頭がうまく働かないよ・・・

真琴「兄貴・・・w・・・あたし、男の子になっちゃったw・・・グ
スン・・・」

偽真琴「あら、真琴は私ですよ？」

ケイト「うるさいです！・・・ゆっくり寝てられないjy・・・は
あ？・・・マコトが2人？」

メアリ「www！www！www！」

ケイト「！メアリ！誰に縛られたの！・・・今、助けるからね！」

カミヤ「ケイト・・・そこにあるマコトの武器を先にこっちへ！」

ケイト「解った・・・メアリは少し待ってて」

あゝw・・・メアリ縛ったのってあたしだw・・・
そりゃそーだよなw・・・メアリは縛られてるし・・・あたしは2
人いるしw・・・
だれがどー見たって不審な状況だよ・・・

ケイトがあたしの武器を退かして　メアリの拘束を解いて・・・
って親父さん！背後からももちやんにかじられてますよ・・・がじ
がじってw・・・
頭から血がしたたってますよ？
そこはだれも突っ込まないんかい！？・・・いや、突っ込んだら負
けなんだろうーなw・・・

ケイト「カミヤさん・・・これはいつたい・・・」

カミヤ「俺にも解らん・・・どっちかが本物の真琴だと思うんだが
・・・」

メアリ「え？・・・マコトさんが2人！？・・・1個もらってもい
いですか？」

リリス「ぐいゝ・・・ぐいゝ・・・」

全員「・・・リリスw・・・」「」

リリスはこのうるさい中でよく寝てられるなw・・・

びーん！

。。。。。() (p) () (q) () 。。。。ウワンンー！！

カミヤ「メアリは取り合えずこっちに来なさい・・・真琴達もみだれた服を直しなさい」

偽真琴「わかったわ」

真琴「へ？」

ちらつと身体を見ると・・・服着てないじゃん！

イヤ~~~~ツ@!あたしってば下着姿だったのね！

上はちぎれて壊れちゃってるしw・・・アンダーが大きくなったからかな？

下は何かがビックにもっこりしてるしw・・・orz

取り合えずベットサイドに落っこちてるカーゴパンツを履いて・・・
ブラは棄てるかw・・・おきにだったのにw・・・で、ジャケットを羽織って・・・

うん、取り合えずこれでいいかな？

がちゃ・・・

ファスト「師匠！カタナとM16A2（ライフル）っス！」

カミヤ「おう、ありがとう」

レティ「で？マコト・・・どーゆー事なの？これは・・・」

レティw・・・どーゆー事なのかはあたしがとつても知りたいですw・・・

あれ？・・・そー言えば・・・ユキちゃんはどこ行つたんだ？

アルさんの話だとここに居るはずだよな？・・・ももちゃんはちゃんと居るんだしね・・・

は！これつてもしかして・・・ユキちゃんのしわざ？

S i d e ユキ

やばいです！大袈裟な事態になってます！赤いヘルメット被つてどつきりの看板だしても

『ノロさん』に変身しても これは納まらないとめっちゃ思います！

『獅子ドジョウさん』ならもしかして・・・って何十年前のTVですか！

無理無理！どーしよう・・・制裁確實ですw・・・

だって外人さん達から銃と剣を向けられてるんですよ？

それに 真琴お姉さまのお父さん、物凄く怒ってる？・・・

どーしょー・・・潔く謝っちゃうかな？

S i d e 真琴

偽真琴「あの・・・すみませんでした！m（　　）m」

全員「　　」へ？マコト？」「　　」

偽真琴「いえ・・・私は真琴お姉さまに変身してるだけなんです・・・
・ごめんなさい」

ケイト「！変身魔法！・・・使える人がこの世にいたなんて・・・」

カミヤ「真琴お姉さま？・・・って事は・・・ユキちゃんなのか？」

ユキ「はい・・・今、変身を解きます・・・えいつ！」

真琴「やっぱりユキだったんだね・・・」

ユキ「へ？お姉さま！私だって分かってくれていたんですか！・・・
これは愛です！」

キヤーq (*) (*) pキヤー

真琴「いやいやw・・・アルさん・・・神様から聞いたんだよw・・・」

ユキ「(´・`・´) (´・`・´) しょぼーん・・・」

カミヤ「ユキちゃんだったのか・・・びっくりしたぞ・・・」

レティ「その娘ってマコト達の知り合いなのね？」

ファスト「知り合い・・・撃つところだったっス・・・」

みんなも取り合えず敵意の無い事が解ったので矛を収めたね・・・アルさんから聞いたユキちゃんがこっちに來た訳をみんなに話してつと・・・

ユキちゃんからも話させて・・・ふん・・・へ？・・・あらあら・・・おう！

つてか、ユキちゃんつてばあたしに会いたいだけで來ちゃったのかい！

神様に魔法も教わったつてか！・・・ケイトがジト目で羨ましそうに見てるぞ？

真琴「で、ユキ！あたしも早く女の子に戻してよー！」

カミヤ「へ？もう、戻ってるんじゃないのか？だっていつもと変わら「ボケーッ！（バシッ！）」

フェブw！・・・」

真琴「兄貴！おまいは！はったおすぞ！」

カミヤ「www・・・男の娘だと力も強いn」「ああ！なんだって！
凸（、、#）」「ごめんなさい」

このクソ兄貴はwまつたく！・・・
でも男の身体の方が確かに体力があるな・・・動きも速いし・・・
いやいや！あたしは女の子に戻るんだい！

真琴「さあ！ユキ！さつさと元に戻しなさい！」

メアリ「え〜w・・・」

真琴「メアリってばw・・・ユキちゃん、やって・・・」

ユキ「はい・・・分かりました・・・ではいきますよ・・・えいつ
！」

がば！

真琴「ば、ばか兄貴！・・・今 抱きついたら・・・あーあw・・・
遅かったw」

カミヤ「あら？・・・おお 真琴！俺の胸 真琴よりでっかいぞ」
「ばかもの！（）ばからーん！」

「うぐはっ!」

真琴「兄貴はどーして話をややこしくしようとするかな!」

カミヤ「だつて」だつてじゃない!」「すみません・・・でも、どたぶんって・・・」

真琴「あ!なんだって?そして全国の三浦さんファンに謝れ!」

カミヤ「さ・せん!」

真琴「ももちゃんがくつついたままだからね!あーあ、ももちゃんが になつてるw・・・」

なんだかんだでユキちゃんに魔法で戻して貰ったんだけど・・・

メアリ「ううw!男の娘のマコトさんカンバーク!。。。。(。)

ユキ「・・・あのもっこりが忘れられません・・・(〃ノ) —
モジモジ」

真琴「・・・」

ケイト「変態まじもとい、変身魔法・・・覚えたいです・・・(イ
タズラに使いそうです)」

リリス「ぐが〜・・・ぐが〜・・・ぐが〜・・・」

全員「「「「リリース！まだ寝てたんかい！！」「」」」」

リリース「・・・うみゆ？・・・」

さてさて・・・取り合えず朝食の席でユキちゃんとももちゃんを皆に紹介しましたけど・・・

俺もマコトの男の娘を見たかった・・・ってジョンさんw

ベルさん！なにもう一度魔法をかけるってユキちゃんにお願いしてるんですか！

ロツテにリアもわくわく顔でお願いしないで！

ふーw・・・参ったね・・・めっちゃ疲れるよ・・・

あれ？そー言えば・・・確かももちゃんって人間になれるんだっただよね？

ももちゃん1歳だからお約束のネコ耳幼女かな？^^見てみたいですわね・・・

真琴「ももちゃん、人間に変身できるよね？」

もも『できるよ・・・やってみる？』

真琴「うん^^」

でっかいもちちゃんが光りだして・・・うつ！眩しいw・・・
光が収まるとそこには・・・

・・・@!！！・・・は！固まっちゃいましたよ？
だって、でかいんです！・・・何がって？そりゃーあれですよ
胸です！バストです！乳です！おぱくいです！・・・

変身したもちちゃんは グレーでアメシヨ柄のボディコンっぽいワ
ンピースを着てて・・・

レティも真っ青なクールビューティな女の人で・・・そしてでかい
・・・

GかHはあるんじゃない？

レティがメロンならもちちゃんはスイカだねw・・・あ、軽
く凹んできたぞ？

真琴「えーと、もちちゃん？なんで大人サイズなの？特に胸とかw
・・・」

もち「わかんない・・・なんで大人にやんだ？・・・神様のせい
にやのかにゃ？」

真琴「・・・あたしも神様に会ってるんですがw・・・or
z」

がばー！がばー！がばー！

真琴「またかい！バカ兄貴・・・って、メアリとユキもかい！」

メアリ「マコトさん！ユキさんには負けません！・・・（*。。（
|| 3ハアハア」

ユキ「あ〜ん！真琴お姉さま〜！愛してます〜！・・・（*。。（
|| 3ハアハア」

カミヤ「やつぱり貧乳なみしいを気にs「大ばかもん！（ばちこーん！）
ふえぶつ！」

はあはあ・・・こいつらは・・・ブラしてないんだぞ！すれると痛いんだぞ？

ファスト！親父さんを抑えんかい！・・・いや、ファスト君？ふるふると頭を左右に

振らんでも・・・ファストじゃ無理ってか？

ケイトもメア리를・・・ケイトのやつ、楽しんでないかい？

現状でもキツイのに ユキちゃんが増えたのは けっこーこたえるぞ・・・

もも「あれ？マコちゃん・・・もしかしておっぱいが小さい事を気にしてるのにかにゃ？」

真琴「・・・・・・・・・・」

レティ「あらら・・・直球ね・・・」

ファスト「コメントできないっス……」

ももちゃんにまで……だめだ……立ち直れないぞ？

いやいや！がんばるんだ！

ふあいおー……あたし真琴！がんばれあたし真琴！………空しい……

Orz

結局ユキちゃんは あたしの近衛騎士隊長としてヨコタ国子爵になりましたw……

まあ、ももちゃんがユキちゃんを見張るって言うからあたしは承諾したんですが

ももちゃん頼りにしてまつせ^^

で、その後なんですけど親父さんが朝飯を食べ終わってからというもの

ずーっとめっちゃそわそわしてるんです……なぜかって？

ギルドですよ 冒険者ギルド！

みんなで行くことになってましたからね……騒いでますよwテンプレだーってねw……

だから！満面の笑みでおどるな！……やどのおねい爆乳姉さんも苦笑ってます

w……

ほんとに親父さんってばw……

あーw・・・なんか疲れたし憂鬱です・・・お風呂でも入って気分
転換したいなあ・・・

でも無いんだよね・・・お風呂w

いつそ作っちゃうか？魔法で作れるんじゃないかな？

後でケイトに相談してみよう^^

カミヤ「ね、ね、もういいよね？早く行こうよね！」

リリス「うむ、ではギルドに行くでしょう」

ケイト「近いから歩きでへーき」

子どもですか親父さんは・・・

ギルドは宿から王宮方面に200mほど行った所にあるそうです

おー、今は朝9時くらいなんですけど結構人がいますね・・・

ん？・・・冒険者っぽい人がこつちを見てるんですが・・・こそこ
そ見てる人や

堂々と見てる人、戦いたいそうな人もいるな・・・

あれか？昨日のCクラス冒険者を1発でのしちゃった件か？

おっさん達にはアンタツチャブルって言っただけなのに・・・

なーんて言っただけじゃ着きましたよ^^ほ・・・ここがギルドか・・・

宿の幌馬車亭ほどは大きくありませんが それでも結構大きいです
木造ですが 西部劇映画で見た昔の銀行みたい・・・

1階は軽食屋さんを兼ねたサロンが半分でもう半分は依頼の受付
みたいですね・・・

2階には何があるんだろ？

ケイト「みんなは少し待ってて ギルドマスターに盗賊の件とドラゴンモドキの件を

まずは簡単に報告してくる」

リリース「うむ？ケイト1人で大丈夫か？」

ケイト「最初は私1人でいい・・・1時間位かかるからお茶でも飲んで」

真琴「写真もあるから要るようだったら呼んでね」

ケイト「解った」

ケイトは1人で2階に上がってつちやいました

ふー・・・いっぷくしますか・・・なに飲むかね？・・・コーヒーはあるのかな？

つて親父さん！何はしゃいでうるついでるの！・・・めっちゃドヤ顔してますな・・・

もうw・・・ほっとくか？

あれ？そー言えばユキちゃんって武器もってたっけ？ももちゃんもだね・・・

どこに居るんだ2人は？・・・あれ？女性陣リリースとメアリを除いてみんな居ないぞ？

真琴「ねえ、あたし達以外の女性陣はどこ行っちゃったの？」

メアリ「報告の時間がかかるんで露店を冷やかしに行ったみたいですよ？」

真琴「そかー・・・あたしも行きたかったな・・・あれ？ユキも行ったんだね」

リリス「うむ、そのユキ殿だが 彼女は皆と同じに強いのか？」

真琴「んー・・・ある意味では強いかな」

リリス「うむ？ある意味とは？」

真琴「ユキは相手の命をうばった事が無いんだよ・・・本格的な武装した相手とも

戦った事は無いしね・・・でもねー、殺しあいはやったことが無いんだけど

守るものがあるときのユキはめっちゃ強いよ

リリス「殺し合いの実戦経験がないのか・・・」

真琴「うん、でもケンカで神様をのしちゃったらしいよ？」

メアリ「か、か、かかかかか神様をですか@@!!」

真琴「うん^^ユキとの素手でのケンカだったら勝てはするけど苦労はするもん」

リリス「ほう！それは期待できそうだな」

ざわざわがやがや

真琴「そ^^がんばってね」

つてユキちゃんってばどつかの撲殺天使ですかw・・・
まあ、酔っ払い相手ならユキ1人でもへーきだしね^^ももちゃんも居るし・・・

取り合えずユキちゃんの服に強化の魔法をかけて鎧なみにしとくかね・・・

で、あたしはゆっくり見物するとしますかね^^

でもね、酔っ払い共がね 余計な言をのたまっちゃったんですよ・・・

暴漢A「小僧！ガキがしゃしゃりでてくんじゃねー！」

暴漢B「坊主は引っ込んでろ！」

暴漢C、D、E「」「」そうだそうだ！」「」

なぐんであたしに言っちゃたんだ・・・よし、痛い目に遭ってもらおう^^

真琴「よし！ぼk・・・」

リリス「うむ、おまえら！夕べの噂は聞いているか？」

あり？リリスw・・・止めるのか？

真琴「おう！こらっユキってば！胸に顔を擦り付けるな・・・ノー
ブラなんだからw」

ユキ「はい！だからやってます！^^」

メアリ「あ！ユキさんずるいです！」

そー言えば おきにのブラ壊した原因ってユキじゃね？
うん、後でお仕置き決定だね^^

がば！

うをつ！油断した！

真琴「兄貴！抱きつくな！はなれろ！今はやばいんだって・・・」

カミヤ「だって男の子扱いされた真琴が不憫d」どあほー！（ばか
らーん！）「ふぎゅー！」

真琴「だれが男だ！大バカもんがー！！・・・あん！」

ユキ「すりすりすりすり・・・」

真琴「って、ユキ！まだすりすりしてたんかい！・・・うw・・・
あんー！」

ユキ「あーん、真琴お姉さま〜・・・キヤーq）　＊（＊
）pキヤー」

メアリ「あーん！私もすりすりしたいですー」

真琴「・・・orz」

ああw・・・ユキがこっちの世界に来て絶対ややこしくなったぞw・
・
なんとかせねばw・・・あたしがまいつちやうよねw・・・
どーしよー・・・。。。（ノ、）あゝん

Sideケイト

さて、後はマコト達を呼んで細かい部分を話してもらおう
盗賊の件はまだ良いとしてもドラゴンモドキはギルドだけでは手に
負えないかも・・・
王宮で話すのは気が進まないなあ・・・
外に出ると何か人垣が出来てますね

ケイト「マコト、あらかた説明はしたんで詳しくh・・・なにしているの？リリス教えて」

リリス「うむ、宿屋の女性を助けた後にいつもの漫才が始まったんだ」

ケイト「そう・・・野次馬がいっぱい・・・稼ごうか？」

リリス「うむ^^・・・えーみなさん！これが名物ド突き漫才だ！」

ケイト「おもしろかったら御捻りをよろしく」

メアリだけでなくユキさんも混じって・・・なかなかやりますね^^
これはけっこう稼げます！・・・マコトさまです・・・ふふふ
^^

418

S i d e 真 琴

『親父さん』プラス『ユキちゃん』イコール『ハルマゲドン？』・・・
いやじゃー！

。。。ノ、ノ、あゝん！

あたしってば、なんて不幸なの・・・

リリース「うむ、・・・えーみなさん！これが名物ド突き漫才だ！」

ケイト「おもしろかったら御捻りをよろしく」

へ？リリース！ケイト！・・・首都シャマールでもあたしってばコメ
ディアン認定なの！？

・・・もう大道芸人でも漫才師でもコメディアンでも何でもいいで
す・・・

あーん！だれかあたしに愛の手を！・・・・・・・・orz

Sideポーラ（その日のお昼近く）

メラ「姫様、なんでも城下で大道芸人による『名物ド突き漫才』な
るものがあるそうです」

ポーラ「ほう！それはおもしろそうですわね！」

メラ「なんでもいきなり路上で寸劇を始めるとか」

ポーラ「是非とも拝見したいですわ！騎士団に言っ
てその者達を探させるのですわ！」

メラ「姫様、騎士団に探させて如何なさるん
です？」

ポーラ「とーぜん城にて催させるのですわ！
きっと見ものですわね！」

メラ「御意」

S i d e 真琴

あれ？何か急に寒気がしてきたぞ？
．．．．．いやゝな予感がするw
．．．

もちちゃん、あたしのために今晚ベ
ットで絶対にモフらせてね．．
o r z

ねえ、もっかい泣いていい？
．．．．．(ノ、(あゝん！

18話 涙のもっこり あぶのーまるな同級生と王都でコメディアン！えーw

真琴「おーっーかーれーさーまーでーすー．．．」

ジョン「うんうん、マコトはがんばってたな！」

レティ「えらかったわよマコト！」

カミヤ「俺のほーがえらいけどな」

全員「．．．．．」

ポーラ「おゝほほほ！あたくしのほーがえらいですわ！」

カリフ「．．．姫様w．．．」

ギブリ「場の空気読めよ．．．この姫様はw．．．」

ポーラ「あ、あら？．．．なにをする．．．はなせ！はなすのですわ！」

(ずるずるとひきずられて退場するポーラ)

カミヤ「まあ、今回で真琴の秘密は確認はできたしな」

ファスト「秘密って何がつスカ？」

カミヤ「ん？真琴が『よせてあげて体型補正下着』を着けてなかったからさ、

中学時代から育ってなかったのが確認できたのさ^^」

真琴「．．．(ぴくっ！．．．ギロツ！)．．．」

ファスト「あ、．．．し、師匠 俺、用事があるんで失礼するっす！」

ジョン「で？今回は何にする？」

真琴「これ！」

ジョン「F/A18スーパーホーネットね．．．」

真琴「食らえ！クソ兄貴！マーベリック対戦車ミサイル！」

どーもー^^作者のM2-1015です！

寒くなってきましたね・・・関東では明日から更に冷え込むそうです
皆さんも風邪などひかない様に温かくして過ごして下さいね^^

今回はギルドマスターとのやり取りがメインです^^

入れられる様ならアホの子のポーラ姫との再会ですかね？

設定上の話なんですけどポーラお付きのメラさんって

この作品上では1番の美女なんです^^

でも例にもれずめっちゃ変な所が・・・ネタばれですね・・・

作者からですが是非『お気に入り』に登録して評価をお願いします
皆様の感想などもお待ちしております

このキャラを取り上げて！と言う要望などありましたら
番外編等で書いてみたいと思います^^

それでは皆様に笑顔がさらに訪れます様に^^

では^^ノ

19話 涙のギルド なんで金ピカなの!?!そして貴女はカジられる? (前書き)

真琴「・・・orz」

ケイト「マコトのおかげで儲かったから おごる」

リリス「うむ、いつもありがとうだな!」

レティ「前回の暴漢、むかついたから蹴っ飛ばしてきたわ!・・・ん?」

ジヨン「どした?レティ」

レティ「なんでマコトってば また凹んでんの?」

ユキ「わかりませーん!」

メアリ「どーしてなんでしよう?」

リリス「うむ、なんでだ?」

ケイト「・・・みんな自覚が無い・・・」

真琴「へー・・・ケイトは自覚してたんだ・・・」

ケイト「なんの事やら?」

ポーラ「あたくしの出番が無いのですわ!」

真琴「うを!びつくりしたw・・・」

ケイト「カリフ!ギブリ!我儘^{きんぼ}王^{おう}姫^{ひめ}がでしゃばってる!」

リリス「うむ、はやく片付けるがいいぞ?」

カ、ギ「は〜いw・・・(ずるずる)」

ポーラ「やめ、い、痛!そ、そこは痛い・・・はなせ、はなすのじや〜!」

カミヤ「・・・真琴、取り合えず始めるか?」

真琴「第19話始まりま〜す!^^」

19話 涙のギルド なんで金ピカなの!?!そして貴女はカジられる?

真琴「・・・orz」 【前回からこのまんま(笑) byカミヤハ
^ノ】

ケイト「マコトのお蔭で お小遣いも稼いだし ギルドに行つて禿^ギ
親父^{ルマス}に細かく説明する」

リリス「うむ、マコトも親子漫才の『落ちポーズ』をとつとと解い
てギルドへ向かうぞ?」

ううwリリスさんw・・・これはポーズではなく、マジで落ち込ん
でるんですけどねw・・・

それにケイトつてば お小遣い稼ぎつてw・・・酷くない?

うん、・・・こいつらには、あれだ・・・きつちり一度は話さない
とずつとこのままだぞ?

は!その前に・・・遅くなっちゃったけど宿屋の超爆乳^{おねい}さんは平気
だったのかな?

まあ、レティが面倒みてたからケガとかは大丈夫だと思っけど・・・
ん?・・・あれ?・・・
超爆乳^{おねい}さんつてば こつち見て 目がキラッキラしてません?

(*。。) 3ハアハア こんな感じで・・・
はあw・・・もしかしてフラグ?・・・あれか?・・・また百合系^{ネっぢ}
の方なんですか?

真琴「えーと・・・名乗るのは初めてですよね　あたしは真琴って名前なんですけど・・・」

ケガは無かったですか？それとよかったらお姉さんの名前を教えてくださいますか？」

ジュリア「うん、ケガは無いよ　心配してくれてありがとうと^^・・・あたいはジュリア、

ジュリア・アルファメオ・・・幌馬車亭の若女将わかおかみなんだ

^^」

ほーう、若女将さんだったんだ・・・雇いのウエイトレスさんかと思ってた・・・

しかし　デカイなあゝ・・・うw・・・あたしなんかブラ付けて無くても揺れないのに・・・

お姉さんってばちょっと身体を動かす度に『ぷるんぷるん』って揺れてますがな・・・

う、羨ましくなんかないんだからね！・・・グスツ・・・

うん、とりあえず爆発しろ！ってか、もげ落ちろ！

ジュリア「ねえねえ、それよりもさ　さっきの小芝居をさ、うちの宿の酒場でやらないかい？」

このシャマルの町には興行をやる劇場が無いからさ、きつと儲かるよ^^

ギヤラはちゃんとだすよ？・・・んゝ・・・フ：3でどうだい？」

ユキ「・・・宿でお芝居・・・それって合法的に真琴お姉さまに抱

きつけますよね！^^」

メアリ「ユキさんには負けていられません！私は『すりすり』もやっちゃんいます！^^」

真琴「・・・取り合えずユキ達はだまつとこーか？・・・もも！ユキに甘噛みしといて！」

もも「はいにや！・・・（かぶっ！がじがじ）」

ユキ「あう！・・・い、痛い！地味に痛いですw〜！」

ネコ状態にもどったももちゃんに頭をかじられて走り回つとりますなあ〜・・・

頭をももちゃんにカジられてそのまま引きずりながら逃げ惑うユキちゃん・・・

とつてもシユールだ・・・

でもユキちゃん、走り回つたら余計に食い込むんじゃない？・・・ももちゃんの牙がさw・・・

うん、だけどユキちゃんには あたしお気に入りブラの仇もプラスだかんね〜^^

でも ジュリアさんは百合系なせつちじゃ無さそうだよね・・・取り合えずよかったw

ジュリア「で、マコト達は お芝居をやってくれるのかい？」

真琴「いえ、あれはお芝居じゃないんです・・・ケイト達が勝手に

煽ってるだけで・・・」

ジュリア「うん、そうなの？・・・じゃあさ、いつその事お芝居にしちゃおう！ねっ^^」

いやいや・・・しつこいですよ？超爆乳さんw・・・
ねっ！て頭を傾けてカワイ娘ぶっても・・・って、ぷるんぷるん
揺れてるがな！

ん？でもさ、これって頼み事するのはチャンスじゃね？

持ってきた商品販売を宿でやらせてもらえれば宿の酒場にも人が集まってくるだろーし・・・

そだ！ついでに宿にお風呂を作らせてもらっちゃおうかな？

真琴「えーと、ジュリアさん・・・お芝居は出来ないけど別口で提案があるんですが？」

ジュリア「ジュリアでいいよ^^で 提案ってなんだい？」

ケイト「マコト ギルドマスターが早く話を聞きたいって・・・そろそろ行くよ」

あちゃー、呼ばれちゃったね・・・しゃーない、超爆乳さんとは後で話すか・・・

真琴「うん、それなんですけど 今はやらなければいけない事がある

って、午後にも

宿で詳しく説明させてもらいたいんですが、それで良いですか？」

ジュリア「用事があるんじゃないわね・・・わかった宿で待ってるよ^^」

真琴「ありがとー^^んじゃ後でお願いしますねー！」

もも「(がしがし)」

ユキ「い、痛いですw」(ジタバタ)」

あら、まだかじられてたのね・・・うん、ユキはももちゃんに任せてほかつとくとして・・・

ジュリアさんとバイバイして、あたし達はギルドへ入ったんだけど・・・

ジョンさん達ってばお酒飲んでるし！

ファストwおまいら二日酔いじゃなかったんか？

まあ、ケイトがくつろいで良いつて言ってたんだから良いのか？
つてか、ギルドで酒も出さんかい！

・・・そー言えばさっきのドタバタで何にも飲んでなかったけ・・・
喉乾いたな・・・

リス「うむ？マコトは酒を飲みたいのか？うらやましそうにジョン殿達を見ているが・・・」

ケイト「マコト 飲むのは後で」

真琴「はいはい・・・解ってますよーだw・・・」

ケイト「メアリとレテイさんも一緒をお願い」

レテイ、メアリ「はい^^」

ノド乾いてたから何か飲みたかったけど・・・後でもいーかw・・・

あたしは ノートPCを持って ケイトの案内で2階に上がって行
ったんだけどさ

2階に上がると女の人が待ってました・・・って この人つては耳
が長い！

もしかしてス ートレックのスポックさん？・・・

いやいや、冗談ですよ？・・・エルフさんですよね？

は～・・・何と言うかRPGと同じですねえ～・・・綺麗です・・・
眼福です・・・

だがしかし！なして胸がでかいんだ？・・・レテイくらいはあるん
じゃね？

これって新手のいぢめなのか？

女性の新キャラが出るたびにでかいんだぞ？（まあ、ポーラは小さ
そうだったけどw）

カラ「カラ・シニーコフです^^このギルドでは副ギルド長をして
います・・・

ケイトさんから皆様のことは伺っていますので・・・さあ、

こちらへどうぞ」

真琴「副ギルド長さんなんですか・・・偉い人なんですわ・・・
あの、失礼かもしれませんが、シニーコフさんはエルフさん
なんですか？」

カラ「カラでいいですよ^^ おっしやる通り私はエルフです・・・
確かにシャマールは

人族の国ですから私みたいな亜人や獣人はめずらしいですよ
ね・・・

・・・貴方は確かマコトさんですよね・・・ケイトから聞いて
いたんですが他の方とは

魔力の量が桁違いに多いですからマコトさんは直ぐわかりま
したよ^^」

ニコツと微笑むカラさん・・・うわあ〜めっちゃ綺麗やん！親父さ
んがここに居たら

鼻の下伸ばすんじゃないかね？・・・いや、それよりも あれだ・・・

『生なまエルフー！』ってテンプレで抱きつくか？・・・親父あいつならやり
かねんw

それにシャマールは人族の国なのか・・・って事は亜人や獣人の
国もあるって事だよな？

・・・いやいや、それよりもあたしの魔力量だよ・・・魔力って見
て解るもんなのかな？

真琴「へ？魔力の量って見ただけで解るんですか！？ケイトは解ん
なかつたけど・・・」

ケイト「マコト、一言多い」

リリス「うむ、カラ殿は魔術師メイカスとしてはこの国で一番の使い手だからな」

真琴「へ？それって宮廷魔術師よりも実力が上って事？」

リリス「うむ、シャマル城の魔術師はランクで言えばAかBだがカラ殿はAAAだからな」

真琴「は〜・・・カラさんってすごいんだね〜」

AとかBとかAAAって言ってもあたしは良く解らないのでランクの説明もついでに聞きました

リリス曰く、普通の一般人が最初に登録して成るのが『Gランク』なんだって

でも、初めからそれなりに力や魔力を持つてる人はその限りでは無いらしいです

て事は 初めからSランクとかもあるって事？・・・いやいや、いきなりSランクは無いよね^^

で、ギルドのランクを順番に言つと

G < F < E < D < C < B < A < A A < A A A < S

ってなるらしいよ

G、Fは初心者でE、Dで一人前、Cクラスでベテランなんだって普通に一般の人族が冒険者でがんばって行って10〜15年でCクラスらしいし、

その頃には体力がピークの30歳位だからBランク以上は天性の才能とかがないと

なかなかないみたいだねー・・・

まあ、亜人や獣人の長寿種は別みただけだね

ちなみに Bは超ベテランで Aだと国が関わってくるほどのベテラン、言わば国家戦術級かな

次のAAやAAAは一つの国に何人も居ないらしくて国家戦略級らしいよ・・・

んでSランクに至ってはこの大陸に2人しか居ないらしいよ 地球で言えば核兵器つてところかな？

つて！AAAのカラさんつていつたい何者なの？

ケイト「カラは元宮廷魔術師 私の師匠でもあった」

真琴「すごい！・・・ランクAAA取ってるカラさんつて・・・いつたい何歳なの？」

ケイト「確か・・・二ひゃ」

カラ「ケイト？昔話はそれくらいにしてね？ギルドマスターがまつてるわ・・・行きましょ」

リリス「うむ、私もカラ殿の年齢は聞いたことが無いので知りたいが・・・」

ケイト「空気読め リリス」

リリース「うむ？」

相変わらず 空気の読めないリリースはほつといて……
AAAランクで元宮廷魔術師でケイトの師匠？……うわ〜めつち
や興味があるんですけど……

で、ケイト？『二ひゃ』って……カラさん二百歳超えてるの？
どー見ても25歳くらいにしか見えないんですけどw……
確かにファンタジー小説とかでエルフは長寿って聞いたことあるけ
どさ……

う〜ん……どーやらカラさんは過去を話すのがあまり好きではな
さそうだね……
まあ、そのうち分かるかな？

カラさんに案内されて 重厚なドアの前なんですけど……いや〜高
そうなドアですこと！
日本ならこのドアだけで数百万円しそうですねw……ドアノブなん
てキンツキラキンですよ？
あれか？ギルドマスターって 葉巻くわえた油ギツシユな成金おや
じみみたいなヤツなのか？
でもあたしゃ油ギツシユな手とは握手したくないぞ？

で、カラさんがドアを開けてくれたんだけど……
ま、まぶしいです！……うわ〜w……室内も金ピカだよ〜w……
・趣味悪〜w

ん？部屋の奥に誰か居るね・・・金ピカっぽい人が・・・あれがギルドマスターなのかな？

まぶしくてよく見えないんですけど・・・目をこらしてっど・・・

・・・@;・・・なんじゃ？あれは？・・・
は！いかんいかんw

えーとね・・・なんちゅーか・・・あれだ・・・格好は我おれさま？

某Fateに出てくる我様ギルガメッシュ王みたいな金ピカの甲冑を着ているんですけど・・・

ポーズも同じだw・・・開いた足に両手を腰の横に当てて仁王立ちw・・・

でも顔がねw・・・『なみへいさん』いやあれは『禿ヅラかぶったカトちゃん』か？・・・

そんでもって・・・金髪で頭のとっぺんから髪の毛がちよろっと生えてるって・・・ぷぷぷっ

き、金髪で てっぺんから ちよろっと生えてるってw・・・くくくっ・・・

しかもだ、メガネが『牛乳瓶の底メガネ』ってw・・・ぷぷっ・・・
く、くるしいw・・・

レティだって笑いをこらえてぶるぶるしてますよ？・・・づぶぶぶぶ
ぷっ・・・

ダメ！・・・あたしってば絶対笑ってはいかんぞ！

金ピカ「……(ジー)……」

なんか金ピカで禿チャピンなおっさんが ムスツとしてこっちをじ
ーつと見てるんですが……
ぷぷつ……笑かすな！おっさん！

カラ「……は〜w、イタズラはそのくらいにして下さい、ギルド
長……」

金ピカ「こりやまた すつれいすました！（敬礼）」

カラ「ギルド長！……ちゃんと自己紹介して下さい！」

金ピカ「んだば、う〜い（敬礼）わだすが〜 このぎるどの『ぎる
どますたー』をやとります〜

……名前は〜『チャン・カトー』だす……よろすく〜
おねげいすますだ〜」

Orz……なぜに東北弁なの？……これって、まんまだ……
ドリのカトちゃんだw……

カラ「もう！ふざけてないで真面目に自己紹介して下さいよ〜……
・グスツ（；；；）……」

ケイト「あ、泣かした」

リリス「うむ、見事に泣かしたな」

金ピカ「あ、・・・いや、・・・カラすまんw（アタゝ）
ヅヅヅ（ノ フタ）」

カラ「・・・グスツ・・・ちゃんと・・・してくれませう？・・・グ
スツ（；；；）・・・」

金ピカ「わ、解ったw・・・解ったから！泣くな・・・泣かんでく
れ！」

カラ「はい^^ノ」

ケイト「あ、うそ泣き」

リリス「うむ、見事にうそ泣きだったな」

真琴、レテイ、メアリ「「「「「「「「」」」」」」」」

えーと・・・困ったねw・・・どこから突っ込んでいいのかな？

真琴「（ねえ、レテイ・・・どこから突っ込んでいいかな？）」

レテイ「（私だって解んないわよw・・・）」

メアリ「（と、取り合えず 終わるまで待ってますか？）」

あーw!・・・突っ込みの居ないコントって辛いw!・・・
いっそ あたしが突っ込むか?

あっちの4人で無言のお見合い始まっちゃてるしw・・・

金ピカ「・・・・・・・・」

カラ「・・・・・・・・」

ケイト「・・・・・・・・」

リリス「・・・うむ、ギルド長 今のコントにつづきは無いのか?」

全員「「「!」「」」

よっしゃー!次の展開にいける・・・空気読めないリリスが居て
助かったよ^^

リリス「うむ?マコト・・・今、失礼なことを考えなかったか?」

真琴「いえいえ^^えーと、流石リリス?話が進むな?って・・・
思っただけですよ?」

リリス「うむ、だかなぜに疑問系クエッションマークなのだ?」

カラ「さあ、そのくらいにして・・・ギルド長、今度こそ真面目に
自己紹介を!」

カラさん助かったw・・・リリースってば空気は読めなくせに人の考えは読めるなんてw

金ピカ「そうだな おふざけはこの位にして・・・私は、にゃマー
ル・・・」

噛んだ！今、『シャマール』を『にゃマール』って噛んだよね？

金ピカ「シャマール国本ギルド部長、『アブ・トウマツト』だ・・・
みんなからは

所長と呼ばれてるがね」

って言いながら顔の変装メカネなどをはずしてます・・・
へ？変装だったんだ・・・あ、頭はそのまんまなのねw・・・
おう！若い頃のテリー・サヴァラスみたい！結構かつこいいぞ・・・
でも アブさん、素で噛んだのはスルーしちゃうのね・・・

所長「カラ・・・みんな喉が渴いただろうし お茶を人数分持ってきてくれないかな？」

カラ「はい^^」

カラさんがみんなにお茶を入れてくれました・・・おう！アッサムみたくて美味しいぞ！^^

所長「さて、君達が遭遇した『盗賊』・・・まあこっちは いわゆる討伐なんだが

懸念はもう一つの『新種のドラゴン』についてだな・・・」

まあ、そうだよね・・・イケメン神様のアルさんに頼まれてる『世界の危機』に関わる事だし・・・

どこまで細かく説明すれば良いんだろ？

アルさんからは秘密にしろとは言われてないんだけどね・・・

んんん・・・さて、どうするかね？

19話 涙のギルド なんで金ピカなの！？そして貴女はカジられる？（後書き

真琴「お疲れ様です！」

レテイ「おつかれ〜^^」

真琴「いや〜ギルドの所長って なんかすごかったね〜」

レテイ「ええ、なんとも言えない人ね・・・」

ケイト「そう、あの禿親父は人をおちよくるのが趣味」

リリス「うむ、何度切り殺そうかと思ったことか」

メアリ「そうなんですか？まあ金ピカでしたけど・・・」

真琴「でもなんでド フのカトちゃん知ってたんだ？」

レテイ「そうね・・・確かに変だわね・・・」

3人娘「・・・で、ド フのカトちゃんってだれ？」「」

ファスト「師匠〜！ケイトさんが一旦出て来てからカトちゃんのギヤグ説明を

ちゃんとギルドの所長にして来ましたけど、あれって何

ですか？」

カミヤ「なんとなく面白そうだからだ！」

真琴「やつぱしおまいの仕業かー！」

レテイ「やれやれw・・・」

真琴「ももちちゃん！兄貴をかじt・・・あ、まだユキをかじってたんだね」

ユキ「い、痛い、痛いんですw〜〜！・・・（じたばた）」

もも「（かじかじ）」

どーもー^^ノ作者のM2-1015です

筆者在住の八王子は朝晩の冷えがだんだんとしてきています

お風邪を引かないように皆様も睡眠と栄養を取ってくださいね

じつはももちゃん、実際にうちで飼っているネコがモデルです^^
最近は私のふとんに潜り込んできます

ただ 寝ぼけて横っ腹にツメを立てるので安眠できないのですがw・

・
・

えー今回の話は長くなってしまったので後半は次回へつづきます
出来るだけ早く更新はするつもりですので

見捨てないで生暖かく見守ってやって下さい^^;

作者からですが是非『お気に入り』に登録して評価をお願いします
皆様の感想などもお待ちしております

このキャラを取り上げて！と言う要望などもありましたら
番外編等で書いてみたいと思います^^

それでは皆様に笑顔がさらに訪れます様に^^
では^^ノ

20話 涙のギルド長 えーと、ほら、あれだ・・・そう、お、おしおきして

真琴「お久しぶりでーす^^」

レテイ「ほんと・・・間が空いちやったわね・・・」

ジョン「M2つて暇こいてたんじゃなかったのか？」

ポーラ「読者は わらわの事を覚えているかのw・・・」

ギブリ「はいはいw」

カリフ「さ、姫さま・・・皆様のめーわくになりますので帰りますよ？」

ローズ「いやじゃ！前書きくらい出ても良いではないか！」

ギブリ「わがままだなあw・・・カリフ、また引きずってくか？」

カリフ「姫さま・・・アメちゃん買ってあげますからね^^」

ローズ「い、いやなのじゃ・・・」

ずるずる・・・（ギブリが襟首つかんで引きずってく音）

カミヤ「・・・ところでさ」

真琴「なに？兄貴」

カミヤ「これ、いつになったら『義春』になるのかな？」

ジョン「・・・」

レテイ「・・・」

真琴「・・・まだ言うかw・・・なるわけないじゃん！いいかげんしつこいぞ？」

カミヤ「え〜っ！」

真琴「え〜ぢやないだろw！え〜ぢやw！」

レテイ「まあ、あたしはカミヤって昔から呼んでたから気にならないわね^^」

ジョン「俺もだな」

カミヤ「・・・」

真琴「あ、いじけた」

カミヤ「『いじけて』ないもん！『いじやけて』るんだもん！」

真琴「そんな関東北部あたりにしか解らんネタをすんな！」

ジョン「また、マイナーなネタをw・・・」

レティ「そうね・・・これ全国配信よ？」

リリス「うむ？とちぎって何処の地名だ？」

ケイト「それより 今回はギルド長にいたずらの仕返しができる」

リリス「うむ、あやつにはいつもイタズラをやられているからな」

メアリ「私って最近 影が薄くないですか？」

ケイト「大丈夫、じゆうぶん濃い」

真琴「それでは お待たせしました！第20話です！^^」

さて、説明をするとしてもだ・・・どーしよーかな？・・・
って言ってもある程度は話さないといけないしなw・・・

異世界から来た事と この世界が滅亡の危機って事は 取り合えず
伏せておこうかな？

これはまず先にシャマールの王様に言わないといけない事だもんね。
・・・
後は・・・あれだ、自己紹介はどうするかね？・・・王族設定は言
っちゃてもいいよね・・・
うん、ケイトに確かめて見よう

真琴「ねえ、ケイト ギルドにあたし達の事はどこまで話したの？」

ケイト「マコト達が他国の冒険者と言う事と 皆の名前・・・後は
簡単に皆の能力くらい」

真琴「うん、じゃあ あたし達の国や武器、装備なんかの事は話し
てないんだね？」

ケイト「マコトのロストマジックを含めて 話してない」

アブ、カラ「・・・ろ、ろろろ、ロストマジックだと！（ですって！）

「

あー・・・やっぱ、そこは気になるよね・・・

まあ、詳しく説明しろって言われても あたしやよく解らないんだ
けどねw・・・

今までだって無意識に『具現化』してたわけだしw・・・

それよりもだ！周りが金ピカで目がまぶしくてたまらんぞw！・・・
何とか為らんのか？

真琴「あたしの魔法って ここでは詳しく話せないんです・・・す
いません」

アブ「・・・そうか・・・」

カラ「・・・解ったわ・・・あくまでも今はね・・・」

アブさんもカラさんも納得してはいない様ですね・・・特にカラさ
んはね・・・

真琴「取り合えず『王宮での会談』が済んで、シャマル陛下の許
しが出たら全て話しますが

今はあたし達が話せる内容で我慢してください・・・お願い
します」

で、話の内容なんだけど・・・まず、盗賊の件はギルドの討伐対象だったみたいです

盗賊のお頭は『バクラ・ベアドーン』って名前で

盗賊団名は『消滅の大熊』だっけさ・・・結構な高額賞金首だったらしいんだけど

討伐証明があるんだって・・・ん？証明みたいなもの？あたしや取って来てないんですが・・・

お！リリースとケイトが証拠を持ってきてるって？・・・いつのまにw・・・

あら、あたし達がメアリの護衛を弔っていた時に取ってたんですか・・・さすが！^^

盗賊団を壊滅したって事もあって、賞金は金貨でなんと15枚でした！

ちなみに金貨15枚あれば 王都で3LDKくらいの家が買えるらしい・・・ってすごいじゃん！

うん、使い道はどーしよーかね・・・まあ、みんなで相談するか・・・

さて次は恐竜についてだね・・・持ってきたノートPCを起動させてっと・・・

真琴「まず、画像を見てくれませんか？」

アブ「！こ、こりゃ何だ？絵なのか？・・・板に光りながら絵があるぞー！」

カラ「まさに本物みたい！・・・こんなの見たこと無い！・・・魔法の記憶画像なんですか！？」

あたしは 話が進まなくなるので 適当にノートパソコンとデジタルの説明をしたんよ・・・
はあ〜w・・・地球の科学製品ってあんまし見せないほうが良いねw・・・

で、以前に記録した恐竜の画像をアブさんとカラさんに見えるようにPCを向けて
画面に映ってる大きい恐竜を人差し指で示して説明をします

真琴「この大きいドラゴンモドキはあたしが倒しました・・・こっちの小さい方は

ここに居るレティとあたしの仲間4人で倒してます・・・
大きいほうは リリス達と一緒に写ってるので大体分かると思いますけど・・・

全長は15〜16m位、全高は10m位でした
この大きい口で噛み付いてきます また尻尾を振り回す攻撃もしてきました・・・

この2つの攻撃ですが 普通の人間には即死攻撃になると思われます

で、こっちの小さい方は群れで活動してる様で、この時は7〜8匹いましたね・・・

大きいドラゴンを狼のように群れで襲っていたみたいです・・・
知能がそこそ高いいみたくて 気配を消してこっそり近づいて連携プレイで襲ってきます

噛み付きもしますが メインの攻撃はツメで相手を切り裂く事だと思えます

この画像ですが・・・まあ、あたし達の攻撃でバラバラのミンチになってますけど・・・

大きさは全長が2〜2.5m位、全高は1.5〜2m位ですかね？

恐竜こいじゆうのツメとキバをリリスとケイトが持って来ているので実物を見てください・・・

それと遭遇した場所ですが ヒーノ村から北西に馬車で1日位の所です・・・

リリス、ケイトお願い、あれを出してくれる？」

リリスが ドカツ！と机の上にトレックスぽい恐竜やっのツメとキバを乗せて

ケイトは バラツつとラプトルっぽい恐竜やっのツメとキバをばら撒きます

メアリは「ひっ！」とびっくりして驚いてますね・・・顔が青くなってますよ？

カラさんはあんぐり口を開けてトレックスのツメとキバを交互に見てゴクリと生唾を飲み込んで

そのツメの巨大さに何も言えなくなってますな・・・

まあ、ツメの大きさが50cmもあれば 普通はびっくりするか・・・でも、やっぱりドラゴン系の獣はめずらしいのかな？

・・・そー言えばリリス達も言ってたっけ・・・ドラゴンを見たことが無いって・・・

ん？ケイト？・・・トレックスのツメを指でつつんしてw・・・つつんするのは癖ですか？

アブさんはラプトルの特徴あるカギツメを指で弄って 何やら考え込んでますなあ・・・

アブ「・・・で、こいつらが・・・ドラゴンモドキがまだ居ると思ってるのかい?・・・」

真琴「はい、確証は有りませんが 今までの経験で予想すると まだたくさん居ると思います・・・

しかも、この亜種のドラゴンは もっとたくさんの種類が居ると思います」

アブ「・・・ふむw・・・一匹でも厄介なのに 何匹も居るってかw・・・」

カラ「・・・そ、それで 討伐やっつけにはどうしたら・・・」

リリス「うむ、私が試しにでかいヤツを剣で切って見たが 今まで使っていたアイアンソードでは

傷を付けるのがやっとだったぞ・・・死体であれでは 実際に生きているやつには

攻撃の効果があるか解らん・・・解体にはレイイ殿のナイフを借りたしな」

ケイト「各属性の爆発系や貫通系デトネーションアローやショットならば効果がありそう

実際に私のウインドアローで穴はあいたから」

アブ「通常の鉄や鋼の武器では通用しないのか・・・魔法ならある程度はいける・・・うむw・・・」

てー事はだ、今までのドラゴンと退治する方法は一緒って事か・・・難儀やのうw・・・」

ケイト「そう、マコト達は この小さいドラゴンを倒すのに爆発や貫通の錬金武器を使った」

リリス「うむ、ただ かいドラゴンはマコトが剣で しかも一太刀で首を刎ねているがな」

アブ「ド、ドラゴンを たった一太刀でだと！・・・いつたいどんな剣を使ったんだ!？」

カラ「爆発と貫通の錬金武器・・・そっちも興味あるわね・・・」

だよねー・・・これはあたしの予想んだけどさ 地球産の武器とかに使ってる鉄や鋼ってさ

こっちでは物凄い金属なんじゃないかと思うわけよ・・・

RPGゲームなんかに出てくるオリハルコンとかアダマタイトとかみたいだね・・・

アブさんには 取り合えず腰にある『M9銃剣』と『太刀のみつちやん』を見せますか・・・

銃はだめだね・・・秘密にしとこうね

真琴「これが解体に使ったナイフで こっちが首ちよんぱした剣・・・カタナって呼んでますが・・・

錬金武器は 今持つてはいるんですが、見せるためにもお渡しできません・・・

我が国の秘密なんです・・・すいません」

カラ「秘密なんですか・・・それでは仕方ないですね・・・」

リリス「うむ、だがカタナは良いぞ？よく切れるしバランスも良い」

ケイト「そう、良く切れる・・・指を刃にのせるだけで指が落ちるから気をつけて」

アブ、カラ「・・・ゴクッ・・・」

アブさんとカラさんはカタナとM9ナイフを手に持ってゆっくり慎重に調べてます・・・

ん？二人とも どつたの？・・・
ナイフみて驚いて、その後のみっちゃんで驚愕の表情しちゃって・・・ん？

452

アブ「・・・orz」

カラ「・・・orz」

真琴「あれ？・・・それ、何か変な所でもありました？」

アブ「これは！・・・ありえん！・・・いやいやいや・・・そんなばかな！」

カラ「マコトさん！これを何処で手に入れたんですか！・・・ナイフはオリハルコン製ですし、

剣・・・カタナでしたっけ？こっちはオリハルコンやアダマンタイトより優れた材質で

私の知らない未知の金属ですよ！

しかも両方とも見たことが無い付与魔法が掛かっています！この2つだけでも売れば 金額がいったい幾らの値ねが付くのか・・・

私にはまったく想像も出来ません！」

あら？そんなにすごいのか・・・想像をはるかに超えちゃったねw・・・

アブさんは頭を抱え込んでるし、カラさんは興奮しまくってるしw・・・

ケイトとリリスも「え？そんなに高価な物だったの？」って顔しちゃってるし

メアリは短刀にほりづりしてウツトリしながら「これは愛です！家宝にします！」って・・・

メアリ？愛じゃないからね？

よし、んじゃ ここは取り合えず はったりをかましとくかな？

真琴「えーと、そのナイフは私の国では珍しいものではありませんよ？

我が軍の一般装備品ですし・・・

しかし、そっちのカタナはあたしの・・・我が王家に伝わる国宝以上に大切な品物です・・・

で、それにかけてある魔法はあたしが付与したものなんです

^^」

カラ「あ、貴方がこの魔法を？・・・いやいや、そ、それよりも・・・我が王家って・・・」

リリス「うむ、マコトはヨコタ国の第一王姫だぞ？それに今は私とケイトの雇用主で

剣の師匠もやってもらってるが」

ケイト「そう、ここに居るレティさんもヨコタ国の大將軍で公爵さま・・・2人とも頭が高い？」

アブ、カラ「@!」「」

ケイト「くくく、いつもギルド長には 驚かされてばかりだから今日は してやったりって感じ」

ケイト「つては鬱憤うつげんが溜たまってる？」

まあ、それはさて置き あたしはギルドで話しても大丈夫な事を一通り説明したんだけど・・・

アブ「(土下座中)」

カラ「(土下座中)」

真琴「えーと・・・^^」

レティ「どーすんのよ・・・ケイトつてばw」

ケイト「くくく、たまにはいい薬」

リリス「うむ、そうだな」

メアリ「（おろおろ）（；；）、（；；）、（；；）」

まあ、ケイトは『ひれ伏すアブサン』を狙って王族の話をしなかつたんだね・・・

アブさんとカラさんは王族と公爵に対しての対応をしなかったので不敬罪を恐れてるみたい・・・

あたし達には普通でいいのに・・・

それとも威張って平民とか人種差別とかでいぢめをやってる貴族がたくさんさばってるのか？

そー言えばこの国って 亜人や獣人があまり居ないってカラさんも言ってたな・・・

こりゃ調べてみるべきかね？

真琴「お2人とも顔を上げてください^^・・・ヨコタ国の王族や貴族は言葉使いで怒る人なんて

居ませんから・・・まあ、尊大で偉ぶったり バカにしてたり 攻撃的な口調じゃなければ

へーきですよ？・・・それにあたし達は冒険者ギルドに登録しにもきたんですから^^」

ケイト「そう、ヨコタ国の爵位持ちが全員来てる・・・14人と神獣が1匹？」

リリス「うむ、神獣もはじめて見たが 人型に変身できるんだな・・・

・喋れるし」

アブ「ヨコタ国の爵位持ちが全員！・・・しかも 神獣が居るって！？」

カラ「えっ！さらに神獣ですって！？・・・いえ、もう驚きません・
・ハア〜w・・・」

メアリ「カラさん達を見ると 初めてヨコタ国に行った時を思い出しますw・・・」

リリス「うむ、あれはいろいろ驚いたな・・・今では当たり前になっ
ってしまったが」

ケイト「そう、あれはカルチャーショックだった・・・ご飯 美味
しいし」

異文化の、しかも地球の科学技術を目の当たりにしたら アブさん
やカラさんも

もつと驚くんだろーなあ・・・ヘリヤ車、あと戦車なんかをみたら
どんな感じになるんだろ？

想像すると愉快だね^^・・・説明するのはめんどくさいけどね^^

レティ「さて、それでは 話はこの位にしてギルドの登録をお願い
しましょうかね^^」

レティの一言で みんなで新規登録の窓口へ行きました・・・お？

登録窓口って2階なの？

んじゃ1階からみんなを呼んでこないとね^^・・・あたしが呼んでくるよ^^

ああ、ついでに報告だけど恐竜のキバとツメはギルドが買い取ってくれました！

全部でなんと、金貨25枚です！内訳はTレックスが15枚、ラプトルが10枚です

この国で初めての物なので転用の研究や攻撃力等をいろいろ調べるんだってさ^^

あたしは階段を下りながら声をかけます

真琴「おい、ギルドの登録やるよ・・・って、ユキやロツテさんとリアさんは？」

ヒューイ「ん？外にいるぞ・・・一汗掻いてたみたいだな^^」

真琴「んで、フレックとベッカーはなんで震えてるの？」

ヒューイ「ああ、女は怖いってのを 目の当たりにしちゃったみたいだな^^」

真琴「ん？・・・女が怖い？・・・なんじゃそれ？」

お？ジョンさんがこつちを見て目配せしてる？・・・表を指差してニガ笑ってますね？

ん？・・・なんて言っているとロツテさんとリアさんが帰ってきました・・・
手に串焼肉とジュースみたいな飲み物を持って・・・あたしも欲しいぞ！

あれ、ユキは？一緒じゃないのかな？
表に出ると・・・

・・・@!・・・はっ！・・・なんじゃこりゃ？・・・
オッサン？
えーと・・・なんかオッサンが7〜8人ほど山になって積み重なってるんですがw・・・

後ろに振り返ってジョンさんに事の顛末を教えてくださいました

ジョンさん曰く、
なんでも ロツテさんとリアさんにちよっかいとナンパをした冒険者の団体さんが居たみたい・・・
んで、フレックとベツカーが颯爽と助けようとしたらしいんだけどさ、

リアさんが「私一人でへーきよ^^」って冒険者の1人の襟首をムンズと掴んで
表に引きずって行ってバキッってワンパンでナンパ冒険者をのしちやったらしくて・・・

それを見た冒険者の仲間が あわててぞろぞろ表に飛び出して・・・
んで、ロツテさんが助太刀に入って2人で冒険者全員のしちやったと・・・

「#」
「.」
「o」
「r」
「r」
「n」
「z」

20話 涙のギルド長 エーと、ほら、あれだ・・・そう、お、おしおきして

ユキ「。。。。。(p)(q)。。。ウワン
!！」

真琴「えーと・・・忘れてたわけじゃないよ？」

カミヤ「あゝあ・・・泣かしちゃった・・・」

ケイト「めっさ泣いてる」

リリス「うむ、爆泣いてるな」

メアリ「・・・(あの位のおしおきぢゃ生ぬるいです!)・・・」

真琴「・・・えーと・・・そうそう、あたしのお気に入りブラ壊しちゃったんだし

男にも変身させたんだし・・・あれ？壊れたブラが無いぞ？」

ユキ「ぎくっ！」

真琴「ユキ・・・今、口で『ぎくっ!』って言ったでしょ？」

ユキ「ふるふる」

真琴「口で『ふるふる』言いながら首を振らない!・・・で、そのポツケ見せてみそ？」

ユキは わき目もふらず だーっと走って逃げるが 直ぐ真琴に捕まる

ポツケを調べると真琴のブラが出てくる

ユキ「。。。。。」

真琴「・・・何か言い残す事はあるかな?・・・」

ユキ「・・・今回ギャグが少な「ギロツ!」何もごいませんw・・・」

真琴「もも!またお願いね^^」

もも「(がじがじ)」

ユキ「え〜ん!またなのですか〜!・・・い、痛いです〜w!」

どーもー^^作者のM2-1015です！

寒くなってきましたね・・・

さて、12月・・・師走ですねw・・・

私も先日、ストーブを出しました（焼き芋をストーブで焼いています^^）

皆さんも風邪などひかない様に温かくして過ごして下さいね^^

次回ですが この面子でギルド登録がスムーズに行くんですかね？
作者も心配しておりますw・・・

皆様の感想などもお待ちしております

このキャラを取り上げて！と言う要望などもありましたら
番外編等で書いてみたいと思います^^

それでは皆様に笑顔がさらに訪れます様に^^
では^^ノ

21話 涙のギルドカード 二つ名って必要なんですか？ あたしは要りません

真琴「半月ぶりです^^」

レテイ「皆さんはお元気でしたか？」

ジョン「ういっつ・・・忘年会で飲みすぎたぞw」

カミヤ「そー言えば 作者も忙しそうに飲んでたな・・・」

M2「あ、こら！ばらすな！ゲフンゲフン、そ、そそ、そんな事ないですよ？」

真琴「あー、どーよーしてるw」

レテイ「私たちも忘年会したいわね・・・」

ジョン「おー、そりゃ良いな！」

カラ「わたしも誘ってくださいっい^^」

アブ「1発芸ならまかせておけ！」

ケイト「金ピカはいらぬ」

リリス「うむ、いらぬ」

アブ「・・・しょぼん(´・`・´)・・・」

ユキ「・・・おねいさまを酔わせて・・・ふふふふ」

メアリ「ユキさんを先にお酒で潰して・・・マコトさんと2人で・・・

・ふふふ」

真琴「ももちゃん、しっかりとユキとメア리를監視しててね^^」

もも「はいにゃ！」

ユ、メ「・・・しょぼん(´・`・´)・・・」

真琴「お待たせしました！では、第21話の始まりです^^」

21話 涙のギルドカード 二つ名って必要なんですか？ あたしは要りませ

.....orz

な、なんで あたしに こんなにいくつもの二つ名が付いてるの〜
〜！

しかも 全部厨二病全開みたいな呼び名が〜〜……………

初っ端から凹んでいますw…………どーもすいません…………真琴です…………

只今の状況はなにかって言うと…………ギルドカードを頂いて確認した所です…………はい…………

それでは回想シーンをどうぞ…………。(ノ、)え〜ん…………

取り合えずユキとももちゃんをギルドに入れて1階の待合室の床に
正座をさせます

ユキが正座をすると 頭に噛り付いてるももちゃんもユキの後ろで
噛り付いたままの状態で

一緒に『へちや〜』って感じで はいつくばって・・・二股に別
れた尻っ尾がフリフリして・・・
あらーん！これ可愛いかも・・・

真琴「えー、取り合えずだ、ユキはちゃんと反省したのかな？」

ユキ「しました！」

真琴「返事はや！・・・ほんとーに反省したんだね？」

ユキ「はい！・・・今回を含めて3話の間ずーっとももちゃんにが
じがじされていたんですよ？」

さすがの私でもしばらくはイタズラする気がおきないですw

しばらくはつてw・・・またやるって事だよね？・・・ほんとに反
省してるんかい？おまいはw

真琴「うん、しばらくじゃなくて ずーっとしないでもらいたいの
だけど？」

あたしは腕を組みギロツつとゆきを見下ろしながら睨んでお説教を
します

と、そこへ2階に行く階段から声がかかりました

レティ「マコトー！登録しちゃってー．．．みんなほとんど終わって
るわよー」

真琴「ちっ．．．んじゃあ、ももちゃんもユキをカジるの止めて登
録しにいけますか^^」

ユキ「．．．今、『ちっ』て言ったですw．．．」

もも「がっ、がっがっ?」ユキちゃんの発言は無視するとして、あ
たしも登録するのにか?」

真琴「うん^^だから登録するときは人型になってね?」

もも「がっ!」はいにゃ!」

レティ「．．．えーと?．．．マコトさん?」

真琴「ん?レティ、なーに?」

レティ「マコトってももちゃんと会話できるの?．．．って言うか
あなたネコの言葉が解るの?」

真琴「ああ、夕べ神様が意思疎通の力をくれたんだよん^^」

レティ「．．．おーけー．．．I see．．．落ち着け私．．．
ま、カミヤと親子だしねw．．．」

ありゃ、レティってばびみょーに呆れてる?．．．ん?．．．周り

を見渡すと・・・

そー言えば周りのギルド職員や冒険者さん達　みなさまがたの視線が・・・めっちゃ痛い！

冒険者さん達は危険なものには近づかないって感じであたし達から離れて遠巻きに

こっち見てるしw・・・

ギルドのカウンターに居るお姉さん達はカウンターに隠れて目から上だけひよこっつと頭を出して

怯えながらこっち見てるしw・・・

だよなー・・・神獣ってドラゴン並みに珍しいってカラさんもボソツと言ってたしw・・・

『あの娘だろ？Cクラス5人を秒殺したの』とか『神獣を使役してるって　どんだけー！』とか・・・

秒殺って・・・殺してませんよ？・・・それに使役じゃなくてももちゃんももふもふの癒しですよ？

レティは　先に行ってるよーって呆れ顔で階段を上っていつちやいました・・・

さて、あたし達も登録しに行くかね・・・3人で歴史ポロッチイの有りそうな階段を上ります

ぎしぎし

ユキ「あーん・・・ぎしぎしって音がしてますw~~~~・・・ハアハア・・・」

真琴「・・・」

ぎしぎし

ユキ「あ〜ん・・・お姉さまったらすっごい激しいですW〜・・・
ハアハア・・・」

真琴「・・・・・・・・・・」

ぎしぎし

ユキ「あ〜ん・・・お姉さまW・・・私、もうだめえ〜・・・ハ
アハア・・・」

真琴「・・・ねえユキ、またももちゃんにカジりたい？それとも
遺言でも聞いてあげようか？」

ユキ「・・・黙りますW・・・」

はあ〜W・・・まったくこいつはW・・・地球の高校に居た頃より
も 変態度が上がってないか？

なんちゅーの？・・・あれだ、ピンの抜けた手榴弾を常に手に持つ
てるみたいな危険を感じるぞ？

ってゆーか、ユキが登場してからこの小説って変態H系になって来
てないか？

閑話休題・・・テヘツ^^^ノ

さて、気を取り直して登録ですね〜・・・あれ？ギルドの職員さん
達がアブさんとカラさんを含めて

Orz こんなかっこしてるがなW・・・なんで？

2階に上がって周りを見るとそんな状況でした

真琴「ねえ、ファスト・・・なんでギルドの皆さんは 床に這いつくばってるの？」

ファスト「えーと、取り合えず 師匠以外の登録は終わったんっすけど・・・なんか魔力の量がとか

魔術属性の数がーとか 魔力を測った職員さんがギルド長に報告したっス・・・

そしたら その報告を聞いた全員があんなになっちゃったっス」

ケイト「そう、測定前に尋常な人達じゃないから覚悟する様に言っただけ・・・だらしない？」

リリス「うむ、まあ驚くのは解るがショックで動けなくなるとは・・・情けない」

メアリ「・・・私の測定結果は皆さんと比べれば普通でしたけど・・・」

真琴「あら、メアリも登録したんだ？」

メアリ「はい！その方が今後の為になると思って・・・ダメだったですか？」

真琴「うっん^^今後を考えてくれるなんて 嬉しいかも」

メアリ「ボツ！／／／ やりました！喜ばれました！キヤー q)

＊）＊）（ p キャー！／／／

えーと、メアリさん？・・・まあ、いつもの如くほっとくか・・・で、職員全員が固まっちゃって 残ったあたし達の登録はどーすんのかね？

真琴「カラさん！カラさんってば！・・・なんで魂が抜けた様になっちゃってるんです？」

カラ「はっ！・・・マコト様！」

真琴「様は付けないで今までどーりにマコトでいいですよ^^」

カラ「でも・・・宜しいのですか？」

真琴「うん^^あと、敬語も要らないからね」

カラ「はあ・・・解りました」

で、カラさんの話によると さつき登録したメア리를除いた全員の魔力保持量がですね

一番低い人でもこの町で過去最大の魔力量なんだってさ・・・これってマツクさんだけだね^^

ちなみにカラさんの3割増し・・・今の宮廷魔術師長の2倍なんだって・・・

そんで一番魔力量が多かったのがレティでカラさんの2倍だってさ

w・・・

適応魔術属性も一般人は1〜2個位らしいんだけど
メアリを除いた全員が全属性の適正有りなんだって

メアリだって一般からしてみたら魔力量だって多かつたみたいだし
属性も4個だったらしいよ

修行すればそんなにかからずケイトに近い魔術師になる素質があつて
普段ならすごい！ってなるらしいんだけど・・・なんかごめん！メ
アリw・・・

あ、ついでに属性だけど基本属性つてのが 火、水、土、風、光、
闇、無 の7つで、

これの上位として 炎、氷、雷、地、時、空間 があるらしいよ
ケイトはブリザードって言われてるくらいなんだから上位なんだね
^^

カラ「そ、それで・・・そちらに居るのが神獣さまですか？・・・
大きいですね・・・」

カラさん、もちちゃんに少しびびってるのかな？・・・周りの人も
ビクついてるね・・・
で、ケイトさん・・・もちちゃんに人差し指でつんつんしないで下
さいな？

そのもふもふはあたしんじゃい！

真琴「うん^^ももって名前なんだよね〜・・・もちちゃん、登録
するから変身お願いね」

カラ「は！またもや・・・す、すみません。なにせ神獣さまを見るのは初めてで・・・」

ぺたぺた

もも「で、この金ピカは誰にや？」

あら、アブさんがもちやんにくつついて身体をぺたぺた触ってます・・・けど・・・

珍しいのは解るんですけどね・・・ん？これってセクハラですか？セクハラだよね！

あたしはギロツとアブさんを睨みます

真琴「アブさん！何をぺたぺたと触ってるんですか！」

アブ「は！す、すまん・・・ワシも神獣を見るのは初めてで・・・つい触ってしまったんだ」

もも「別に良いにや・・・気にしにやいにや」

真琴「もう！もちちゃんも人型になったら綺麗な女性なんだから知らない男にいきなり触られたら

ぶっ飛ばしちやっても良いんだよ？」

もも「そうにやの？今までネコだった時は 色んな人に撫で回されてたんにやけどにや・・・」

今度から触られたにやら ぶっ飛ばしても良いにやか？」

真琴「それはあたし達の家に居たときでしょーがw・・・今度はぶつ飛ばしなさいね^^

んじゃももちゃん、ギルド登録しちゃおーね！・・・では、カラさんお願いね」

カラ「はい・・・あの～ですね もも様は・・・ヨコタ国の国民扱いでよろしいのですよね？」

真琴「うん^^あたしの家族だよん」

カラ「はあ・・・家族ですか・・・」

カラさんは やや呆れ顔でももちゃんの左手を掴んでカウンターにつれて行きます

そこにはドヤ顔の親父さんも居まして・・・直径20cm位の透明な水晶玉を指差して・・・

はいはいw・・・テンプレ乙！・・・だからニヤケた顔でこっち見るな！

カラ「この玉をはさむ様に両手を添えて下さい・・・はい、そうです・・・そのままじつとして」

ももちゃんが準備を終えると カラさんが水晶玉の上に手をかざして何かの呪文を唱えたんですが・・・

ボンッ！

カラ「きゃっ！」

もも「にゃ？」

水晶玉はきれいに粉になりましたとき・・・なんで？

アブ「・・・魔力が多すぎて測定玉が耐え切れなかった様だな・・・
まったく・・・

あんたらはほんとに人間なのか？」

もも「んにゃ神獣？だにゃ！^^ノ」

アブ「・・・そ、そうだったw・・・コホンッ・・・えー、そのー、
あれだ・・・えーと・・・

そうだ！魔泉探査用の特大のを持ってきなさい」

暫く悩んでましたが サツと振り返って後ろに控えていたギルド職員に指示をだすアブさん

職員A「えーwあんな大きいのをですか？」

アブ「いいから！2〜3人で備品庫から持ってきなさい！」

んで、職員さん3人がかりで持ってきたのが直径1mはあろうかと
ゆー代物・・・

床にで〜ん！と置かれました

こつからはスムーズに測定できたので残った人（神獣含む）の結果を発表しまーす^^

えーと、それからですね、適正属性は全員とも全てあったから魔力量を発表しますね

ももちゃんの魔力測定結果はカラさんの約500倍、ケイトの約1000倍でした！

ユキはカラさんの300倍でケイトの600倍です・・・

あれ？イケメン神様のアルさんが言ってたのってレティ達と同じ位って言ってたよね？・・・ん？

次はあたし！カラさんの600倍でケイトの1200倍です！

ただね・・・親父さんなんだけども　ここでもアルさんの言ってた事と違ってね？

カラさんの750倍・・・ケイトの1500倍・・・どーゆーこつちや？

あたしと同等の魔力量じゃなかったのか？・・・ん？

てー事はだ・・・親父さんの魔力量が10とすると、

あたしが8で　ももちゃんが6・6位か？・・・でユキが4と・・・親父さん+ユキ=14で・・・あたし+ももちゃん=14・6か？ももちゃんと連携すれば　なんとかあの2人を抑えられるかな？

あれ？ギルドの職員さん達がアブさんとカラさんを含めて　またもや床に這いつくばってるぞ？

みーんな orz こんなかつこしてるがなw・・・なんで？

カラ「なんて規格外な魔力・・・負けるなーわたし・・・挫けちやだめだぞーわたし・・・」

カラさんに近づくと何か小声でぶつぶつ言ってます・・・うん、がんばれ！

固まったギルドの皆さんも やつと動き出してあたし達のギルドカードを大急ぎで作ってます

職員さんが アブさんやカラさんに何か確認を取りながら作業は進んでいってます・・・

30分位待っていると 登録を行った順番にギルドカードが出来たみたいですね^^

カラさんが1枚のカードを持っていて これから名前を呼ぶみたいですよ

カラ「メアリ・エンジエスさん これが貴方のカードになります^^
^^・・・カード所有権保護と

貴方の情報登録の為にカードのこの部分に血を1滴垂らして下さいね」

メアリ「はい・・・これで良いですか？」

メアリは針の様なもので指先に傷をつけてカードに血を垂らします・

するとカードがシュワワワ〜って感じで光りました

カードの色も鉄っぽい色から明るい銅ブロンズっぽい色へと変わっています

カラ「はい^^これでこのカードに貴方の情報と各冒険者ギルドへのアクセスが出来るように

なりました・・・再発行は登録したここでしか出来ないのだから失くさないで下さいね

このカードの明るい銅色はG〜Cランクを表す色で、B〜Aは銀色になります

AA〜AAAは金で 最高ランクのSは黒になります^^

メアリさんは異例のDランクスタートですね！これからさらに頑張ってくださいね^^」

そう言ってカラさんは自分の金色のカードを見せてくれました

ケイト「そう、失くすと再発行手数料もとられる・・・ギルドってケチ？」

リリス「うむ、銀貨1枚も取られるな・・・ちなみに私は1回失くしてるが・・・」

周りの皆さん「・・・(やっぱりリリスだw)・・・」

リリス「うむ？・・・なぜか哀れみの視線を感じるのだが？・・・なぜに？」

ケイト「やっぱり直情単純脳筋リリスには 私が相棒で付いてない

とダメだね」

カラ「・・・リリースとケイトは相変わらずね・・・」

あ、メアリさん カードに魔力を込めると現在の貴方の情報が見えますからね^^」

メアリ「え？そうなんですか？」

カラ「ええ^^ただし個人情報も含まれますから見せる時は気を付けてくださいね」

えー、以下 カードをもらった順番に発表します！

ファスト、ランクAA

モース、ランクAA

フレック、ランクAA

ベッカー、ランクAA

マック、ランクAA

ベル、ランクAA

ヒューイ、ランクAAA

ジョン、ランクAAA

ロツテ、ランクAA

リア、ランクAA

レテイ、ランクAAA

もも、ランクAAA（本来はSクラスだが 実戦経験が無い為AA
Aになっている）

ユキ、ランクAAA（本来はSクラスだが 実戦経験が無い為AA
Aになっている）

真琴、ランクS
カミヤ、ランクS

地球組以外「orz」

だから！いちいち凹んで固まらないでくださいなw・・・ねえってばギルドの皆さん！

ケイト「マコトが以前言っていたこの人数で何でも滅ぼせるって言った意味が解った・・・」

リリス「うむ・・・ブラックカードか・・・改めて凄いと思ったぞ」

メアリ「ええええええS！・・・マコトさん！キヤー q」

（）p キヤー！／／／

あはは、はは・・・笑うつきゃないね？・・・

そ、そうだ！個人情報も見てみよう・・・たしかカードに魔力を込めるんだよね・・・

よし！できた！・・・ん？

なんじゃ？これw・・・

・・・orz

な、なんで あたしに こんなにいくつもの二つ名が付いてるの〜
〜！

しかも 全部厨二病全開みたいな呼び名が〜〜……………

ブラッディハーブ
『鮮血の豎琴』

『竜を屠る者』

『盗賊の殲滅者』

『超爆の魔女』

『男前な女子高生』

『男の娘な王姫』

なに！これ！……………

カラ「さすがSランクですね！……………5つも二つ名が付いてますね

^^
」

いやいや！カラさんw……………さすがですって言われてもw……………

真琴「でも、これって心当たりが有ったりなかったり……………」

男前な女子高生ってw……………しかも男の娘な王姫？……………あたしや
女の子だぞ？

この後ろの2つは明らかにユキが原因だよね！……………よし、後でし
ばこう！……………

でもまあ、Tレックスっぽい倒してるから『竜を屠る者』はなん
とか解るし……………

盗賊も退治しちゃったから『盗賊の殲滅者』もある程度は理解できる……

この『鮮血の豎琴』と『超爆の魔女』はどっから出て来たんだ？……ん？

ケイト「そう、それは多分ヨコタ国で真琴がやったファイヤーボールでクレーターが原因かと」

真琴「ああ、あれかw……じゃあ、『鮮血の豎琴』はなんなんだろ？」

ジョン「おー！こつちでもその呼び名が出てるんだ^^」

真琴「へ？……なにそれ？」

ジョン「いやな、カミヤと組んであぶない仕事やってたろ？地球でさ」

真琴「うん、ジョンさんが持ってきた仕事だよな？」

ジョン「そうそう^^んでさ、敵対してたやつらが真琴の事をコードネームで

フラディ・ハーブ
『鮮血の豎琴』って呼んでたのさ^^」

真琴「……orz」

し、知らなかったw……

で、親父さんとジョンさん、おまいらがこれの原因か〜！

確かに・・・地球じゃ色々やったけどさw・・・

ファンタジーな異世界だけじゃなくて

地球にいた時から厨二病全開みたいな呼び名があったのね〜！

・・・開き直るか？・・・いやいや・・・

あたしゃどーすりゃいいんですかい？

よし、取り合えずももちゃんをモフろう・・・。(ノ、)え
くん・・・

真琴「おつかれさまです^_^」

カミヤ「おう！おつかれ・・・ってほど俺って出てなくね？」

レテイ「そう？結構出てると思うけど・・・」

ジョン「俺よりは出てるよね？特に後書の落ちは ほぼカミヤだろ！」

真琴「でもさー地球でやってた仕事ってなんだったの？」

カミヤ「国家間・・・特に日本に害が有りそうな所を潰す仕事かな？」

ジョン「まあ、それで間違っではないな・・・」

真琴「それって・・・中 や韓 とかロシ とかのw・・・いいのか？」

カミヤ「良いんじゃない？だってジョンのバックってCI だし^^」

ジョン「あ、ばか、言っちゃまいやがったw・・・」

レテイ「・・・ラングレー出身なの？ジョン・・・」

ファスト「マジっスか！」

真琴「まあ、いーけどね・・・生きてるし」

ファスト「生きてるって・・・何があつたんスか？」

ジョン「聞かないほーが良いぞ？」

レテイ「そうね・・・ファスト、止めたほーがいいわね」

カミヤ「あははははははは！真琴は『鮮血の豎琴』で『男の娘な王姫』だしな！」

真琴「・・・凸(#^^)・・・」

レテイ「あゝあw・・・あたし、し〜らない」

ファスト「師匠・・・」

ジョン「マコト・・・いや、何も言わん・・・がんばって来いな^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7490w/>

なんで娘（あたし）が後始末w・・・orz【異世界編】

2011年12月19日02時53分発行